

佐賀市文化財調査報告書 第43集

ます だ
増田遺跡群 I

——^{ます だ}増田遺跡 2 区の調査——

平成 5 年 3 月

佐賀市教育委員会

発刊にあたって

鍋島町では、昭和61年度に増田遺跡1区、平成元年度には鍋島本村南遺跡で、佐賀市教育委員会が発掘調査を行いました。ことに鍋島本村南遺跡では、弥生時代前半の青銅器関連遺物や擬朝鮮系無文土器が出土するなど多大な成果を収め、この地が古い時代から高い文化を保持し朝鮮半島とも交流をもっていたことが裏付けられました。

平成3年度に行った増田遺跡2区の調査は、鍋島町で3番目の発掘調査にあたり、本書はその発掘調査報告書であります。調査の結果、200基をこえる弥生時代前半の甕棺墓群を検出し、この地の墓制を検討するうえで多大な成果を収めました。

とくに、他の地域ではごく少数しか検出されていない特異な三連式の甕棺墓を大小16基もまとまった状態で検出し、このような甕棺がこの地に特有な墓制である可能性が高まりました。目立った副葬品こそ出土しませんでした。この成果は弥生時代の墓制の変遷をたどるうえで貴重な資料であります。

この報告書が、市民のみなさんの郷土の歴史学習に役立ち、先人の文化遺産の偉大さを知っていただけるならば、幸いです。

最後になりましたが、発掘調査を行うにあたってご協力いただいた、地元の方々と開発者のみなさんに、深く感謝いたします。

平成5年3月

佐賀市教育委員会

教育長 野 口 健

例 言

1. 本書は、民間の開発事業に伴い、平成2・3年度に実施した増田遺跡1区の発掘調査報告書である。
2. 調査は、有限会社まるいち・有限会社ヨコオ牧場の委託と国庫補助を受けて、佐賀市教育委員会が実施した。
3. 調査の所在及び規模などは、以下のとおり。

遺跡登録番号	2087・3107・5066	遺跡略号	MSA-2
調査地	佐賀市鍋島町大字鍋島字増田	開発面積	4,067m ²
対象面積	3,557m ²	調査実施面積	3,557m ²
調査期間	平成3年2月18日～6月24日		

4. 発掘調査・整理・報告書作成の作業分担は、以下のとおり。

表土除去：(有)江下建設・株式会社山紀建設

空中写真：有限会社空中写真企画

全体遺構実測：(有)埋蔵文化財サポートシステム

個別遺構実測：前田達男・角信一郎・(有)埋蔵文化財サポートシステム

遺構写真：前田・角

遺物写真：前田

遺物復元：鬼崎玲子・野中スヤ・馬場恵美子・山口美枝子

遺物実測：前田・野中

製図：前田・野中

5. 調査記録類・出土遺物は、佐賀市文化財資料館（佐賀市本庄町大字本庄1121番地）で、一括保管している。巻末の収藏品目録を参照されたい。
6. 本書の執筆・編集は、前田がこれにあたった。

凡 例

1. 遺構については略記号を用いる。調査遺跡毎に連番号をつけ、番号の前に遺構分類記号を付けた。SD：溝，SH：竪穴住居，SJ：土器棺墓，SK：土壙，SP：木棺墓。
2. 原則として、遺構の測定値はm単位、遺物のそれはcm単位とした。
3. 表示した方位は、すべて座標北（G.N）である。
4. 容器類の掲載図で、断面が白ヌキのものは弥生土器・土師器，断面が網カケは瓦器，断面が黒ヌキは須恵器・陶磁器を表現している。

本文目次

I. 序 説	1
1. 調査にいたる経過	1
2. 調査の組織	1
II. 遺跡の位置と環境	2
1. 遺跡の位置	2
2. 遺跡の地理的環境	3
3. 遺跡の歴史的環境	6
III. 調査の概要	8
1. 調査の概要	8
2. 遺跡の概要	11
IV. 調査の記録—弥生時代遺跡—	12
1. 土器棺墓	12
2. 木 棺 墓	94
3. 竪穴住居	95
4. 土壌と出土遺物	97
5. その他の出土遺物	108
6. 小 結	110
V. 調査の記録—室町時代遺跡—	110
1. 溝と出土遺物	111
2. 小 結	115
VI. 総 括	116
1. 土器棺墓の年代的位置付けと分布関係	116
2. 三連土器棺墓の起源と変遷に関する予備的考察	130
文献一覧	161

図 版 目 次

PL. 1 ①：増田遺跡2区全景（西から），②：増田遺跡2区全景（南から）
PL. 2 ①：調査区北西部土器棺墓検出状況，②：土器棺墓検出状況（SJ145），③：土器棺墓検出状況（SJ123）
PL. 3 ①：SJ102，②：SJ103，③：SJ104，④：SJ105，⑤：SJ106，⑥：SJ107，⑦：SJ108，⑧：SJ109，⑨：SJ110，⑩：SJ111，⑪：SJ112

- PL. 4 ① : SJ113, ② : SJ114, ③ : SJ115, ④ : SJ116, ⑤ : SJ117, ⑥ : SJ118, ⑦ : SJ119,
⑧ : SJ120, ⑨ : SJ121, ⑩ : SJ122
- PL. 5 ① : SJ123, ② : SJ124, ③ : SJ125, ④ : SJ126, ⑤ : SJ127, ⑥ : SJ128, ⑦ : SJ129,
⑧ : SJ130, ⑨ : SJ131
- PL. 6 ① : SJ132, ② : SJ133, ③ : SJ134, ④ : SJ135, ⑤ : SJ136•137, ⑥ : SJ138,
⑦ : SJ139, ⑧ : SJ140, ⑨ : SJ141
- PL. 7 ① : SJ142, ② : SJ143, ③ : SJ144, ④ : SJ145, ⑤ : SJ146, ⑥ : SJ147, ⑦ : SJ149,
⑧ : SJ150, ⑨ : SJ151, ⑩ : SJ152
- PL. 8 ① : SJ153, ② : SJ154, ③ : SJ155, ④ : SJ156, ⑤ : SJ157, ⑥ : SJ158,
⑦ : SJ159, ⑧ : SJ160, ⑨ : SJ161
- PL. 9 ① : SJ162, ② : SJ163, ③ : SJ164, ④ : SJ165, ⑤ : SJ166, ⑥ : SJ167, ⑦ : SJ168,
⑧ : SJ169, ⑨ : SJ170, ⑩ : SJ175
- PL. 10 ① : SJ176•177, ② : SJ180, ③ : SJ181, ④ : SJ182, ⑤ : SJ183, ⑥ : SJ184,
⑦ : SJ185, ⑧ : SJ186, ⑨ : SJ187
- PL. 11 ① : SJ188, ② : SJ189, ③ : SJ190, ④ : SJ191, ⑤ : SJ193, ⑥ : SJ194, ⑦ : SJ198•
199, ⑧ : SJ202
- PL. 12 ① : SJ203, ② : SJ204, ③ : SJ205, ④ : SJ206, ⑤ : SJ207, ⑥ : SJ208, ⑦ : SJ209,
⑧ : SJ210, ⑨ : SJ211, ⑩ : SJ212
- PL. 13 ① : SJ213, ② : SJ214, ③ : SJ216, ④ : SJ217•238•273, ⑤ : SJ218, ⑥ : SJ220,
⑦ : SJ223, ⑧ : SJ224, ⑨ : SJ227, ⑩ : SJ228
- PL. 14 ① : SJ230, ② : SJ232, ③ : SJ233, ④ : SJ240, ⑤ : SJ242, ⑥ : SJ243, ⑦ : SJ244,
⑧ : SJ246, ⑨ : SJ248, ⑩ : SJ249
- PL. 15 ① : SJ251, ② : SJ252, ③ : SJ253, ④ : SJ235•254, ⑤ : SJ256, ⑥ : SJ262,
⑦ : SJ263, ⑧ : SJ264, ⑨ : SJ265, ⑩ : SJ268
- PL. 16 ① : SJ270, ② : SJ275, ③ : SJ276, ④ : SJ279, ⑤ : SJ280, ⑥ : SJ281, ⑦ : SJ283,
⑧ : SJ286, ⑨ : SJ289, ⑩ : SJ291
- PL. 17 ① : SJ292, ② : SP026, ③ : SP027, ④ : SK282, ⑤ : SH030, ⑥ : SK011,
⑦ : SK014, ⑧ : SK016
- PL. 18 SJ121•156棺体
- PL. 19 SJ145•152•254棺体
- PL. 20 SJ106•112•114•124•136•137•146•148棺体
- PL. 21 SJ125•150•160•171•172•184•198棺体
- PL. 22 SJ186•196•203•276•279•283•289•292棺体

PL. 23 SK003・SK011・SK016・SK025・SK029・SK282出土遺物

PL. 24 SK011出土遺物・土器棺墓混入遺物・その他の出土遺物

表 目 次

Tab. 1：大形埋葬専用土器の年代的位置付け120

Tab. 2～6：増田遺跡2区土器棺墓一覧121～125

挿 図 目 次

Fig. 1：増田遺跡群位置図 3

Fig. 3：増田遺跡群周辺図 5

Fig. 5：増田遺跡群周辺主要遺跡分布図 ... 7

Fig. 7：SJ163・195 12

Fig. 9：SJ116・117・118 14

Fig. 11：SJ123・126・12716

Fig. 13：SJ131・132・13418

Fig. 15：SJ145・147・14920

Fig. 17：SJ155・156・157・15822

Fig. 19：SJ167・168・173・17424

Fig. 21：SJ181・182・18326

Fig. 23：SJ191・192・19328

Fig. 25：SJ202・204・20530

Fig. 27：SJ210・211・21232

Fig. 29：SJ217・218・22034

Fig. 31：SJ225・226・23336

Fig. 33：SJ247・248・25238

Fig. 35：SJ272・284・28640

Fig. 37：SJ293・294・23942

Fig. 39：SJ150・166・16945

Fig. 41：SJ28347

Fig. 43：SJ267・103・104・10549

Fig. 45：SJ111・113・114・12452

Fig. 47：SJ141・142・144・15154

Fig. 49：SJ184・185・186・18756

Fig. 2：増田遺跡群周辺地下地山区分図 ... 4

Fig. 4：馬廟略測図 6

Fig. 6：増田遺跡2区遺構配置図9～10

Fig. 8：SJ254・102・115 13

Fig. 10：SJ119・120・12115

Fig. 12：SJ128・129・13017

Fig. 14：SJ138・139・14319

Fig. 16：SJ152・153・15421

Fig. 18：SJ159・161・16223

Fig. 20：SJ177・178・18025

Fig. 22：SJ188・189・19027

Fig. 24：SJ197・199・20029

Fig. 26：SJ206・207・20831

Fig. 28：SJ213・214・21533

Fig. 30：SJ170・222・22435

Fig. 32：SJ241・243・24437

Fig. 34：SJ253・259・268・27139

Fig. 36：SJ287・288・29141

Fig. 38：SJ122・13343

Fig. 40：SJ179・203・22946

Fig. 42：SJ140・171・175・17648

Fig. 44：SJ106・107・109・11050

Fig. 46：SJ125・135・136・13753

Fig. 48：SJ160・164・165・17255

Fig. 50：SJ194・196・198・20958

Fig. 51 : SJ216・219・221・223	59	Fig. 52 : SJ227・228・230・231	60
Fig. 53 : SJ232・234・236・237	61	Fig. 54 : SJ238・240・242・246・249・250	63
Fig. 55 : SJ251・255・256・257	64	Fig. 56 : SJ260・261・263・265	65
Fig. 57 : SJ266・270・275・276・277	67	Fig. 58 : SJ279・280	68
Fig. 59 : SJ281・285・289・290	69	Fig. 60 : SJ292・108・112・146	70
Fig. 61 : SJ148・258・262・264	71	Fig. 62 : 大形単棺墓分布状況	73
Fig. 63 : 大形二連棺墓・三連棺墓分布状況	74	Fig. 64 : 小形単棺墓・二連棺墓分布状況	75
Fig. 65 : 小形三連棺墓分布状況	76	Fig. 66 : 大形単棺墓・二連棺墓棺体	77
Fig. 67 : 大形二連棺墓棺体 1	78	Fig. 68 : 大形二連棺墓棺体 2	79
Fig. 69 : 大形二連棺墓棺体 3	80	Fig. 70 : 大形三連棺墓棺体 1	81
Fig. 71 : 大形三連棺墓棺体 2	82	Fig. 72 : 大形三連棺墓棺体 3	83
Fig. 73 : 大形三連棺墓棺体 4	84	Fig. 74 : 小形単棺墓・二連棺墓棺体	85
Fig. 75 : 小形二連棺墓棺体 1	86	Fig. 76 : 小形二連棺墓棺体 2	87
Fig. 77 : 小形二連棺墓棺体 3	88	Fig. 78 : 小形二連棺墓棺体 4	89
Fig. 79 : 小形二連棺墓棺体 5	90	Fig. 80 : 小形二連棺墓棺体 6	91
Fig. 81 : 小形三連棺墓棺体	92	Fig. 82 : SP026・027	94
Fig. 83 : 弥生時代遺構分布状況	95	Fig. 84 : SH023	96
Fig. 85 : SK003	98	Fig. 86 : SH003出土遺物	99
Fig. 87 : SK005・006	100	Fig. 88 : SK005出土遺物	101
Fig. 89 : SK011	102	Fig. 90 : SK011出土遺物	103
Fig. 91 : SK014	103	Fig. 92 : SK016	104
Fig. 93 : SK025	104	Fig. 94 : SK016出土遺物	105
Fig. 95 : SK027	106	Fig. 96 : SK014・025・027出土遺物	107
Fig. 97 : SK282土壌・出土遺物	108	Fig. 98 : 土器棺墓混入遺物	108
Fig. 99 : その他の出土遺物	109	Fig. 100 : 室町時代主要遺構分布状況	111
Fig. 101 : SD001・002	112	Fig. 102 : SD012出土遺物	112
Fig. 103 : SD012溝	113	Fig. 104 : SD013・041	114
Fig. 105 : 埋葬専用土器の分類	118	Fig. 106 : 甕形土器の分類	119
Fig. 107 : II期前半の分布状況	127	Fig. 108 : II期後半古段階の分布状況	128
Fig. 109 : II期後半新段階の分布状況	129	Fig. 110 : 木棺土器棺併用墓の類例	131
Fig. 111 : 三連土器棺墓の類例	132	Fig. 112 : 三連土器棺墓の起源と変遷	134

I. 序 説

1. 調査にいたる経過

平成2年9月25日、有限会社まるいち・有限会社ヨコオ牧場の合計4,067㎡にわたる開発届出が、佐賀市教育委員会に提出された。この開発予定地は、周知の埋蔵文化財包蔵地である増田遺跡に含まれていた。開発予定地周辺は、佐賀市北西部の鍋島町大字蛸久・鍋島・八戸溝が接する部分にあたり、岸川遺跡・津留遺跡・増田遺跡などの埋蔵文化財包蔵地として周知されているが、開発に伴う事前の試掘調査件数はごく少なく、それらの遺跡の概要については不明であった。

この開発計画を受けて佐賀市教育委員会は、平成2年10月8日から11日にかけて試掘調査を行った。その結果、開発予定地内の3,557㎡について遺構の分布が確認され、200基近くの弥生時代土器棺墓の存在が予想された。

この調査結果を受け平成2年12月から平成3年1月にかけて、遺跡の保存処置について佐賀市教育委員会・佐賀県教育委員会の二者は協議を重ねた。有限会社まるいち・有限会社ヨコオ牧場の開発はともに現況から1m以上の土盛りを行う計画であり、土器棺墓以外の遺構は大きな影響を被る可能性は低いという県教育委員会の判断が示されたため、土器棺墓の記録保存を中心とした発掘調査を行うことを決定した。

この決定を受けて、佐賀市教育委員会・佐賀県教育委員会・有限会社まるいち・有限会社ヨコオ牧場の四者は、調査工程・費用負担の問題について協議を行った。その結果、平成3年2月から同年6月の予定で発掘調査を実施し、平成2・3年度の発掘調査・整理作業については国庫補助事業と有限会社まるいち・有限会社ヨコオ牧場の委託事業で、平成4年度の整理作業・報告書作成については有限会社まるいち・有限会社ヨコオ牧場の委託事業として行うことで、平成3年1月に協議がまとまった。

発掘調査は、平成3年2月18日から開始し、同年6月24日にすべての現地作業を終了した。出土遺物・調査記録の整理作業・報告書作成は、平成4年1月から平成5年3月にかけて、佐賀市文化財資料館で行った。

なお、平成4年度における今回調査地点周辺の発掘調査事業で弥生時代土器棺墓群を広範囲に確認した。その分布は増田遺跡北西側に位置する津留遺跡内に連続する。この土器棺墓群は同一の遺跡であることが明らかであるため、本調査報告を『増田遺跡群Ⅰ』、平成5年度の調査報告を『増田遺跡群Ⅱ』とする。

2. 調査の組織

以下の体制で、発掘調査・報告書作成を行った。緊急調査のために十分な体制ではないが、作業員各位の健闘と多くの人々の協力と激励に支えられ、調査期間中悩まされ続けた記録的な

I. 序 説

長雨をのりきり、無事に調査が終了したことをここに明記し、感謝したい。

事業主体 佐賀市教育委員会。

[平成2年度] 事務局 教育委員会社会教育課。
社会教育課長 古川靖邦。
課長補佐兼文化係長 中野和彦。
事務吏員 甲木亮一(庶務担当)。
事務吏員 西田巖(試掘担当)。
事務吏員 前田達男(調査担当)。
嘱託員 牟田裕二*1(調査担当)。

[平成3・4年度] 事務局 教育委員会文化課。
文化課長 中野和彦。
文化係長 野口義通。
事務吏員 増田耕補(前任) 甲木亮一(庶務担当)。
文化財係長 福田義彦(調査担当)。
事務吏員 前田達男(調査・報告書担当)。
事務吏員 角信一郎(調査担当)。

発掘作業員 生田美代子・江下和子・大坪満子・金崎タキヨ・川崎義雄・後藤美智子・杉町英子・杉町スミ子・園田日出子・中野俊昭・西村トシ子・野田富子・畑瀬弘・腹巻ケイ子・広瀬八重子・広瀬幸子・深川博子・福田スマ子・前山澄江・松林キミ子・宮地富士子・村川キクエ・山口美枝子・吉田典子。

整理作業員 鬼崎玲子・野中スヤ・馬場恵美子・山口美枝子。

調査協力 有限会社まるいち・有限会社ヨコオ牧場・佐賀県教育委員会。

調査指導・助言 田崎博之(愛媛大学埋蔵文化財調査センター)・高島忠平・高瀬哲朗・徳富則久・家田淳一・小松譲・徳永貞紹(佐賀県教育委員会文化財課)・木下巧・蒲原宏行(佐賀県立博物館)・下山正一*2(九州大学理学部)。

*1：牟田裕二君は、本発掘調査中に発病し、平成4年7月10日に逝去した。彼の霊前に本書を捧げたい。

*2：特に下山氏には、遺跡周辺における地下の地形・地質について有益なご助言をいただいた。

II. 遺跡の位置と環境

1. 遺跡の位置

佐賀市は佐賀県の東南部に位置し、その市域は北の脊振山系から南の有明海沿岸にいたる佐賀平野*1中央部を縦貫するかたちで広がっている。市域は、東側で佐賀郡諸富町・神埼郡神埼

1. 遺跡の位置

町・千代田町に接し、最東方で筑後川を挟んで福岡県大川市と対向し、西側で佐賀郡大和町・久保田町・小城郡三日月町、南側で佐賀郡東与賀町・川副町、北側では佐賀郡大和町・神埼郡脊振村に接する。

増田遺跡群は、市域北西部の鍋島町に所在し、嘉瀬川中流域の東岸約1.1kmに位置し、嘉瀬川と多布施川に挟まれた形になる。佐賀市中心部に所在する佐賀市役所からは西北約4kmで、嘉瀬川の対岸は佐賀郡大和町である。増田遺跡群が所在する鍋島町の北西部は、田畑が広がる農業地域であったが、佐賀医科大学設立に伴い急速に宅地化が進みつつある。



Fig. 1 増田遺跡群位置図 (1/1,000,000)

2. 遺跡の地理的環境

市域の地形は、北から山地帯・洪積台地・合流（複合）扇状地帯・沖積低地に分類〔経済企画庁1966〕される。市域最北部は脊振山系が東西に連なる山地帯である。山地帯の南麓には、標高40～15m付近で洪積台地群が発達している。これらの洪積台地群は、地質的には低位段丘面群にあたる。洪積台地は舌状あるいは樹枝状の低丘陵として南に突き出しているが、段位は標高15m付近で終息し、それ以下では明確には看取できない部分が多い。標高15～5m付近は、嘉瀬川・巨勢川などの河川群による合流扇状地帯が分布するが、北からのびる洪積台地の段位が埋没し、複雑な微地形を形成している。標高7～4m付近は、扇状地帯の下位ないし沖積低地の上位にあたるが、その境界が不分明な漸移地帯である。それ以南は三角州などの平坦な沖積低地が広がる。

増田遺跡群は、標高8m前後で扇状地帯に分類された地域の、段位が埋没した洪積台地上に立地する。

Fig. 2に示したのは、試掘調査結果及び工事中の土層観察などによる増田遺跡群周辺における地下の地山区分である*2。試掘によって判明した地山を、①：細かい砂による沖積微高地堆積物、②：泥炭質・シルト質の氾濫原堆積物、③：レス・粘土・二次真砂による洪積台面、④：粗砂による旧河道堆積物、に区分した。それぞれの地山の外端をラインして、埋没旧河道・埋没段丘面・氾濫原・沖積微高地を表した。今後の試掘調査の増加によりラインに細かい修正は

II. 遺跡の位置と環境

加えられるが、大要は変わらないと考える。

増田遺跡群が立地する洪積台地（増田台地）の東西限界は300mほどで、その西側は嘉瀬川の埋没旧河道の粗砂の堆積、東側は多布施川*³に起因する泥炭質・シルト質の氾濫原堆積物が広く分布することがわかる。今回調査地点はこの台地の南西端に近い部分に位置する。北の限界はまだ不明だが、南の限界に関しては調査地点の南方で標高がかなり落ちていることから、台地の際が沖積面に接する部分であることが予想できる。

増田台地から旧河道をはさんで西側に位置する増田遺跡1区〔福田1986〕は、東に向って落ち込む弥生時代の遺物包含層が確認され、増田台地の西側に位置する洪積台地（鍋島台地）東側の上がり斜面に近いことがわかる。鍋島台地の南端には鍋島本村南遺跡〔木島1991〕が位置

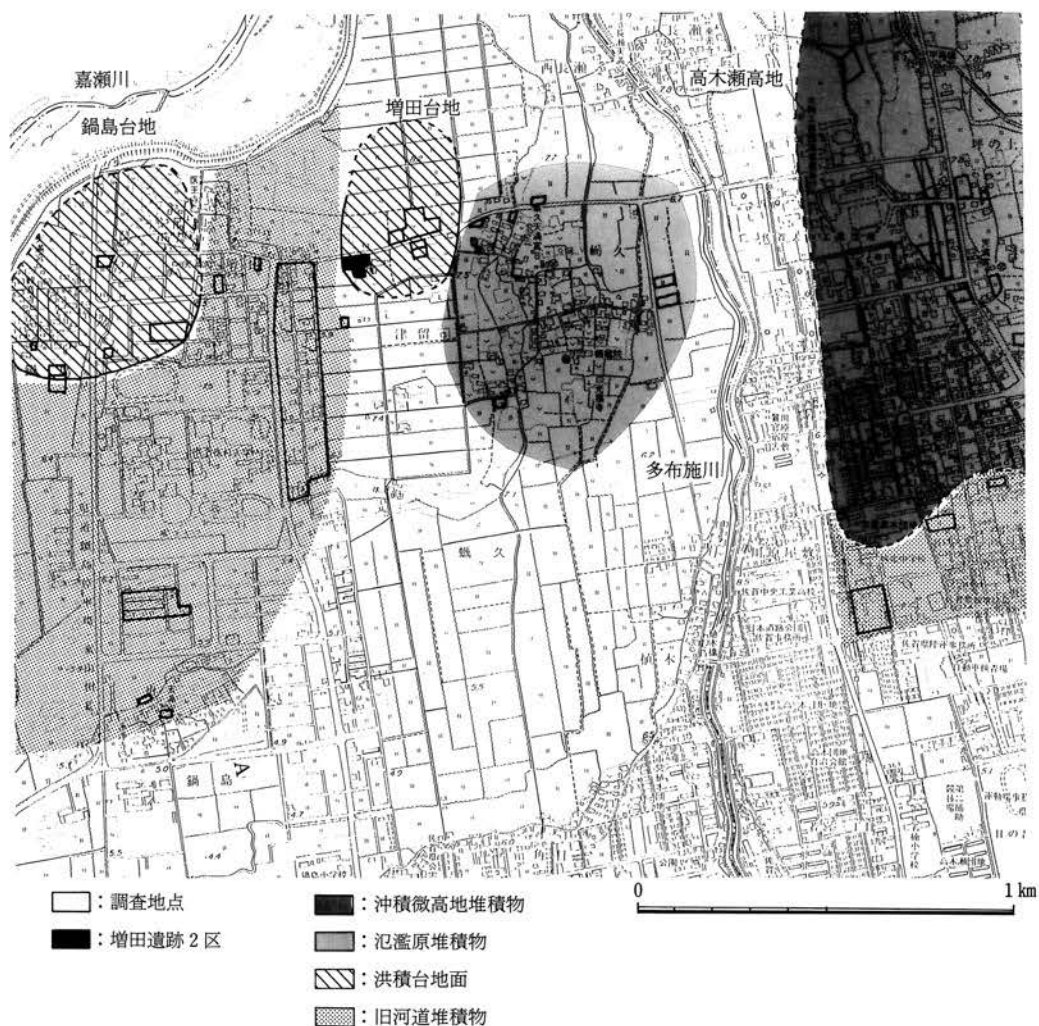


Fig. 2 増田遺跡群周辺地下地山区分図（1/20,000）

2. 遺跡の地理的環境

する。嘉瀬川が現況でいつ固定したかは明らかではないが、鍋島台地に展開する弥生時代遺跡群が、後述する大和町池上遺跡群と連続したものであった可能性がある。増田台地の東側には広い氾濫原をはさんで、弥生時代前期からの遺跡群が展開する沖積微高地（高木瀬微高地）が位置する。

なお、増田遺跡周辺は、現耕作土直下に嘉瀬川の氾濫（昭和28年）に起因する粗砂が20～60 cmほど堆積している部分が多く、地表面観察による微地形の把握を困難にしている。



Fig. 3 増田遺跡群周辺図 (1/6,000)

3. 遺跡の歴史的環境

(1) 増田遺跡群の調査地点

Fig. 3 に、増田遺跡群周辺の発掘調査及び試掘調査地点を示した。増田遺跡 2 区 (M-2) が今回の調査地点である。

増田遺跡 3 区 (M-3) と津留遺跡 1 区 (T-1) では平成 4 年度に発掘調査が行われ、弥生時代 II 期⁴を主体とする、合わせて 300 基ほどの土器棺墓・木棺墓・土壌墓などの埋葬施設を検出した(平成 5 年度報告書刊行予定)。特に津留遺跡 1 区では、全長 60m 以上の土器棺墓の列埋葬や、土器棺と木棺を組合せた特異な埋葬施設、擬朝鮮系無文土器の牛角把手付長頸壺と弥生土器の甕の組合せによる小形土器棺墓、多くの三連土器棺墓、など多大な成果を収めた。

また、増田遺跡 3 区では鎌倉時代前半の溝、津留遺跡 1 区では平安時代前半の掘立柱建物群と室町時代後半の区画溝が検出され、増田台地が弥生時代に大規模な墓地として利用された後、古代～中世に安定的に集落が立地していたことが示唆されている。なお、この一帯は、16 世紀後半には「中村千軒」と呼ばれた大規模な集落が存在し、大内氏の侵攻に際し三日三晩の大火で燃え尽きた、という伝承が地元に残っている。

増田遺跡 3 区の北に位置する試掘地点 (S-1) では、土器棺墓は検出されていない。増田遺跡 3 区南西に位置する高塚状の盛土 (M-0) は、地元では馬廟 (umanbyuu) と呼ばれている

が、切り落とされ土層断面の観察では 8～10 cm の単位で褐色土と黄色土が互層に叩き締められ、弥生時代墳丘墓である可能性がある。津留遺跡 2 区は、試掘調査で津留遺跡 1 区に連続する土器棺墓群が検出された (平成 5 年度発掘調査予定)。

増田遺跡 2 区西側の試掘地点 (S-4～7) では、旧河道を埋没している粗砂が厚さ 2 m 以上にわたり堆積している。旧河道の西側、鍋島台地の落ちぎわ斜面に増田遺跡 1 区 (M-1) が位置する。津留遺跡 1 区・増田遺跡 3 区の東側の試掘地点 (S-2・3) では、泥炭質・シルト質の氾濫原堆積物が分布している。

(2) 周辺遺跡の概要

増田遺跡群周辺の主要遺跡について概観する。

先土器時代・縄文時代についてはよくわか

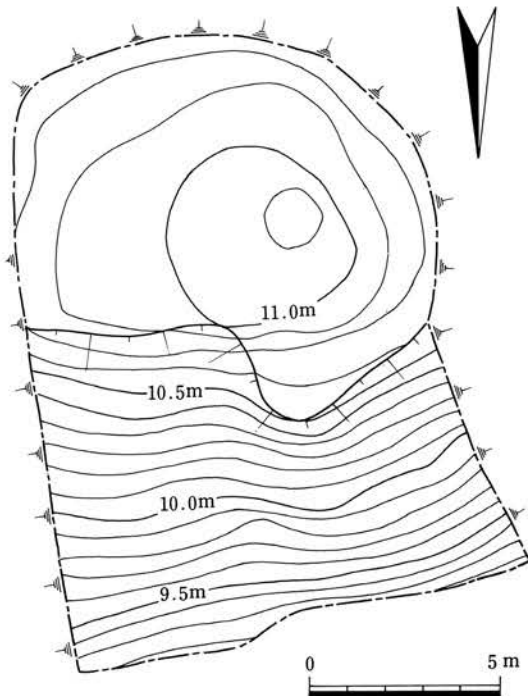


Fig. 4 馬廟略測図 (1/200)

3. 遺跡の歴史的環境



- | | | | |
|-----------------|-------------|----------------------|----------------|
| 1: 増田遺跡群 | 9: 佐保遺跡 | 17: 肥前国庁跡 | 25: 高木城跡 |
| 2: 鍋島本村南遺跡 | 10: 池上二本松遺跡 | 18: 国分尼寺跡 | 26: 東高木遺跡 (1区) |
| 3: 於保三本松遺跡 | 11: 池上三本松遺跡 | 19: 東山田三本松遺跡 | 27: ウー屋敷遺跡 |
| 4: 本村籠遺跡(H2調査) | 12: 惣座六本松遺跡 | 20: 七ヶ瀬遺跡 | 28: コマガリ遺跡 |
| 5: 本村籠遺跡(S63調査) | 13: 西山田遺跡 | 21: 尼寺銅戈出土地 | 29: 東干布遺跡 |
| 6: 池上二本松B遺跡 | 14: 東山田遺跡 | 22: 佐賀工場団地内遺跡(A・B地区) | 30: 久富遺跡 |
| 7: 道善寺古墳 | 15: 惣座遺跡 | 23: 佐賀工場団地内遺跡(C・D地区) | 31: 村徳永遺跡 |
| 8: 国楽寺古墳 | 16: 久池井B遺跡 | 24: 高木瀬銅矛出土地 | 32: 大西屋敷遺跡 |

Fig. 5 増田遺跡群周辺主要遺跡分布図 (1/50,000)

II. 遺跡の位置と環境

っていない。洪積台地上で縄文時代遺物が散見できる程度である。

弥生時代Ⅰ期では、鍋島本村南遺跡・佐賀工場団地内遺跡C・D地区*⁵でまとまった土器資料があるが、明確な遺構を伴っていない。Ⅱ期以降は、高木瀬微高地・増田台地・鍋島台地、及び大和町池上遺跡群が立地する洪積台地（池上台地）に遺跡が展開してくる。このうち、高木瀬微高地での遺跡は安定的に連続せず、増田台地ではⅡ期を主体とする墓地遺跡以外では本格的な生活遺構はほとんどなく、鍋島台地ではⅡ～Ⅳ期の集落遺跡が主体をなし埋葬遺構はごく少ない。今後の調査の進展によって集落と墓地の関係が明らかになることを期待したい。

また、この地域ではⅡ期において、青銅器関連遺物と擬朝鮮系無文土器の出土が目立つ。鍋島本村南遺跡では、まとまった量の擬朝鮮系無文土器と、細形銅剣・細形銅戈鑄型・石製把頭飾が出土している。津留遺跡Ⅰ区では前述したように、擬朝鮮系無文土器を用いた土器棺墓と、土器棺と木棺を組合せた埋葬施設から細形銅剣の破片が出土した。佐賀工場団地内遺跡C・D地区も擬朝鮮系無文土器の破片が出土している。大和町本村籠遺跡は、多鈕細文鏡・青銅製鉋とともに、牛角把手の破片が出土し、三連土器棺墓も検出されている〔田中1990/田中・松本1992〕。

古墳時代の集落遺跡の検出例はごく少なく、鍋島本村南遺跡で前半期のまとまった土器資料が出土している。墳墓では大和町池上遺跡群に道善寺古墳・風楽寺古墳が所在する。

奈良時代遺跡では明確な調査例はない。大和町於保三本松遺跡〔田中1990〕では、平安時代後半から鎌倉時代にかけての屋敷地の調査が行われた。

-
- * 1：〈佐賀平野〉は、広義には筑紫平野の筑後川以西の平野部をさし、狭義には筑後川と六角川間の平野部をさす。本書で〈佐賀平野〉という場合は、狭義の〈佐賀平野〉をいう。
 - * 2：具体的な方法については、前稿〔前田1992〕を参照されたい。
 - * 3：多布施川は、古い時代の嘉瀬川の分流であり、17世紀初頭には佐賀城内への給水のため大和町石井樋から嘉瀬川の水を引き込む水路として改修され現在にいたっている。
 - * 4：弥生時代の時期区分に関して、従来の相対区分（前期・中期・後期）は記述者各人の微妙なニュアンスでさらに細分されて用いられ、共通の基準とはなりにくくなっている。本書では、この相対区分にかえて便宜的に弥生時代をⅠ～Ⅴ期に区分する。北部九州での従来の相対区分との対応はおおまかに、Ⅰ期：前期，Ⅱ期：中期前半，Ⅲ期：中期後半，Ⅳ期：後期前半，Ⅴ期：後期後半，と理解されたい。突帯文土器単純期は、Ⅰ期に含めず、先Ⅰ期（早期）ともしない。
 - * 5：平成4年度佐賀市教育委員会調査。

III. 調査の概要

1. 調査の概要

調査は機械力（バックフォア）による表土の除去から開始した。調査地は、元来畑地を水田として利用するため1mちかく地下げされていて、20～40cmほどの耕作土を除去すると遺構検



Fig. 6 増田遺跡2区遺構配置図 (1/300)

1. 調査の概要

出面があらわれた。地下げのさいに上半部を破壊された土器棺墓がかなり目立った。遺構検出面は、黄褐色～暗黄褐色の砂質土（二次真砂）であり、その下部は黄褐色粘土から淡青灰色粘土に漸的に移行する*1。遺構はこの検出面に、黒色土・黒灰色・暗褐色土・灰褐色土・暗灰色土といった埋土が落ち込んだ状態で検出され、識別は比較的容易であった。灰褐色土・暗灰色土の埋土は室町時代の遺構に伴うものであり、土器棺墓の埋土には暗黄褐色土の地山ブロックが混入していたものが多かった。調査区南端に近い部分では、室町時代に暗黄褐色・暗褐色の粘質土で整地（地業）を行った形跡があるが、判然としない。表土の除去後、調査区全面に国土座標第II系を基準とした5mの方眼を設定した。この方眼は、X=31K960, Y=-67K760の交点を基準にして、そこから5m単位で東へ1・2・3…南へA・B・C…と名称を与え、各方眼をA-1・B-2・C-3と表示した。発掘調査における実測図の基準や遺構の位置表示などは、すべてこの方眼によって行った。人力による作業は遺構検出作業から開始し、順次遺構の掘り下げを行った。前述の調査方針により、弥生時代埋葬遺構以外は平面での検出や一部のサブトレンチ・半切に止めている遺構も多い。土器棺墓・木棺墓の埋葬遺構についてはすべて個別実測図作成（1/10）を行い、その他必要な遺構についてもこれを行った。検出した遺構の完掘部分は全体遺構図（1/20）に記録しているが、完掘にいたらず検出状態の記録にとどめているものもある。個別の写真撮影は、35mmサイズで52mm・28mmレンズで行った。調査区の全体写真撮影は、バルーン空中写真による6×6cmサイズで行った。遺構番号は、000台を土器棺墓以外の遺構に、100台・200台を土器棺墓に用いることを原則とした。

なお、発掘調査が終了した平成3年9月に二度の台風に襲われ、屋外に積み上げていたコンテナパットのラベルがちぎれて吹き飛び、所属不明の遺物が多数出現した。時間的予算的制約により接合関係で所属を復元する努力は放棄している。以後の調査記録では特に注記がない限り、あるべき土器棺墓棺体や出土遺物の記述がないのはこの原因による。

土器棺墓の記述に関しては、墓壙に挟り込みを有するものが多い棺体の身と思われるものをA（例：SJ111A）とし、蓋にあたると思われるものをB（例：SJ111B、三連棺の場合はさらにCがある）とした。方位角はAからB・Cをのぞむ棺体の方位を北から時計回り（1°～360°）で記述した。埋置角は、B・Cが水平より上方にあるものを+（例：+20°）とし、B・Cが水平より下方にあるものを-（例：-06°）と記述した。棺体が器高60cmを超える埋葬専用土器を用いたものを大形棺とし、器高60cm以下の土器のみを棺体とするものを小形棺とした。

2. 遺跡の概要

増田遺跡2区は、大部分が弥生時代II期に属する184基以上の土器棺墓と2基の木棺墓で構成された墓地遺跡が主体である。他に18基以上の土器棺墓が存在した痕跡はあるが、室町時代遺跡と地下げのため、その内容は不明である。土器棺墓は形態的に、大形の単棺墓・二連棺墓（93基、そのうち確実に単棺墓であるもの3基）・三連棺墓（10基）、小形の単棺墓・二連棺墓（74

III. 調査の概要

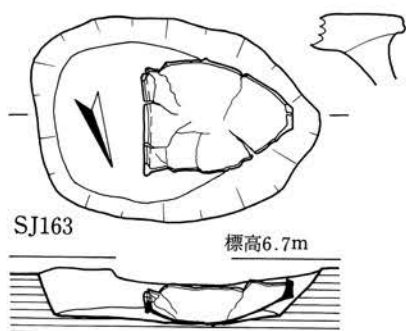
基, そのうち確実に単棺墓であるもの2基・三連棺墓(7基)に分類でき, 大形三連棺墓は棺体Cに小形の甕形土器を用いている。小形棺にはごく少数小形の埋葬専用土器と思われるものがある。大形の埋葬専用土器は, おおむねいわゆる城之越式期から須玖式期(弥生時代II期前半～II期前半)に並行し, 大部分は城之越式期～汲田式期(弥生時代II期)にあたる。標準的な城之越式(K II a式 [橋口1979])は少なく, 佐賀平野で〈金海くずれ〉とされる埋葬専用土器が弥生時代II期前半の主体をなす。確実な副葬品の出土はないが, 混入遺物などでは副葬品ではないかと思われるものもある。

他に, 弥生時代の主要遺構では, I期に属する可能性が高い円形竪穴住居1軒と, II期の土器埋納土壌2基, II～III期の土器溜土壌2基がある。

室町時代後半に属する主要遺構では, 大規模な区画溝(堀)と小規模な区画溝がある。掘立柱建物やその他の主要遺構は確認できなかったが, 津留遺跡1区の調査成果を合わせるとこの周辺に室町時代後半の大規模な街区が存在した可能性がある。

* 1: 本来同一の粘土層であるが, 酸化の度合いが強いほど黄褐色に近くなる。

IV. 調査の記録——弥生時代遺跡——



1. 土器棺墓

184基の土器棺墓の分布状況は, Fig. 6にみられるように, (時期差を無視した場合)疎密はあるが明確な群構成はなしていなかった。以下, 大形の単棺墓・二連墓・三連墓, 小形の単棺墓・二連墓・三連墓の順で, 調査記録を記述する。

(1) 大形単棺墓

器高60cmを超える埋葬専用土器を用いた単棺墓で確実なものは3基あった。確たる根拠はないが, 木蓋を用いたものと判断する。いずれも10m以上離れた地点に位置した。

SJ163 (Fig. 7/PL. 9-2)

E-15区画に検出した。他の土器棺墓との切り合いはない。棺の方位角109°, 埋置角ほぼ水平, 墓壇底面標高6.4m。粘土帯・粘土床はない。墓壇は本来一辺1.2mほどの隅丸方形をなすと考え。棺体は胸部中位に一条の山形突帯を有し, 口縁内端を打ち欠いていた。

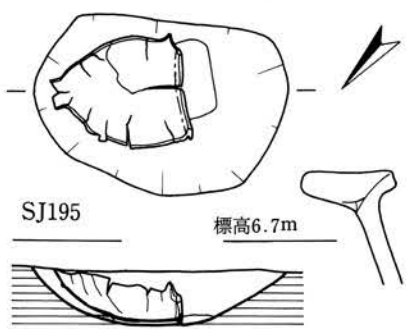


Fig. 7 SJ163・195 (1/40・1/4)

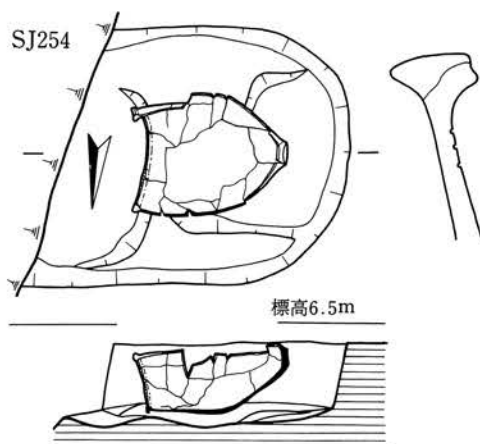
1. 土器棺墓

SJ195 (Fig. 7)

D-8区画に検出した。他の土器棺墓との切り合いはない。棺体の方位角231°，埋置角ほぼ水平，墓壇の底面標高6.7m。粘土帯・粘土床はない。墓壇は本来一辺0.9mほどの不整隅丸方形か。棺体は胴部中位に一条の山形突帯を有する。

SJ254 (Fig. 8/PL. 15-4)

G-9区画に検出した。室町時代の堀に墓壇の一部を壊されている。棺体の方位角84°，埋置角-10°，墓壇の底面標高6.0m。粘土帯・粘土床はない。墓壇は本来1.4×1.8mほどの隅丸長方形か。棺体は胴部上位に沈線を，口縁内端に刻み目を有する。

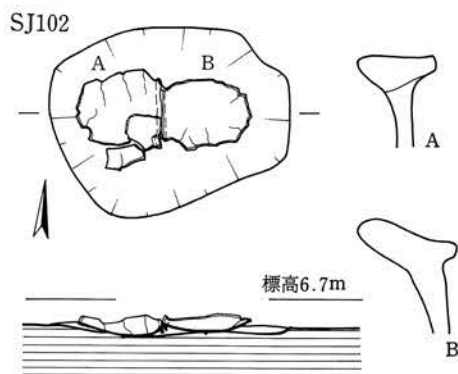


(2) 大形二連棺墓

89基を大形二連棺墓に分類したが，削平が激しいものには単棺墓・三連棺墓が含まれている可能性がある。

SJ102 (Fig. 8 / PL. 3-1)

F・G-13区画に検出した。SJ113に切られる。棺体の方位角86°，埋置角ほぼ水平。墓壇の底面標高6.5m。粘土帯・粘土床はない。削平が激しく墓壇の形態は不明である。棺体はA・Bともに胴部中位に一条の山形突帯を有する。



SJ115 (Fig. 8/PL. 4-3)

G-14区画に検出した。他の土器棺墓との切り合いはないが，墓壇の一部は攪乱されている。棺体の方位角83°，埋置角-02°，墓壇の底面標高6.1m。粘土帯とBの下部に粘土床を有する。墓壇は2.2×1.4mほどの胴張りな隅丸長方形をなすと思われるが，棺体の主軸と墓壇の主軸がずれている。棺体はA・Bともに胴部中位に一条のM字突帯を有する。

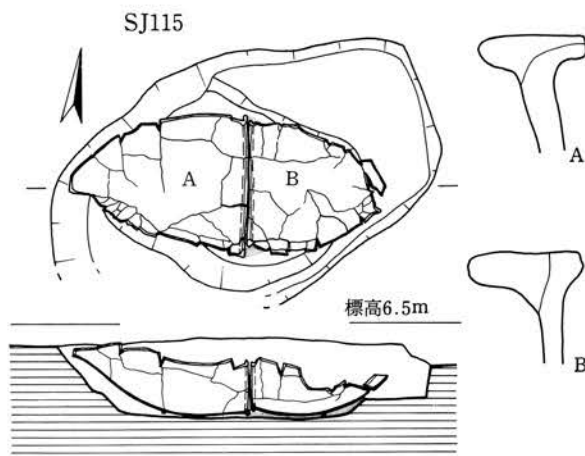
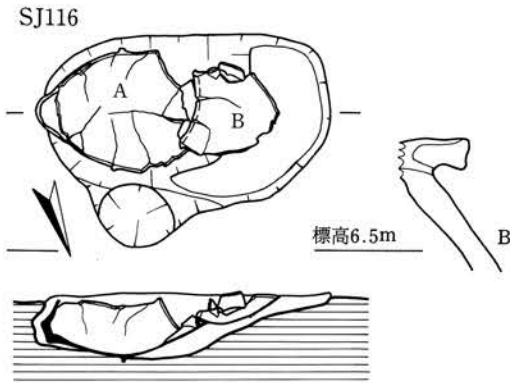


Fig. 8 SJ254・102・115 (1/40・1/4)

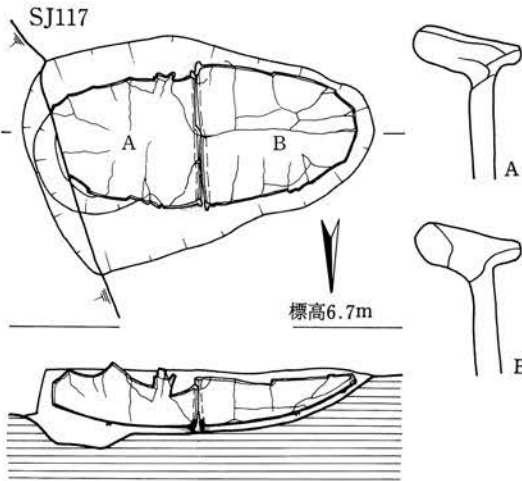
SJ116 (Fig. 9/PL. 4-4)

J-15区画に検出した。他の土器棺墓との切り合いはないが、北側を小穴に切り込まれている。棺体の方位角 291° 、埋置角 $+20^{\circ}$ 、墓壇の底面標高 6.0m 。粘土帯・粘土床はない。墓壇は $1.5\text{m} \times 0.9\text{m}$ の隅丸長方形をなす。棺体は、A・Bとも胴部中位に二条の鋸状突帯を有し、Aの口縁部を打ち欠きBの口縁部を内側にはめ込んでいる。



SJ117 (Fig. 9/PL. 4-5)

J-13区画に検出した。他の土器棺墓との切り合いはないが、東側一部を攪乱により破壊されている。棺体の方位角 091° 、埋置角 -02° 、墓壇の底面標高 6.2m 。粘土帯を有するが粘土床はない。 1.4m 以上 $\times 1.2\text{m}$ の不整な胴張りの隅丸長方形か。棺体はA・Bとも胴部中位に一条のM字突帯を有する。



SJ118 (Fig. 9/PL. 4-6)

J・K-15区画に検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。棺体の方位角・埋置角不明。墓壇の底面標高は 6.4m 。粘土帯の有無は不明、粘土床はない。削平が激しく墓壇の形態は不明。棺体は1個の破片だけ残存し、胴部に一条の鋸状突帯を有する。単棺であった可能性はあるが確実でない。



SJ119 (Fig. 10/PL. 4-7)

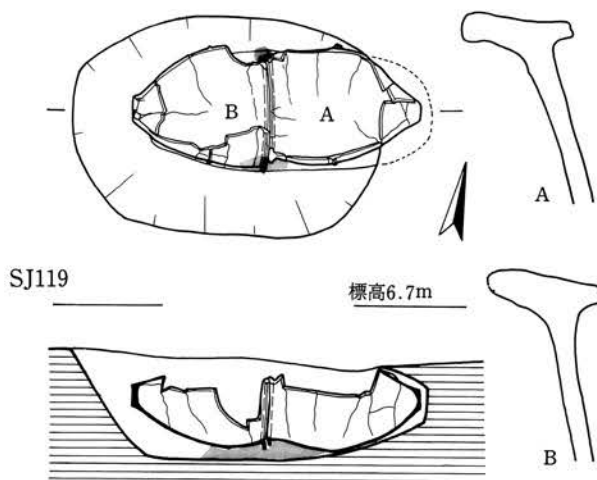
H・1-12区画に検出した。SJ107に切られる。棺体の方位角は 260° 、埋置角 $+02^{\circ}$ 、墓壇の底面標高 5.9m 。粘土帯と粘土床を有する。墓壇は $1.6\text{m} \times 1.2\text{m}$ の胴張りの隅丸長方形。棺体は、A・Bともに口縁内端一部に打ち欠きがあり。Aは胴部中位に一条のM字突帯、Bは一条の山形突帯を有する。

Fig. 9 SJ116・117・118(1/40・1/4)

1. 土器棺墓

SJ120 (Fig.10/PL. 4-8)

J・K-13・14区画に検出した。他の土器棺墓とは切り合いはない。棺体の方位角125°、埋置角-05°、墓墳の底面標高5.8m。粘土帯を有するが、粘土床はない。墓墳は2.0m×1.4mの隅丸長方形をなし、二重墓墳を有する。棺体は、Aは口縁内端一部に打ち欠き胴部中位に一条のM字突帯を有し、Bは一条の山形突帯を有する。

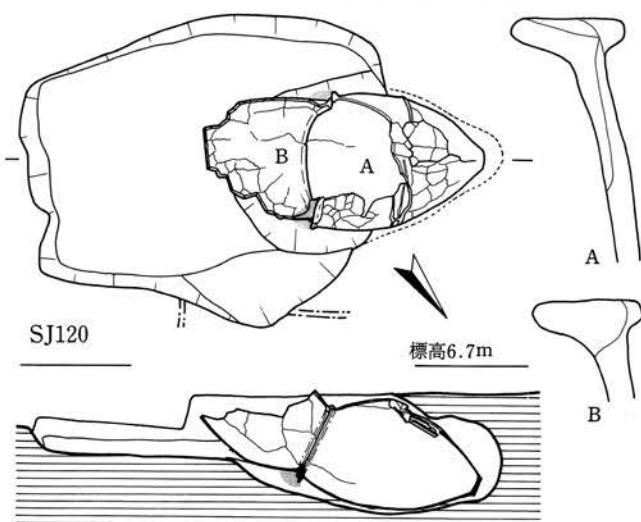


SJ119

標高6.7m

SJ121 (Fig.10/PL. 4-9)

G-11・12区画に検出した。他の土器棺墓との切り合いはない。棺体の方位角089°、埋置角-05°、墓墳の底面標高5.9m。粘土帯・粘土床はない。墓墳は1.8m×1.3mの隅丸長方形をなし二重墓墳である。棺体は、A・Bともに口縁下と胴部中位に三条の沈線を有し、突帯はない。

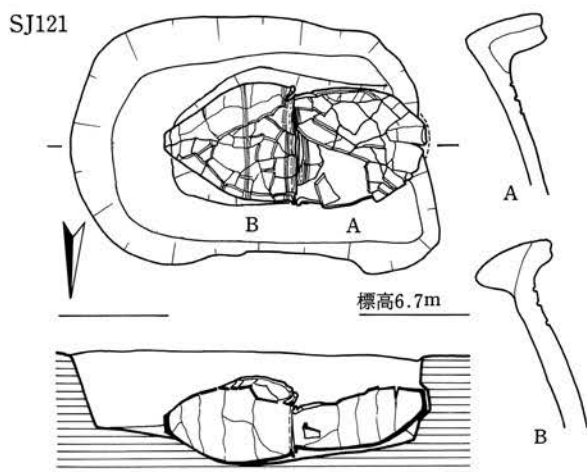


SJ120

標高6.7m

SJ123 (Fig.11/PL. 5-1)

J-12・13区画に検出した。他の土器棺墓との切り合いはない。棺体の方位角086°、埋置角-09°、墓墳の底面標高5.8m。粘土帯・粘土床はない。墓墳は本来1.7m×1.1mの隅丸長方形をなすと思われる。棺体は、A・Bともに口縁内端一部に打ち欠きがあり、胴部中位に一条のM字突帯を有する。



SJ121

標高6.7m

SJ126 (Fig.11/PL. 5-4)

F-13区画に検出した。他の土器棺墓との切り合いはない。棺体の方位

Fig.10 SJ119・120・121 (1/40・1/4)

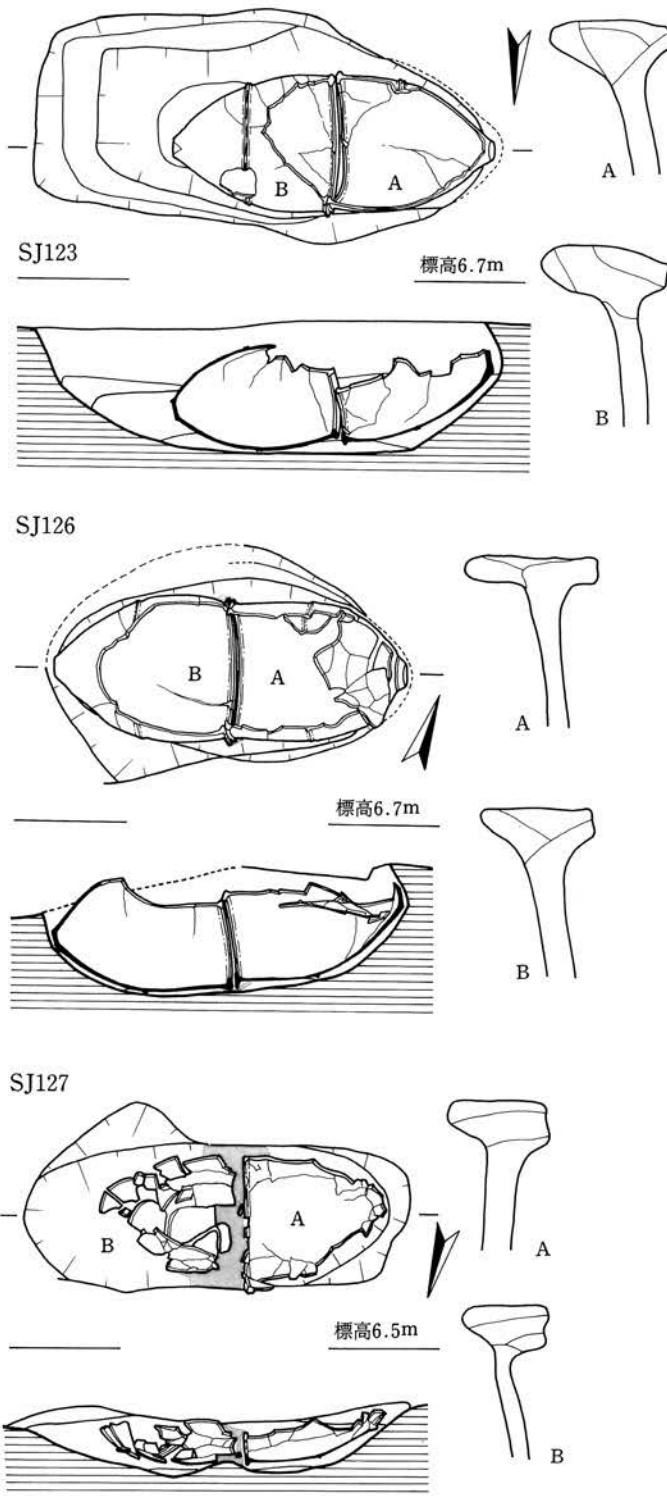


Fig. 11 SJ123・126・127 (1/40・1/4)

角252°, 埋置角-08°, 墓壇の底面標高5.8m。粘土帯はあるが粘土床はない。墓壇は攪乱により形態が不明だが、本来は1.8m×1.3m程度の卵型の平面形をなすものか。棺体はA・Bともに胴部中位に一条の山形突帯を有する。

SJ127 (Fig. 11/PL. 5-5)

G-17区画に検出した。他の土器棺墓との切り合いはない。棺体の方位角075°, 埋置角はほぼ水平。墓壇の底面標高5.9m。幅が広い粘土帯を有するが、粘土床はない。墓壇は攪乱が激しく形態は不明だが、1.7m×0.9mほどの隅丸長方形をなすものか。棺体は胴部中位に一条の山形突帯を有する。

SJ128 (Fig. 12/PL. 5-6)

G-17区画に検出した。他の土器棺墓との切り合いはない。棺体の方位角059°, 埋置角-06°, 墓壇の底面標高5.7m。粘土帯はあるが、粘土床はない。墓壇は一部を攪乱で破壊されているが、1.7m以上×1.3mの卵型の平面をなすと思われる。棺体は、A・Bともに胴部中位に一条の山形突帯を有する。

SJ129 (Fig. 12/PL. 5-7)

J-11・12区画で検出した。SJ139を切る。棺体の方位角

1. 土器棺墓

095°, 埋置角-27°, 墓壇の底面標高5.9 m。粘土帯・粘土床はない。墓壇は1m×1.1mの隅丸長方形をなし、二重墓壇である。棺体は、Aが胴部中位に一条のM字形突帯、Bが一条の山形突帯を有する。

SJ130 (Fig.12/PL. 5-9)

I-14・15区画に検出した。他の土器棺墓との切り合いはない。棺体の方位角092°, 埋置角+03°, 墓壇の底面標高5.7m。粘土帯・粘土床はない。墓壇は削平が激しく形態がやや不分明だが、本来は1.9m×1.0mほどの卵型の平面をなすと考える。棺体は、Aが胴部中位に一条のM字形突帯を有し、Bが一条の山形突帯を有する。

SJ131 (Fig.13/PL. 3-9)

G-13・14区画に検出した。他の土器棺墓との切り合いはない。棺体の方位角083°, 埋置角はほぼ水平。墓壇の底面標高6.0m。粘土帯を有するが、粘土床はない。墓壇は削平と攪乱によりかなりの部分を破壊されているが、本来は2.5m×1.2mほどの隅丸長方形をなすものか。棺体はA・Bともに胴部中位に一条の山形突帯を有する。

SJ132 (Fig.13/PL. 8-1)

F-12区画に検出した。他の土器棺墓との切り合いはない。棺体の方位角077°, 埋置角-02°, 墓壇の底面標高6.2 m。粘土帯を有するが、粘土床はない。墓壇の平面形はやや不整だが、本来は2.1m×1.4mほどの胴張りな隅丸長方

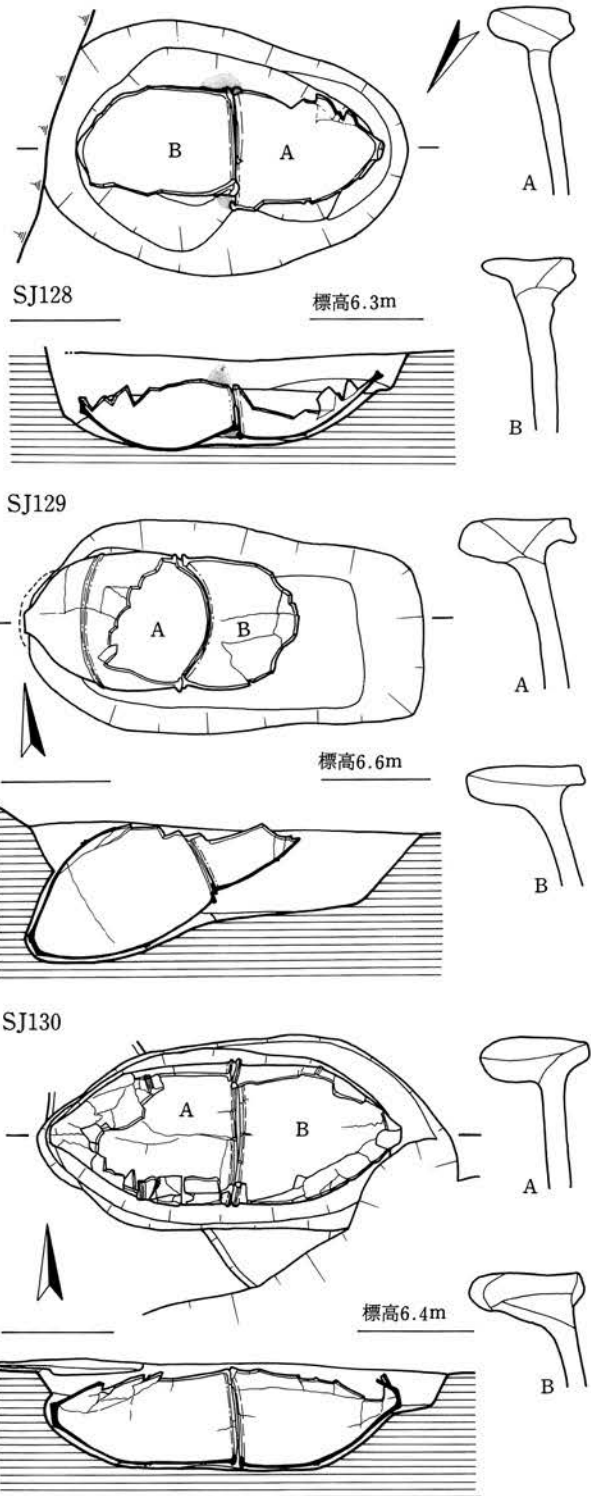
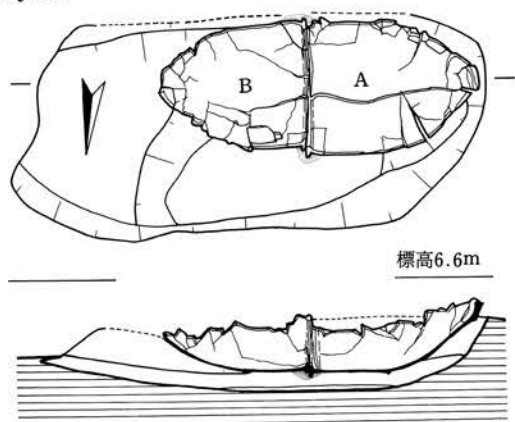


Fig.12 SJ128・129・130 (1/40・1/4)

SJ131



標高6.6m



A



B

形をなすものとする。棺体はA・Bともに胴部中位に一条の山形突帯を有する。

SJ134 (Fig. 13/PL. 6-3)

G-12・13区画に検出された。

SJ109・135と切り合う。SJ109との先後関係は不明。SJ135とはSJ134が先行する。棺体の方位角095°、埋置角+01°、墓壇の底面標高6.0m。やや幅が広い粘土帯を有するが、粘土床はない。墓壇の平面形は2.0m×1.0mのやや不整な隅丸長方形をなす。棺体はA・Bともに胴部中位に一条の山形突帯を有する。

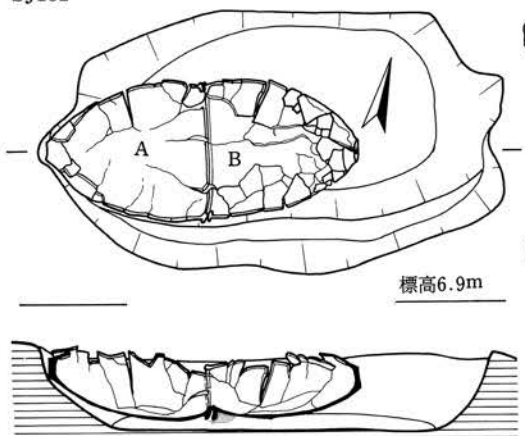
SJ138 (Fig. 14/PL. 6-6)

E・F-15区画に検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。棺体の方位角061°、埋置角-03°、墓壇の底面標高6.0m。粘土帯・粘土床はない。墓壇の平面形は本来2.2m×1.3mの隅丸長方形をなし、二重墓壇を有する。墓壇の方位と棺体のそれがややずれる。棺体はA・Bともに胴部中位に一条の山形突帯を有する。

SJ139 (Fig. 14/PL. 6-7)

J-11・12区画に検出した。SJ129と切り合い関係にあり、SJ139が先行する。棺体の方位角089°、埋置角-03°、墓壇の底面標高6.1m。粘土帯・粘土床はない。墓壇は南側を攪乱で破壊されてい

SJ132



標高6.9m

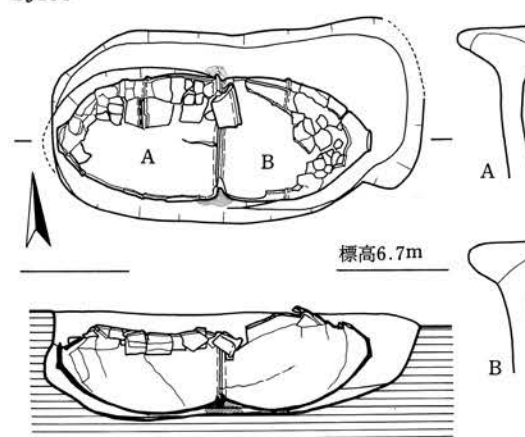


A



B

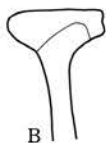
SJ134



標高6.7m



A



B

Fig. 13 SJ131・132・134 (1/40・1/8)

1. 土器棺墓

るが、本来は2.2m×1.4mほどの
 胴張りな隅丸長方形をなすと考
 える。二重墓壇である。棺体はA・
 Bともに胴部中位に一条の山形
 突帯を有する。

SJ143 (Fig. 14/PL. 7-2)

D-16・17区画に検出した。他の
 土器棺墓との切り合い関係はない。
 棺体の方位角276°、埋置角-02°、
 墓壇の底面標高6.4m。粘土帯を有
 するが、粘土床はない。墓壇は一
 部に攪乱を受け削平も激しいが、
 本来は1.7m×1.1mのやや不整な
 隅丸長方形をなすと考える。棺体
 はA・Bともに胴部中位に一条の
 M字形突帯を有する。

SJ145 (Fig. 15/PL. 7-4)

D-16区画に検出した。他の土器
 棺墓とは切り合い関係にない。棺
 体の方位角078°、埋置角-12°、墓
 壇の底面標高5.8m。粘土帯・粘土
 床・二重墓壇を有する。墓壇の平
 面形は2.5m×1.9mの不整な隅丸
 長方形をなす。棺体はA・Bとも
 に口縁部内端の一部を打ち欠いて
 いる。Aは口縁下と胴部中位に3
 本単位の沈線を二条めぐらし、B
 はそれに加え上下の横沈線の間
 に4本単位の縦沈線を4方向に四
 条施す。

SJ147 (Fig. 15/PL. 7-6)

E-16区画に検出した。他の土器
 棺墓との切り合い関係はない。棺

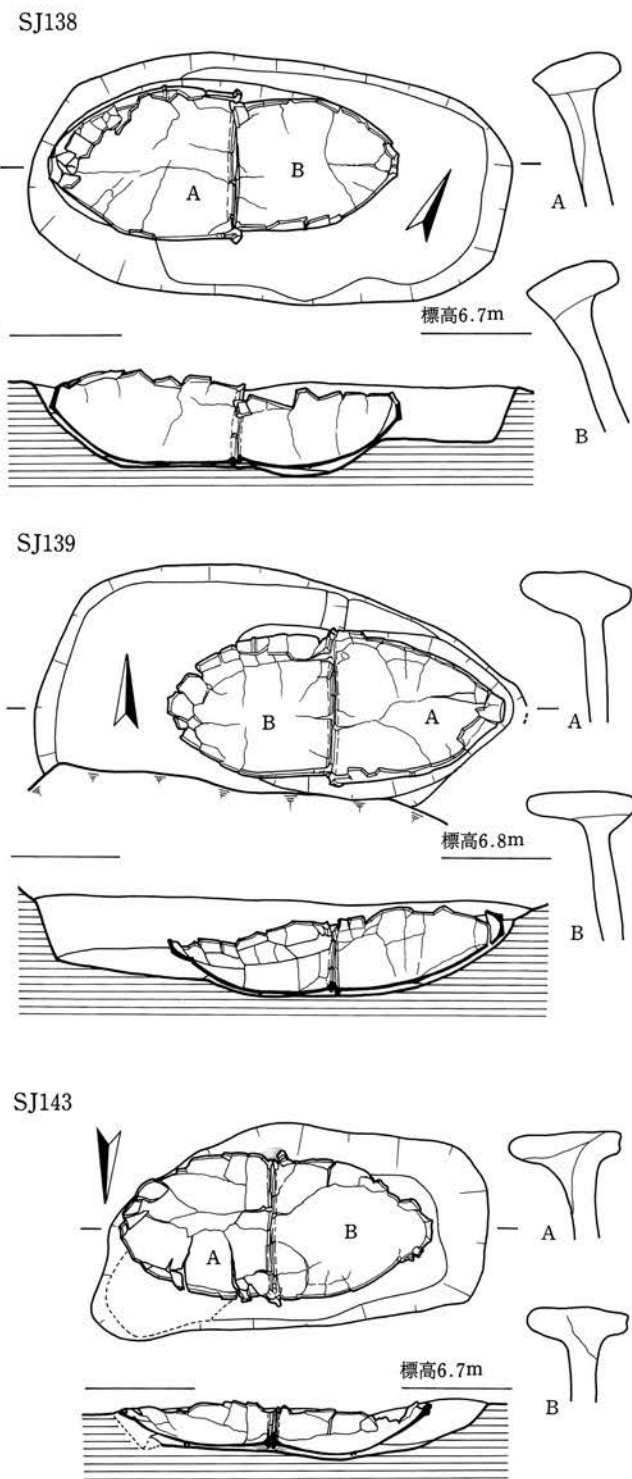


Fig. 14 SJ138・139・143 (1/40・1/4)

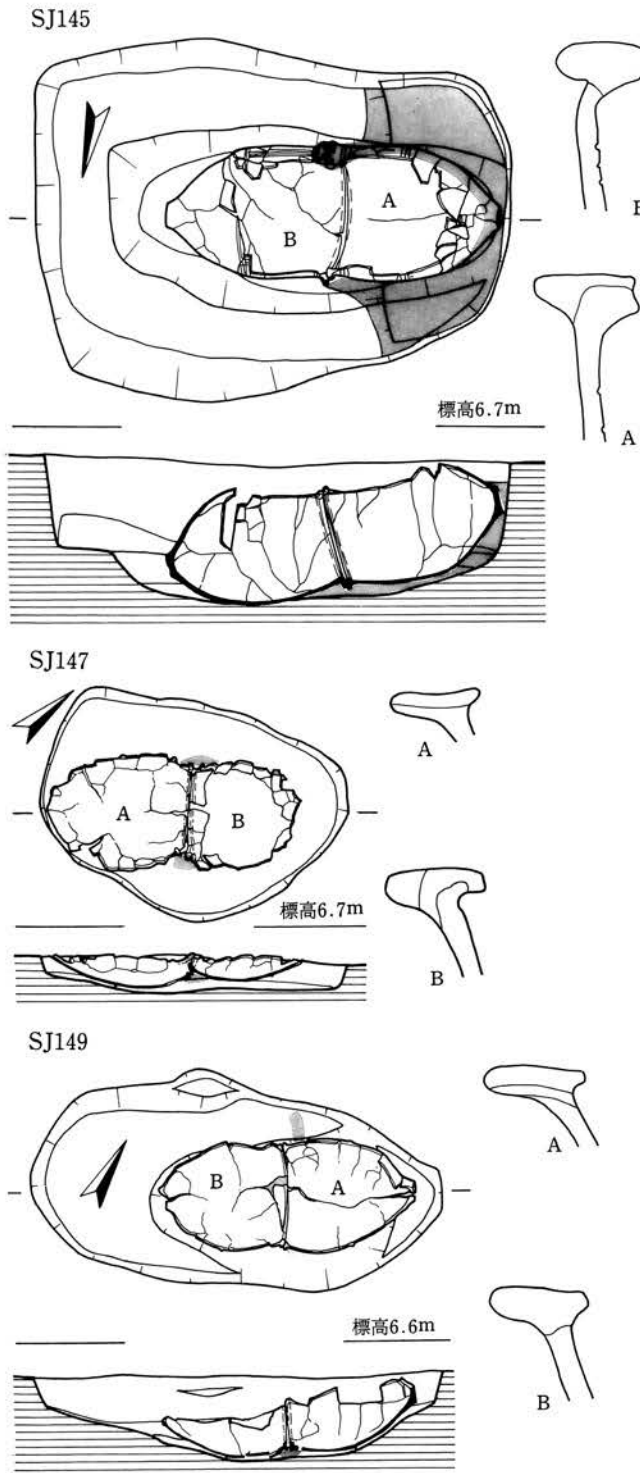


Fig. 15 SJ145・147・149 (1/40・1/4)

体の方位角041°, 埋置角ほぼ水平。墓壇の底面標高6.4m。粘土帯を有するが、粘土床はない。墓壇の平面形は激しく削平を受けているが、1.5m以上×1.1mほどの不整な隅丸長方形をなすと考える。墓壇の方位と棺体のそれとがずれていて、ほぼ墓壇の対角線に棺体の主軸がくる。棺体はA・Bともに胸部中位に一条の山形突帯を有する。

SJ149 (Fig. 15/PL. 7-7)

C-16区画に検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。棺体の方位角240°, 埋置角-04°, 墓壇の底面標高6.0m。粘土帯を有するが粘土床はなく、不分明な二重墓壇である。墓壇上部は削平を受けているが、平面形は本来1.8m×1.0mほどの卵形をなすと考える。棺体はA・Bともに胸部中位に一条の山形突帯を有する。

SJ152 (Fig. 16/PL. 7-10)

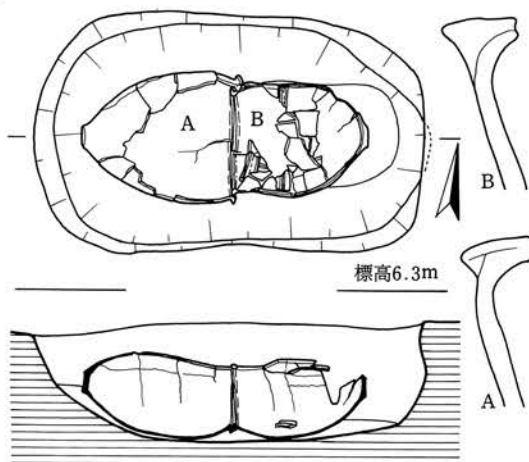
B-16区画に検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。棺体の方位角082°, 埋置角-01°, 墓壇の底面標高5.5m。粘土帯・粘土床はない。墓壇の平面形は2.1m×1.3mのやや胴張りな隅丸長方形をなす。棺体は、Aが突帯も沈線もなく、Bは口縁下に3本単位、胸部中位に5本単位の二条の横沈線を有し、上下の横沈線の間には4本単位4方向の縦沈線四条を有する。

1. 土器棺墓

SJ153 (Fig.16/PL. 8-1)

D-16・17区画に検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。棺体の方位角064°，埋置角-03°，墓壇の底面標高6.3m。粘土帯を有するが，粘土床はない。墓壇は二段掘りの断面形を示す。墓壇の平面形は削平が激しいが，本来は2.1m×1.3mのやや不整な隅丸方形をなすと考え。棺体はA・Bともに胴部中位に一条の山形突帯を有する。

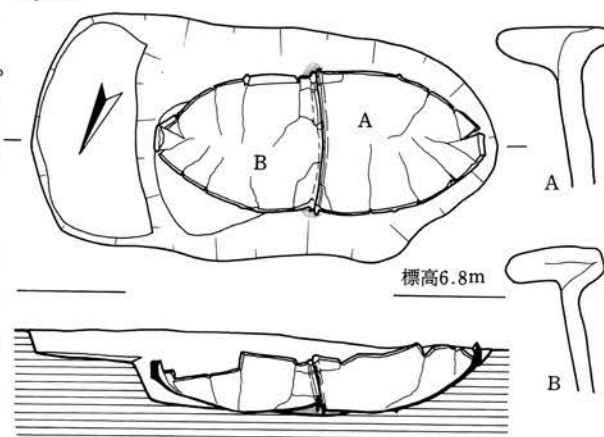
SJ152



SJ154 (Fig.16/PL. 3-2)

D・E-16区画に検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。棺体の方位角189°，埋置角+04°，墓壇の底面標高6.1m。粘土帯を有するが，粘土床はない。墓壇の平面形は激しく削平され西側を攪乱で破壊されているが，本来は1.6m以上×1.0mほどの胴張りの隅丸長方形か卵形をなすと思われる。棺体はA・Bともに胴部中位に一条の山形突帯を有する。

SJ153



SJ155 (Fig.17/PL. 8-3)

E-15区画に検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。棺体の方位角039°，埋置角はほぼ水平。墓壇底面の標高6.6m。粘土帯・粘土床はない。墓壇の断面は二段掘りの形状をなす。墓壇の平面形は本来1.7m×1.0mほどのやや不整な隅丸長方形をなすと考え

SJ154

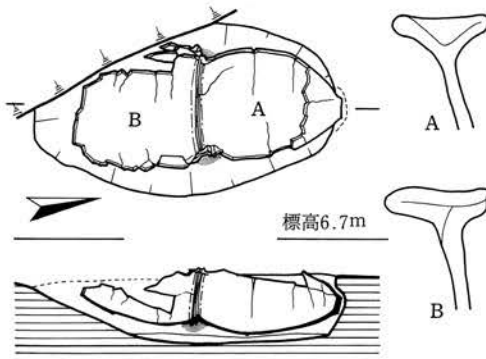


Fig.16 SJ152・153・154 (1/40・1/4)

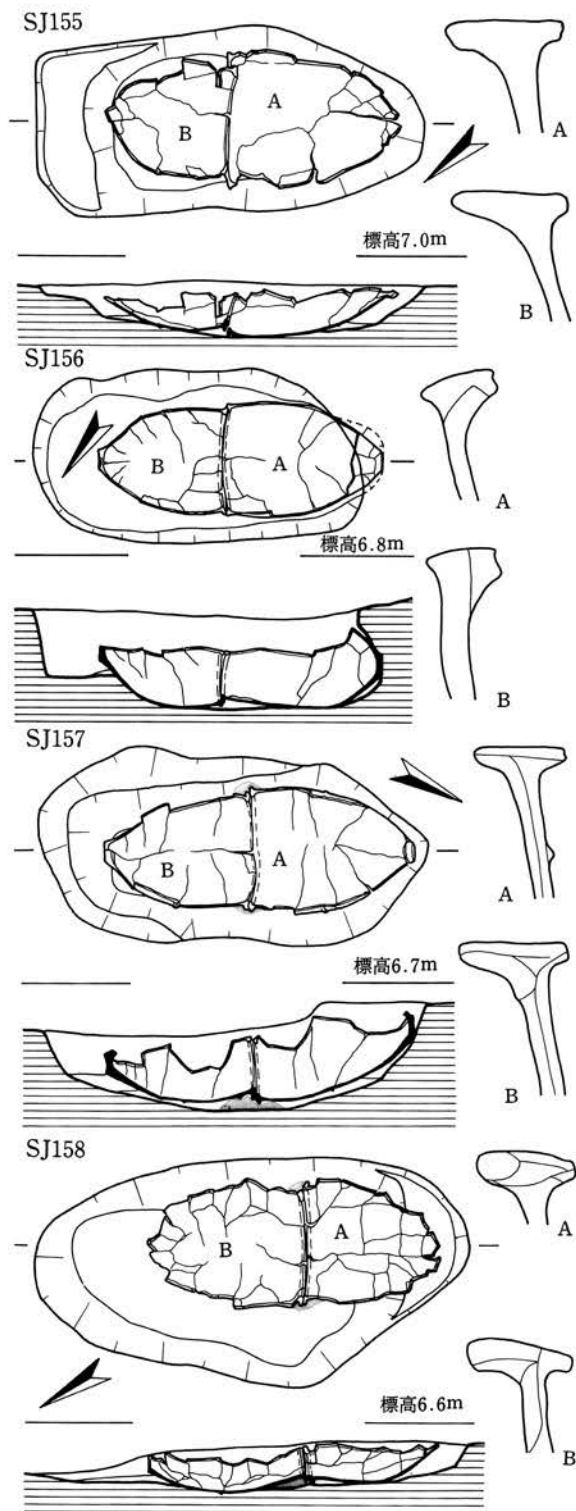


Fig. 17 SJ155・156・157・158 (1/40・1/4)

る。棺体はA・Bともに胴部中位に一条の山形突帯を有する。

SJ156 (Fig.17/PL. 8-4)

D-15区画に検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。棺体の方位角063°, 埋置角+02°, 墓壇底面の標高6.0m。粘土帯・粘土床はなく、二重墓壇を有する。墓壇の平面形は1.7m×0.9mの不整な隅丸方形をなす。棺体は、A・Bともに口縁外端の刻み目と胴部上位の3本1単位の横沈線があり、Aは4本1単位四条の縦沈線がある。

SJ157 (Fig.17/PL. 8-5)

E・F-15区画に検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。棺体の方位角153°, 埋置角-07°, 墓壇底面の標高6.0m。粘土帯はあるが、粘土床はない。墓壇の平面形は本来1.5m×1.0mの不整な隅丸長方形をなすと考える。棺体はA・Bともに胴部中位に一条の山形突帯を有し、Aは胴部上位にも一条の山形突帯をもつ。

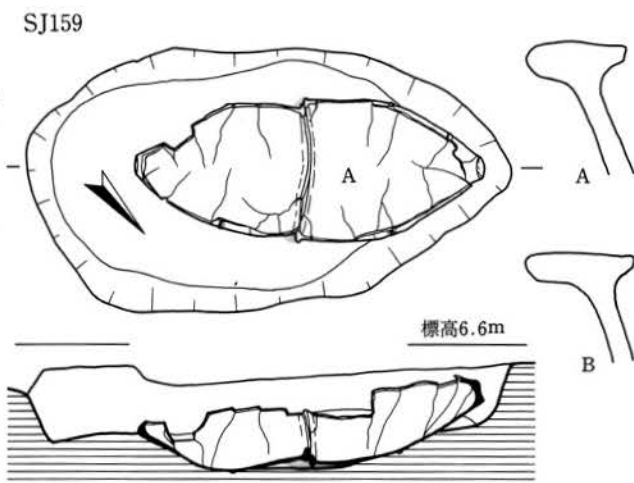
SJ158 (Fig.17/PL. 8-6)

C・D-15区画に検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。棺体の方位角030°, 埋置角-07°, 墓壇底面の標高6.2m。粘土帯はあるが、粘土床はない。墓壇は激しく削平を受けているが、その平面形は本来1.9m×1.3mほどの隅丸長方形か。棺体はA・Bともに胴部中位に一条の山形突帯を有する。

1. 土器棺墓

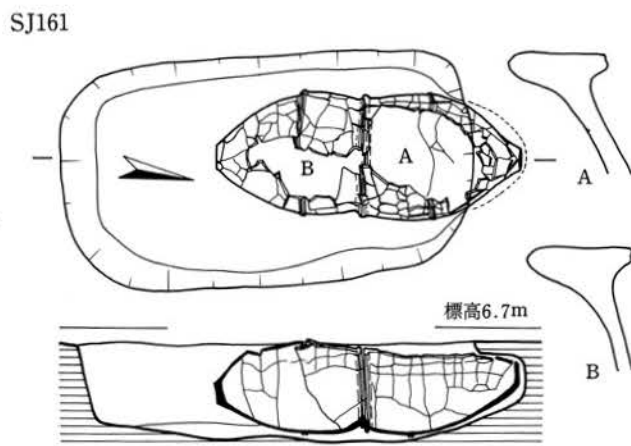
SJ159 (Fig. 18/PL. 8-7)

E-14・15区画に検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。棺体の方位 132° 、埋置角 -07° 、墓壇底面の標高6.0m。粘土帯はあるが、粘土床はない。二重墓壇を有する。墓壇の平面形は本来2.2m×1.4mほどの不整な隅丸長方形をなすと考えられる。棺体はA・Bともに胴部中位に一条のM字形突帯を有する。



SJ161 (Fig. 18/PL. 8-9)

D-14区画に検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。棺体の方位角 169° 、埋置角 -03° 、墓壇底面の標高6.1m。粘土帯・粘土床はない。浅い二重墓壇を有する。墓壇の平面形は2.2m×1.2mの隅丸長方形をなす。棺体はA・Bともに胴部中位に一条のM字形突帯を有する。



SJ162 (Fig. 18/PL. 9-1)

E-14区画に検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。棺体の方位角 071° 、埋置角はほぼ水平、墓壇底面の標高6.3m。粘土帯を有するが、粘土床はない。墓壇上面は激しく削平されているが、平面形は本来1.5m以上×1.2mほどの隅丸長方形か卵形をなすと思われる。棺体はA・Bともに胴部中位に一条の山形突帯を有する。

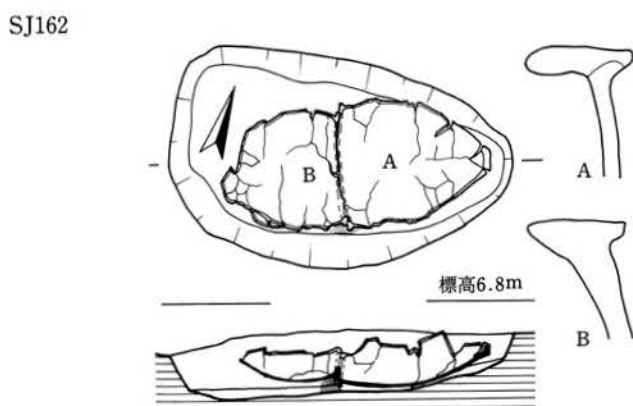
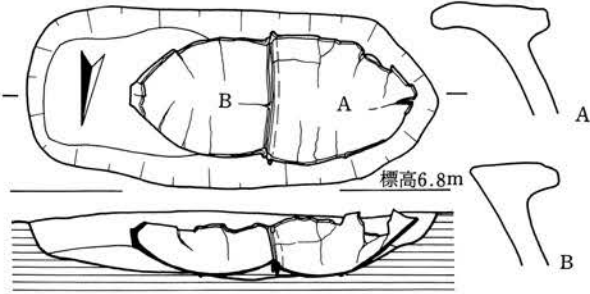
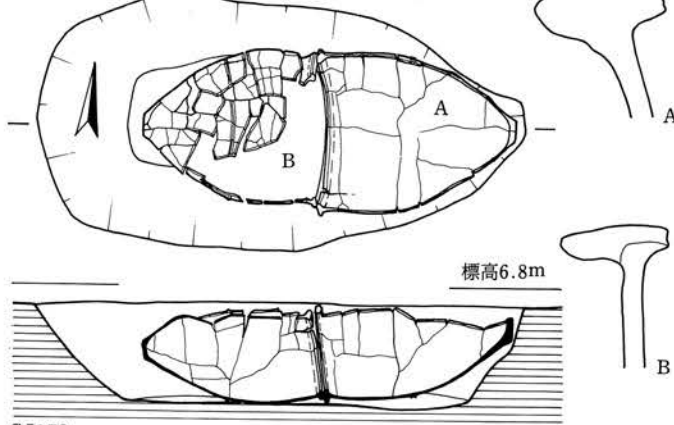


Fig. 18 SJ159・161・162 (1/40・1/4)

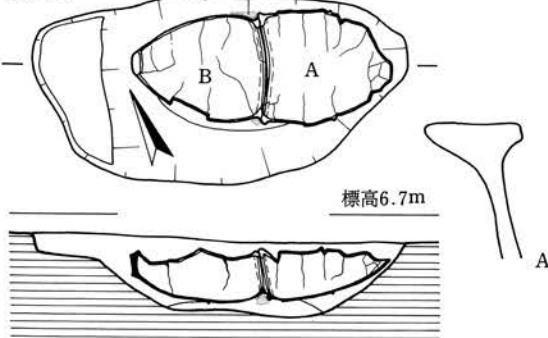
SJ167



SJ168



SJ173



SJ174

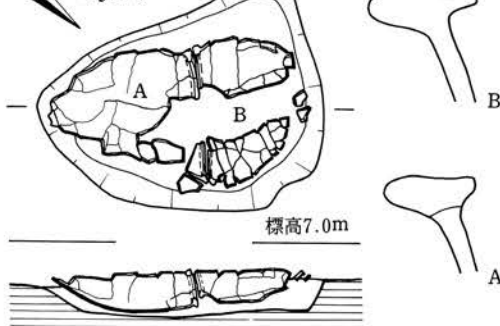


Fig. 19 SJ167・168・173・174 (1/40・1/4)

SJ167 (Fig. 19/PL. 9-6)

C-13区画に検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。棺体の方位角 080° ，埋置角 -07° ，墓壇底面の標高6.4m。粘土帯・粘土床はない。墓壇の上面は削平されているが，本来の平面形は $1.9\text{m} \times 1.0\text{m}$ の隅丸長方形をなすと考え。棺体はA・Bともに胸部中位に一条の山形突帯を有する。

SJ168 (Fig. 19/PL. 9-7)

C-11・12区画に検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。棺体の方位角 086° ，埋置角 -05° ，墓壇底面の標高6.2m。粘土帯・粘土床はない。墓壇の平面形は本来 $2.2\text{m} \times 1.4\text{m}$ ほどの胴張りな隅丸長方形をなすと考え。棺体は，Aは胸部中位に一条のM字形突帯，Bは一条の山形突帯を有する。

SJ173 (Fig. 19)

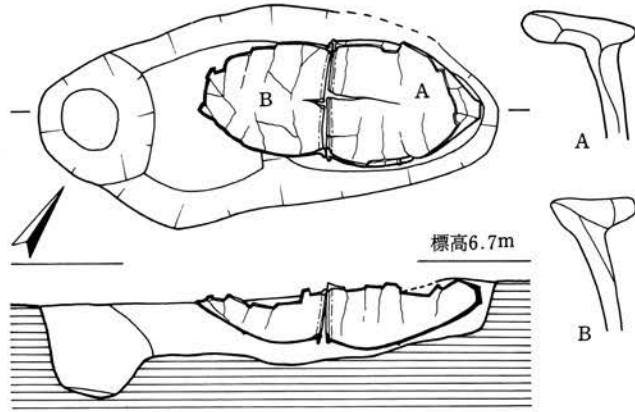
D-12区画に検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。棺体の方位角 115° ，埋置角 -03° ，墓壇底面の標高6.2m。粘土帯を有するが，粘土床はない。墓壇の断面形は二段掘りの形状をなす。墓壇上面はかなり削平されているが，本来 $1.8\text{m} \times 1.0\text{m}$ ほどの不整な隅丸長方形をなすと考え。棺体はA・Bとも

1. 土器棺墓

に胴部中位に一条の山形突帯を有 SJ177
する。

SJ174 (Fig. 19)

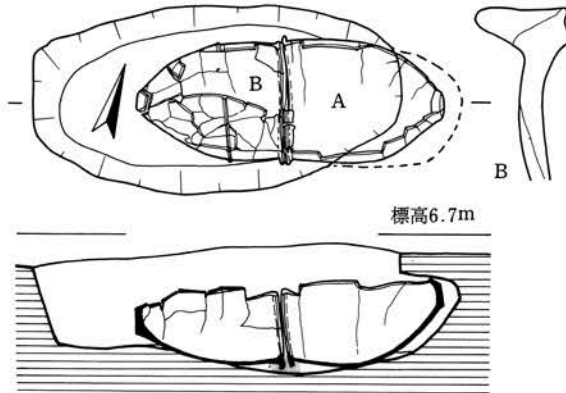
D-12区画に検出した。他の土器
棺墓との切り合い関係はない。棺
体の方位角139°, 埋置角はほぼ水
平, 墓壇底面の標高6.4m。粘土
帯・粘土床はない。墓壇は削平が
激しく形態は不明。棺体はA・B
ともに胴部中位に一条の山形突帯
を有する。



SJ177 (Fig. 20/PL.10-1)

F-10・11区画に検出した。
SJ176を切り, 小穴に切り込まれ
ていた。棺体の方位角237°, 埋置角
はほぼ水平, 墓壇底面の標高6.2
m。上面の削平が激しいが, 墓壇
の平面形は1.9m以上×1.1mほど
の不整な隅丸長方形か。棺体は
A・Bともに胴部中位に一条の山
形突帯を有する。

SJ178



SJ178 (Fig. 20)

E-11区画に検出した。他
の土器棺墓との切り合い関
係はない。棺体の方位角
252°, 埋置角-05°, 墓壇底
面の標高6.0m。粘土帯を有
するが, 粘土床はない。二
重墓壇を有する。墓壇の平
面形は2.0m×1.0mの胴張
りな隅丸長方形をなす。棺
体はA・Bともに胴部中位
に一条の山形突帯を有する。

SJ180

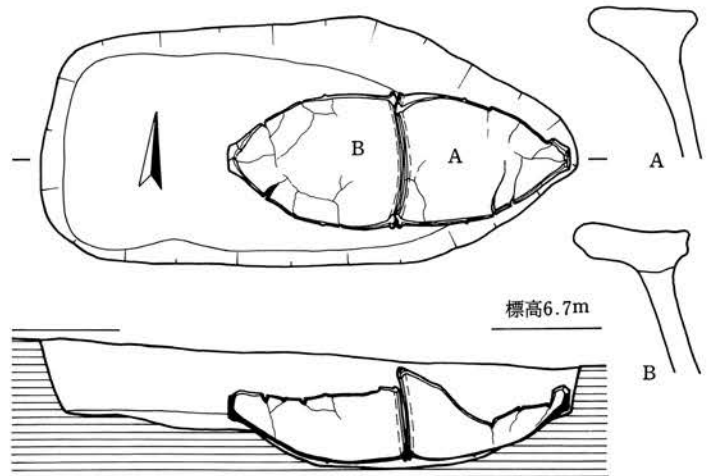
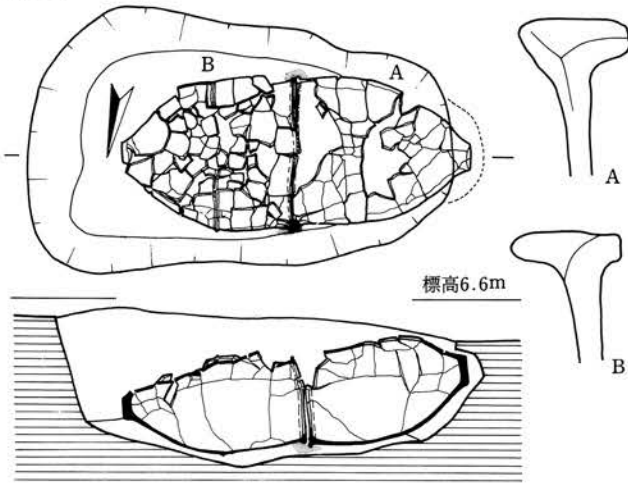


Fig. 20 SJ177・178・180 (1/40・1/4)

SJ181



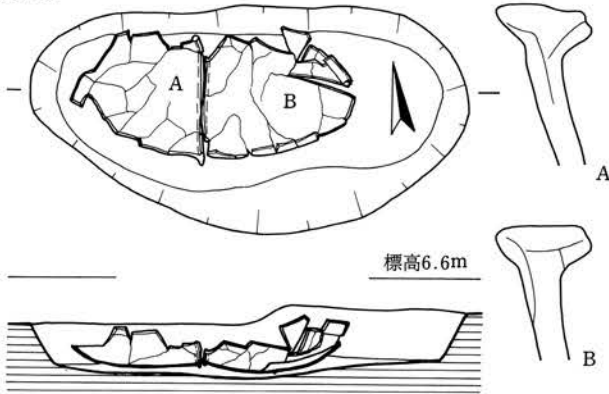
SJ180 (Fig. 20/PL.10-2)

D-11・12区画に検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。棺体の方位角 266° ，埋置角 -02° ，墓壇底面の標高6.0m。粘土帯・粘土床はない。二重墓壇を有する。上面をかなり削平されているが，本来は $2.2\text{m} \times 1.3\text{m}$ の隅丸長方形をなすとする。棺体は，Aが胴部中位に一条の山形突帯，Bが一条のM字形突帯を有する。

SJ181 (Fig. 21/PL.10-3)

C・D-11区画に検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。棺体の方位角 080° ，埋置角 -06° ，墓壇底面の標高5.8m。粘土帯を有するが，粘土床はない。墓壇の平面形は $2.3\text{m} \times 1.4 \sim 0.8\text{m}$ の隅丸台形をなす。棺体は，Aは突帯を持たず，Bは胴部中位に一条の山形突帯を有する。

SJ182



SJ182 (Fig. 21/PL.10-4)

E・F-13区画に検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。棺体の方位角 098° ，埋置角はほぼ水平，墓壇底面の標高6.1m。粘土帯・粘土床はない。上面を激しく削平され墓壇の平面形は不明だが， $2.0\text{m} \times 1.2\text{m}$ ほどの不整な隅丸長方形か卵形をなすものか。棺体はAは突帯がなく，Bは胴部中位に一条の山形突帯をもつ。

SJ183

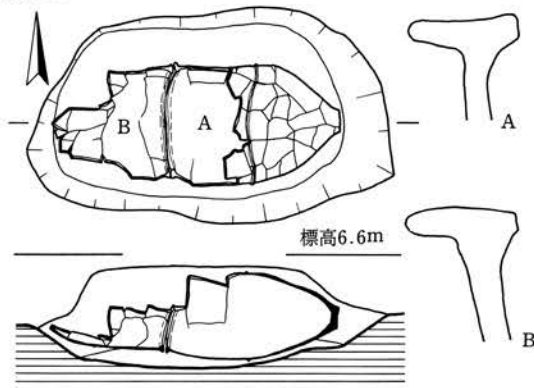


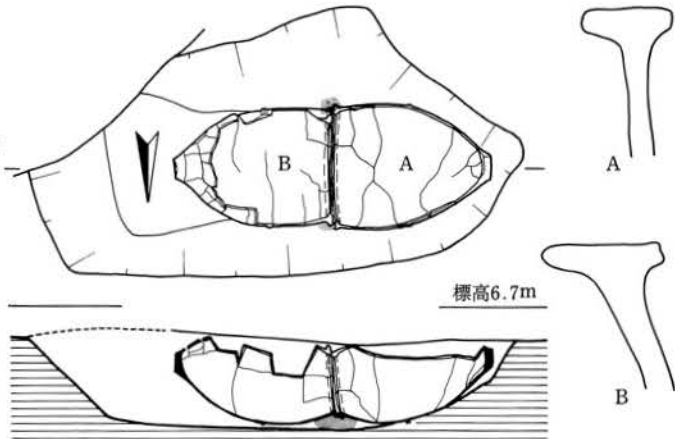
Fig. 21 SJ181・182・183 (1/40・1/4)

1. 土器棺墓

SJ183 (Fig. 21/PL. 10-5)

E・F-12・13区画に検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。棺体の方位角 272° 、埋置角 $+03^{\circ}$ 、墓壇底面の標高6.0m。粘土帯・粘土床はない。攪乱により激しく削平されているが、1.9m以上 \times 1.2mほどの不整な隅丸長方形をなすと思われる。棺体は、A・Bともに胸部中位に一条の山形突帯を有する。

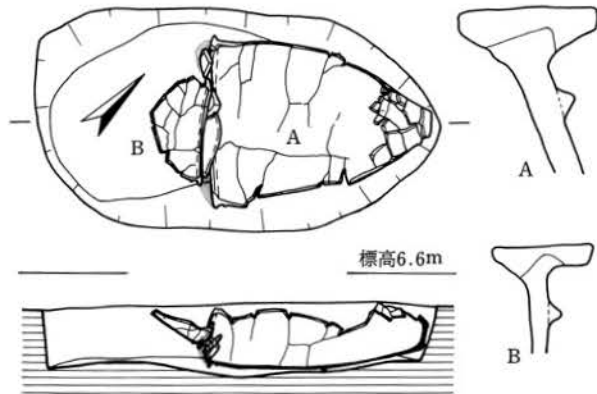
SJ188



SJ188 (Fig. 22/PL. 11-1)

I-10・11区画に検出した。SJ189に切られる。棺体の方位角 091° 、埋置角はほぼ水平、墓壇底面の標高6.1m。粘土帯を有するが粘土床はない。墓壇の形態は本来 $2.1\text{m} \times 1.3\text{m}$ ほどの不整な隅丸長方形をなすと考え。棺体は、AがM字形突帯、Bが山形突帯を、胸部中位に一条有する。

SJ189



SJ189 (Fig. 22/PL. 11-2)

I-11区画に検出した。SJ188を切る。棺体の方位角 225° 、埋置角 $+05^{\circ}$ 、墓壇底面の標高6.1m。粘土帯を有するが粘土床はない。墓壇の平面形は本来 $1.8\text{m} \times 1.2\text{m}$ ほどの隅丸長方形をなすと考え。AとBの間の接口部に平石を3枚かましているが、意味はわからない。棺体はA・Bともに口縁下に一条の山形突帯を

SJ190

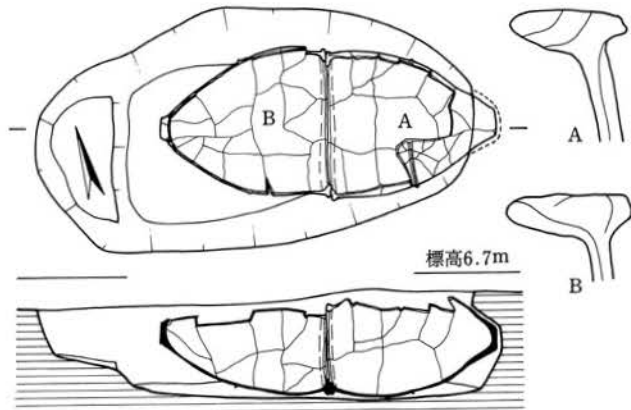
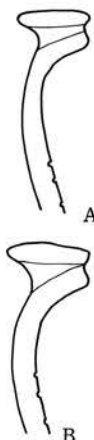
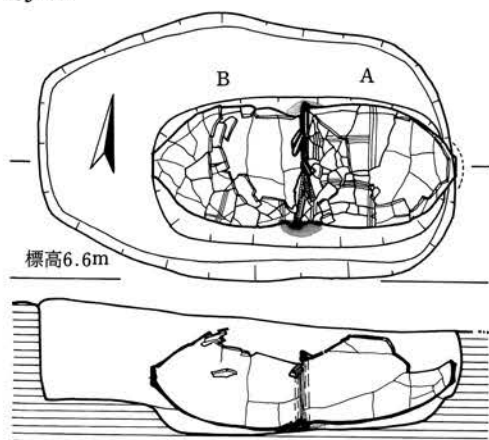


Fig. 22 SJ188・189・190 (1/40・1/4)

SJ191



有し、Aは胴部中位に二条の山形突帯をもつ。

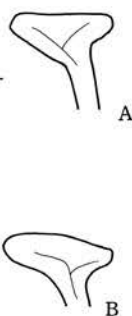
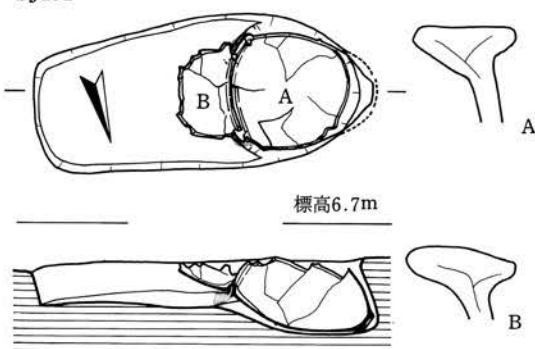
SJ190 (Fig. 22/PL. 11- 3)

J-10・11区画に検出した。他の土器棺墓との切り合いはない。方位角 282° 、埋置角 $+02^{\circ}$ 、墓壇底面標高6.1m。粘土帯・粘土床はない。墓壇断面は二段掘りの形状をなし、平面は $2.3\text{m} \times 1.3\text{m}$ の不整で胴張りな隅丸方形をなす。棺体はA・Bともに胴部中位に一条の山形突帯を有する。

SJ191 (Fig. 23/PL. 11- 4)

B・C-9区画に検出した。他の土器棺墓との切り合いはない。方位角 261° 、埋置角 -02° 、墓壇底面標高5.8m。粘土帯を持つが粘土床はない。二重墓壇を有し、墓壇平面形は $2.2\text{m} \times 1.4\text{m}$ の不整で胴張りな隅丸長方形をなす。棺体は、A・Bともに口縁外端に刻み目と胴部上位と中位に3本1単位の横沈線を有し、Aは6方向に4本1単位の縦沈線をもつ。

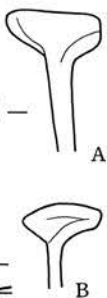
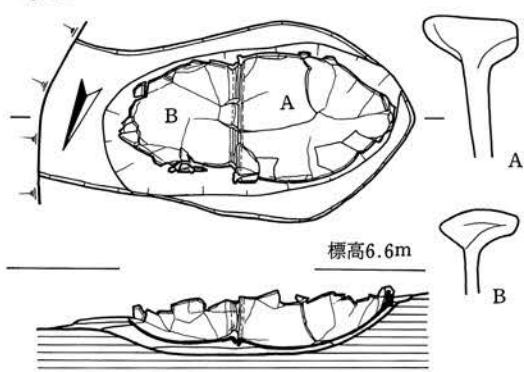
SJ192



SJ192 (Fig. 23)

C-9区画に検出した。他の土器棺墓との切り合いはない。方位角 104° 、埋置角 $+28^{\circ}$ 、墓壇底面標高6.1m。二重墓壇を有し、墓壇平面形は $1.7\text{m} \times 0.8\text{m}$ のやや胴張りな隅丸長方形をなす。棺体は、Aが胴部中位に一条の山形突帯を有する。

SJ193



SJ193 (Fig. 23/PL. 11- 5)

C・D-9・10区画に検出した。室町時代の堀に墓壇の東側を破壊されている。

Fig. 23 SJ191・192・193 (1/40・1/4)

1. 土器棺墓

棺体の方位角066°, 埋置角はほぼ水平。
墓壇底面の標高は6.2m。粘土帯・粘土床はない。二重墓壇を有し、上面の削平が激しいが本来の墓壇平面は2.0m×1.1mほどの不整な隅丸長方形か繭形をなすものか。棺体はA・Bとも口縁内端一部に打ち欠きがあり、突帯・沈線はない。

SJ197 (Fig. 24)

E-8区画に検出した。他の土器棺墓との切り合いはない。棺体の方位角101°, 埋置角+10°。墓壇底面の標高5.7m。粘土帯はあるが粘土床はない。二重墓壇を有し、墓壇平面は1.8m×1.1mの卵形をなす。棺体A・Bとも胴部中位に一条の山形突帯を有する。

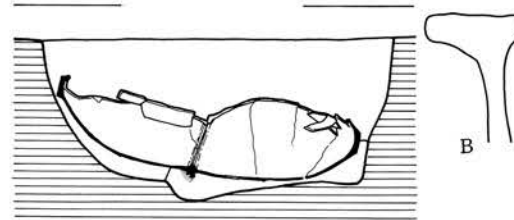
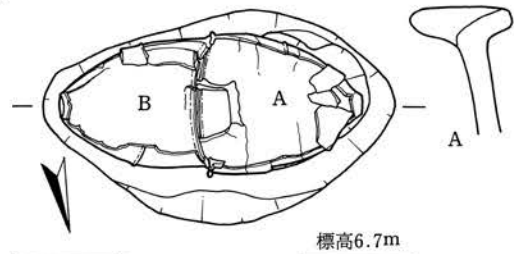
SJ199 (Fig. 24/PL. 11-7)

D-7区画に検出した。他の土器棺墓との切り合いはない。棺体の方位角357°, 埋置角+17°。墓壇底面の標高6.2m。粘土帯・粘土床はない。二重墓壇を有し、墓壇平面は1.9m×1.1mのやや不整な隅丸長方形をなす。棺体A・Bとも胴部中位に一条の山形突帯を有する。

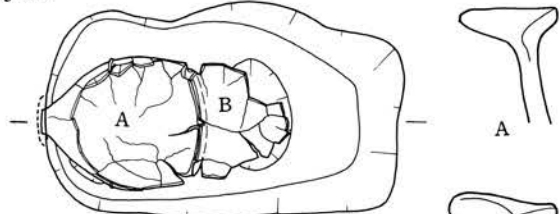
SJ200 (Fig. 24)

C・D-7区画に検出した。他の土器棺墓との切り合いはない。棺体の方位角094°, 埋置角+05°。墓壇底面の標高6.1m。粘土帯はあるが粘土床はない。墓壇断面は二段掘りの形状をなし、本来の墓壇平面は2.1m×1.3mほどの隅丸長方形をなすと考え。棺体はA・

SJ197



SJ199



SJ200

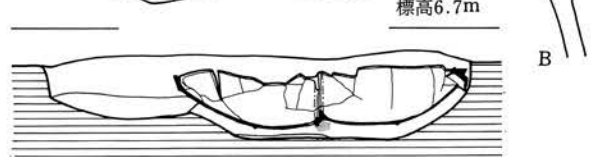
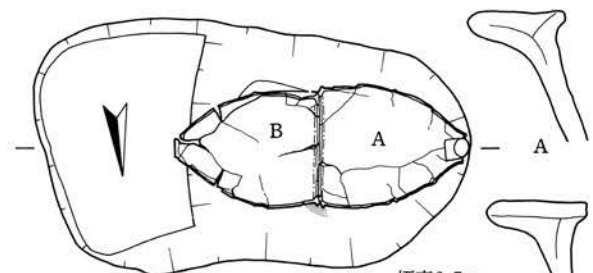


Fig. 24 SJ197・199・200 (1/40・1/4)

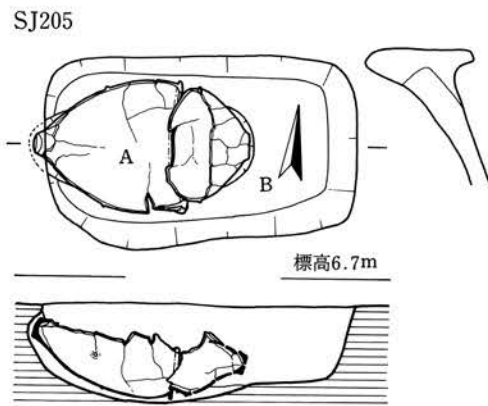
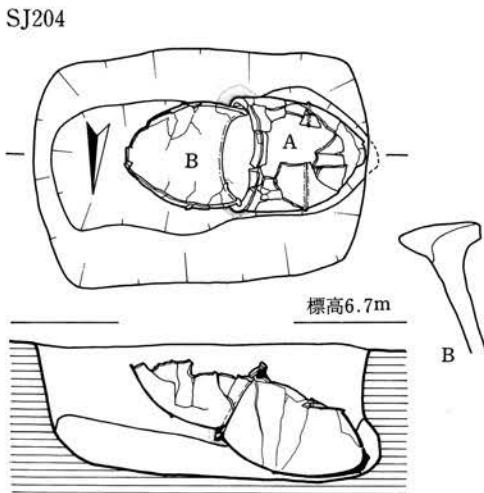
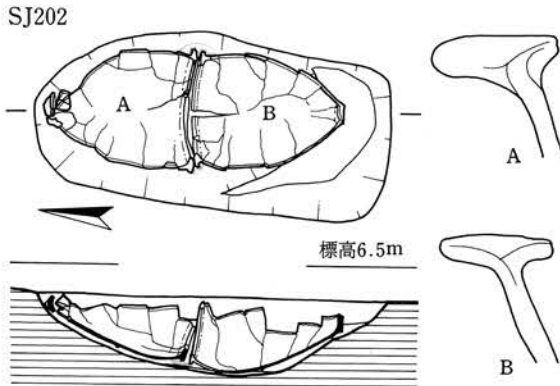


Fig. 25 SJ202・204・205 (1/40・1/4)

Bとも胴部中位に一条の山形突帯を有する。

SJ202 (Fig. 25/PL. 11- 8)

E-9区画に検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。棺体の方位角 354° 、埋置角 -05° 。墓壇底面の標高6.0 m。粘土帯はあるが粘土床はない。墓壇断面は浅い二段掘りの形状で、本来の墓壇平面は $1.7\text{m} \times 1.0\text{m}$ ほどの隅丸長方形をなすと考えられ、棺体と墓壇の主軸がややずれている。棺体A・Bとも胴部中位に一条の山形突帯を有する。

SJ204 (Fig. 25/PL. 12- 2)

E-7・8区画に検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。棺体の方位角 095° 、埋置角 $+26^{\circ}$ 。墓壇底面の標高5.9 m。粘土帯はあるが粘土床はない。墓壇平面は $1.8\text{m} \times 1.3\text{m}$ の隅丸長方形をなす。棺体A・Bとも胴部中位に山形突帯を有する。

SJ205 (Fig. 25/PL. 12- 3)

D-7・8区画に検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。棺体の方位角 084° 、埋置角 -10° 。墓壇底面の標高6.1 m。墓壇平面は $1.7\text{m} \times 1.0\text{m}$ の隅丸長方形をなす。蓋にあたる棺体Bには大形の壺を打ち欠きその下半部を用いている。Aは胴部中位に一条の山形突帯を有し、Mは胴部中位に二条の山形突帯を有する。

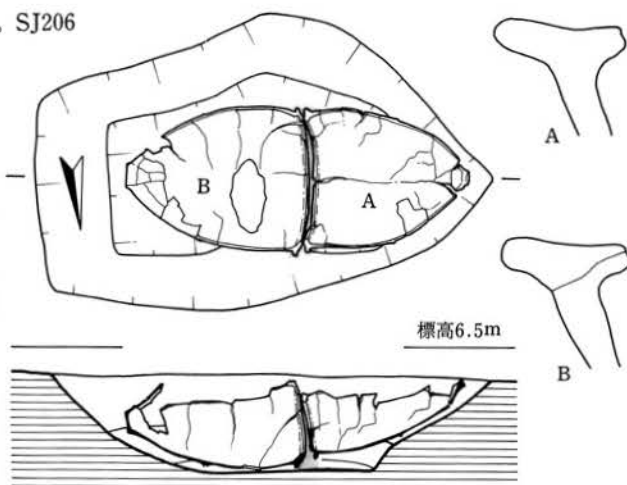
SJ206 (Fig. 26/PL. 12- 4)

E-2区画に検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。棺体の方位角 099° 、埋置角 -08° 。墓壇底面の標高5.9

1. 土器棺墓

m。粘土帯はあるが粘土床はない。SJ206

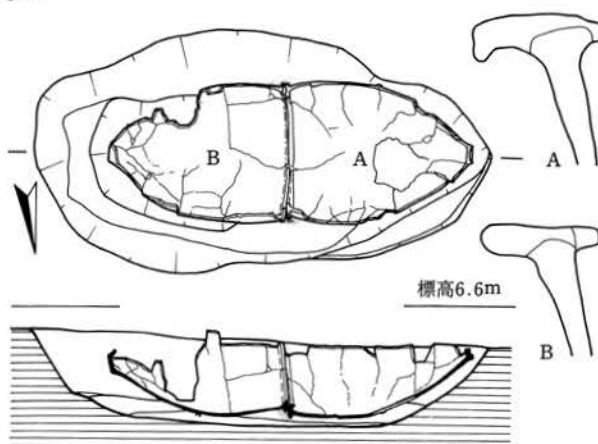
上面を削平されているが、本来の墓壇平面は2.1m×1.5mほどの不整な隅丸長方形をなすと考える。棺体と墓壇の主軸がややずれている。棺体Aは胴部中位に一条の山形突帯を有し、Bは一条のM字形突帯を有する。



SJ207 (Fig. 26/PL. 12-5)

E-3区画に検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。棺体の方位角098°, 埋置角-03°。墓壇底面の標高6.0m。粘土帯はあるが粘土床はない。二重墓壇を有し、上面を削平されているが本来の墓壇平面は1.9m×1.3mの隅丸長方形をなすと考える。棺体A・Bとも胴部中位に一条のM字形突帯を有する。

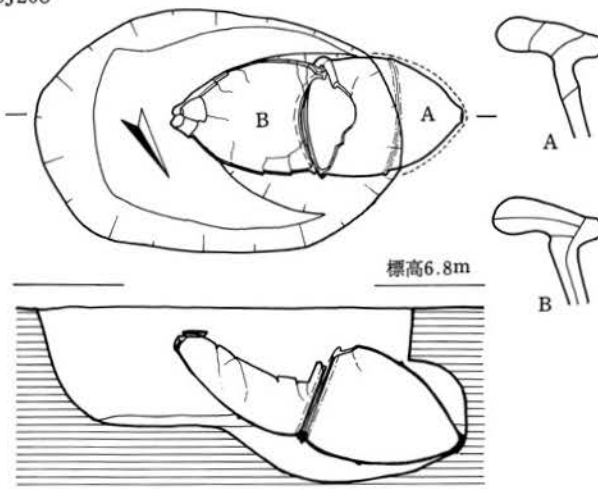
SJ207



SJ208 (Fig. 26/PL. 12-6)

E-4区画に検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。棺体の方位角120°, 埋置角+20°。墓壇底面の標高5.8m。粘土帯・粘土床はない。二重墓壇を有し、墓壇平面は2.0m×1.3mの卵形をなす。棺体A・Bとも胴部中位に一条の山形突帯を有する。

SJ208



SJ210 (Fig. 27/PL. 12-8)

D・E-4区画に検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。攪乱により墓壇の東側を破壊されている。棺体の方位角285°, 埋置角

Fig. 26 SJ206・207・208 (1/40・1/4)

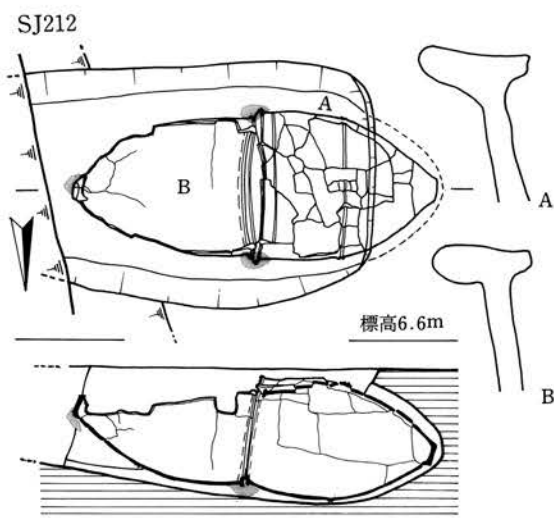
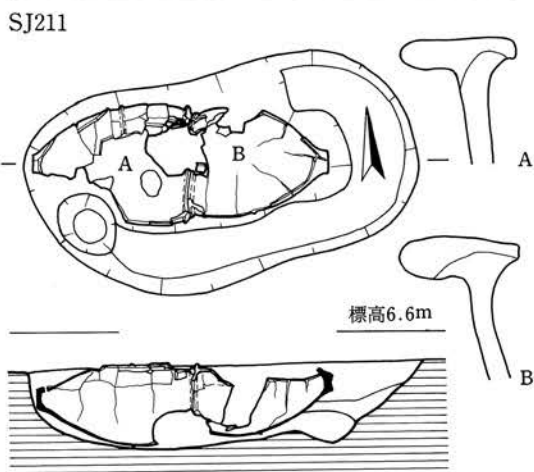
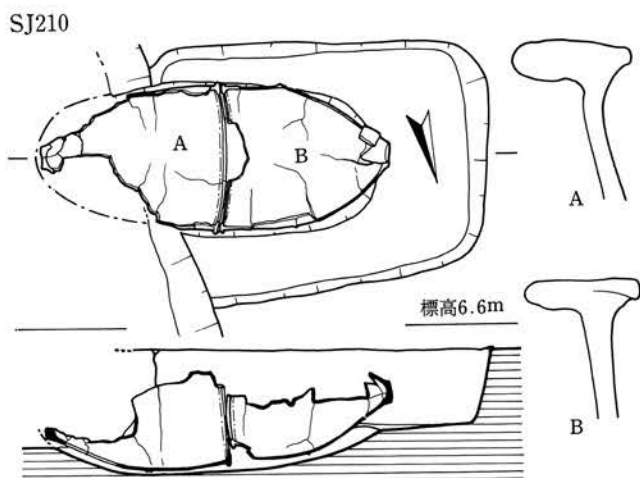


Fig. 27 SJ210・211・212 (1/40・1/4)

はほぼ水平。墓壇底面の標高5.9 m。粘土帯・粘土床はない。二重墓壇を有し、墓壇平面は1.9m以上×1.4mほどの隅丸長方形をなす。棺体Aは胴部中位に一条のM字形突帯を有し、Bは一条の山形突帯を有する。

SJ211 (Fig. 27/PL. 12-9)

D-3・4区画に検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はないが、上面から小穴に切り込まれている。棺体の方位角094°、埋置角+03°。墓壇底面の標高6.0m。粘土帯・粘土床はない。上面を削平されているが、本来の墓壇平面は1.8 m×1.1mの繭形をなすと考える。棺体と墓壇の主軸がややずれている。棺体A・Bとも胴部中位に一条の山形突帯を有する。

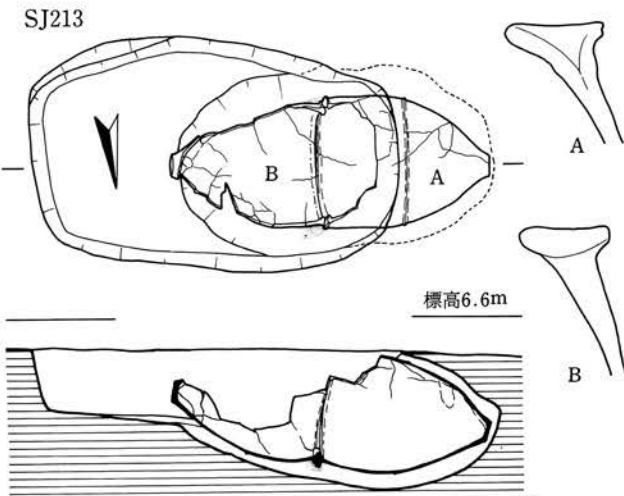
SJ212 (Fig. 27/PL. 12-10)

D-4区画に検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はないが、攪乱により墓壇の東側を破壊されている。棺体の方位角091°、埋置角+08°。墓壇底面の標高5.8m。粘土帯はあるが粘土床はなく、棺体Bの底部下半に粘土塊をあてている。墓壇は1.8m×1.2mの隅丸長方形をなす。棺体A・Bとも胴部中位に一条のM字形突帯を有する。

1. 土器棺墓

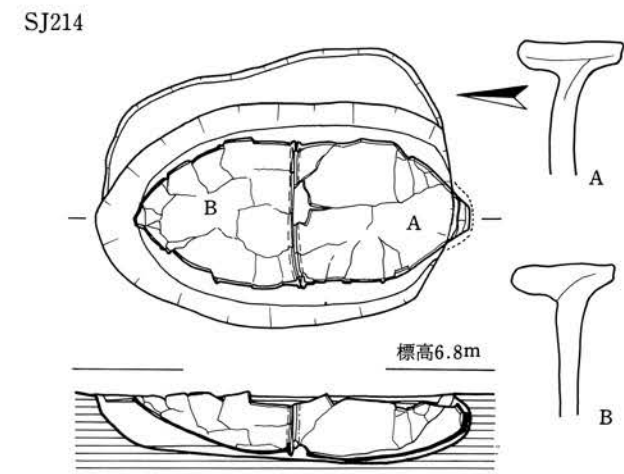
SJ213 (Fig. 28/PL. 13-1)

C・D-3・4区画に検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。棺体の方位角 096° 、埋置角 $+08^{\circ}$ 。墓壇底面の標高 5.7m 。粘土帯はあるが粘土床はない。二重墓壇を有し、墓壇平面は $2.0\text{m} \times 1.2\text{m}$ の隅丸長方形をなす。棺体A・Bとも胴部中位に一条の山形突帯を有する。



SJ214 (Fig. 28/PL. 13-2)

C-6区画に検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。棺体の方位角 358° 、埋置角はほぼ水平。墓壇底面の標高 6.3m 。粘土帯・粘土床はない。二重墓壇を有し、削平が激しいが本来の墓壇平面は $2.0\text{m} \times 1.8\text{m}$ ほどの隅丸長方形をなすものか。棺体Aは一条の山形突帯を有し、BはM字形突帯を有する。



SJ215 (Fig. 28)

D-6・7区画に検出した。SJ287・288と切り合い関係にあり、SJ215が後出する。棺体の方位角 136° 、埋置角はほぼ水平。墓壇底面の標高 6.4m 。粘土帯はあるが粘土床はない。上面を激しく削平されているが、本来の墓壇平面は 2.1m 以上 $\times 1.1\text{m}$ ほどの隅丸長方形か。棺体Aは胴部中位に一条のM字形突帯を有し、Bは一条の山形突帯を有する。

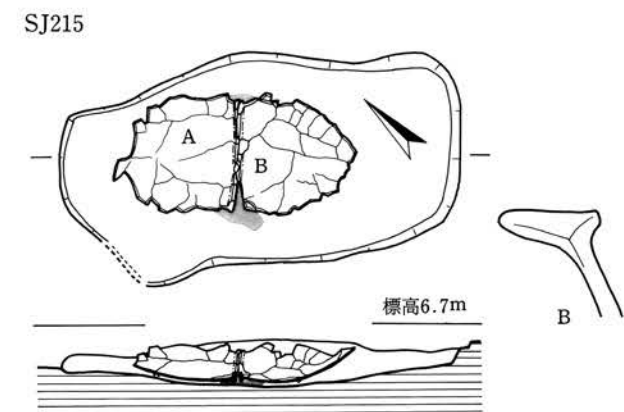
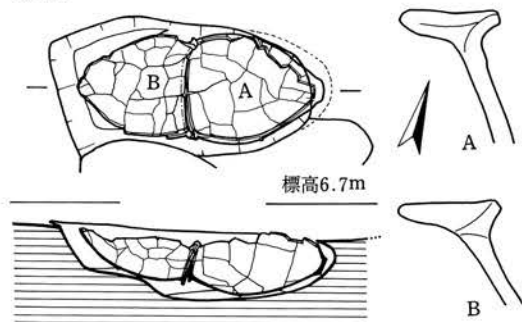
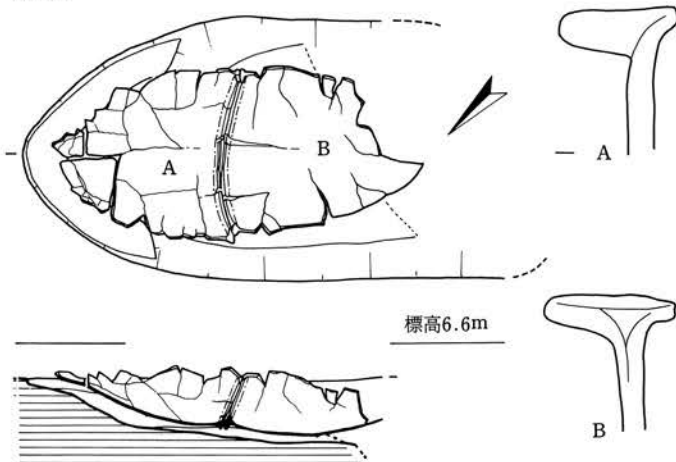


Fig. 28 SJ213・214・215 (1/40・1/4)

SJ217



SJ218



SJ220

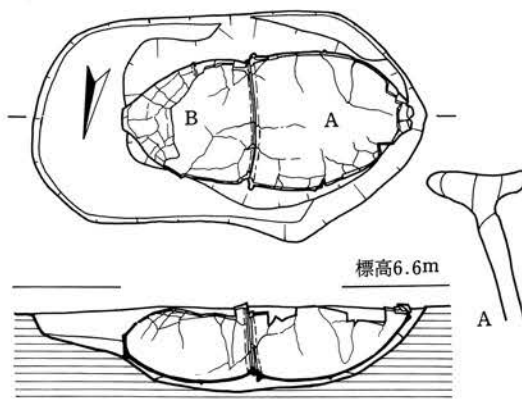


Fig. 29 SJ217・218・220 (1/40・1/4)

SJ217 (Fig. 29/PL. 13-4)

D-6区画に検出した。D-6区画に検出した。SJ237・238と切り合い関係にあり、SJ217が先行する。棺体の方位角 074° 、埋置角 $+20^{\circ}$ 。墓壇底面の標高6.2m。粘土帯・粘土床はない。二重墓壇を有し、上面を削平されているが墓壇平面は $1.5\text{m} \times 0.8\text{m}$ ほどの卵形をなすものか。棺体A・Bとも胸部中位に一条の山形突帯を有する。

SJ218 (Fig. 29/PL. 13-5)

F-8・9区画に検出した。SJ294と切り合い関係にあり、SJ218が後出する。棺体の方位角 224° 、埋置角 -12° 。墓壇底面の標高6.1m。粘土帯・粘土床はない。上面を激しく削平されているが、本来の墓壇平面は 2.7m 以上 $\times 1.4\text{m}$ の隅丸長方形と考える。棺体A・Bとも胸部中位に一条の山形突帯を有する。

SJ220 (Fig. 29/PL. 13-6)

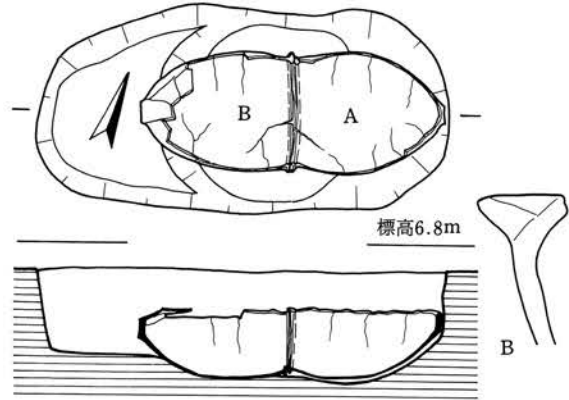
F-8区画に検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。棺体の方位角 078° 、埋置角 -07° 。墓壇底面の標高6.1m。粘土帯・粘土床はない。二重墓壇を有し、上面を削平されているが本来の墓壇平面は $1.9\text{m} \times 1.1\text{m}$ の隅丸長方形と考える。棺体A・Bとも胸部中位に一条の山形突帯を有する。

1. 土器棺墓

SJ170 (Fig. 30/PL. 9-9)

C-12・13区画に検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。棺体の方位角250°，埋置角はほぼ水平。墓壇底面の標高6.1m。粘土帯・粘土床はない。墓壇断面は二段掘りの形状をなし，墓壇平面は2.2m×1.1mのやや不整な隅丸長方形をなす。棺体Bは胴部上位と中位に3本単位の横沈線と，その間に4本単位で4方向以上に縦沈線が入る。

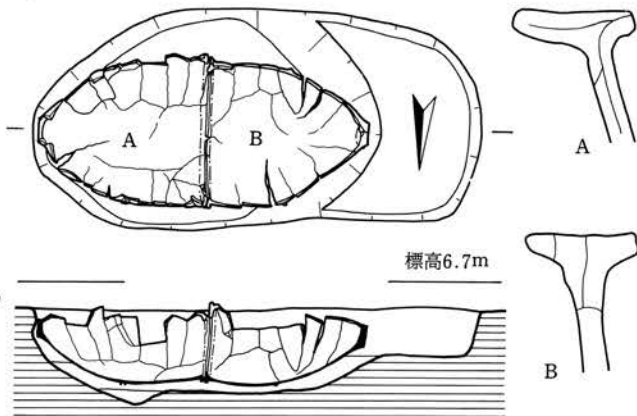
SJ170



SJ222 (Fig. 30)

F・G-7・8区画に検出した。SJ221と切り合い関係にあり，SJ222が後出する。棺体の方位角268°，埋置角-03°。墓壇底面の標高6.1m。粘土帯・粘土床はない。墓壇断面は二段掘りの形状をなし，上面を削平されているが墓壇平面は2.2m×1.2mの隅丸長方形をなすと考えられる。棺体Aは胴部中位に一条のM字形突帯を有し，Bは一条の山形突帯を有する。

SJ222



SJ224

SJ224 (Fig. 30/PL. 13-8)
C-4・5区画に検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はないが，墓壇の北側を攪乱で破壊されている。棺体の方位角098°，埋置角はほぼ水平。墓壇底面の標高6.1m。粘土帯はあるが粘土床はない。墓壇平面は2.0m×1.1mほどの隅丸長方形をなす。棺体A・Bとも

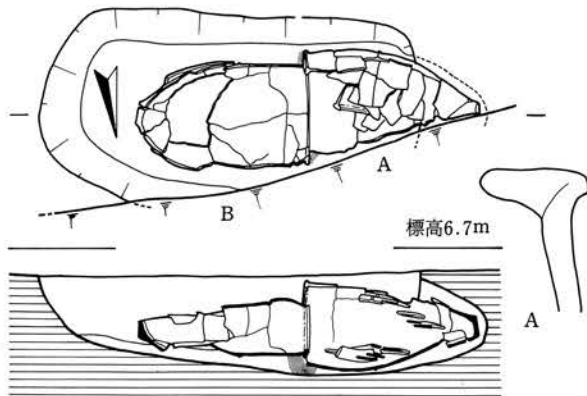


Fig. 30 SJ170・222・224 (1/40・1/4)

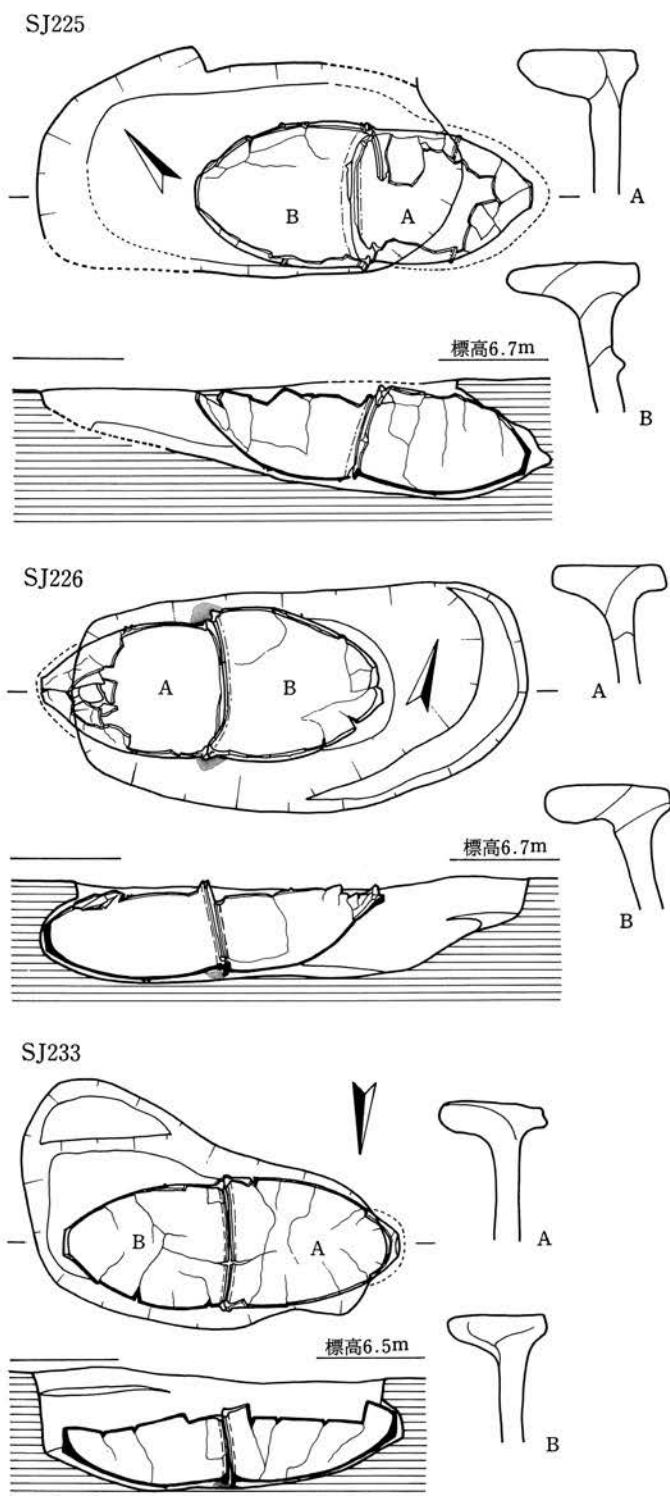


Fig. 31 SJ225・226・233 (1/40・1/4)

胴部中位に一条の山形突帯を有する。

SJ225 (Fig. 31)

D・E-6・7区画に検出した。SJ215・234・292と切り合い関係にあり、SJ234・292に先行し、SJ215に後出する。棺体の方位角 310° 、埋置角 $+15^\circ$ 。墓壙底面の標高6.0m。粘土帯・粘土床はない。墓壙平面は2.2m×1.1mの隅丸長方形をなす。棺体Aは胴部中位に一条の山形突帯を有し、Bは一条のM字形突帯を有する。

SJ226 (Fig. 31)

E-6区画に検出した。SJ241と切り合い関係にあり、SJ226が後出する。棺体の方位角 073° 、埋置角 $+10^\circ$ 。墓壙底面の標高6.1m。粘土帯はあるが粘土床はない。墓壙断面は二段掘りの形状をなし、墓壙平面は2.4m×1.1mの隅丸長方形をなす。棺体Aは胴部中位に一条のM字形突帯を有し、Bは一条の山形突帯を有する。

SJ233 (Fig. 31/PL. 14-3)

F・G-9区画に検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。棺体の方位角 086° 、埋置角 -03° 。墓壙底面の標高5.8m。粘土帯はあるが粘土床はない。墓壙平面は本来1.9m×1.0mの

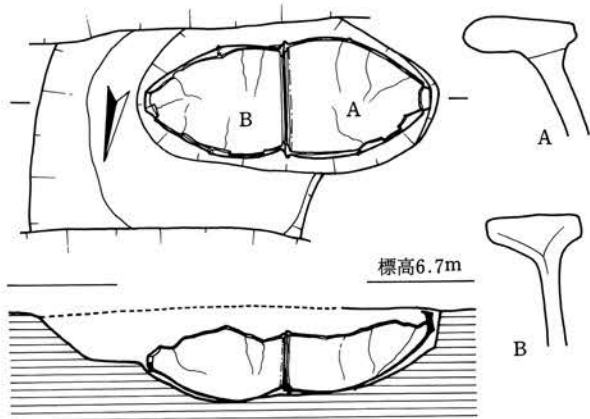
1. 土器棺墓

隅丸長方形をなし、棺体と墓壇の主軸がややずれる。棺体A・Bとも胴部中位に一条の山形突帯を有する。

SJ241 (Fig. 32)

E-6区画に検出した。SJ226・229・239との切り合い関係にあり、SJ226・239に先行し、SJ229に後出する。棺体の方位角 072° 、埋置角 -08° 。墓壇底面の標高6.1m。粘土帯・粘土床はない。墓壇断面は二段掘りの形状をなし、本来の墓壇平面は $1.7\text{m} \times 1.1\text{m}$ 以上の隅丸長方形をなすものか。棺体A・Bとも胴部中位に一条の山形突帯を有する。

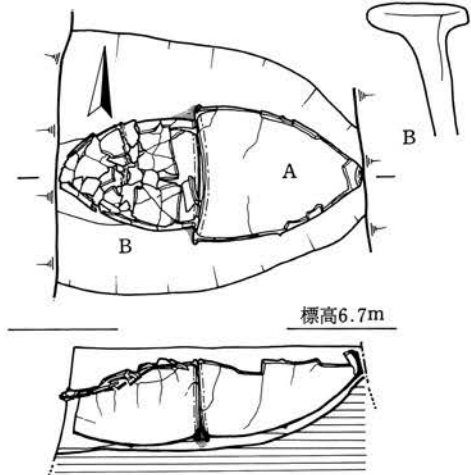
SJ241



SJ243 (Fig. 32/PL. 14-6)

E-5区画に検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はないが、墓壇の両側を攪乱で破壊されている。棺体の方位角 267° 、埋置角 -04° 。墓壇底面の標高6.1m。粘土帯・粘土床はない。墓壇の形態は不明。棺体A・Bとも胴部中位に山形突帯を有する。

SJ243



SJ244 (Fig. 32/PL. 14-7)

E-4・5区画に検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はないが、攪乱により墓壇東側を破壊されている。棺体の方位角 093° 、埋置角はほぼ水平。墓壇底面の標高6.2m。粘土帯・粘土床はない。二重墓壇を有し、本来の墓壇平面は $2.0\text{m} \times 1.4\text{m}$ ほどの隅丸長方形か。棺体Bは胴部中位に一条の山形突帯を有する。

SJ244

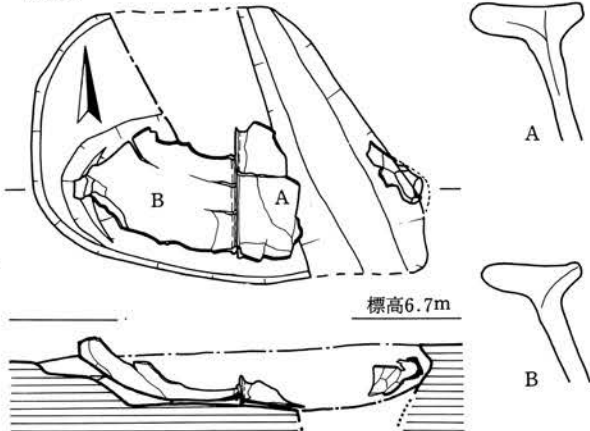
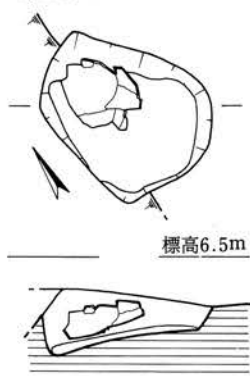
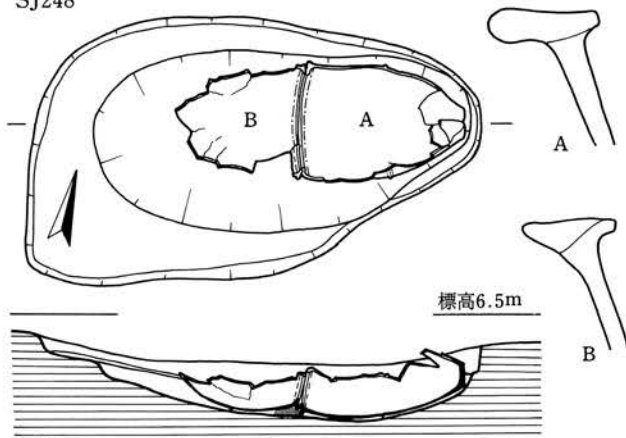


Fig. 32 SJ241・243・244 (1/40・1/4)

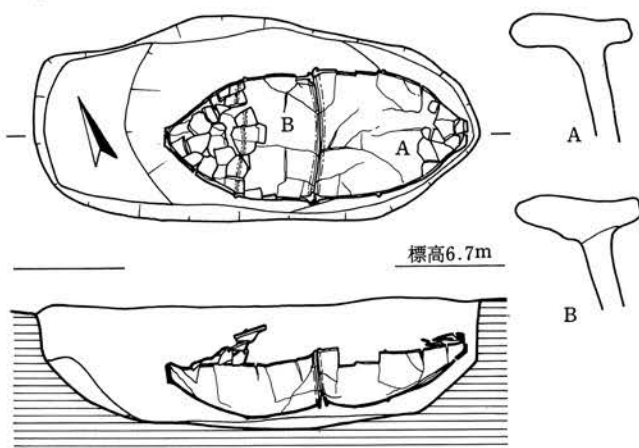
SJ247



SJ248



SJ252



SJ247 (Fig. 33)

E・F-5区画で検出した。他の土器棺墓とは切り合い関係はない。攪乱により棺体・墓壇の大部分が破壊されている。棺体の方位角・埋置角は不明。墓壇底面の標高6.1m。粘土床はなく、粘土帯は不明。墓壇の形態も不明で、単棺である可能性はあるがわからない。棺体は胴部に二条の山形突帯を有する。

SJ248 (Fig. 33/PL. 14-9)

F-5・6区画で検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。棺体の方位角255°、埋置角+03°。墓壇底面の標高6.0m。粘土帯はあるが粘土床はない。二重墓壇を有し、上面の削平が激しいが本来の墓壇平面は1.8m×1.5mほどの隅丸長方形をなすと思われる。棺体A・Bとも胴部中位に一条の山形突帯を有する。

SJ252 (Fig. 33/PL. 15-2)

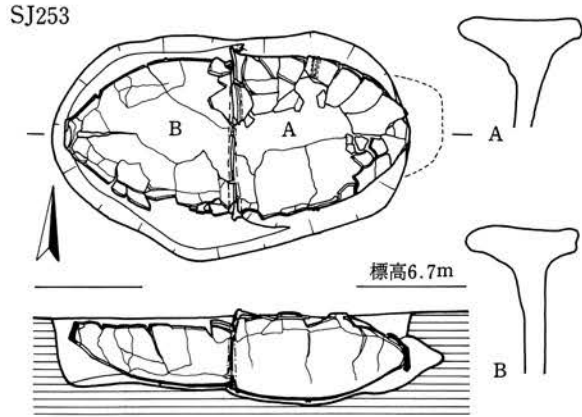
F-7区画で検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。棺体の方位角293°、埋置角-05°。墓壇底面の標高5.9m。粘土帯・粘土床はない。削平を受けているが本来の墓壇平面は2.1m×1.1mほどの隅丸長方形をなすと考えられる。棺体A・Bとも胴部中位に一条の山形突帯を有する。

Fig. 33 SJ247・248・252 (1/40・1/4)

1. 土器棺墓

SJ253 (Fig. 34/PL. 15-3)

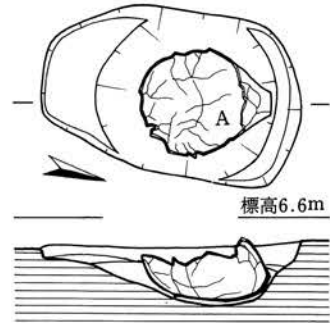
F・G-8区画に検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。棺体の方位角268°, 埋置角+05°。墓壇底面の標高6.1m。粘土帯・粘土床はない。墓壇平面は1.8m×1.2mの不整な卵形をなす。棺体Aは胴部中位に一条のM字形突帯を有し、Bは一条の山形突帯を有する。



SJ259 (Fig. 34)

H-8区画で検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。墓壇・棺体とも激しく削平されている。棺体の方位角163°, 埋置角+29°。墓壇底面の標高6.2m。粘土床はなく、粘土帯は不明。墓壇断面は二段掘りの形状をなし、墓壇平面は1.4m以上×1.0mほどの隅丸長方形か。単棺墓である可能性はないと考える。棺体は胴部中位に一条の鋸状突帯を有する。

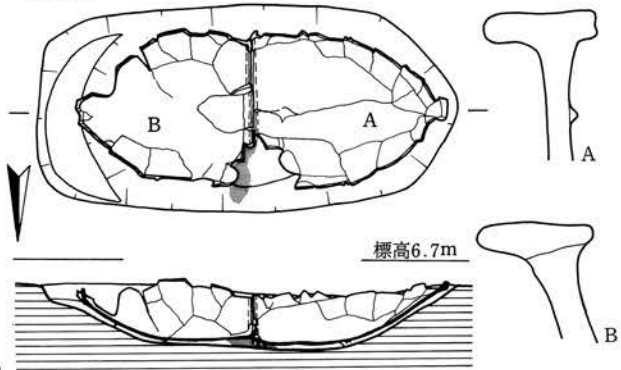
SJ259



SJ268 (Fig. 34/PL. 15-10)

I-6区画で検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。棺体の方位角088°, 埋置角はほぼ水平。墓壇底面の標高6.3m。粘土帯はあるが粘土床はない。墓壇断面は二段掘りの形状をなし、上面をかなり削平されているが本来の墓壇平面は2.0m×1.1mほどの隅丸長方形をなすと考える。棺体Aは胴部上位に一条の山形突帯を中位にM字形突帯を有し、棺体Bは胴部中位に一条の山形突帯を有する。

SJ268



SJ271

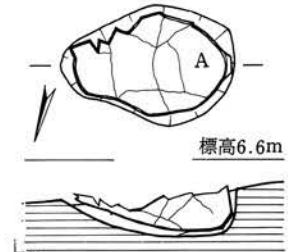


Fig. 34 SJ253・259・268・271 (1/40・1/4)

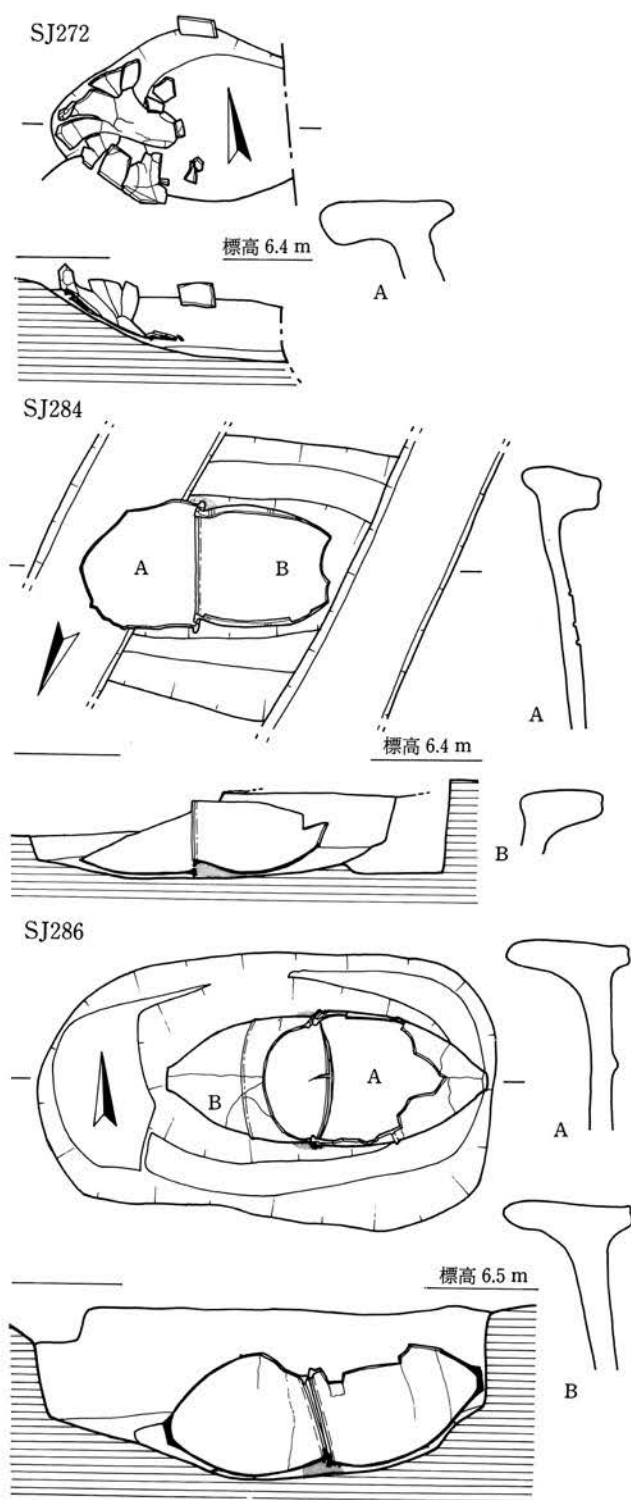


Fig. 35 SJ272・284・286 (1/40・1/4)

SJ271 (Fig. 34)

I-9区画で検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。削平により棺体と墓壇の大部分を破壊されている。棺体の方位角 074° 、埋置角 $+31^\circ$ 。墓壇底面の標高 6.2 m 。粘土床はなく、粘土帯は不明。墓壇の形態もわからない。棺体は胴部中位に一条の鏢状突帯を有する。

SJ272 (Fig. 35)

I-9区画で検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。削平と室町時代の堀で墓壇と棺体のかなりの部分を破壊されている。棺体の方位角 100° 、埋置角は不明。墓壇底面の標高 5.9 m 。粘土床はないが、粘土帯は不明。墓壇の形態も不明。棺体は胴部中位に一条の山形突帯を有する。

SJ284 (Fig. 35)

E-10区画で検出した。墓壇の両側を攪乱で破壊されている。棺体の方位角 247° 、埋置角はほぼ水平。墓壇底面の標高 5.8 m 。粘土帯はあるが粘土床はない。墓壇の形態は不明。棺体Aは沈線・突帯はなく、Bは胴部上位と中位に3本単位の横沈線を有する。

SJ286 (Fig. 35/PL.16-8)

F・G-5・6区画に検出した。SJ249と切り合い関係にあり、SJ286が先行する。棺体の方位角

1. 土器棺墓

272°, 埋置角-11°。墓壇底面の標高5.5 m。粘土帯はあるが、粘土床はない。二重墓壇を有し、墓壇平面は2.4m×1.5mの隅丸長方形をなす。棺体Aは胴部上位に一条の山形突帯を有し、Bは中位に一条の山形突帯を有する。

SJ287 (Fig. 36)

D-6区画で検出した。SJ215・237・238・288と切り合い関係にあり、SJ215・237・238に先行し、SJ288に後出する。棺体の方位角264°, 埋置角+33°。墓壇底面の標高5.8m。粘土帯はあるが、粘土床はない。二重墓壇を有し、墓壇平面は1.8m×1.1mほどのやや不整な隅丸長方形をなす。棺体A・Bとも胴部中位に一条の山形突帯を有する。

SJ288 (Fig. 36)

D-6区画で検出した。SJ215・287と切り合い関係にあり、SJ215に先行し、SJ287に後出する。棺体の方位角101°, 埋置角-07°。墓壇底面の標高5.8 m。粘土帯はあるが粘土床はない。二重墓壇を有し、墓壇平面は1.7m×1.1 mの不整な隅丸長方形をなす。棺体A・Bとも胴部中位に一条の山形突帯を有する。

SJ291 (Fig. 36/PL.16-10)

C-5・6区画に検出した。他の土器棺との切り合い関係はないが、棺体と墓壇の西側を攪乱されている。棺体の方位角250°, 埋置角+05°。墓壇底面の標高6.0m。粘土帯はあるが粘土床はない。攪乱が激しいが本来の墓壇平面は

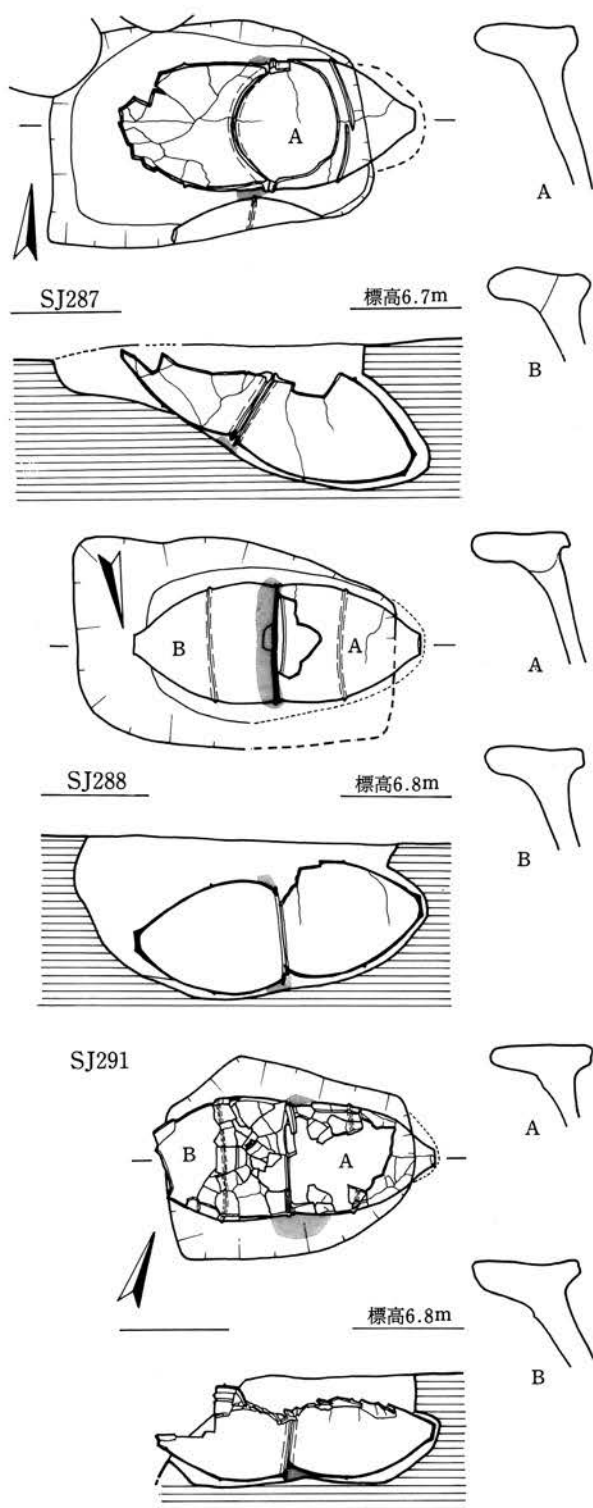


Fig. 36 SJ287・288・291 (1/40・1/4)

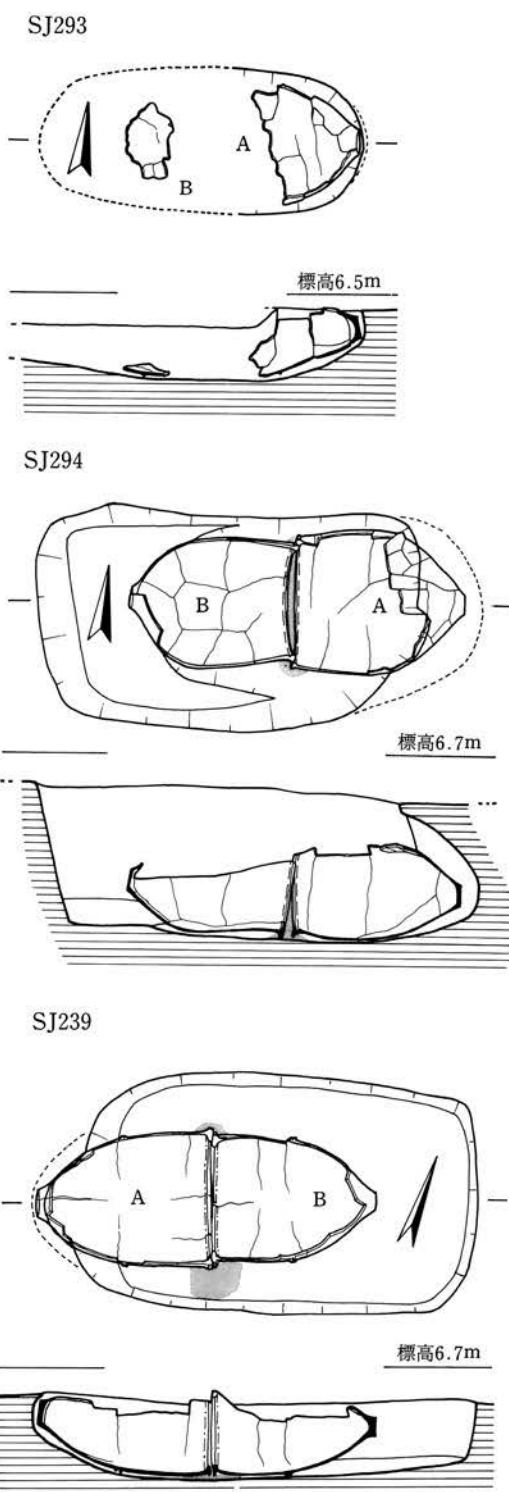


Fig. 37 SJ293・294・239 (1/40・1/4)

1.6m以上×1.1mの不整な隅丸長方形をなすものか。棺体A・Bとも胴部中位に一条の山形突帯を有する。

SJ293 (Fig. 37)

E・F-5区画で検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はないが、攪乱で棺体と墓壇の大部分を破壊されている。棺体の方位角263°,埋置角は不明。墓壇底面の標高6.1m。粘土帯・粘土床は不明。墓壇の形状は不明。棺体A・Bとも胴部中位に一条の山形突帯を有する。

SJ294 (Fig. 37)

F・G-8・9区画で検出した。SJ218・219と切り合い関係にあり、SJ294が先行する。棺体の方位角263°,埋置角はほぼ水平。墓壇底面の標高5.7m。粘土帯はあるが粘土床はない。浅い二重墓壇を有し、墓壇平面1.9m×1.2mの隅丸長方形をなす。棺体Aは口縁外端に刻み目、胴部上位に3本単位の横沈線、4本単位の縦沈線が3方向以上に入る。Bは胴部上位に1本単位の横沈線、4本単位の縦沈線が3方向以上に入る。

SJ239 (Fig. 37)

D・E-6区画で検出した。SJ240・241・292と切り合い関係にあり、SJ240・292に先行し、SJ241に後出する。棺体の方位角070°,埋

1. 土器棺墓

置角はほぼ水平。墓壙平面の標高6.1m。粘土帯はあるが粘土床はない。上面は削平を受けているが、本来の墓壙平面2.1m×1.3mの隅丸長方形をなす。棺体A・Bとも胴部中位に一条のM字形突帯を有する。

(3) 大形三連棺墓

10基を検出した。どれも大形の埋葬専用土器2個と1個の甕形土器による組合せで、二連棺で蓋にあたる棺体Bの底部を打ち欠き甕形土器（棺体C）の口縁をつないでいる。見かけの上の分布状況では特別なまとまりはない。

SJ122 (Fig. 38/PL. 4-10)

H-15区画で検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。棺体の方位角064°、埋置角-03°。墓壙底面の標高5.9m。粘土帯・粘土床はない。上面をかなり削平されているが、本来の墓壙平面は2.1m×1.0mほどの隅丸長方形をなすと思われる。棺体A・Bは口縁外端に刻み目があり、胴部上位と中位に3本単位（A）と4本単位（B）の横沈線を有し、横沈線の上に

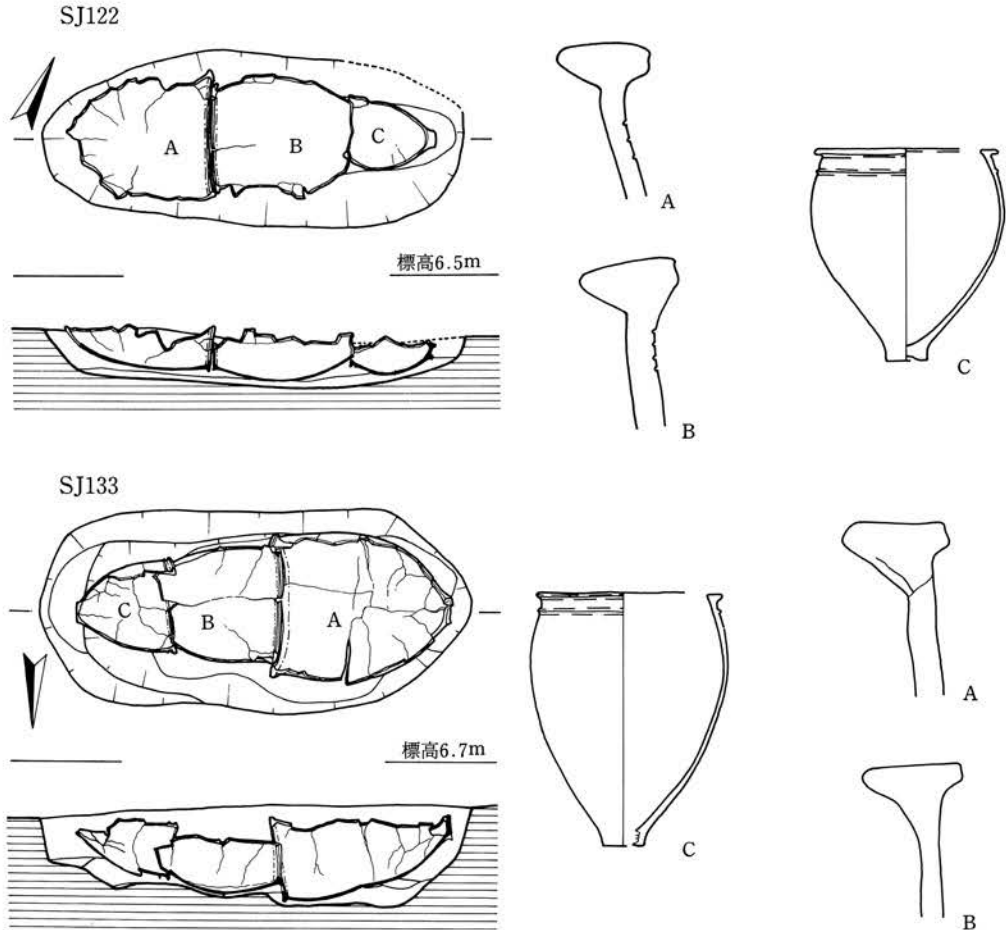


Fig. 38 SJ122・133 (1/40・1/16・1/4)

本単位の縦沈線が4方向以上に入る。棺体Cの底部は上げ底状で厚く胴部上位に一条の山形突帯を有する。

SJ133 (Fig. 38/PL. 6-2)

J-12区画で検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。棺体の方位角088°, 埋置角はほぼ水平。墓壇底面の標高6.0m。粘土帯・粘土床はない。墓壇断面は浅い三段掘りの形状をなし、上面に削平を受けているが本来の墓壇平面は2.0m×1.1mの隅丸長方形をなすとする。棺体A・Bは胴部中位に一条の山形突帯を有し、Cは胴部上位に一条の山形突帯を有する。

SJ150 (Fig. 39/PL. 7-8)

B・C-16区画で検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。棺体の方位角277°, 埋置角はほぼ水平。墓壇底面の標高6.1m。棺体A・Bの接口部に粘土帯はあるが、粘土床はない。墓壇断面は二段掘りの形状をなし、墓壇平面は2.1m×1.1mの隅丸長方形をなす。棺体Aは口縁外端に刻み目、胴部上位に4本単位の横沈線を有し、Bは沈線も突帯もない。Cは胴部上位に一条の山形突帯を有し、底部は厚く上げ底状をなす。

SJ166 (Fig. 39/PL. 9-5)

C-13区画で検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。棺体の方位角079°, 埋置角-04°。墓壇底面の標高6.2m。粘土帯・粘土床はない。上面を激しく削平されているが、本来の墓壇平面は1.7m×1.0mほどの隅丸長方形をなすものか。棺体A・Bは胴部中位に一条の山形突帯を有し、Cは胴部上位に一条の山形突帯を有する。

SJ169 (Fig. 39/PL. 9-8)

D-13区画で検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。棺体の方位角065°, 埋置角はほぼ水平。棺体A・Bの接口部とB・Cの接合部に粘土帯はあるが、粘土床はない。上面をかなり削平されているが、本来の墓壇平面は2.8m×1.4ほどの隅丸長方形をなすとする。棺体A・Bは胴部中位に一条の山形突帯を有し、Cは胴部上位に一条の山形突帯を有する。

SJ179 (Fig. 40)

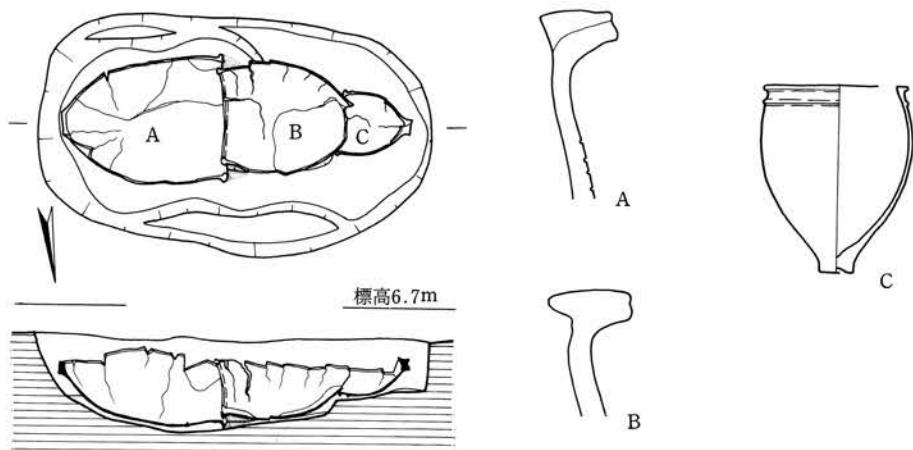
D・E-11区画で検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。棺体の方位角272°, 埋置角はほぼ水平。墓壇底面の標高6.1m。棺体A・Bの接口部とB・Cの接合部に粘土帯はあるが、粘土床はない。浅い二重墓壇を有し、本来の墓壇平面は2.0m×1.0mの隅丸長方形をなす。棺体A・Bは胴部中位に一条の山形突帯を有し、Cは胴部上位に一条の山形突帯を有し底部は厚く上げ底状をなす。

SJ203 (Fig. 40/12-1)

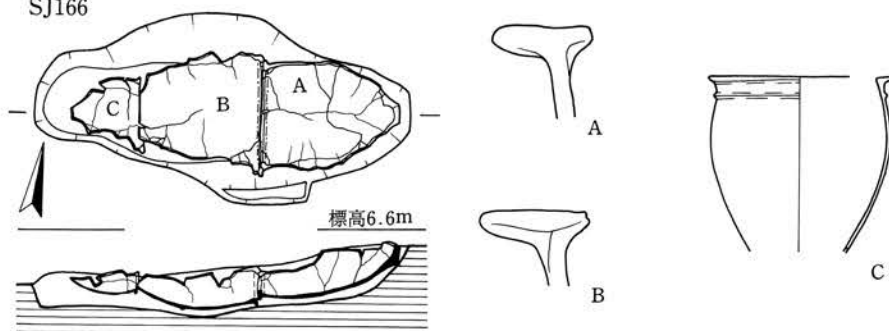
F-13区画で検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。棺体の方位角070°, 埋置角-03°。墓壇底面の標高5.7m。棺体A・Bの接口部とB・Cの接合部に粘土帯はあるが、粘土床はない。墓壇平面は2.7m×1.4mの隅丸長方形をなす。棺体A・Bは口縁内端一部を打ち欠き胴

1. 土器棺墓

SJ150



SJ166



SJ169

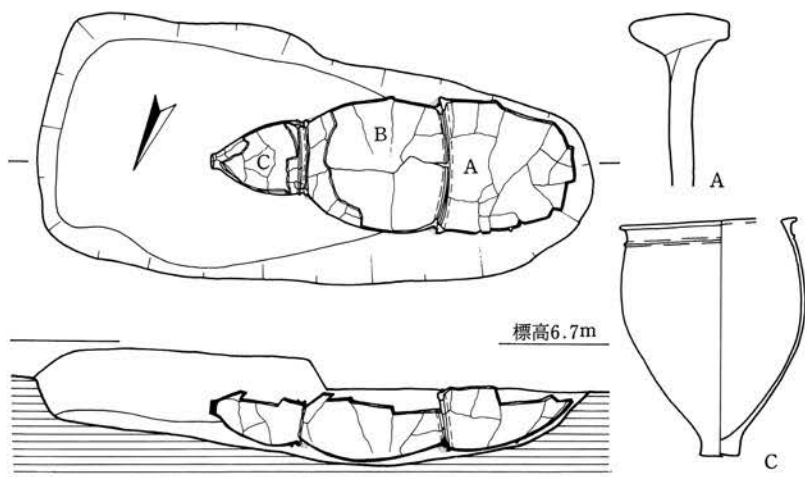


Fig. 39 SJ150·166·169 (1/40·1/16·1/4)

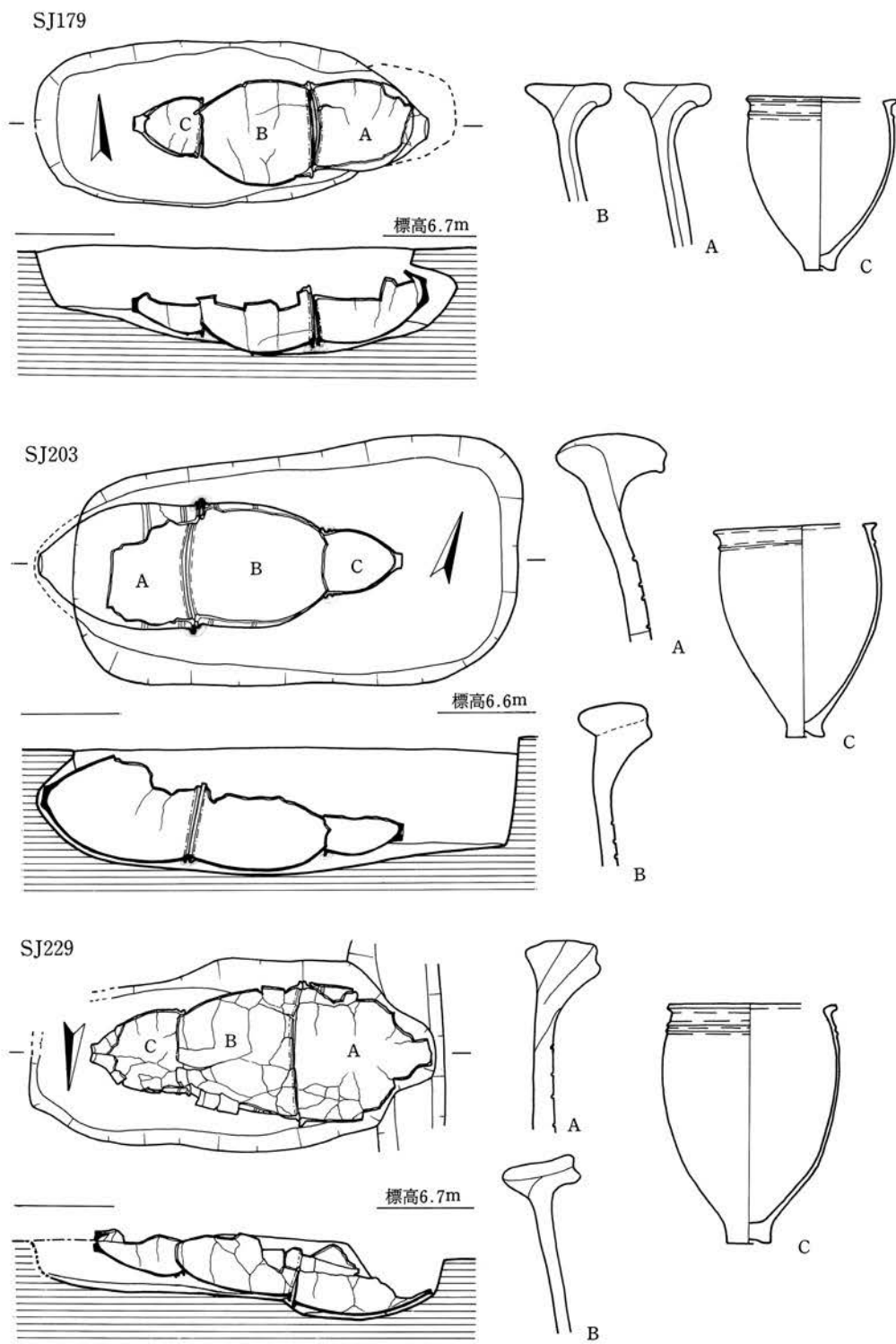


Fig. 40 SJ179・203・229 (1/40・1/16・1/4)

1. 土器棺墓

部上位と中位に3本単位の横沈線を有し、Cは胴部上位に一条の山形突帯を有し底部は厚く上げ底状をなす。

SJ229 (Fig. 40)

E-5・6区画で検出した。SJ241と切り合い関係にあり、SJ229が先行する。棺体の方位角085°、埋置角+07°。墓壇底面の標高6.1m。粘土帯・粘土床はない。浅い二重墓壇を有し、本来の墓壇平面は2.3m×1.2mほどの隅丸長方形をなすと考える。棺体Aは口縁外端に刻み目があり、胴部中位に4本単位の横沈線、中位に3本単位の横沈線を有し、Bは胴部上位と中位に3本単位の横沈線、Cは胴部上位に一条のM字形突帯を有し、底部は厚く上げ底状をなす。

SJ283 (Fig. 41/PL.16-7)

D・E-7・8区画で検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。棺体の方位角076°、埋置角-04°。墓壇底面の標高5.7m。棺体A・Bの接口部とB・Cの接合部に粘土帯はあるが、粘土床はない。墓壇平面は3.3m×1.6mの隅丸長方形をなす。棺体A・B・Cは口縁外端に刻み目を有し、Aは胴部上位と中位に3本単位の横沈線、Bは胴部上位と中位に4本単位の横沈線、Cは胴部上位に一条の山形突帯を有し底部は厚く上げ底状をなす。

(4) 小形単棺墓

大形の埋葬専用土器を用いていない単棺墓で確実なものは5基と思われる。見かけの上では分布にまとまりはなく、棺体には日常容器にも用いられる甕・壺・鉢形土器と小形の埋葬専用土器と思われるものがある。確たる根拠はないが木蓋を用いたものとする。

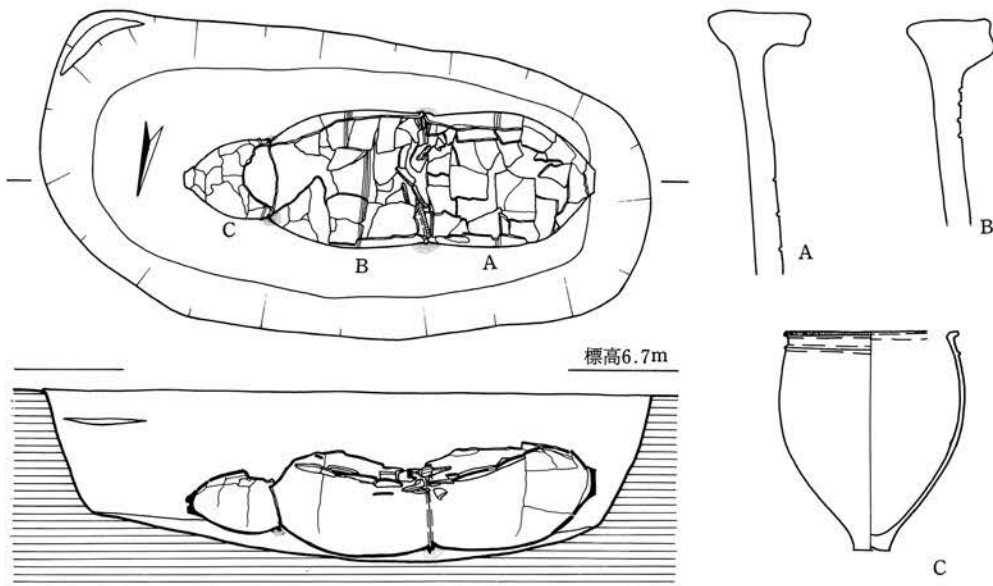
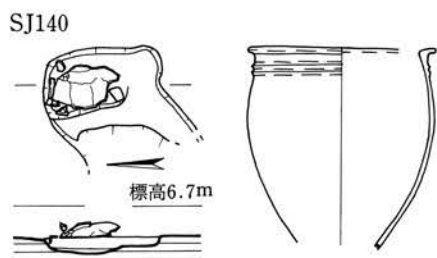


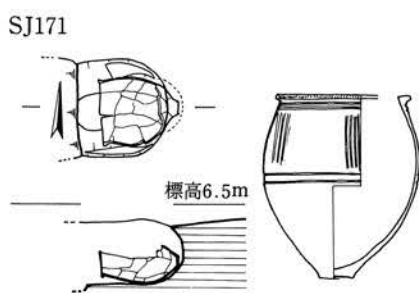
Fig. 41 SJ283 (1/40・1/16・1/4)

SJ140 (Fig. 42/PL. 6-8)



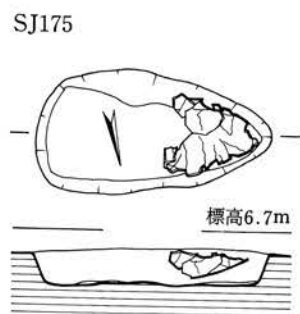
F-13区画で検出した。他の土器棺墓との切り合いはない。棺体の方位角002°, 埋置角はほぼ水平。墓壇底面の標高は6.5m。粘土帯・粘土床はない。削平が激しく墓壇の形態は不明。棺体は胴部上位に一条のM字形突帯を有する。

SJ171 (Fig. 42)



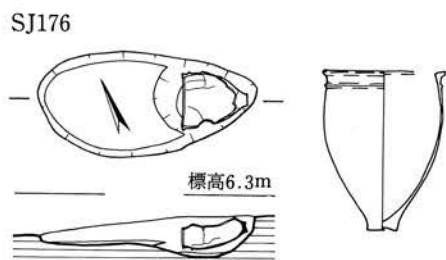
D-12区画で検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はないが、墓壇の西端を攪乱されている。棺体の方位角267°, 埋置角はほぼ水平。墓壇底面の標高6.1m。粘土帯・粘土床はない。墓壇平面は0.6m以上×0.5mの隅丸方形をなすと考える。棺体は口縁外端に刻み目があり、胴部上位と中位に2本単位の横沈線を有し、横沈線の間には4本単位4方向の縦沈線が入る。金海系の大形埋葬専用土器をまねた小形埋葬専用土器と考えられる。全形がわかる資料はないが、胴部上位に横沈線があるものは鍋島本村南遺跡〔木島1991〕で出土している。

SJ175 (Fig. 42/PL. 9-10)



E・F-11区画で検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。棺体の方位角102°, 埋置角はほぼ水平。墓壇底面の標高6.5m。粘土帯・粘土床はない。上面を削平されているが本来の墓壇平面は1.0m×0.7mほどの隅丸長方形をなすと考える。棺体の特徴はわからない。

SJ176 (Fig. 42/PL. 10-1)



F-11区画で検出した。SJ177と切り合い関係にあり、SJ176が後出する。棺体の方位角295°, 埋置角はほぼ水平。墓壇底面の標高6.0m。粘土帯・粘土床はない。墓壇断面は浅い二重墓壇を有し、上面をかなり削平されているが本来の墓壇平面は1.1m×0.6mほどの長い卵形をなすと考える。棺体は胴部上位に一条の山形突帯を有し、底部はやや厚く凹レンズ状

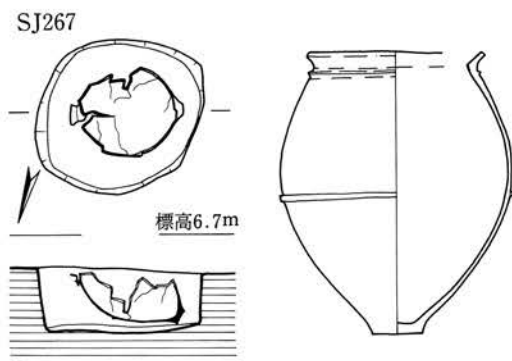
Fig. 42 SJ140・171・175・176 (1/40・1/16)

1. 土器棺墓

をなす。

SJ267 (Fig. 43)

H-5区画で検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。棺体の方位角 074° ，埋置角 $+30^{\circ}$ 。墓壇底面の標高6.2m。粘土帯・粘土床はない。墓壇平面は $0.8\text{m} \times 0.8\text{m}$ のやや不整な隅丸方形をなす。棺体は胴部上位に一条の山形突帯を，中位に一条の鐙状突帯を有する。小形の埋葬専用土器である。

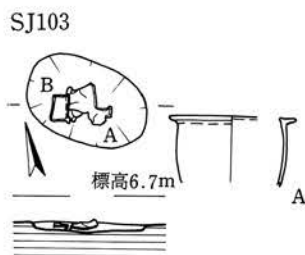


(5) 小形二連棺墓

71基を小形二連棺墓に分類した。大形棺墓と同様，見かけの上の分布状況では特別なまとまりは認められない。

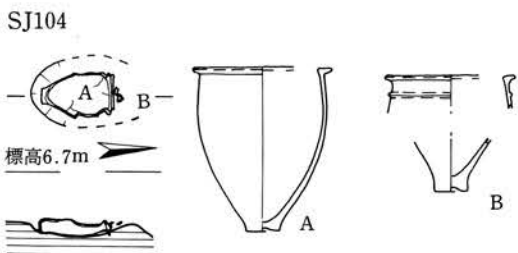
SJ103 (Fig. 43/PL. 3-2)

J-12区画で検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はないが，削平で墓壇と棺体の大部分を破壊されている。棺体の方位角 286° ，埋置角はほぼ水平。墓壇底面の標高6.5m。粘土帯・粘土床はない。削平により墓壇の形状は不明。



SJ104 (Fig. 43/PL. 3-3)

J-13区画で検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はないが，削平により墓壇と棺体Bの大部分が破壊されている。棺体の方位角 004° ，埋置角はほぼ水平。墓壇底面の標高6.4m。粘土帯・粘土床はない。削平により墓壇の形状は不明。棺体Aの底部は凹レンズ状をなし，Bは胴部上位に一条の山形突帯を有し，底部は上げ底状をなす。



SJ105 (Fig. 43/PL. 3-4)

I-12区画で検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。棺体の方位角 285° ，埋置角はほぼ水平。墓壇底面の標高6.4m。粘土帯・

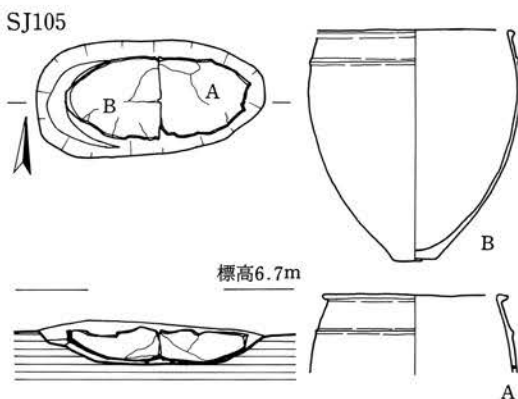


Fig. 43 SJ267・103・104・105 (1/40・1/16)

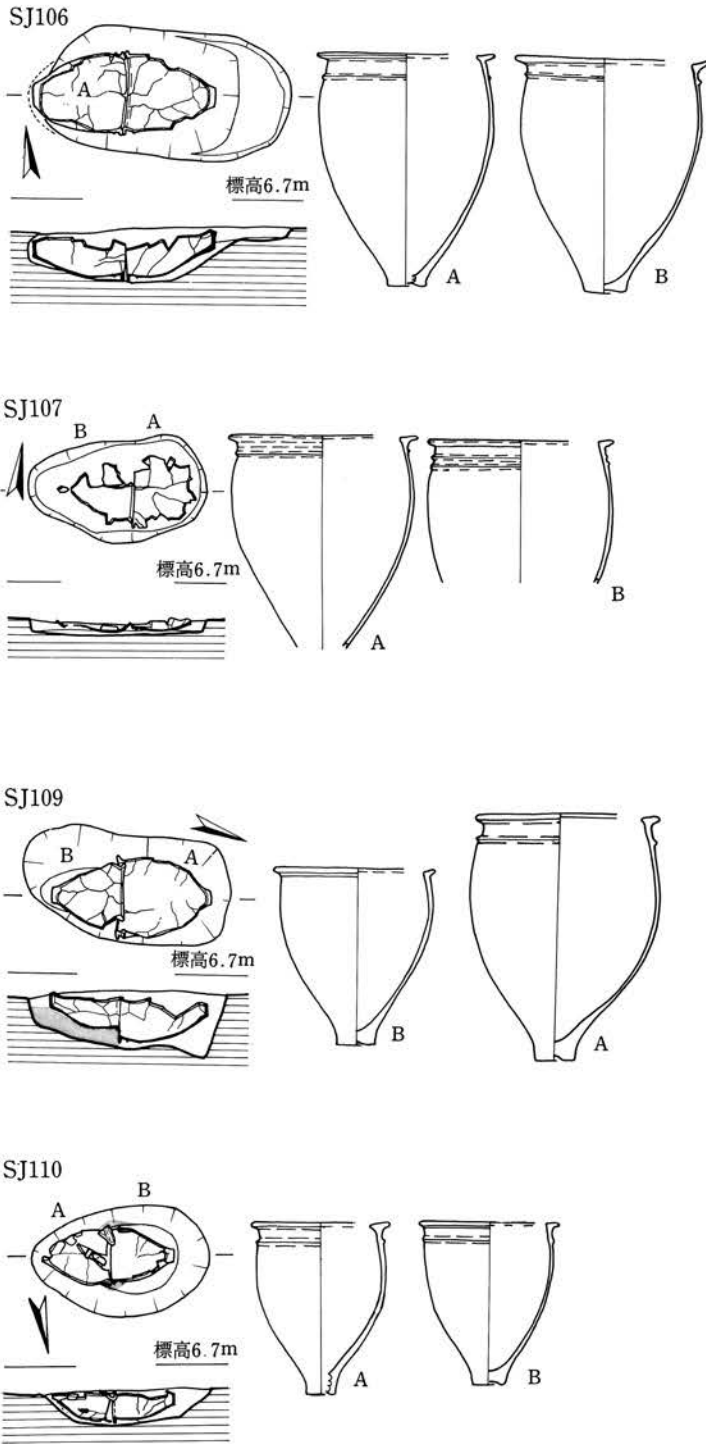


Fig. 44 SJ106・107・109・110 (1/40・1/16)

粘土床はない。二重墓壇を有し、上面をかなり削平されているが本来の墓壇平面は1.1m×0.6mの隅丸長方形をなすと考える。棺体は胴部上位に一条の山形突帯を有し、Bは口縁外端を打ち欠き平底である。

SJ106 (Fig. 44/PL. 3-5)

J-12区画で検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。棺体の方位角096°、埋置角-03°。墓壇底面の標高6.3m。粘土帯・粘土床はない。墓壇断面は二段掘りの形状をなし、墓壇平面は1.3m×0.7mの隅丸長方形をなし、棺体主軸と墓壇主軸がややずれる。棺体は胴部上位に一条の山形突帯を有し、底部は凹レンズ状をなす。

SJ107 (Fig. 44/PL. 3-6)

I-11・12区画で検出した。SJ119と切り合い関係にあり、SJ107が後出する。棺体の方位角263°、埋置角はほぼ水平。墓壇底面の標高6.5m。粘土帯・粘土床はない。上面を激しく削平されているが、本来の墓壇平面は1.0m以上×0.6mほどの隅丸長方形か。棺体Aは胴部上

1. 土器棺墓

位に一条の山形突帯，Bは二条の山形突帯を有する。

SJ109 (Fig.44/PL. 3-8)

G-12・13区画で検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。棺体の方位角161°，埋置角+03°。墓壇底面の標高6.3m。粘土帯と棺体Bに粘土床を有する。墓壇平面は1.1m×0.6mの不整な隅丸長方形をなし，棺体主軸と墓壇主軸がややずれている。棺体A・Bとも底部は上げ底状で，Aは胴部上位に一条の山形突帯を有する。

SJ110 (Fig.44/PL. 3-9)

F-12・13区画で検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。棺体の方位角280°，埋置角はほぼ水平。墓壇底面の標高6.4m。粘土帯はあるが，粘土床はない。上面をかなり削平されているが，本来の墓壇平面は0.8m×0.6mの卵形をなすと考える。棺体A・Bとも胴部上位に一条の山形突帯を有し，底部は上げ底状をなす。

SJ111 (Fig.45/PL. 3-10)

F-13区画で検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はないが，墓壇の東端を攪乱されている。棺体の方位角186°，埋置角はほぼ水平。墓壇底面の標高6.4m。粘土帯・粘土床はない。上面に削平を受けているが，本来の墓壇平面は0.9m×0.8mの卵形をなすと考える。棺体Aは胴部中位に山形突帯を有し底部はほぼ平底，Bは鉢で胴部上位に山形突帯を有する。

SJ113 (Fig.45/PL. 4-1)

G-13区画で検出した。SJ102と切り合い関係にあり，SJ113が後出する。棺体の方位角069°，埋置角+03°。墓壇底面の標高6.5m。粘土帯・粘土床はない。上面の削平が激しく墓壇の形状は不明。棺体Aは胴部上位に一条の山形突帯を有する。

SJ114 (Fig.45/PL. 4-2)

F・G-12区画で検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。棺体の方位角071°，埋置角+11°。墓壇底面の標高6.2m。粘土帯・粘土床はない。二重墓壇を有し，墓壇断面は二段掘りの形状をなす。墓壇平面は1.2m×0.8mのやや不整な隅丸長方形をなし，墓壇主軸と棺体主軸がずれている。棺体A・Bとも胴部上位に一条の山形突帯を有し，Aの底部は上げ底状をなす。

SJ124 (Fig.45/PL. 5-2)

G-13区画で検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。棺体の方位角044°，埋置角はほぼ水平。墓壇底面の標高6.3m。粘土帯・粘土床はない。上面の削平が激しく墓壇の形状は不明。棺体Aは胴部上位に一条の山形突帯を有し底部は凹レンズ状をなし，Bは鉢で胴部上位に一条の山形突帯を有し底部は平底。

SJ125 (Fig.46/PL. 5-3)

F-11区画で検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。棺体の方位角267°，埋置角-07°。墓壇底面の標高6.2m。粘土帯・粘土床はない。墓壇平面は1.7m×0.8mの隅丸長方形をな

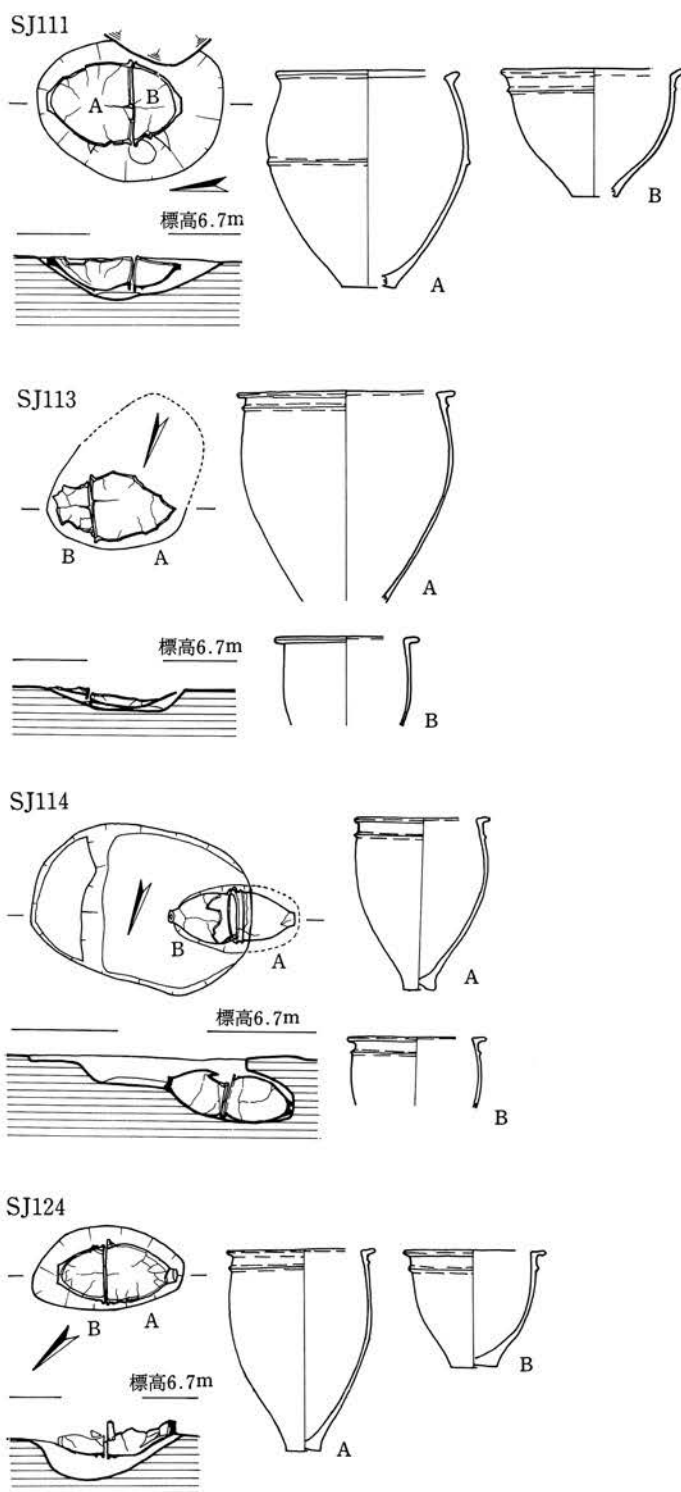


Fig. 45 SJ111・113・114・124 (1/40・1/16)

す。棺体Aは胴部上位に二条の山形突帯を有し底部は上げ底状、Bは一条の山形突帯を有し底部は凹レンズ状である。

SJ135(Fig. 46/PL. 6-4)

G-13区画で検出した。SJ134と切り合い関係にあり、SJ135が後出する。棺体の方位角033°、埋置角はほぼ水平。墓壇底面の標高6.3m。粘土帯を有し粘土床はないが、棺体Bの底部に粘土塊をあてている。上面を削平されているが、本来の墓壇平面は0.8m×0.6mのやや不整な隅丸長方形をなすと考える。棺体A・Bとも胴部上位に一条の山形突帯を有し、Aの底部は上げ底状をなす。

SJ136(Fig. 46/PL. 6-5)

F-12・13区画で検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。墓壇の東半を攪乱で破壊されている。棺体の方位角250°、埋置角はほぼ水平。墓壇底面の標高6.2m。粘土帯はあるが粘土床はない。墓壇平面は1.3m以上×0.8mの隅丸長方形をなす。棺体A・Bとも胴部上位に一条の山形突帯を有し、Bの底部は凹レンズ状をなす。

1. 土器棺墓

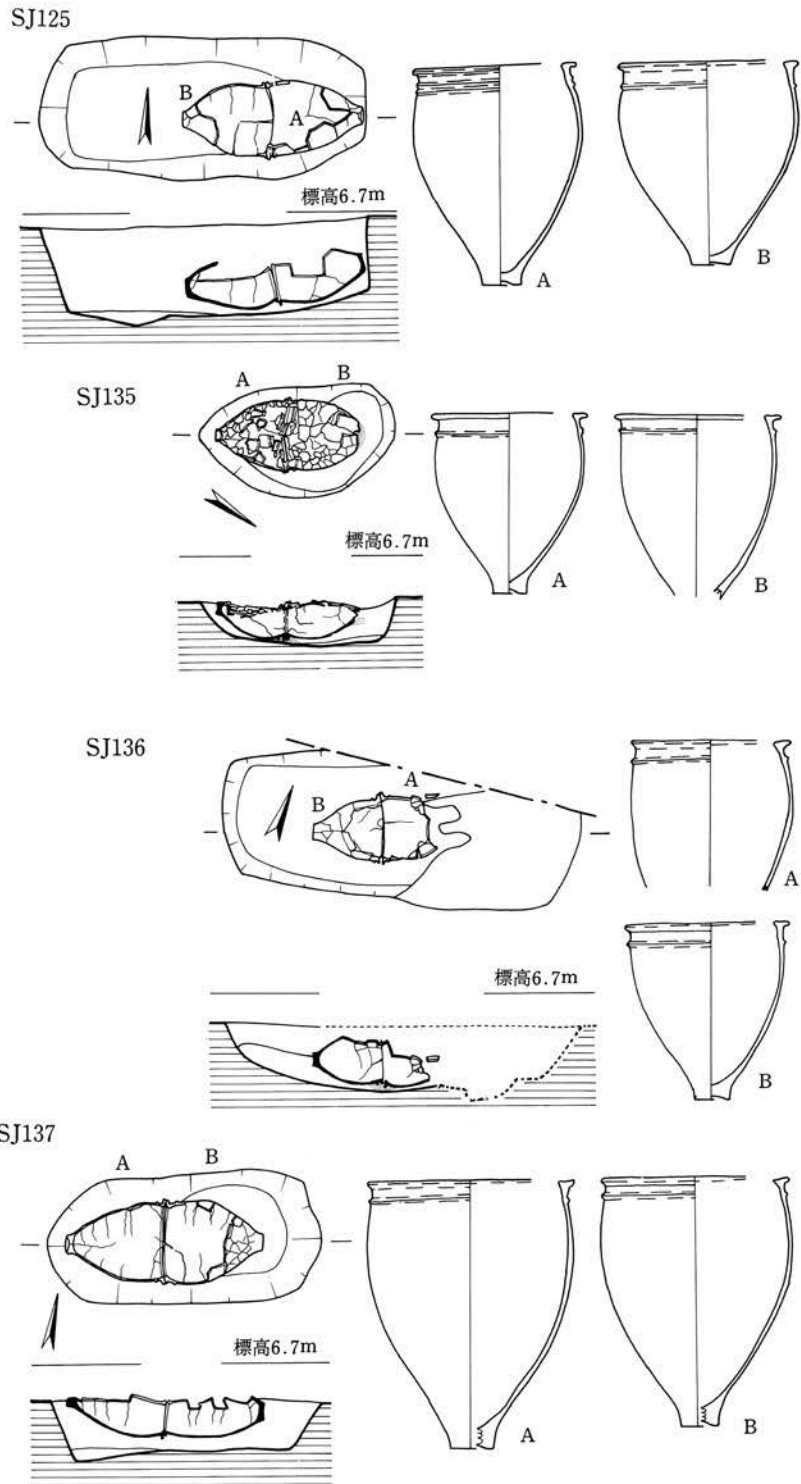
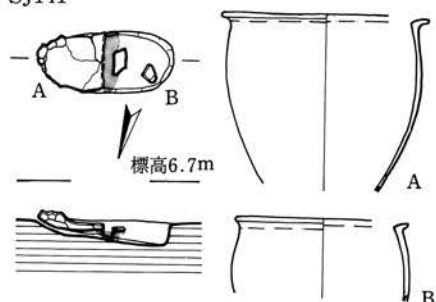
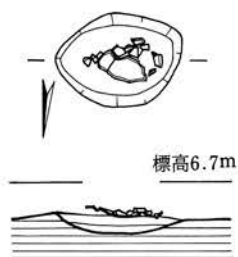


Fig. 46 SJ125·135·136·137 (1/40·1/16)

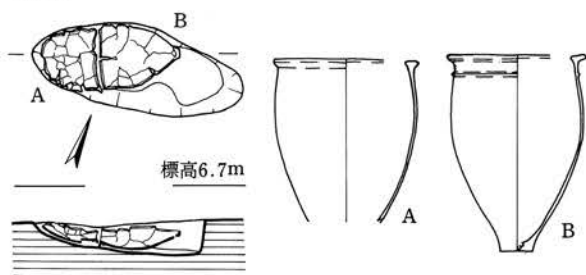
SJ141



SJ142



SJ144



SJ151

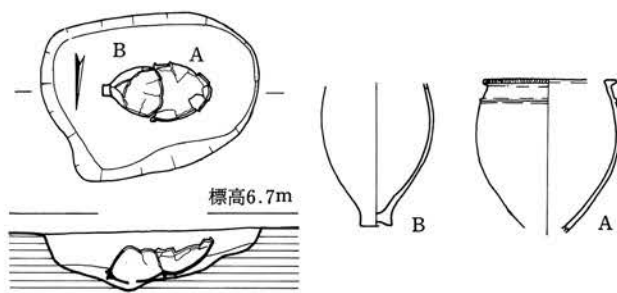


Fig. 47 SJ141・142・144・151 (1/40・1/16)

SJ137 (Fig. 46/PL. 6-5)

F-12・13区画で検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。棺体の方位角 077° ，埋置角 -07° 。墓壇底面の標高6.3m。粘土帯・粘土床はない。墓壇平面は $1.5\text{m} \times 0.7\text{m}$ の隅丸長方形をなす。棺体A・Bとも胴部中位に一条の山形突帯を有し，底部は上げ底状をなす。

SJ141 (Fig. 47/PL. 6-9)

F-13区画で検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。上面を激しく削平され，棺体Bはほとんど残っていない。棺体の方位角 255° ，埋置角はほぼ水平。墓壇底面の標高6.4m。粘土帯はあるが粘土床はない。削平により墓壇の形状は不明。棺体Aは胴部上位に二条の山形突帯を有し，Bは一条の山形突帯を有する。

SJ142 (Fig. 47/PL. 7-1)

F・G-13区画で検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。激しい攪乱を受け，墓壇・棺体とも大部分を破壊されている。棺体の方位角・埋置角は不明。墓壇底面の標高6.5m。粘土帯・粘土床の有無も不明。墓壇・棺体の特徴はわからない。

SJ144 (Fig. 47/PL. 7-3)

C-16区画で検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。棺体の方位角 068° ，埋置角 -04° 。墓壇底面の標高6.4m。粘土帯・粘土床はない。削平が激しく墓壇の形状は不明。

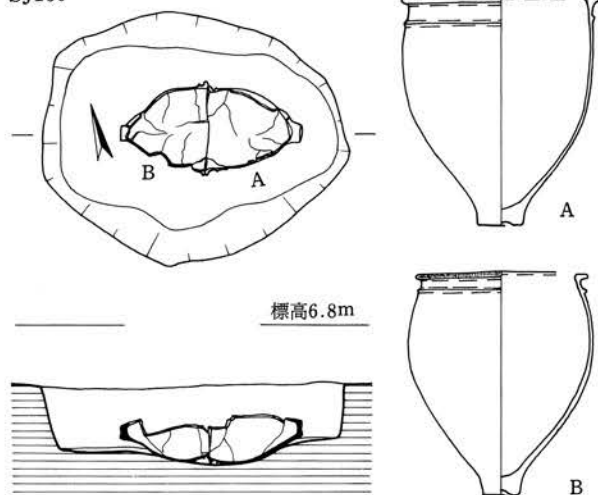
1. 土器棺墓

棺体A・Bとも胴部上位に一条の山形突帯を有し、Bは平底である。

SJ151(Fig. 47/PL. 7-9)

E-16区画で検出された。他の土器棺墓との切り合い関係はない。棺体の方位角087°、埋置角-21°。墓壇底面の標高6.3m。粘土帯・粘土床はない。墓壇断面は浅い二段掘りの形状をなし、墓壇平面は1.2m×0.9mの不整な隅丸長方形をなす。棺体Aは胴部上位に一条の山形突帯を有し、Bは口縁部を打ち欠き底部は上げ底である。

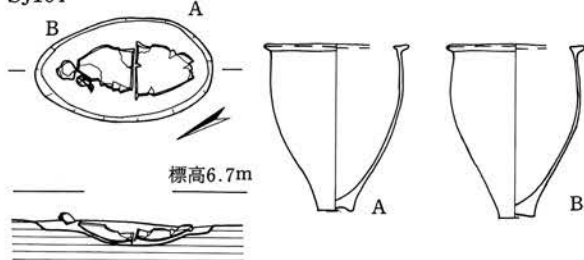
SJ160



SJ160(Fig. 48/PL. 8-8)

E-14区画で検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。棺体の方位角285°、埋置角はほぼ水平。墓壇底面の標高6.1m。粘土帯・粘土床はない。浅い二重墓壇を有し、墓壇平面は1.6m×1.4mの不整な卵形をなす。棺体A・Bとも胴部上位に一条の山形突帯を有し、底部は上げ底状をなす。

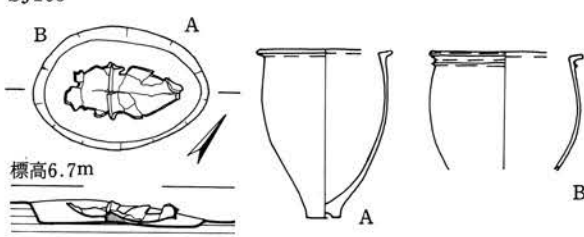
SJ164



SJ164(Fig. 48/PL. 9-3)

D・E-15区画で検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。棺体の方位角027°、埋置角はほぼ水平。墓壇底面の標高6.4m。粘土帯・粘土床はない。浅い二重墓壇を有し、墓壇平面は1.0m×0.6mほどの卵形をなす。棺体Aの底部は浅い上げ底状をなし、Bは凹レンズ状をなす。

SJ165



SJ165(Fig. 48/PL. 9-4)

D・E-15区画で検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。上面を

SJ172

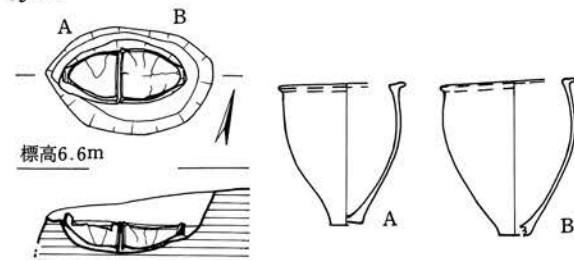


Fig. 48 SJ160・164・165・172 (1/40・1/16)

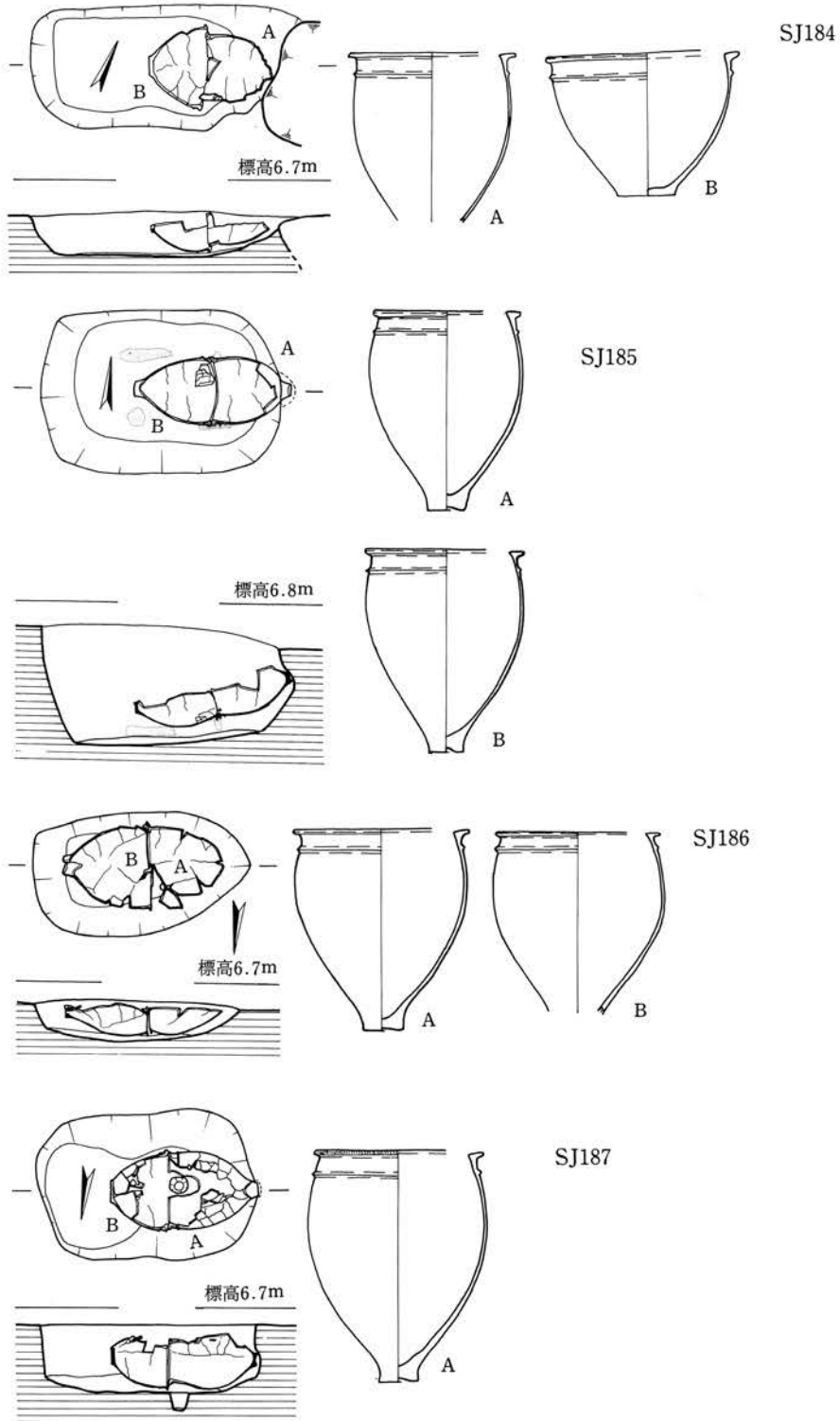


Fig. 49 SJ184・186・187 (1/40・1/16)

1. 土器棺墓

激しく削平され、墓壙と棺体のかかなりの部分が破壊されている。棺体の方位角 235° 、埋置角はほぼ水平。墓壙底面の標高 6.5m 。粘土帯はあるが粘土床はない。墓壙平面は $1.0\text{m}\times 0.7\text{m}$ の卵形か。棺体Aの底部は上げ底状をなす。

SJ172 (Fig. 48)

E-12区画で検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。棺体の方位角 078° 、埋置角 -03° 。墓壙底面の標高 6.2m 。粘土帯・粘土床はない。上面を削平されているが、本来の墓壙平面は $0.8\text{m}\times 0.6\text{m}$ の不整な卵形をなす。棺体A・Bとも底部はほぼ平底である。

SJ184 (Fig. 49/PL. 10- 6)

F-12区画で検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。墓壙の東端を攪乱で破壊されている。棺体の方位角 248° 、埋置角はほぼ水平。墓壙底面の標高 6.3m 。粘土帯・粘土床はない。墓壙平面は 1.5m 以上 $\times 0.7\text{m}$ の隅丸長方形をなす。棺体A・Bとも胴部上位に一条の山形突帯を有し、Bは鉢で底部は平底である。

SJ185 (Fig. 49/PL. 10- 7)

F・G-11区画で検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。棺体の方位角 264° 、埋置角 -10° 。墓壙底面の標高 6.0m 。粘土帯を有し、棺体Bの両側に粘土塊を置いている。墓壙平面は $1.3\text{m}\times 0.9\text{m}$ の隅丸長方形をなす。棺体A・Bとも胴部上位に一条の山形突帯を有し、底部は凹レンズ状をなす。

SJ186 (Fig. 49/PL. 10- 8)

G-10・11区画で検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。棺体の方位角 085° 、埋置角はほぼ水平。墓壙底面の標高 6.4m 。粘土帯・粘土床はない。上面を削平されているが、本来の墓壙平面は $1.1\text{m}\times 0.7\text{m}$ ほどの隅丸方形をなすと考える。棺体A・Bとも胴部上位に一条の山形突帯を有し、Aの底部は凹レンズ状をなす。

SJ187 (Fig. 49/PL. 10- 9)

H・G-11区画で検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。上面から小穴に切り込まれている。棺体の方位角 082° 、埋置角はほぼ水平。墓壙底面の標高 6.2m 。粘土帯・粘土床はない。墓壙平面は $1.2\text{m}\times 0.9\text{m}$ のやや不整な隅丸長方形をなす。棺体Aは胴部上位に一条の山形突帯を有し、底部は凹レンズをなす。

SJ194 (Fig. 50/PL. 11- 6)

E-9区画で検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。棺体の方位角 120° 、埋置角はほぼ水平。墓壙底面の標高 6.2m 。粘土帯はあるが粘土床はない。墓壙平面は $1.1\text{m}\times 0.7\text{m}$ の隅丸長方形をなす。棺体A・Bともに胴部上位に一条の山形突帯を有し、Aの底部は凹レンズ状をなす。

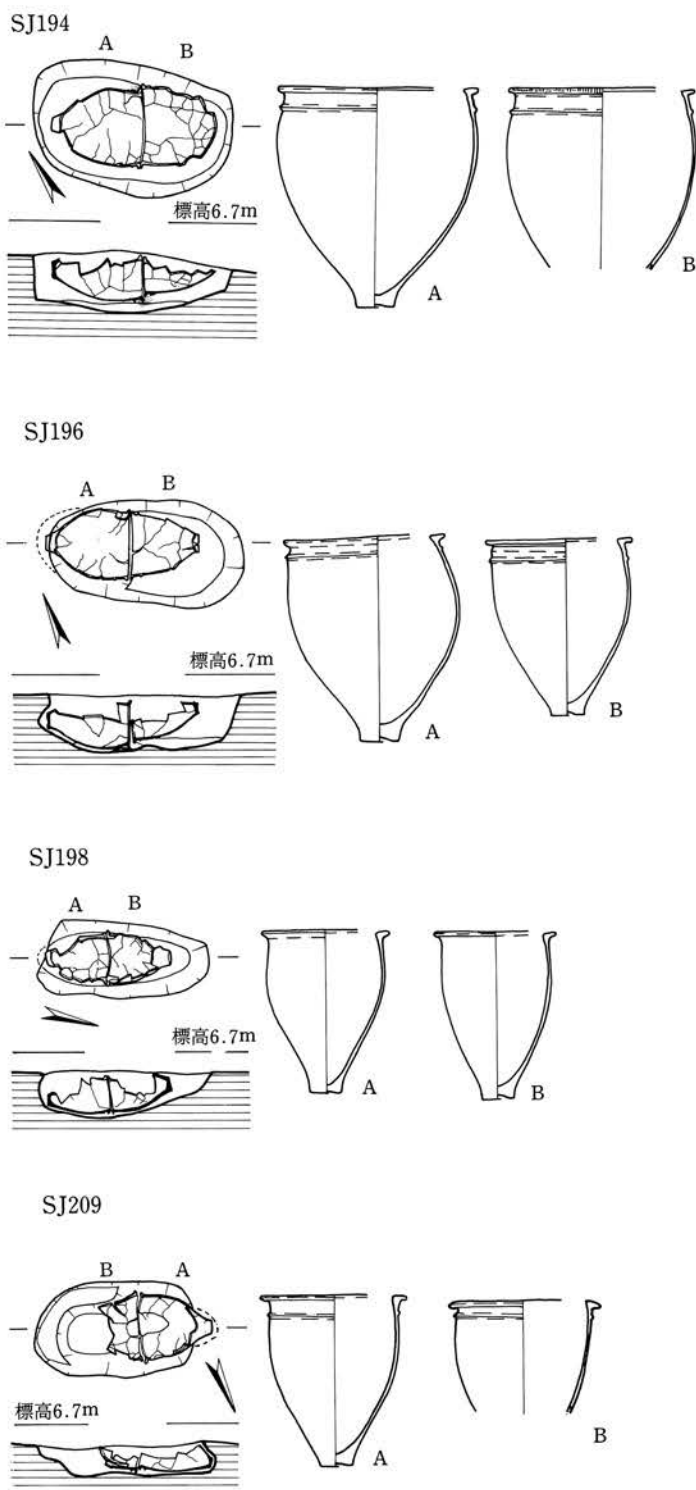


Fig. 50 SJ194・196・198・209 (1/40・1/16)

SJ196 (Fig. 50)

E-8区画で検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。棺体の方位角 112° 、埋置角 $+05^\circ$ 。墓壇底面の標高6.3 m。粘土帯・粘土床はない。浅い二重墓壇を有し、墓壇平面は $1.1\text{m} \times 0.6\text{m}$ の長い卵形をなすが、墓壇主軸と棺体主軸がややずれている。棺体A・Bとも胴部上位に一条の山形突帯を有し、底部は上げ底状をなす。

SJ198 (Fig. 50/PL. 11-7)

D-7区画で検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。棺体の方位角 346° 、埋置角 $+06^\circ$ 。墓壇底面の標高6.4 m。粘土帯・粘土床はない。上面を削平されているが、本来の墓壇平面は $0.9\text{m} \times 0.4\text{m}$ の隅丸長方形をなすと考えられる。棺体A・Bとも底部は凹レンズ状をなす。

SJ209 (Fig. 50/PL. 12-7)

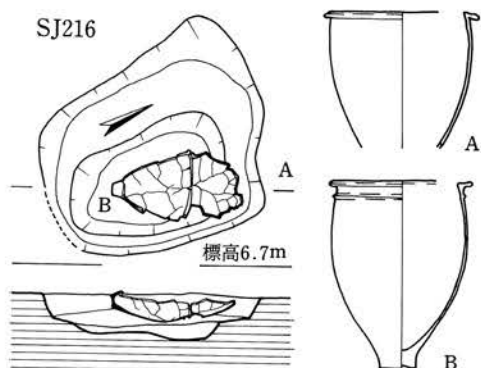
E-4区画で検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。棺体の方位角 113° 、埋置角 $+15^\circ$ 。墓壇底面の標高6.5 m。粘土帯・粘土床はない。墓壇断面は二段掘りの形状をなし、墓壇平面は $0.8\text{m} \times 0.5\text{m}$ のやや不整な隅丸長方形を

1. 土器棺墓

なす。棺体A・Bとも胴部上位に一条の山形突帯を有し、Aの底部は平底である。

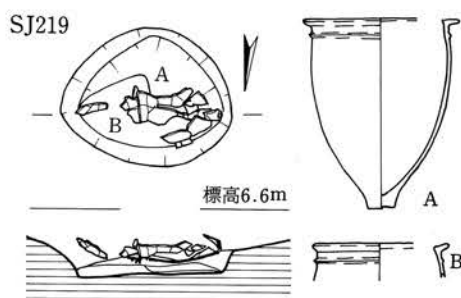
SJ216 (Fig. 51/PL. 13-3)

D-6区画で検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。棺体の方位角208°,埋置角はほぼ水平。墓壇底面の標高6.3m。粘土帯・粘土床はない。墓壇断面は二段掘りの形状をなし、上面を削平されているが本来の墓壇平面は1.3m×1.0mの隅丸方形をなす。棺体Bは胴部上位に一条の山形突帯を有し、底部は上げ底状である。



SJ219 (Fig. 51)

F・G-8・9区画で検出した。SJ294と切り合い関係にあり、SJ219が後出する。削平により墓壇と棺体のかかなりの部分が破壊されている。棺体の方位角084°,埋置角はほぼ水平。粘土帯・粘土床はない。削平により墓壇の形状は不明。棺体Aは胴部上位に一条の山形突帯を有し、底部は上げ底状をなす。



SJ221

SJ221 (Fig. 51)

F-8区画で検出した。SJ222と切り合い関係にあり、SJ221が先行する。棺体の方位角066°,埋置角+08°。墓壇底面の標高6.3m。粘土帯・粘土床はない。墓壇断面は浅い二段掘りの形状をなし、上面を削平されているが本来の墓壇平面は1.1m×0.7mほどの卵形をなすと考える。棺

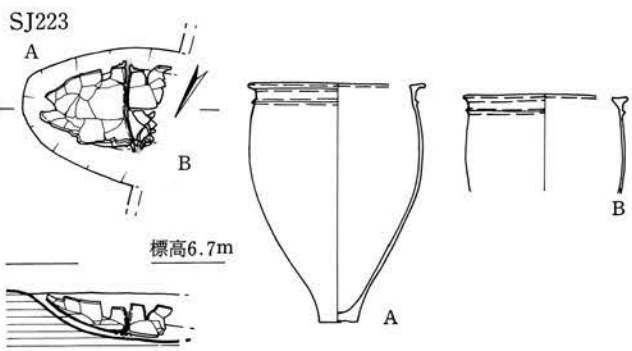
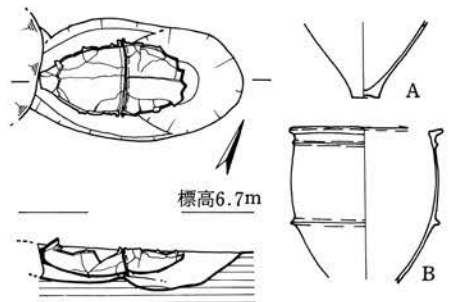
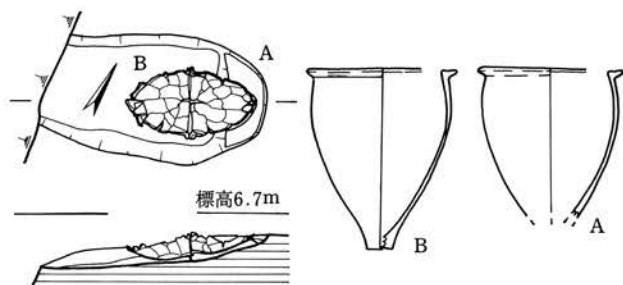


Fig. 51 SJ216・219・221・223 (1/40・1/16)

SJ227

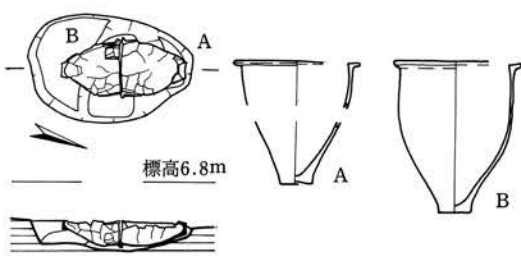


体Aの底部は上げ底状をなし、Bは胸部上位に一条の山形突帯、中位に鋸状突帯を有する。

SJ223 (Fig. 51/PL. 13-7)

D-4・5区画で検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。墓壇と棺体の西側は攪乱で破壊されている。棺体の方位角 242° 、埋置角 -07° 。墓壇底面の標高6.3m。粘土帯はあるが粘土床はない。削平と攪乱により墓壇の形状は不明。棺体A・Bとも胸部上位に一条の山形突帯を有し、Aの底部は平底をなす。

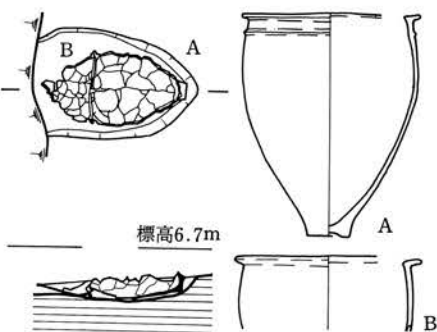
SJ230



SJ227 (Fig. 52/PL. 13-9)

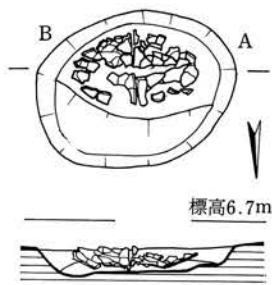
E-6区画で検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。攪乱で墓壇の西端を破壊されている。棺体の方位角 240° 、埋置角はほぼ水平。墓壇底面の標高6.5m。粘土帯・粘土床はない。墓壇断面は浅い二段掘りの形状をなし、上面を削平されているが本来の墓壇平面は $1.2\text{m} \times 0.7\text{m}$ ほどの不整な隅丸長方形をなすと考える。棺体Aの底部は上げ底状をなす。

SJ228



SJ228 (Fig. / PL. 13-10)

SJ231



E-6区画で検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。攪乱で墓壇と棺体の西側を破壊されている。棺体の方位角 259° 、埋置角 $+04^\circ$ 。墓壇底面の標高6.4m。粘土帯・粘土床はない。上面を削平されているが本来の墓壇平面は0.6mほどの隅丸方形をなすものか。棺体A・Bとも胸

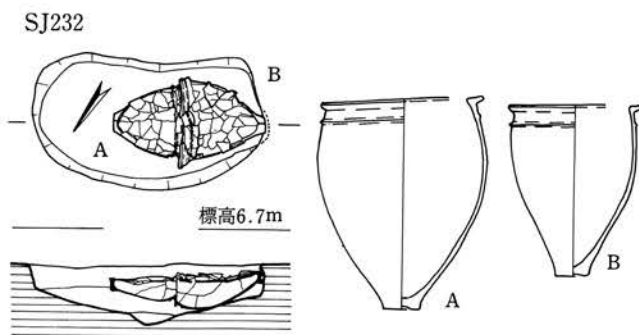
Fig. 52 SJ227・228・230・231 (1/40・1/16)

1. 土器棺墓

部上位に一条の山形突帯を有し，Aの底部は上げ底状をなす。

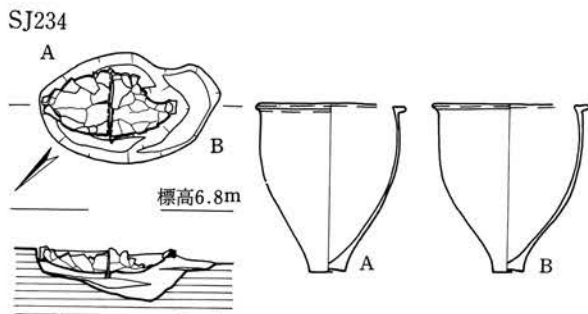
SJ230 (Fig. 52/PL. 14-1)

E-6区画で検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。棺体の方位角162°，埋置角はほぼ水平。墓壇底面の標高6.5m。粘土帯・粘土床はない。墓壇断面は浅い二段掘りの形状をなし，上面を削平されているが本来の墓壇平面は0.7m×0.6mほどの不整な隅丸方形をなすと考える。棺体A・Bとも底部は平底をなす。



SJ231 (Fig. 52)

F-9区画で検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。削平が激しく棺体のかかなりの部分が破壊されている。棺体の方位角095°，埋置角はほぼ水平。墓壇底面の標高6.4m。粘土帯・粘土床はない。墓壇平面は1.0×0.8mほどの卵形をなすものか。



SJ232 (Fig. 53/PL. 14-2)

F-7区画で検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。棺体の方位角056°，埋置角はほぼ水平。墓壇底面の標高6.3m。粘土帯・粘土床はない。墓壇平面は1.2m×0.7mの不整な隅丸長方形をなす。棺体A・Bとも胴部上位に一条の山形突帯を有し，Aの底部は上げ底状，Bの底部は凹レンズ状をなす。

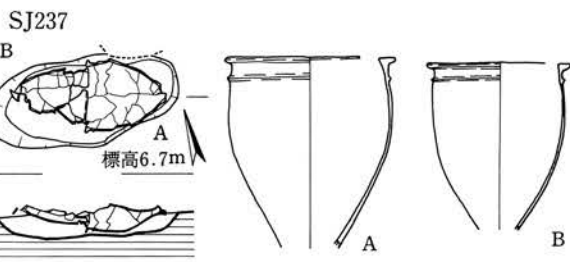
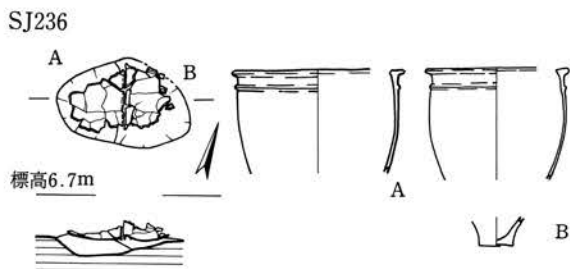


Fig. 53 SJ232・234・236・237 (1/40・1/16)

SJ234 (Fig. 53)

D・E-7区画で検出した。SJ235と切り合い関係にあり、SJ234が後出する。棺体の方位角223°、埋置角はほぼ水平。墓壇底面の標高6.4m。粘土帯・粘土床はない。墓壇断面は二段掘りの形状をなし、上面を削平されているが本来の墓壇平面は0.9m×0.6mほどの不整な卵形をなすと思われる。棺体A・Bは突帯がなく、底部は凹レンズ状をなす。

SJ236 (Fig. 53)

D-6区画で検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。削平により墓壇と棺体のかなりの部分を破壊されている。棺体の方位角073°、埋置角はほぼ水平。粘土帯・粘土床はない。削平により墓壇の形状は不明。棺体A・Bとも胴部上位に一条の山形突帯を有し、Bの底部は凹レンズ状をなす。

SJ237 (Fig. 53)

D-6区画で検出した。SJ217・287と切り合い関係にあり、SJ237が後出する。棺体の方位角286°、埋置角+03°。墓壇底面の標高6.4m。粘土帯・粘土床はない。墓壇断面は浅い二段堀の形状をなし、上面を削平されているが本来の墓壇平面は0.9m×0.5ほどのやや不整な隅丸長方形をなすと考え。墓壇主軸と棺体主軸がややずれている。棺体A・Bとも胴部上位に一条の山形突帯を有する。

SJ238 (Fig. 54/PL. 15-4)

D-6区画で検出した。SJ217・287と切り合い関係にあり、SJ237が後出する。削平により墓壇と棺体のかなりの部分が破壊されている。棺体の方位角060°、埋置角はほぼ水平。墓壇底面の標高6.4m。粘土帯・粘土床はない。削平により墓壇の形状は不明。棺体A・Bとも突帯はなく、Aの底部は凹レンズ状をなす。

SJ240 (Fig. 54/PL. 14-1)

D-6区画で検出した。SJ239と切り合い関係にあり、SJ240が後出する。削平により墓壇と棺体Bの大部分が破壊されている。棺体の方位角335°、埋置角+44°。墓壇底面の標高6.3m。粘土帯・粘土床はない。墓壇の形状は不明。棺体Aは突帯はなく、底部は上げ底状をなす。

SJ242 (Fig. 54/PL. 14-5)

E-6区画で検出した。他の土器棺墓との切り合いはない。棺体の方位角254°、埋置角はほぼ水平。墓壇底面の標高6.4m。粘土帯・粘土床はない。墓壇断面は浅い二段掘りの形状をなし、上面を削平されているが本来の墓壇平面は0.9m×0.6mほどの隅丸長方形をなすと考え。墓壇主軸と棺体主軸がややずれている。棺体A・Bとも突帯はなく、底部は凹レンズ状をなす。

SJ246 (Fig. 54/PL. 14-8)

F-5区画で検出した。他の土器棺墓との切り合いはない。棺体の方位角072°、埋置角+04°。墓壇底面の標高6.3m。粘土帯・粘土床はない。上面を削平されているが、本来の墓壇平面は0.8

1. 土器棺墓

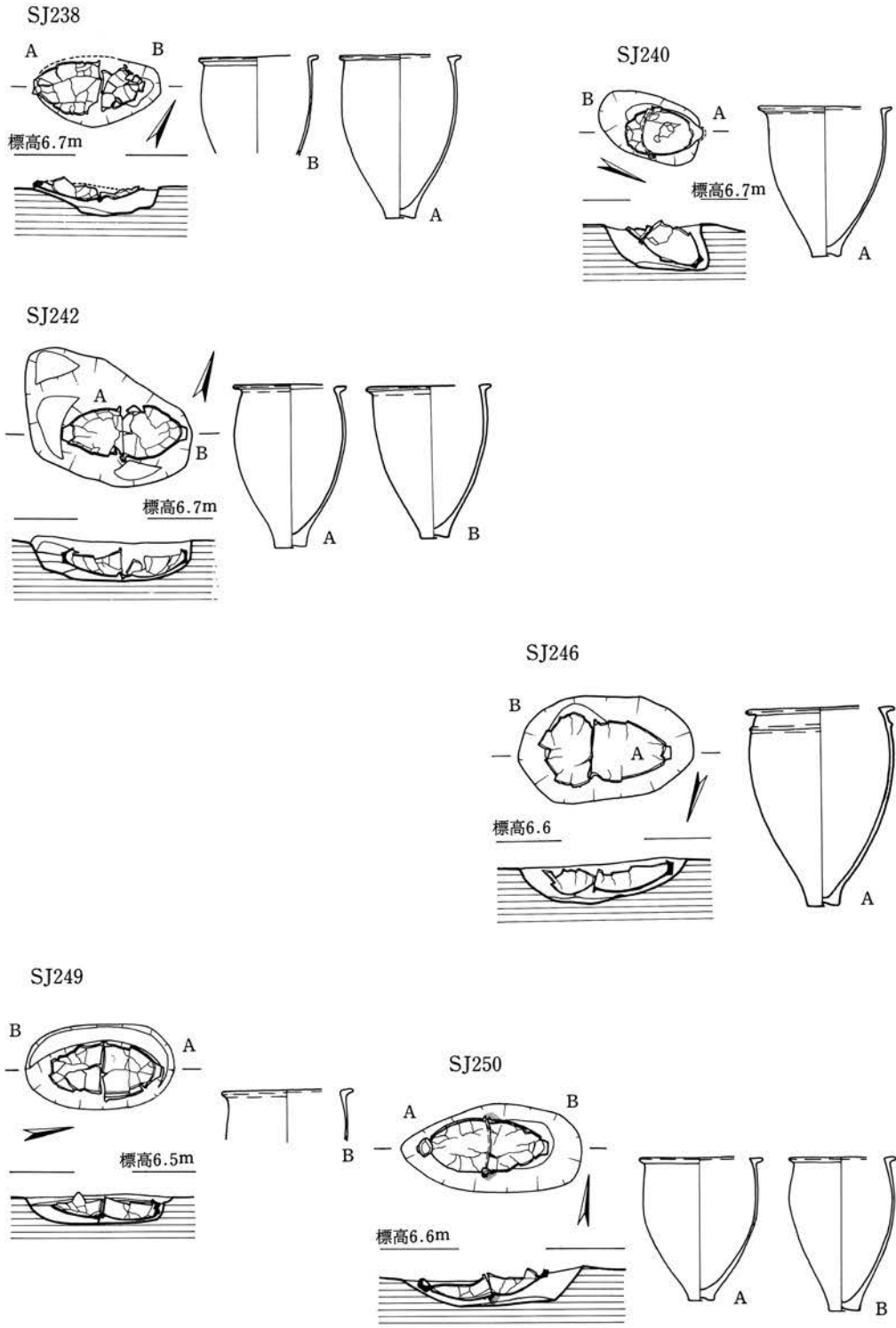
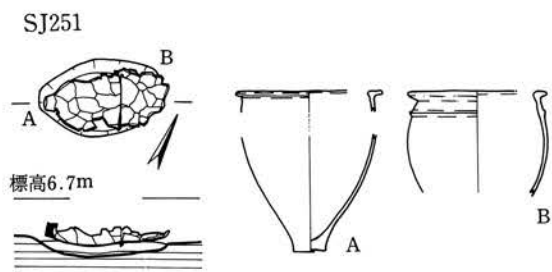


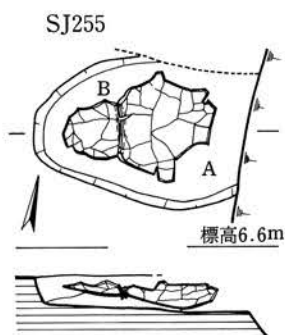
Fig. 54 SJ238·240·242·246·249·250 (1/40·1/16)



m×0.6mほどの隅丸長方形をなすと考える。棺体Aは胴部上位に一条の山形突帯を有し底部は凹レンズ状、Bは口縁部を打ち欠いた壺の胴部を用い胴部中位に山形突帯を有する。

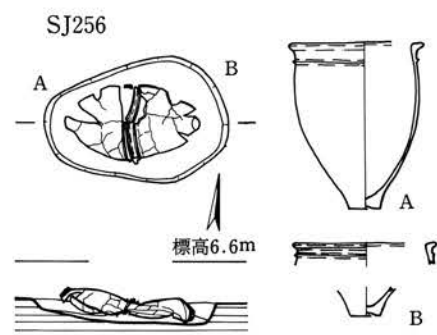
SJ250 (Fig. 54)

F-6区画で検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。棺体の方位角084°,埋置角+11°。墓壇底面の標高6.3m。粘土帯はあるが粘土床はない。上面を削平されているが、本来の墓壇平面は0.9m×0.6mほどの隅丸長方形をなすと考える。棺体A・Bとも突帯はなく、Aの底部は上げ底状、Bの底部は凹レンズ状をなす。



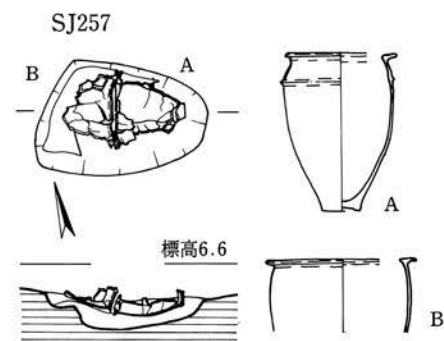
SJ251 (Fig. 55/PL. 15-1)

F-7区画で検出した。SJ279と切り合い関係にあり、SJ251が先行する。削平により墓壇・棺体のかかなりの部分が破壊されている。棺体の方位角063°,埋置角はほぼ水平。墓壇底面の標高6.4m。粘土帯・粘土床はない。墓壇の形状は不明。棺体Aの底部は凹レンズ状をなし、Bは胴部上位に一条の山形突帯を有する。



SJ255 (Fig. 55)

G-9区画で検出した。SJ254と切り合い関係にあり、SJ255が後出する。削平と室町時代の堀により墓壇と棺体のかかなりの部分が破壊されている。棺体の方位角258°,埋置角+04°。墓壇底面の標高6.4m。粘土帯はあるが粘土床はない。墓壇の形状は不明。



SJ256 (Fig. 55/PL. 15-5)

G-9区画で検出した。SJ258と切り合い関係にあり、SJ256が後出する。棺体の方位

Fig. 55 SJ251・255・256・257 (1/40・1/16)

1. 土器棺墓

角 083° ，埋置角 -05° 。墓壇底面の標高 6.3m 。粘土帯はあるが粘土床はない。上面の削平が激しいが，本来の墓壇平面は $0.8\text{m} \times 0.7\text{m}$ の隅丸方形をなすものか。棺体A・Bとも胴部上位に一条の山形突帯を有し，底部は凹レンズ状をなす。

SJ257 (Fig. 55)

H-8・9区画で検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。棺体の方位角 284° ，埋置角 $+04^\circ$ 。墓壇底面の標高 6.3m 。粘土帯・粘土床はない。墓壇断面は二段掘りの形状をなし，本来の墓壇平面は 0.8m 以上 $\times 0.6\text{m}$ ほどの隅丸長方形か。棺体Aは胴部上位に一条の山形突帯を有し，底部は凹レンズ状をなす。

SJ260 (Fig. 56)

G・H-8区画で検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。棺体の方位角 082° ，埋置角はほぼ水平。墓壇底面の標高 6.3m 。粘土帯・粘土床はない。墓壇平面は $1.1\text{m} \times 0.7\text{m}$ の卵形をなす。棺体A・Bとも胴部上位に一条の山形突帯を有し，Aの底部は上げ底状，Bの底部は凹レンズ状をなす。

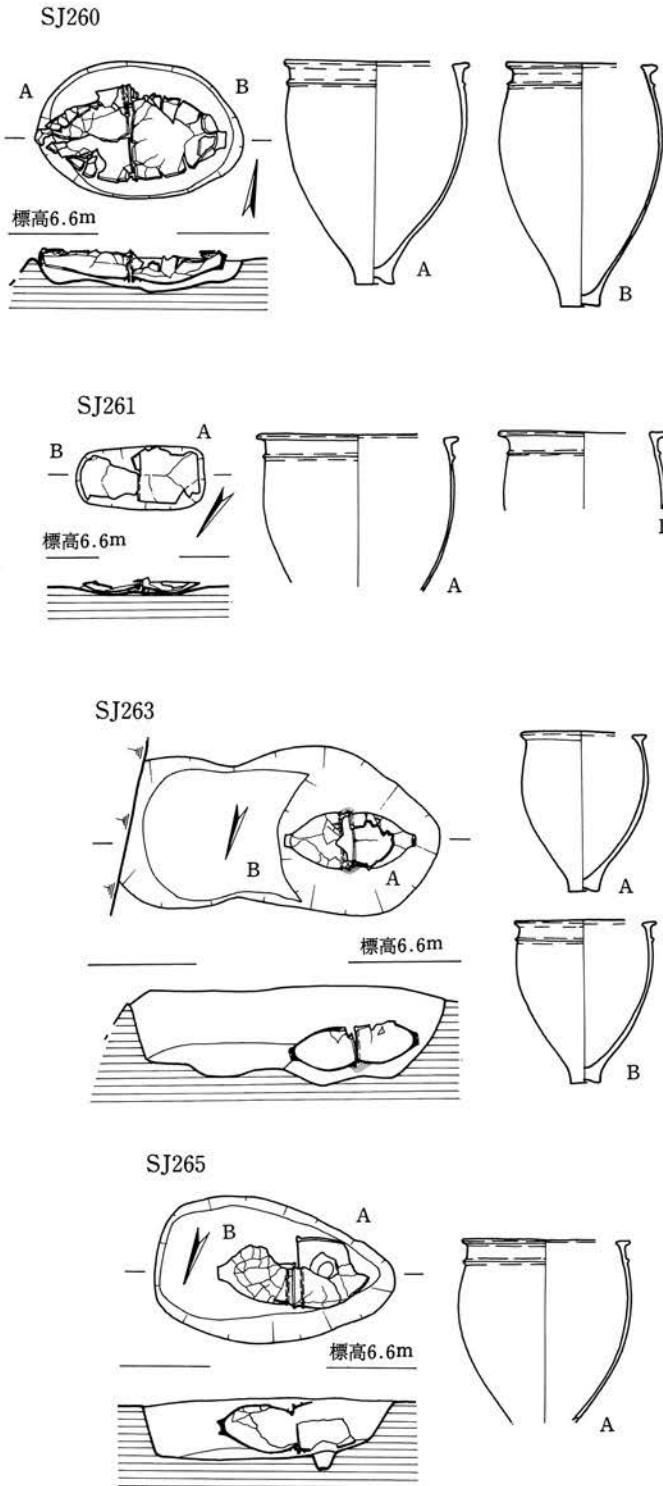


Fig. 56 SJ260・261・263・265 (1/40・1/16)

SJ261 (Fig. 56)

H-8区画で検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。削平により墓壙と棺体のかなりの部分が破壊されている。棺体の方位角 057° 、埋置角はほぼ水平。粘土帯・粘土床はない。削平により墓壙の形状は不明。棺体A・Bとも胴部上位に一条の山形突帯を有する。

SJ263 (Fig. 56/PL. 15-7)

H・I-8区画で検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。室町時代の区画溝で墓壙の一部を破壊されている。棺体の方位角 071° 、埋置角 -07° 。墓壙底面の標高 6.0m 。粘土帯はあるが、粘土床はない。墓壙断面は二段掘りの形状をなし、本来の墓壙平面は $1.5\text{m}\times 0.9\text{m}$ の繭形をなすと考える。棺体A・Bとも上げ底状の底部をなし、Bは胴部上位に一条の山形突帯を有する。

SJ265 (Fig. 56/PL. 15-9)

H-6区画で検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。上面から小穴に切り込まれている。棺体の方位角 071° 、埋置角 -03° 。墓壙底面の標高 6.1m 。粘土帯・粘土床はない。本来の墓壙平面は $1.1\text{m}\times 0.8\text{m}$ の胴張りな隅丸長方形をなす。棺体A・Bとも胴部上位に一条の山形突帯を有する。

SJ266 (Fig. 57)

H-5区画で検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。削平により墓壙と棺体のかなりの部分が破壊されている。単棺墓である可能性はある。棺体の方位角 053° 、埋置角 $+36^{\circ}$ 。墓壙底面の標高 6.4m 。粘土床はなく、粘土帯は不明。墓壙の形状も不明である。棺体は胴部中位に一条の山形突帯を有する。

SJ270 (Fig. 57/PL. 16-1)

I-6区画で検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。削平が激しく墓壙と棺体のかなりの部分が破壊されている。棺体の方位角 097° 、埋置角 $+03^{\circ}$ 。墓壙底面の標高 6.5m 。粘土帯・粘土床はない。墓壙の形状は不明。棺体Aの底部は凹レンズ状をなす。

SJ275 (Fig. 57/PL. 16-2)

C-15区画で検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。棺体の方位角 075° 、埋置角はほぼ水平。墓壙底面の標高 6.3m 。粘土帯・粘土床はない。墓壙平面は $1.1\text{m}\times 0.6\text{m}$ の隅丸長方形をなす。棺体A・Bとも胴部上位に一条の山形突帯を有する。

SJ276 (Fig. 57/PL. 16-3)

D-8区画で検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。棺体の方位角 089° 、埋置角 -06° 。墓壙底面の標高 6.1m 。粘土帯はあるが、粘土床はない。二重墓壙を有し、墓壙平面は $1.2\text{m}\times 1.0\text{m}$ の不整な隅丸長方形をなす。棺体A・Bとも胴部上位に一条の山形突帯を有し、底部は上げ底状をなす。

1. 土器棺墓

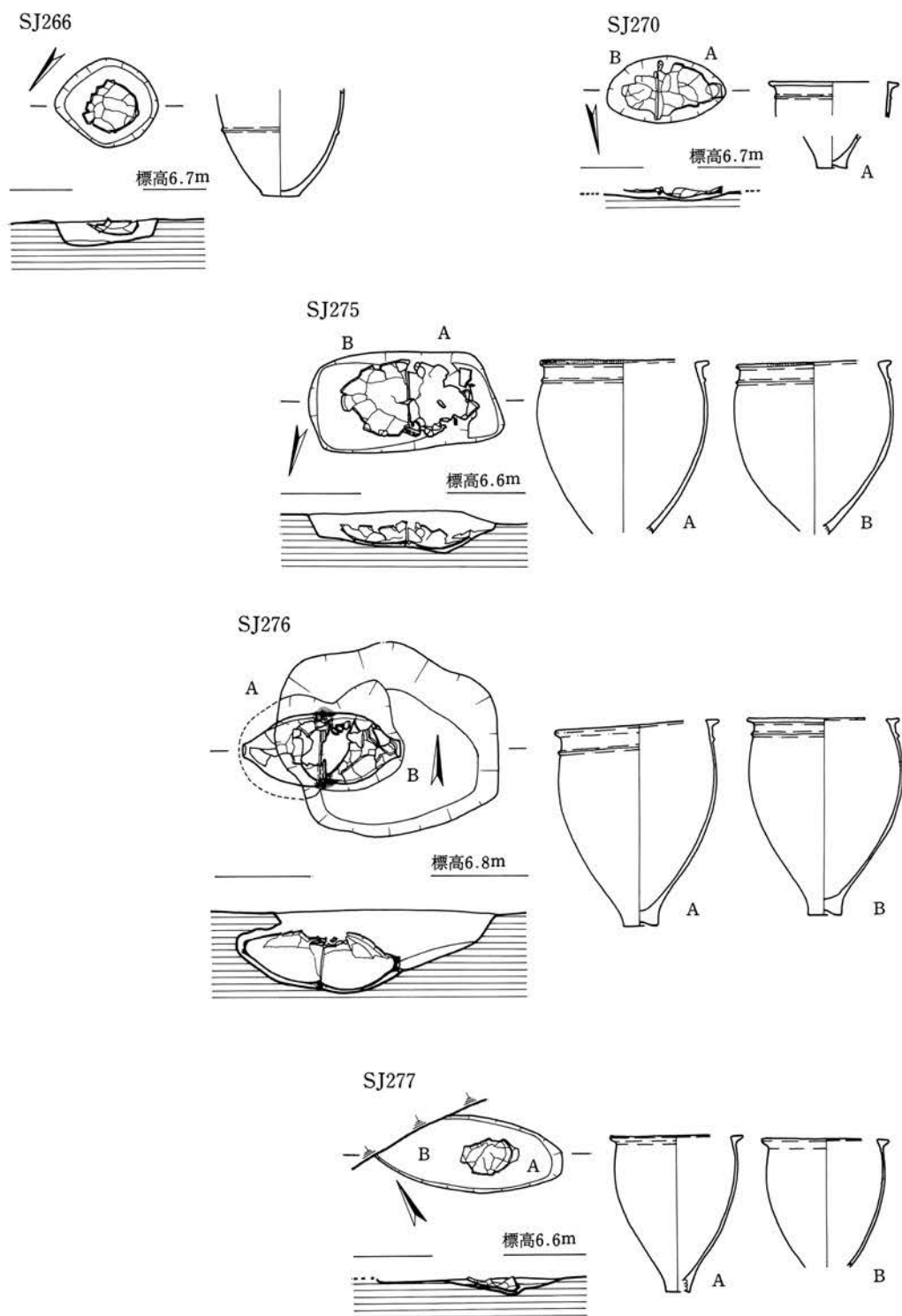


Fig. 57 SJ266•270•275•276•277 (1/40•1/16)

SJ277 (Fig. 57)

F-7区画で検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はないが、室町時代の区画溝に墓墳の一部を破壊され、削平により棺体Bは現位置を止めていなかった。棺体の方位角 296° 、埋置角 $+30^\circ$ 。墓墳底面の標高6.4m。粘土帯・粘土床はない。本来の墓墳平面は $1.1\text{m} \times 0.5\text{m}$ ほどの隅丸方形をなすものか。棺体A・Bとも突帯はなく、Aの底部は上げ底状をなす。

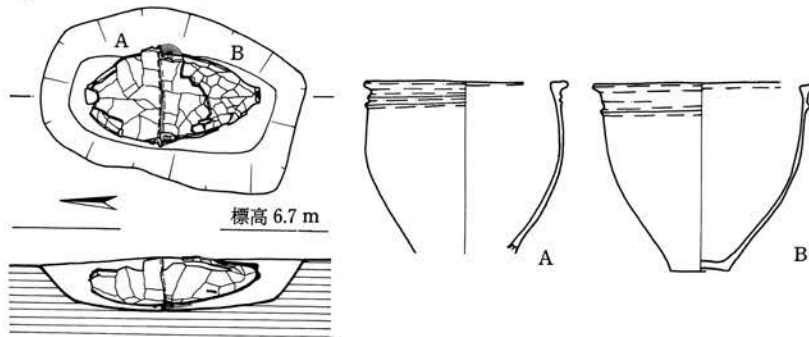
SJ279 (Fig. 58/PL. 16-4)

F-7区画で検出した。SJ251と切り合い関係にあり、SJ279が後出する。棺体の方位角 359° 、埋置角はほぼ水平。墓墳底面の標高6.3m。粘土帯はあるが、粘土床はない。墓墳平面は $1.4\text{m} \times 0.9\text{m}$ のやや不整な隅丸長方形をなし、墓墳主軸と棺体主軸がずれている。棺体Aは胴部上位に一条のM字突帯、Bは一条の山形突帯を有し底部は凹レンズ状をなす。

SJ280 (Fig. 58/PL. 16-5)

H-9区画で検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。棺体の方位角 255° 、埋置角 $+02^\circ$ 。墓墳底面の標高6.5m。粘土帯はあるが、粘土床はない。墓墳平面は $1.1\text{m} \times 0.8\text{m}$ のやや不整で胴張りな隅丸長方形をなす。棺体A・Bとも胴部上位に一条の山形突帯を有し、底部は上げ底状をなす。

SJ279



SJ280

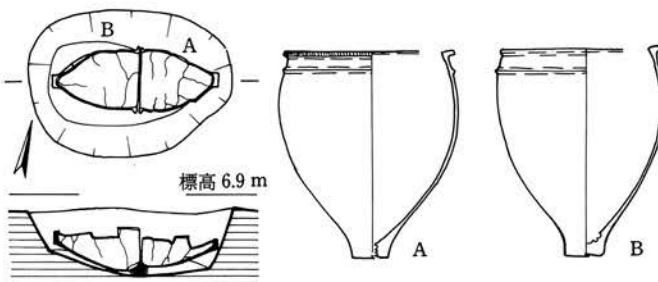


Fig. 58 SJ279・280 (1/40・1/16)

1. 土器棺墓

SJ281 (Fig. 59/PL. 16-6)

I-7・8区画で検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。棺体の方位角264°，埋置角-04°。墓壇底面の標高6.1m。粘土帯・粘土床はない。墓壇断面は二段掘りの形状をなし，本来の墓壇平面は0.8m×0.6mほどの隅丸方形をなすと考ええる。墓壇主軸と棺体主軸がややずれている。棺体Aは胴部上位に一条の山形突帯を有し，A・Bとも底部は上げ底状をなす。

SJ285 (Fig. 59)

E・F-4区画で検出した。SJ289と切り合い関係にあり，SJ285が後出する。棺体の方位角116°，埋置角+12°。墓壇底面標高6.4m。幅が広い粘土帯はあるが，粘土床はない。浅い二重墓壇を有し，上面をかなり削平されているが本来の墓壇平面は1.3m×0.7mほどの隅丸長方形か。棺体A・Bとも胴部上位に一条の山形突帯を有する。

SJ289 (Fig. 59/PL. 16-9)

E-4区画で検出した。SJ285と切り合い関係にあり，SJ289が先行する。棺体の方位角316°，埋置角はほぼ水平。墓壇底面の標高6.2m。粘土帯・粘土床はない。墓壇平面は0.8m×0.4mの隅丸長方形をなす。棺体Aの底部は平底をなし，Bは凹レンズ状をなす。

SJ290 (Fig. 59)

K-8区画で検出した。削平と室町時代の区画溝で墓壇と棺体のかかなりの部分を破壊されている。棺体の方位角

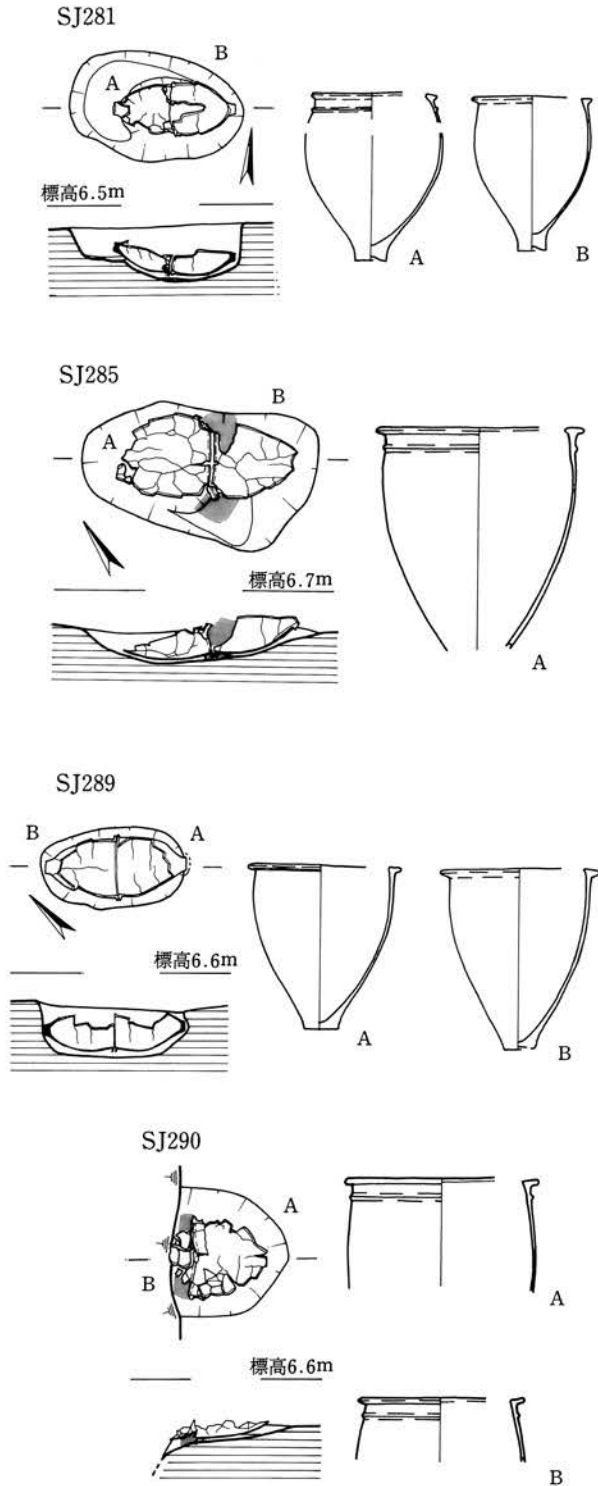


Fig. 59 SJ281・285・289・290 (1/40・1/16)

IV. 調査の記録—弥生時代遺跡—

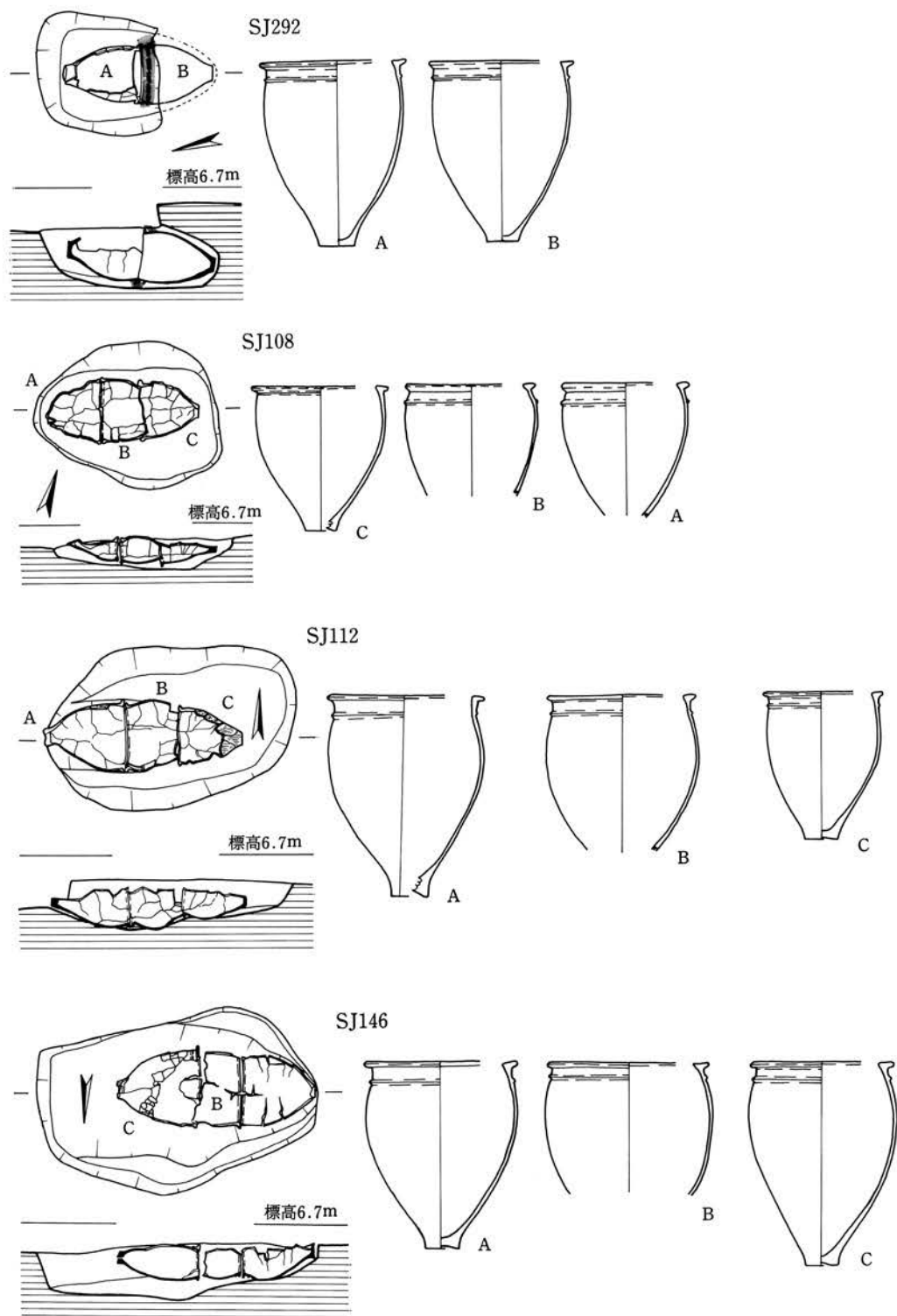
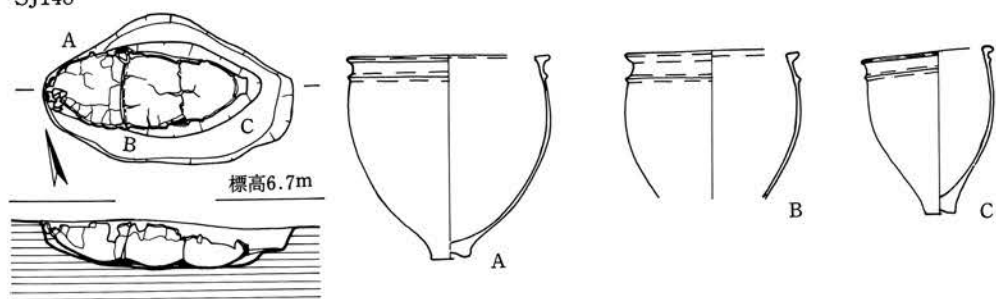


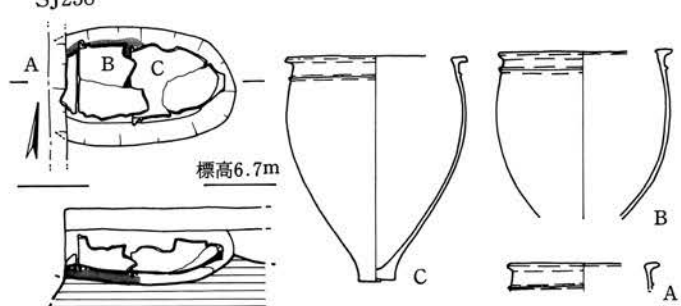
Fig. 60 SJ292・108・112・146 (1/40・1/16)

1. 土器棺墓

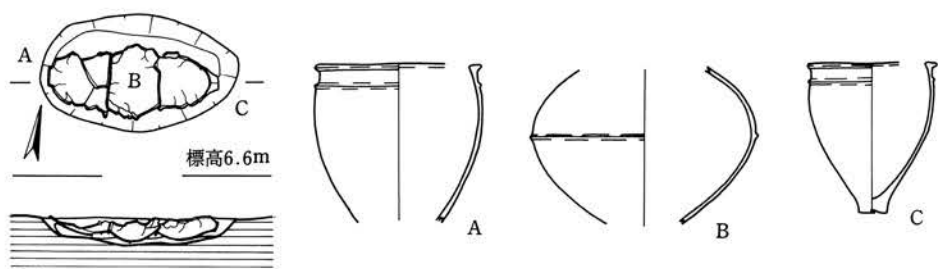
SJ148



SJ258



SJ262



SJ264

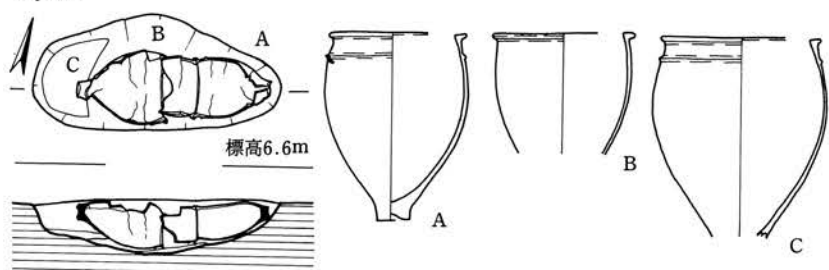


Fig. 61 SJ148·258·262·264 (1/40·1/16)

085°, 埋置角はほぼ水平。墓壇底面の標高6.3m。粘土帯はあるが、粘土床はない。削平と攪乱により墓壇の形状は不明。棺体A・Bとも胴部上位に一条の山形突帯を有する。

SJ292 (Fig. 60/PL. 17-1)

D-6区画で検出した。SJ225・239と切り合い関係にあり、SJ292が後出する。棺体の方位角013°, 埋置角+08°。墓壇底面の標高6.1m。粘土帯はあるが、粘土床はない。墓壇平面は0.7m×0.7mの不整な隅丸方形をなす。棺体A・Bとも胴部上位に一条の山形突帯を有し、底部は平底をなす。

(6) 小形三連棺墓

器高60cm以上の埋葬専用土器を棺体に用いていない三連棺は、7基を検出した。見かけの上の分布状況では特別なまとまりは認められない。

SJ108 (Fig. 60/PL. 3-7)

G-12区画で検出した。SJ134と切り合い関係にあるが、先後関係は不明。棺体の方位角072°, 埋置角はほぼ水平。墓壇底面の標高6.5m。粘土帯・粘土床はない。上面をかなり削平されているが、本来の墓壇平面は1.0m×0.9mの不整な隅丸方形をなすと考え。棺体A・Bは胴部上位に一条の山形突帯を有し、Cの底部は凹レンズ状をなす。

SJ112 (Fig. 60/PL. 3-8)

F・G-11・12区画で検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。棺体の方位角087°, 埋置角はほぼ水平。墓壇底面の標高6.3m。粘土帯・粘土床はない。上面をかなり削平されているが、本来の墓壇平面は1.4m×1.0mのやや不整な隅丸長方形をなすと考え。棺体A・Cは胴部上位に山形突帯を、BはM字形突帯を有し、Aの底部は上げ底状、Cは凹レンズ状をなす。

SJ146 (Fig. 60/PL. 7-5)

E-16区画で検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。棺体の方位角087°, 埋置角はほぼ水平。墓壇底面の標高6.3m。粘土帯・粘土床はない。上面を削平されているが、本来の墓壇平面は1.6m×1.0mの不整な隅丸長方形をなすと考え。墓壇主軸と棺体主軸はずれている。棺体A・B・Cとも胴部上位に一条の山形突帯を有し、Aの底部は凹レンズ状、Cは上げ底状をなす。

SJ148 (Fig. 61)

E-16区画で検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。棺体の方位角105°, 埋置角-08°。墓壇底面の標高6.4m。粘土帯はあるが、粘土床はない。二重墓壇を有し、上面を削平されているが本来の墓壇平面は1.1m×0.7mほどの不整な隅丸長方形をなすと考え。棺体A・B・Cとも胴部上位に一条の山形突帯を有し、A・Cの底部は上げ底状をなす。

SJ258 (Fig. 61/PL. 8-9)

G-8・9区画で検出した。SJ256と切り合い関係にあり、SJ258が先行する。墓壇・棺体の西

1. 土器棺墓

側を攪乱で破壊されている。棺体の方位角 084° 、埋置角はほぼ水平。墓壇底面の標高 6.2m 。粘土帯は不明だが、棺体の下に粘土床を有する。墓壇平面は 0.9m 以上 $\times 0.7\text{m}$ の隅丸長方形をなすとする。棺体A・B・Cとも胴部上位に山形突帯を有し、Cの底部は上げ底状をなす。

SJ262 (Fig. 61/PL. 9-1)

H-8区画で検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。棺体の方位角 077° 、埋置角はほぼ水平。墓壇底面の標高 6.3m 。粘土帯・粘土床はない。上面をかなり削平されているが、本来の墓壇平面は 1.1m 以上 $\times 0.7\text{m}$ ほどの胴張りな隅丸長方形か卵形をなすものか。棺体Bには口縁部と底部を打ち欠いた壺が用いられ、胴部に一条の山形突帯を有する。棺体A・Cは胴部上位に一条の山形突帯を有し、Cの底部は上げ底状をなす。

SJ264 (Fig. 61/PL. 15-8)

H-5区画で検出した。他の土器棺墓との切り合い関係はない。棺体の方位角 257° 、埋置角はほぼ水平。墓壇底面の標高 6.2m 。粘土帯・粘土床はない。上面を削平されているが、本来の墓壇平面は $1.1\text{m} \times 0.6\text{m}$ の不整な隅丸長方形をなすとする。棺体A・Cは胴部上位に一条の山形突帯を有し、Aの底部は上げ底状をなす。

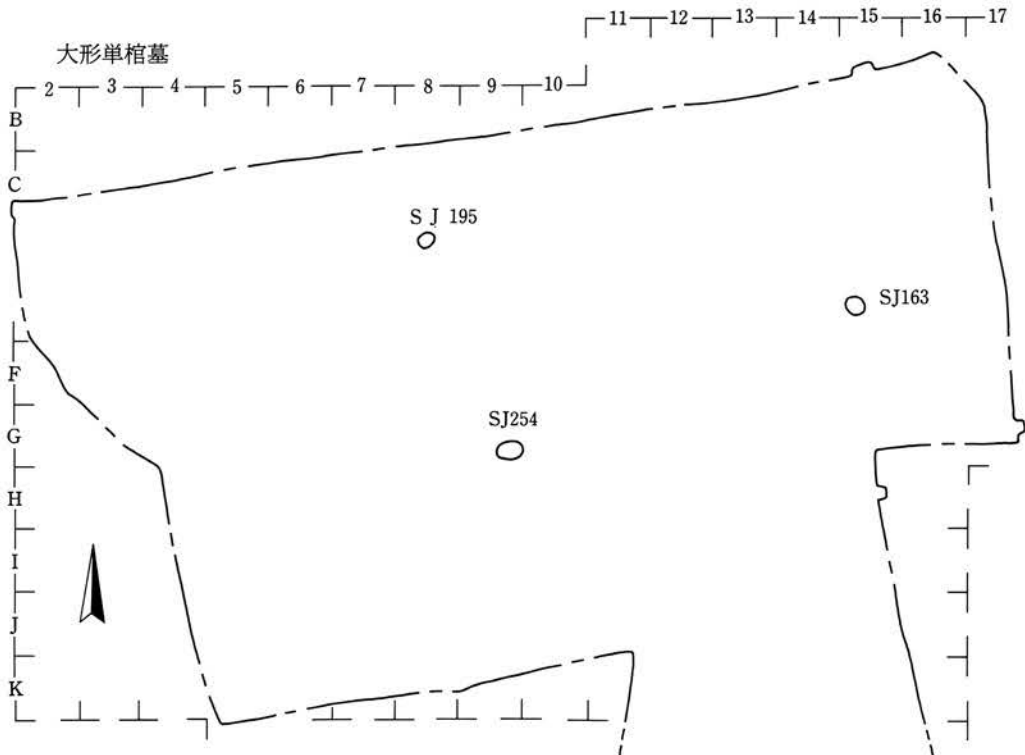


Fig. 62 大形単棺墓分布状況 (1/600)

IV. 調査の記録—弥生時代遺跡—

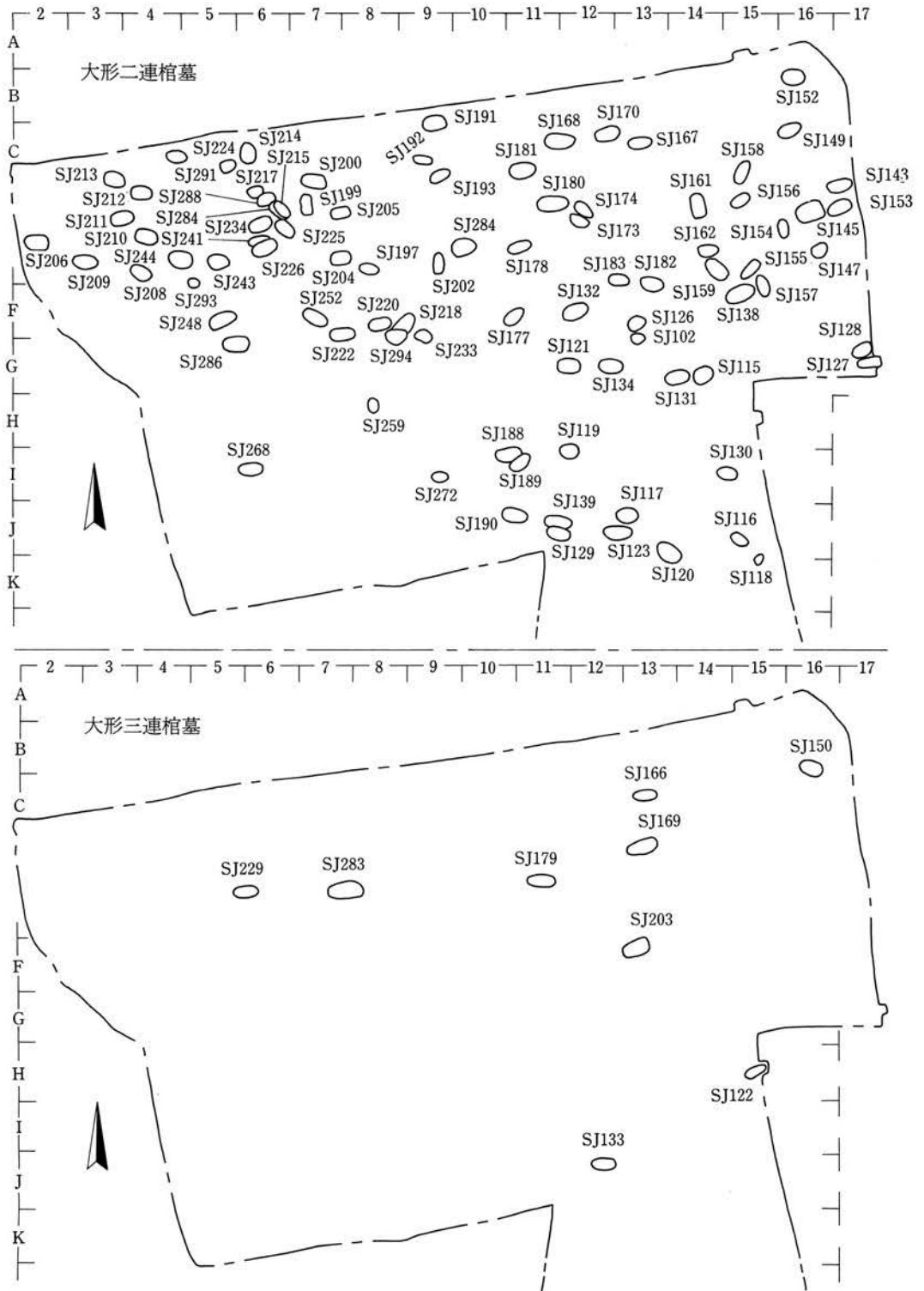


Fig. 63 大形二連棺墓・大形三連棺墓分布状況 (1/600)

1. 土器棺墓

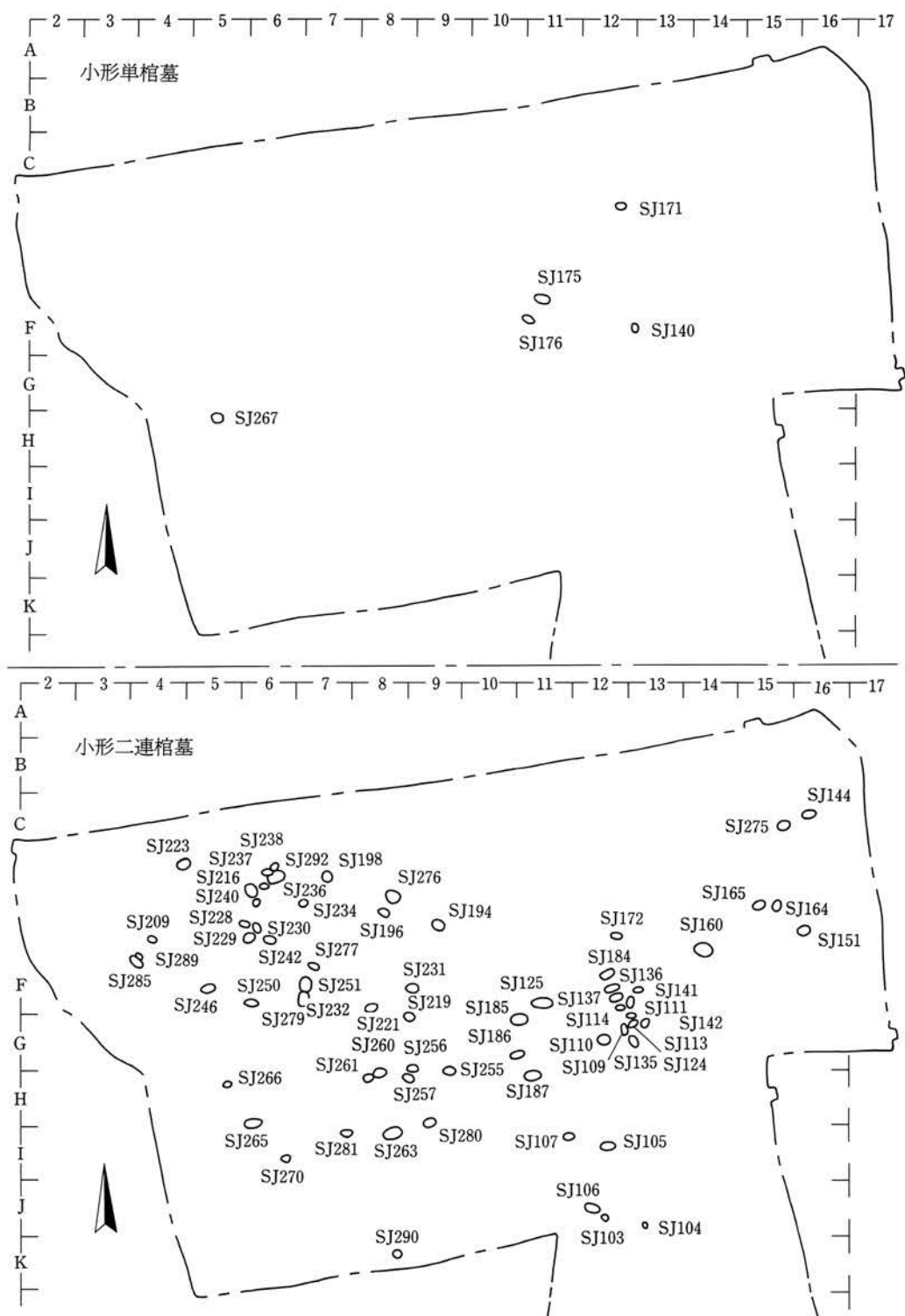


Fig. 64 小形单棺墓・小形二连棺墓分布状况 (1/600)

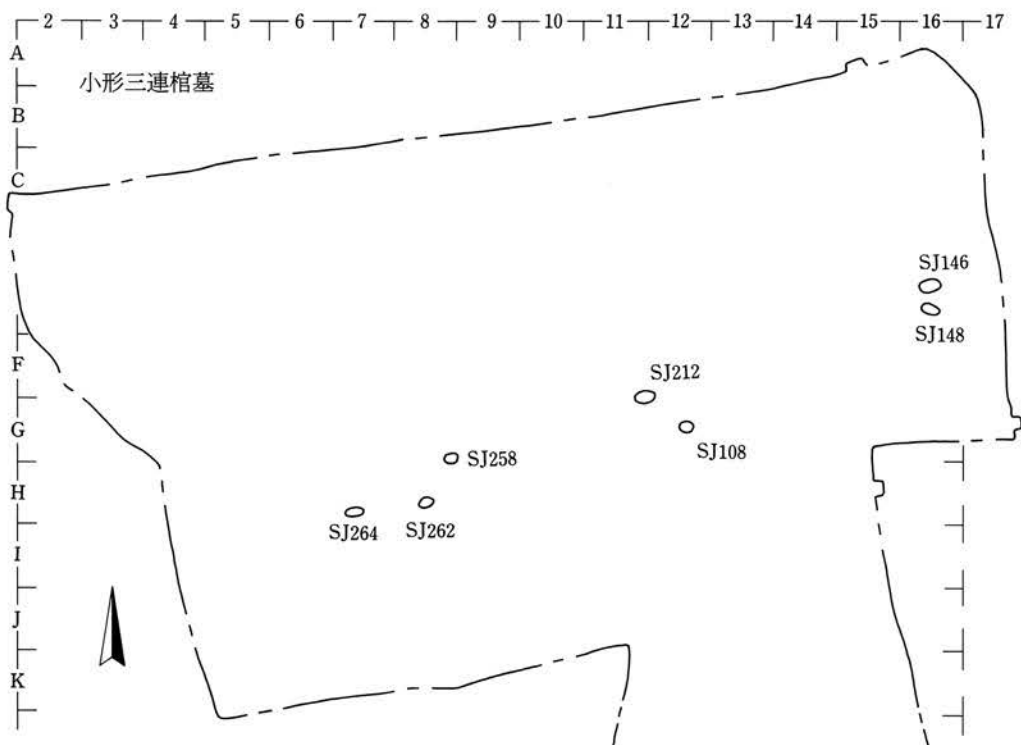


Fig. 65 小形三連棺墓分布状況 (1/600)

(7) 棺体

土器棺墓の棺体のうち、残存状況がよく特徴的なものについて、以下に記述する。

大形単棺墓 (Fig. 66-1)

1は、筑紫平野から佐賀平野にかけて存在するいわゆる〈金海くずれ〉といわれるもので、口縁部直下で径がしまる印象があるのは佐賀平野西部での特徴である。いわゆる城之越(型)式期に並行し、弥生時代II期前半に位置する。

大形二連棺墓 (Fig. 66-2～Fig. 69-16)

大形二連棺墓と分類した92基の棺体の組合せは、棺体A・Bに大形埋葬専用土器を用いたものが85基、埋葬専用土器(棺体A)と大形の鉢形土器(棺体B)の組合せが1基、埋葬専用土器(棺体A)と大形の壺形土器(棺体B)の組合せが1基、棺体Aが埋葬専用土器で棺体Bが不明なもの5基である。

2は、佐賀平野では珍しくいわゆる城之越式の標準的な特徴を示す。5・6・8・9・10・13は典型的な金海くずれで、口縁外端の刻み目、胴部上中位の横沈線やその間の縦沈線といった弥生時代I期後半のいわゆる金海(型)式(KIc式[橋口1979])以来の古い様相を残すが、口縁部は内傾するL字形口縁の上方や内側に粘土を貼りつけたものが多く、前述したようにいわゆる城之越式(KIIa式)に並行する段階とみたほうがいい。3・7・10・11は、金海くず

1. 土器棺墓

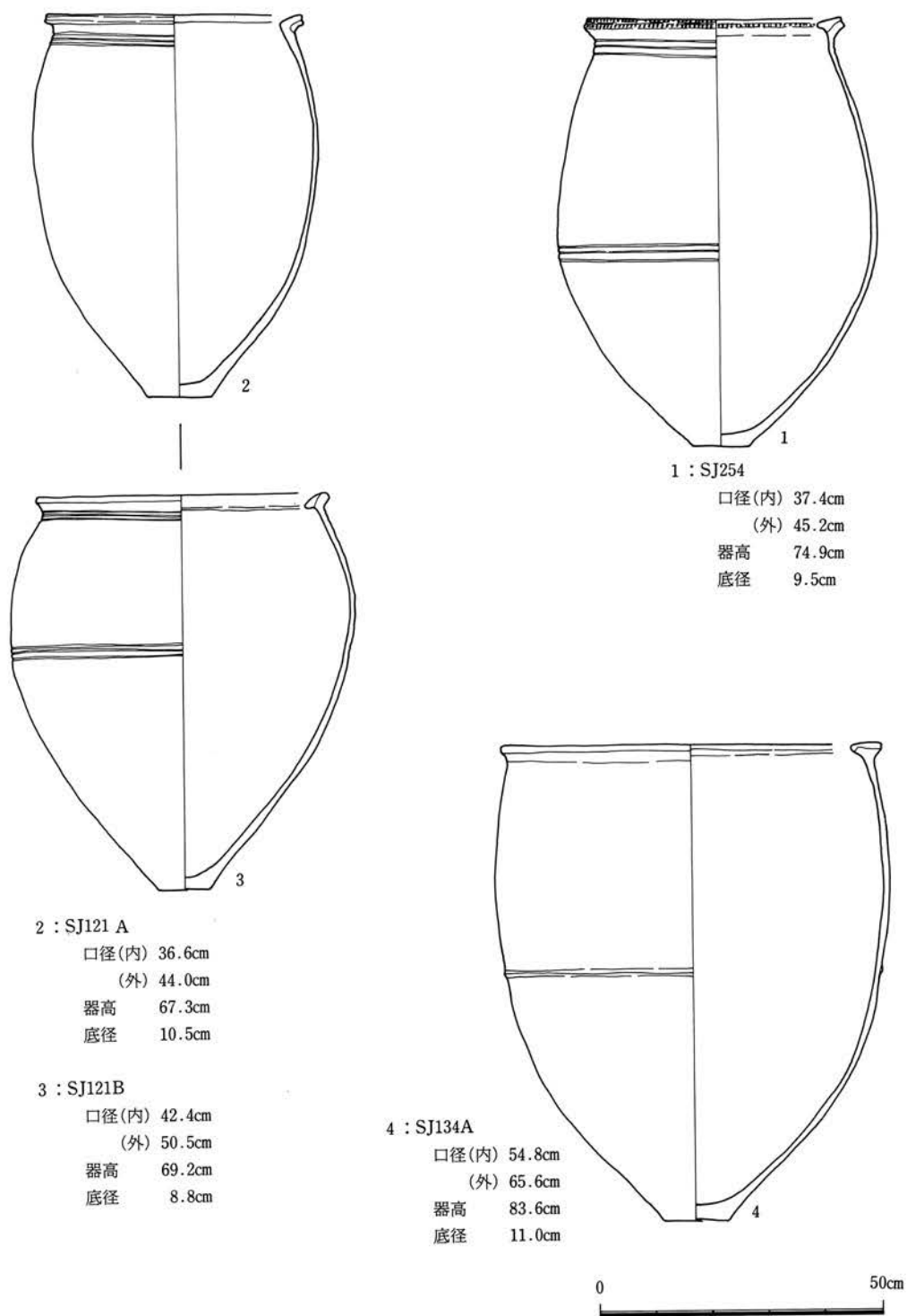


Fig. 66 大形单棺墓・二連棺墓棺体 (1/12)

IV. 調査の記録—弥生時代遺跡—

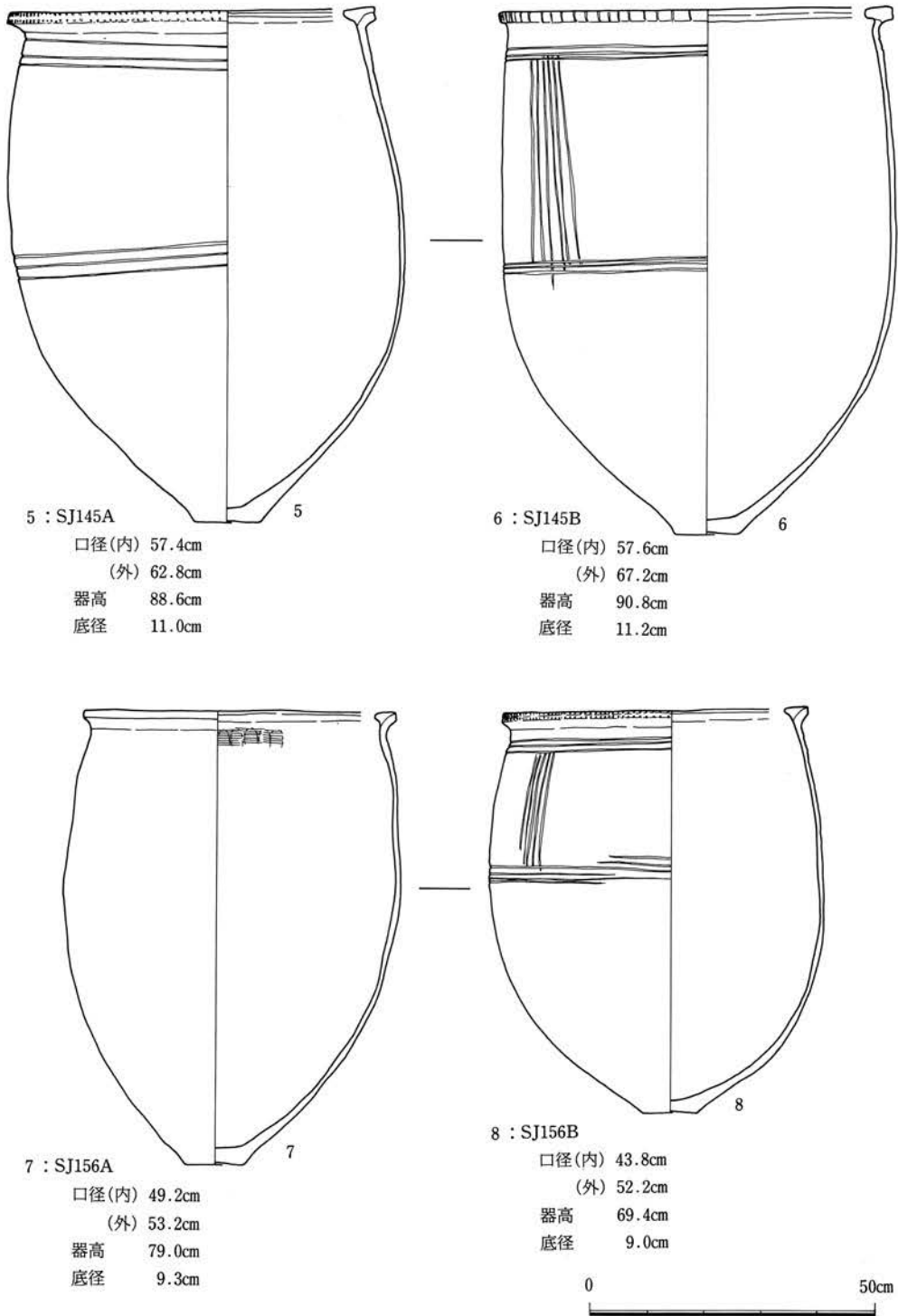


Fig.67 大形二連棺墓棺体1 (1/12)

1. 土器棺墓

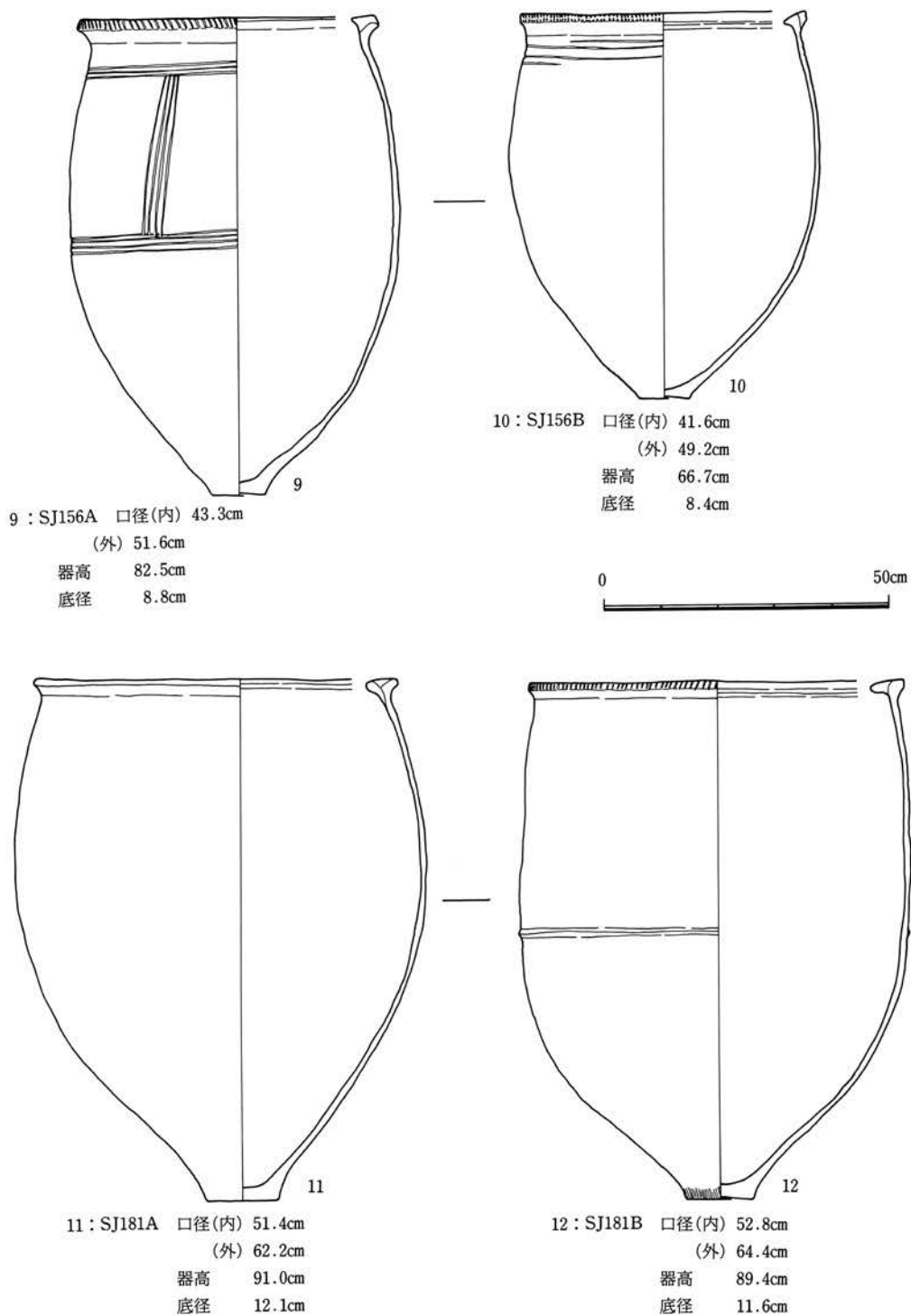
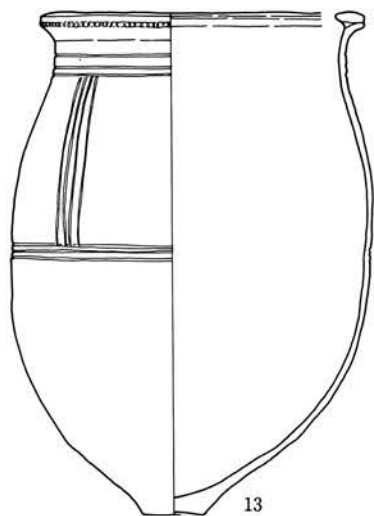
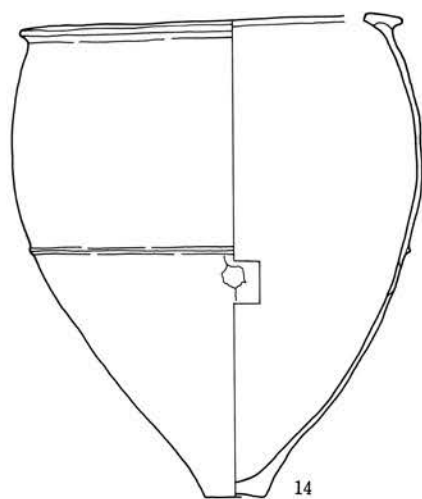


Fig. 68 大形二連棺墓棺体 2 (1/12)

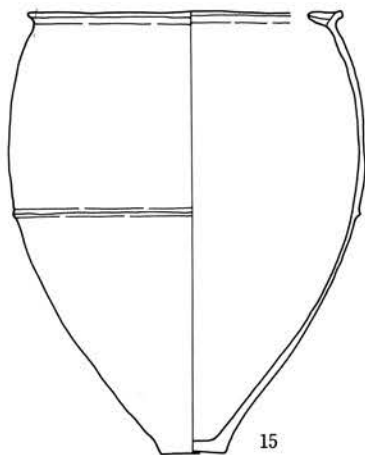
IV. 調査の記録—弥生時代遺跡—



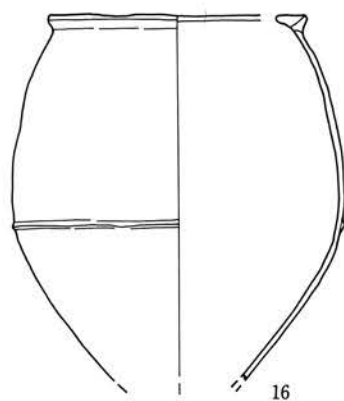
13 : SJ191A 口径(内) 42.0cm
 (外) 50.0cm
 器高 78.6cm
 底径 9.6cm



14 : SJ205A 口径(内) 46.2cm
 (外) 59.4cm
 器高 75.0cm
 底径 9.0cm



15 : SJ217A 口径(内) 38.0cm
 (外) 48.4cm
 器高 69.2cm
 底径 10.0cm



16 : SJ217B 口径(内) 30.4cm
 (外) 40.2cm
 器高 —
 底径 —



Fig.69 大形二連棺墓棺体3 (1/12)

1. 土器棺墓

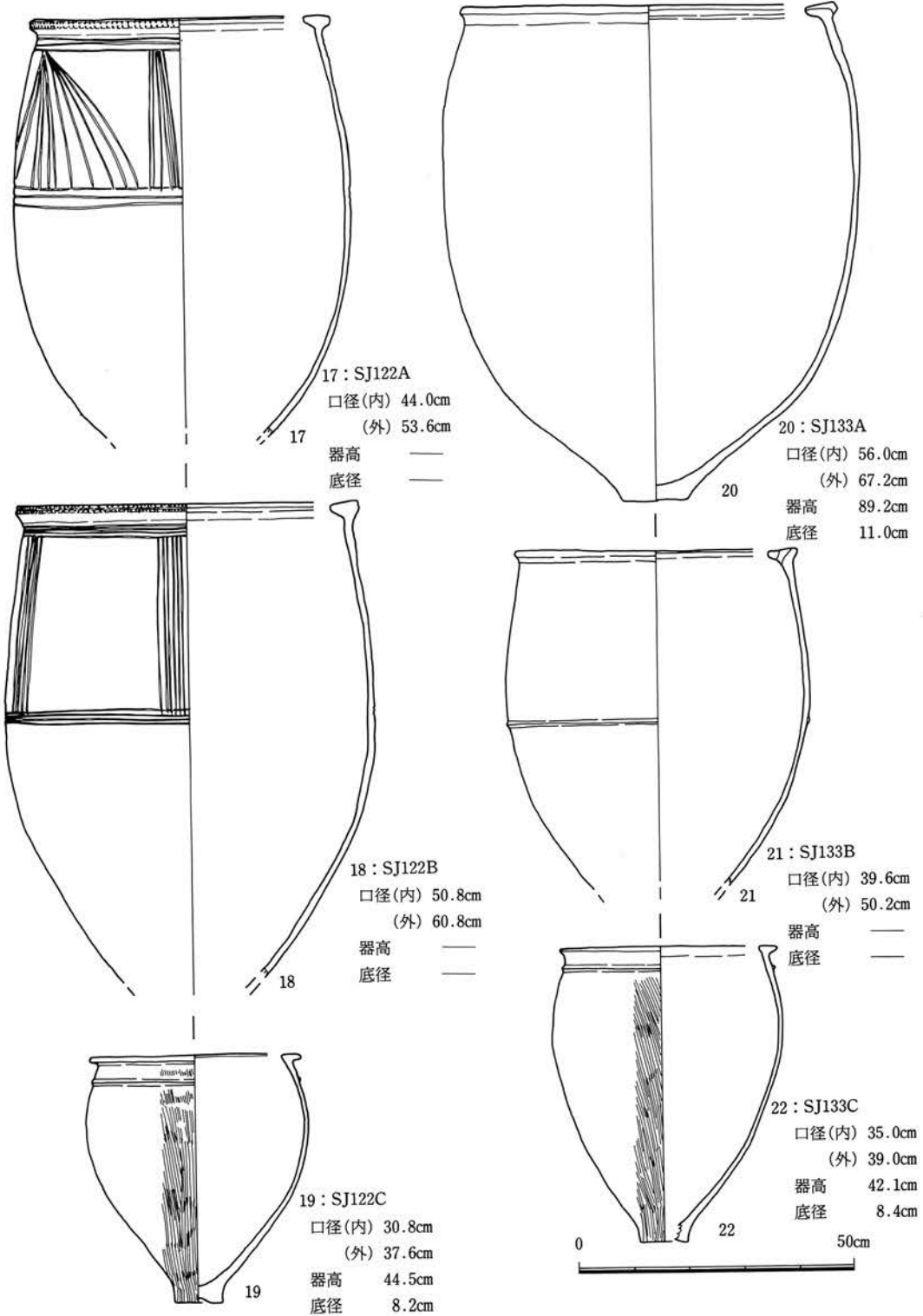


Fig. 70 大形三連棺墓棺体1 (1/12)

IV. 調査の記録—弥生時代遺跡—

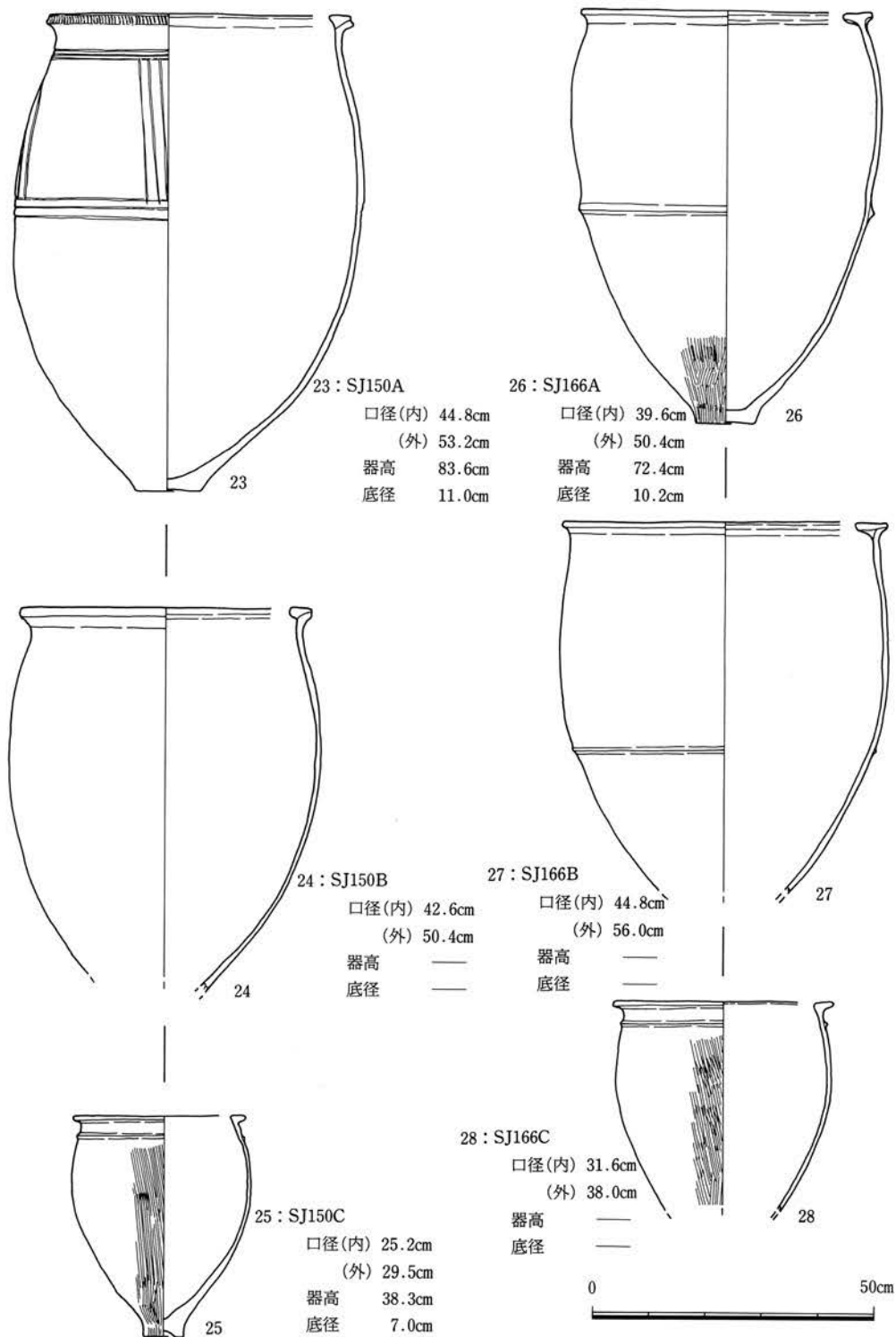


Fig. 71 大形三連棺墓体 2 (1/12)

1. 土器棺墓

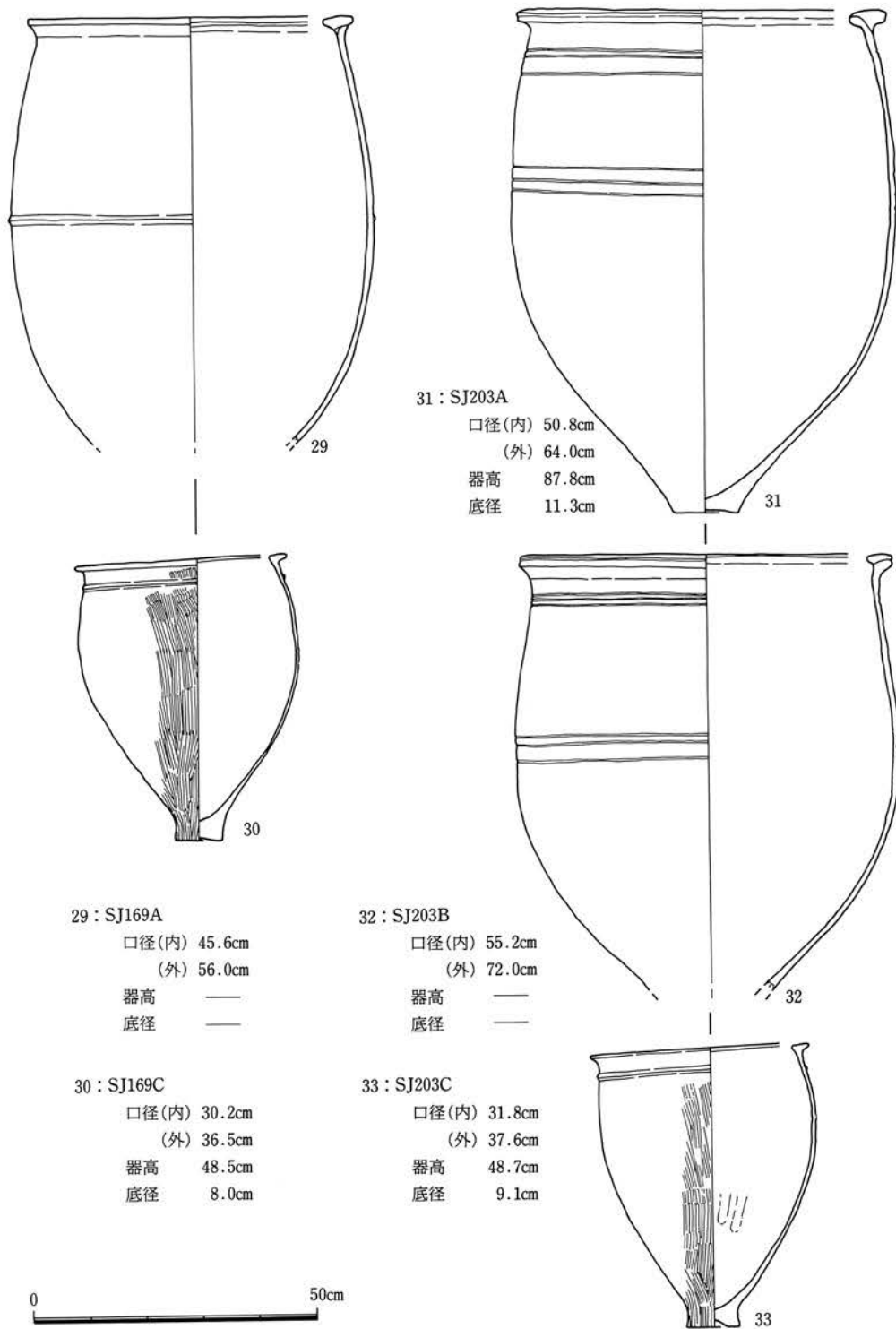


Fig. 72 大形三連棺墓棺体 3 (1/12)

IV. 調査の記録——弥生時代遺跡——

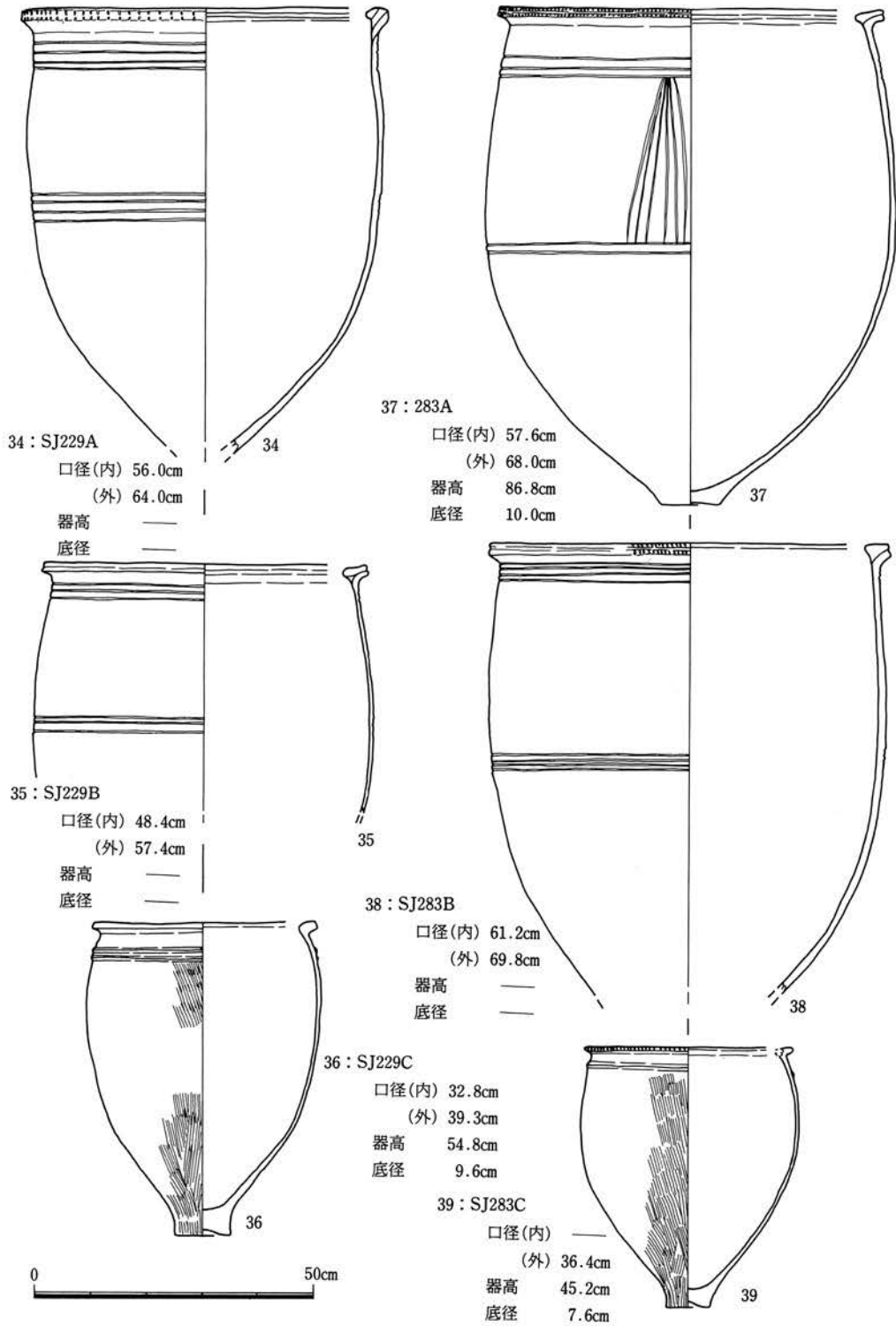


Fig.73 大形三連棺墓棺体4 (1/12)

1. 土器棺墓

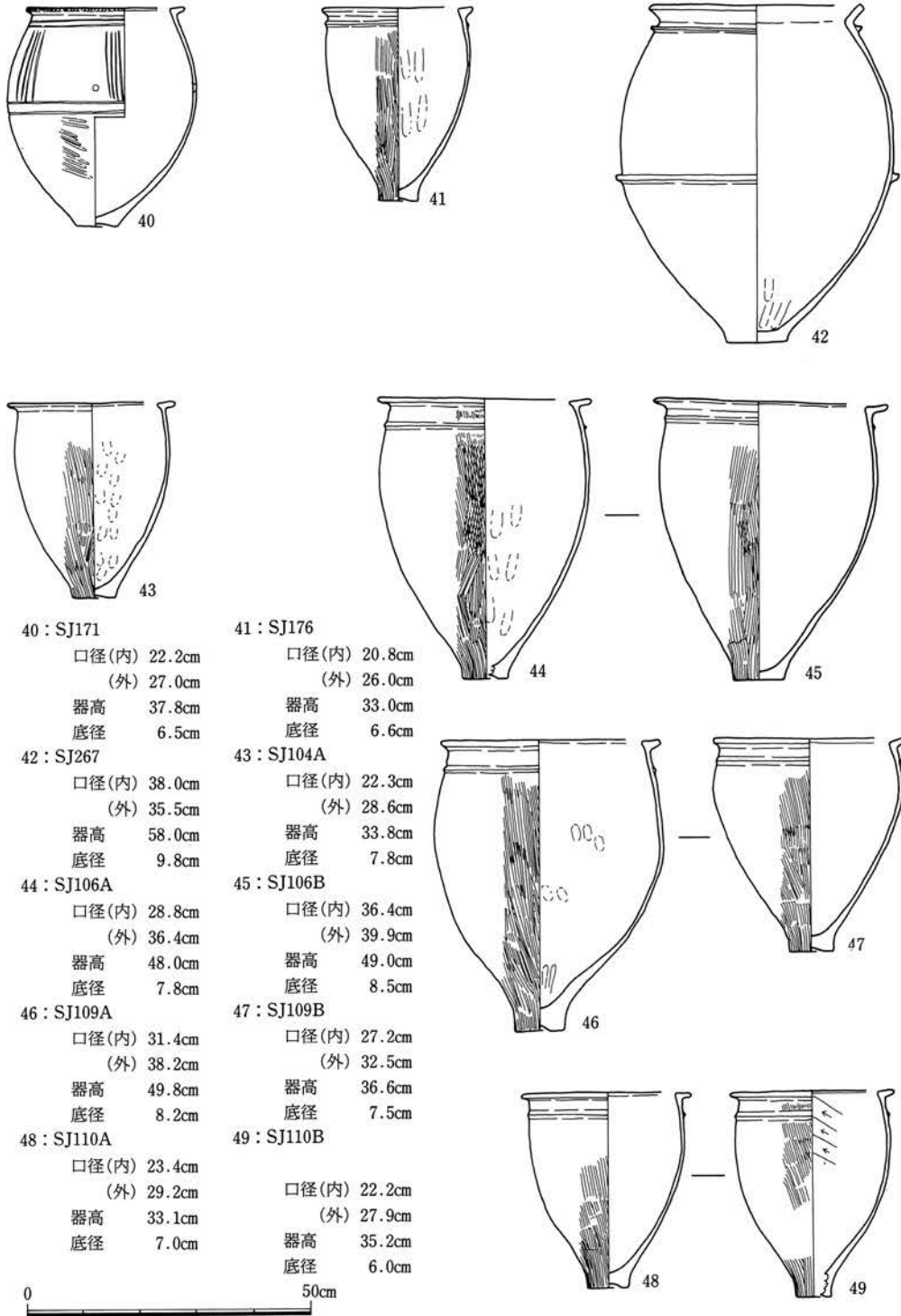


Fig. 74 小形单棺墓・二連棺墓棺体 (1/12)

IV. 調査の記録——弥生時代遺跡——

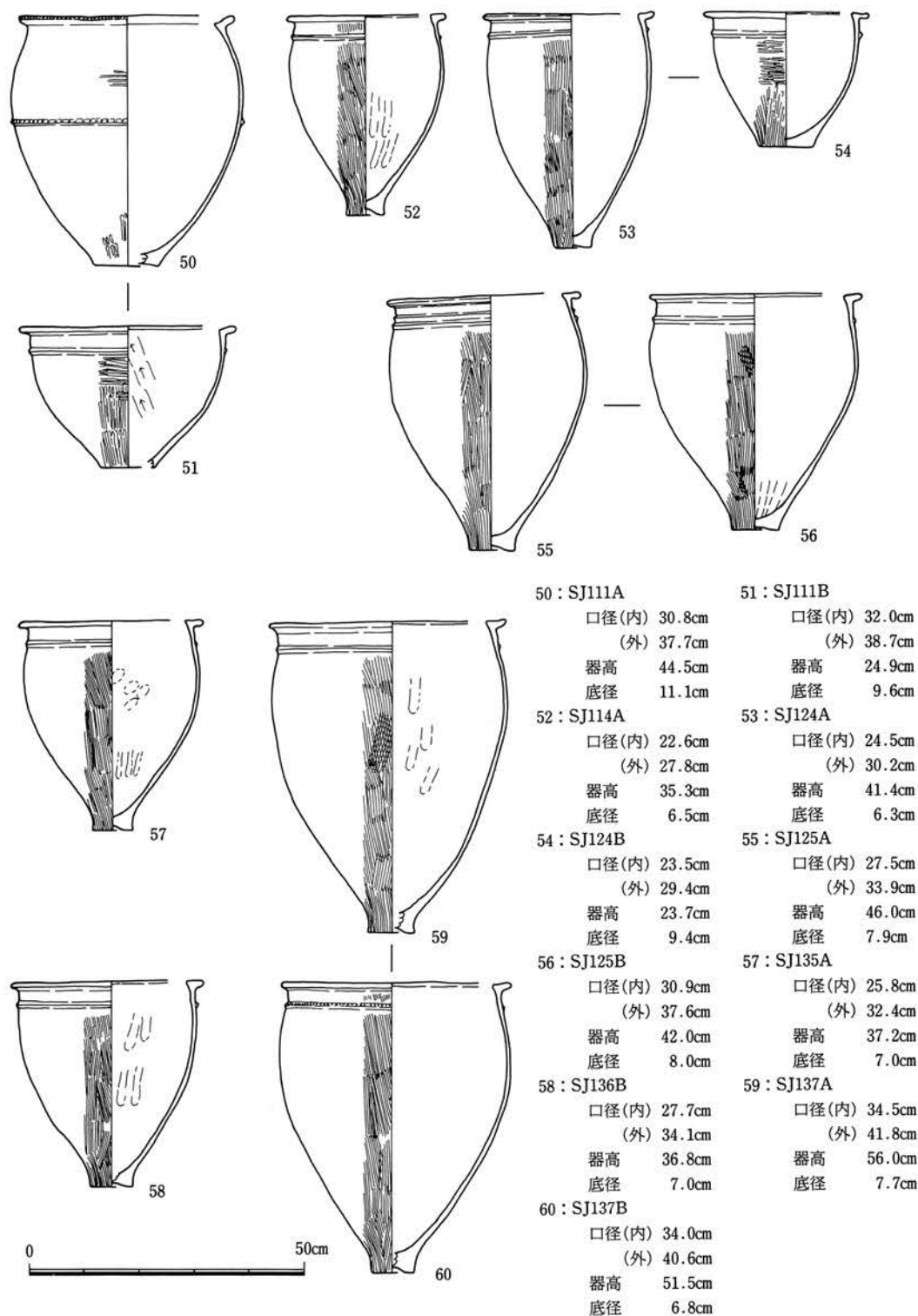


Fig. 75 小形二連棺墓棺体 1 (1/12)

1. 土器棺墓

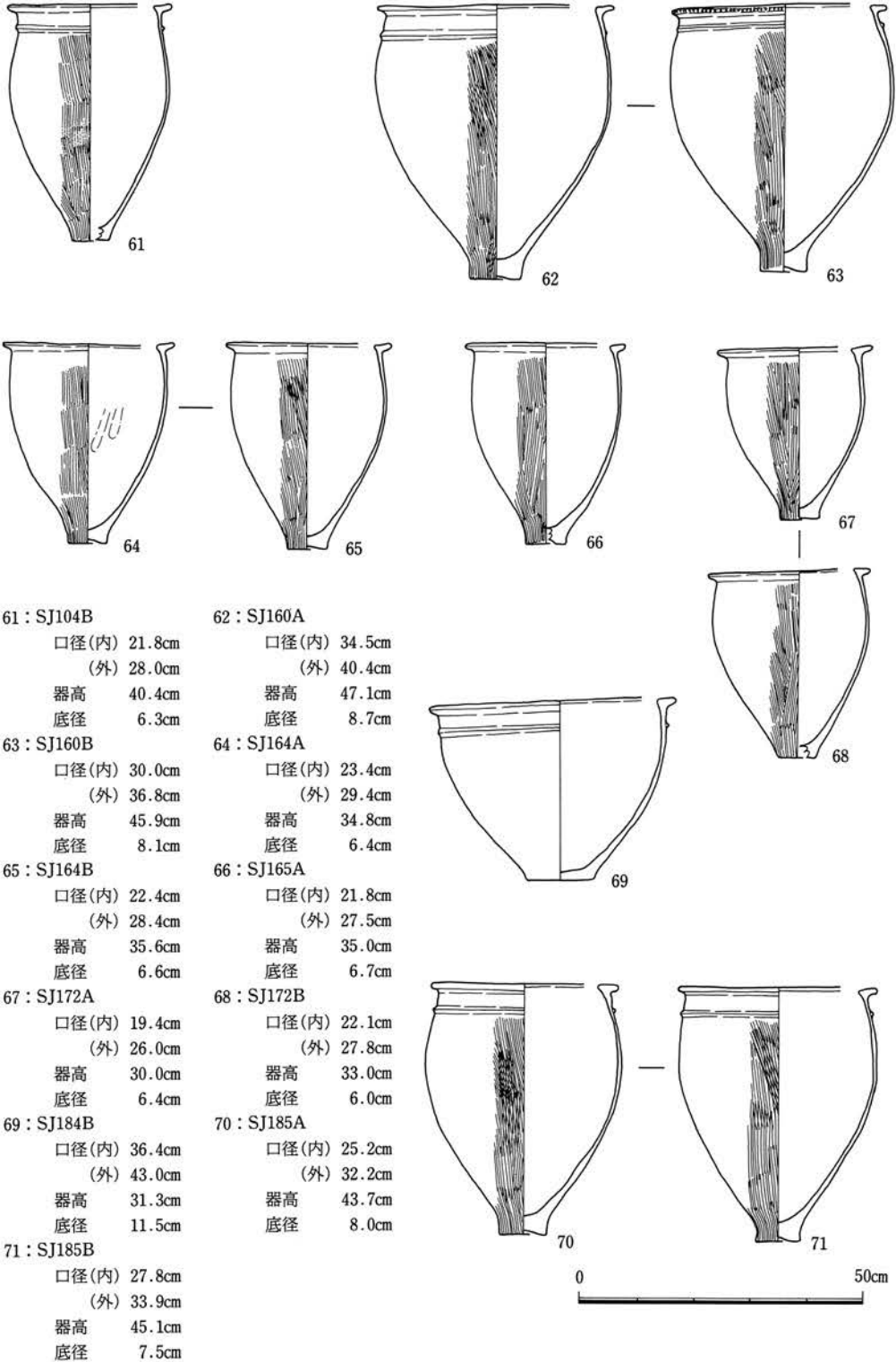


Fig. 76 小形二連棺墓棺体 2 (1/12)

IV. 調査の記録——弥生時代遺跡——

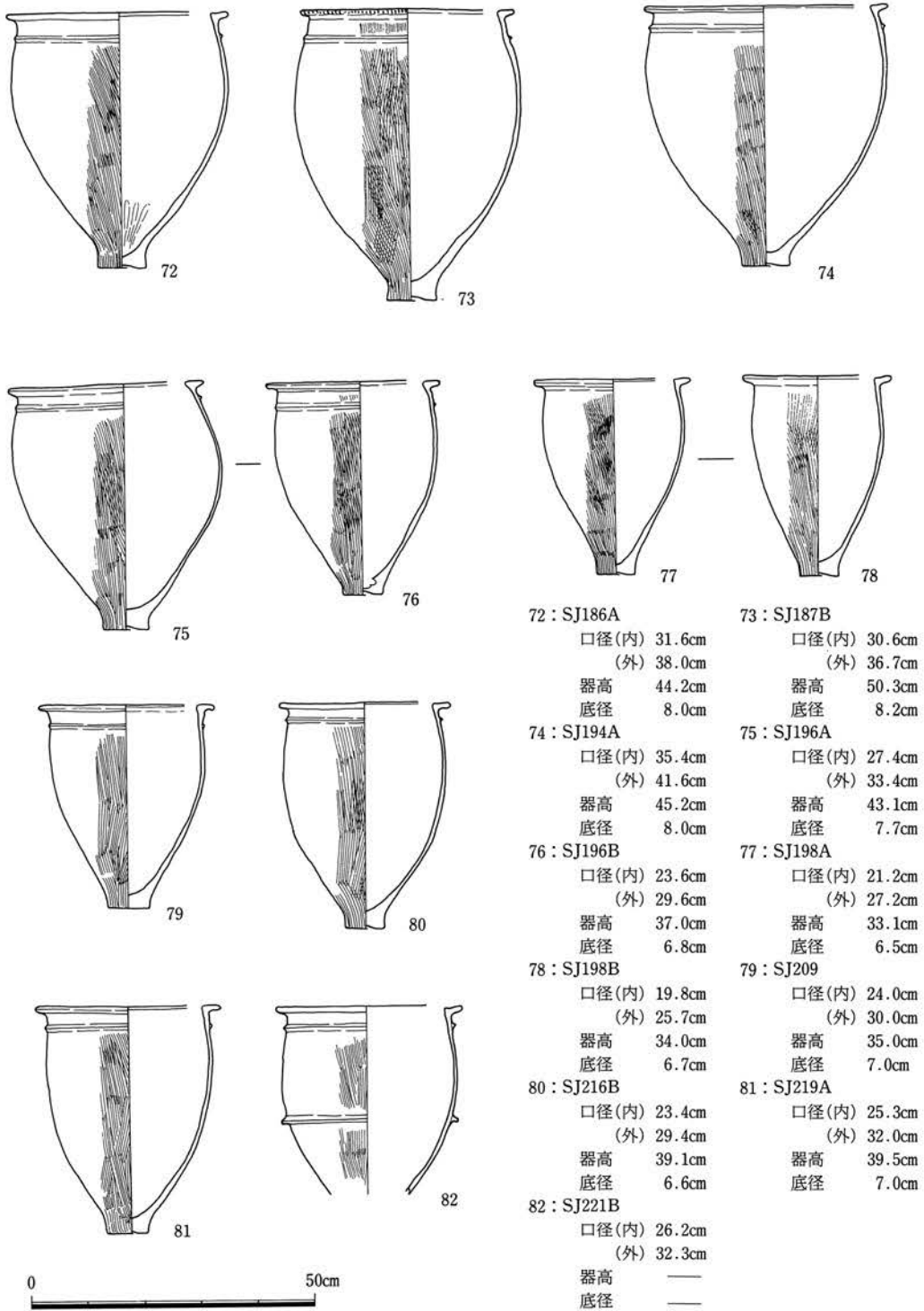


Fig. 77 小形二連棺墓棺体3 (1/12)

1. 土器棺墓

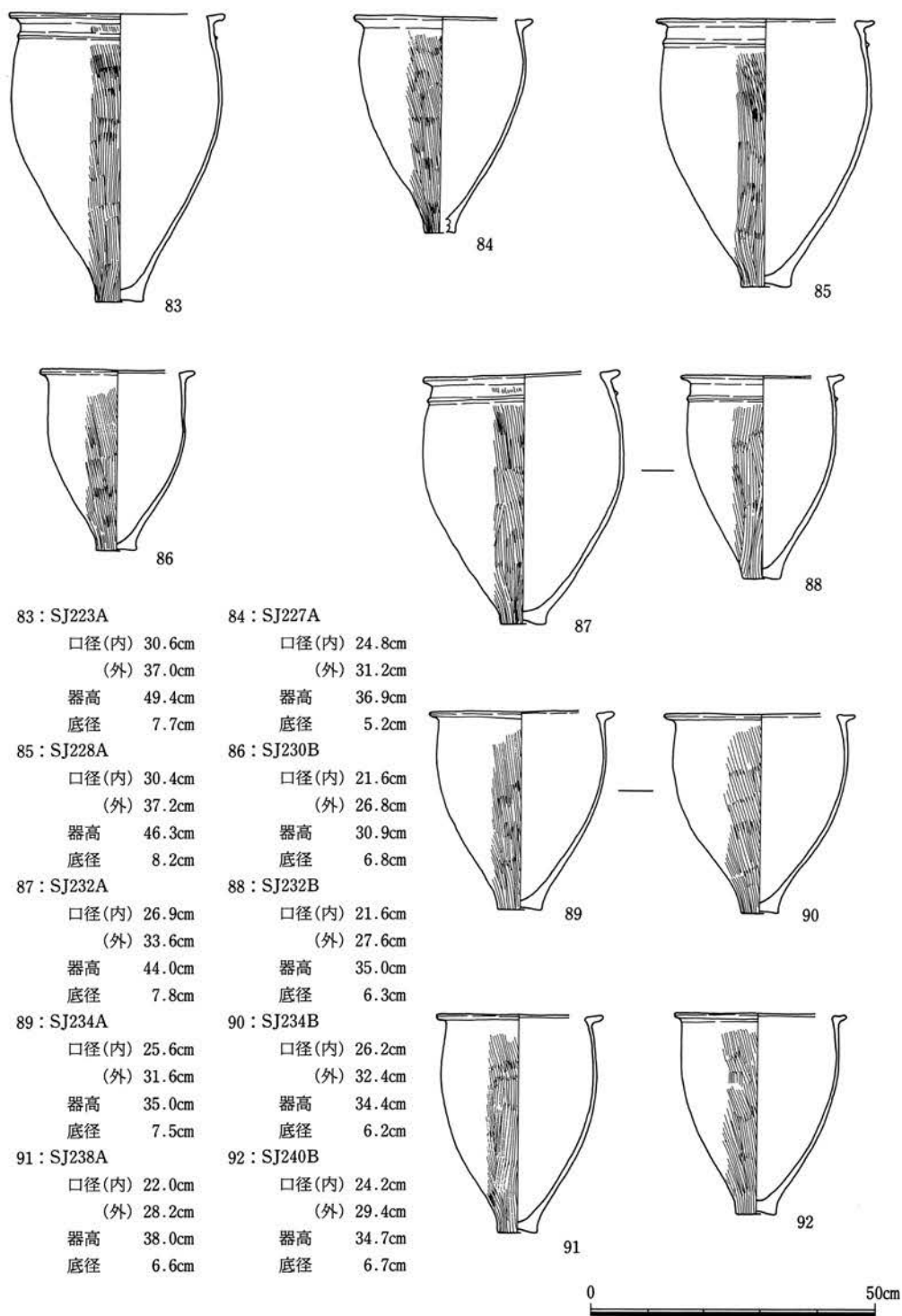


Fig. 78 小形二連棺墓棺体 4 (1/12)

IV. 調査の記録—弥生時代遺跡—

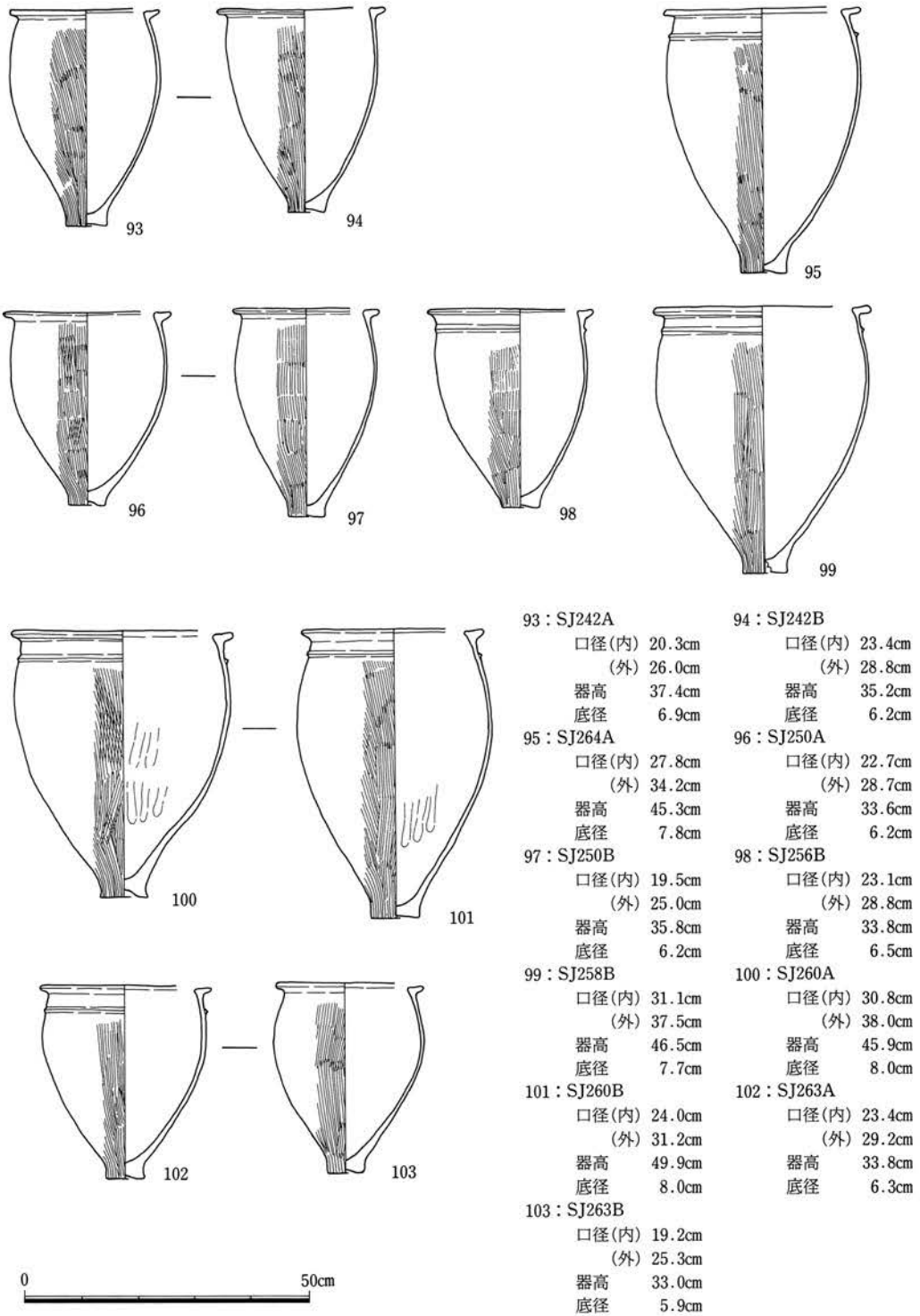


Fig. 79 小形二連棺墓棺体 5 (1/12)

1. 土器棺墓

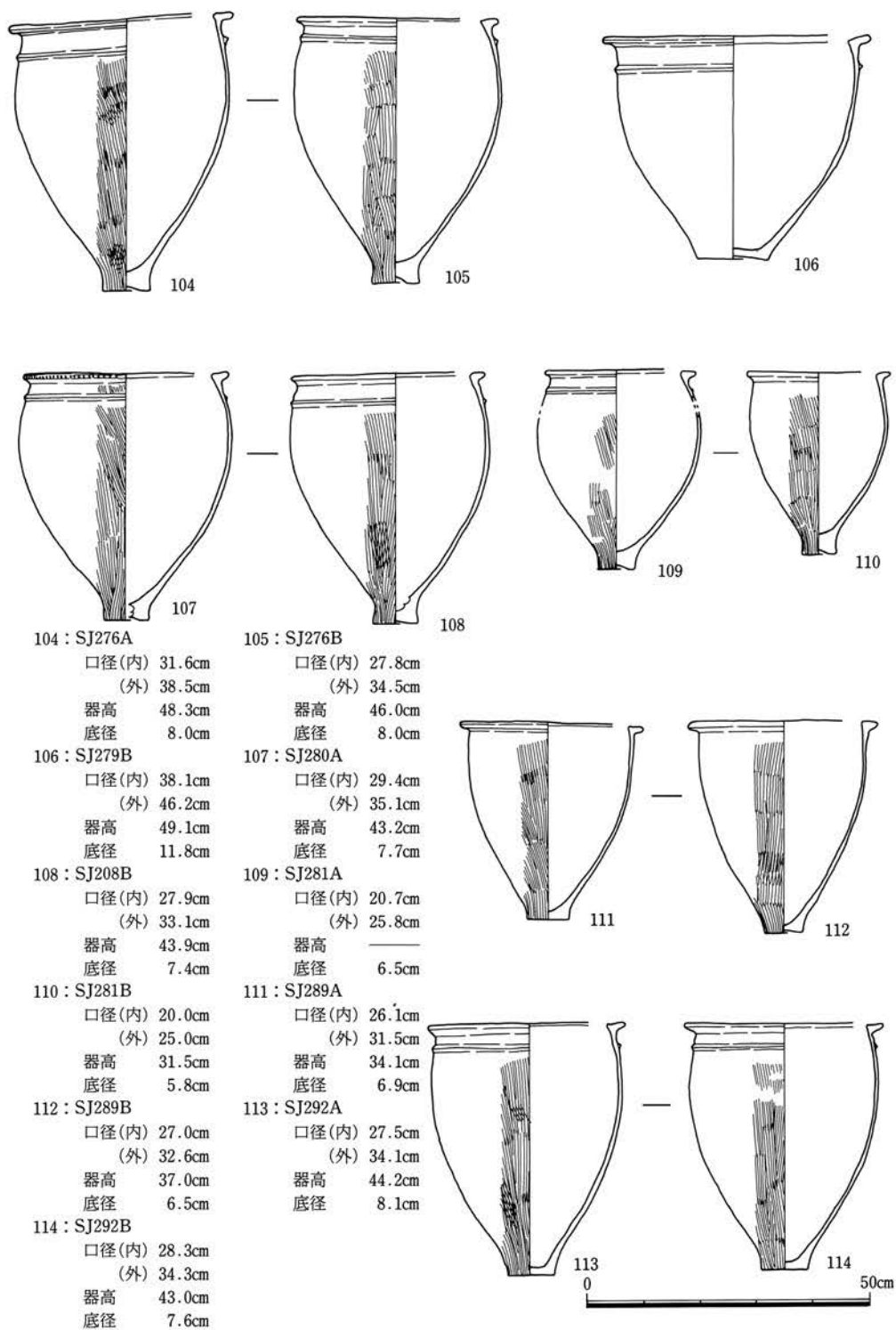


Fig. 80 小形二連棺墓棺体 6 (1/12)

IV. 調査の記録—弥生時代遺跡—

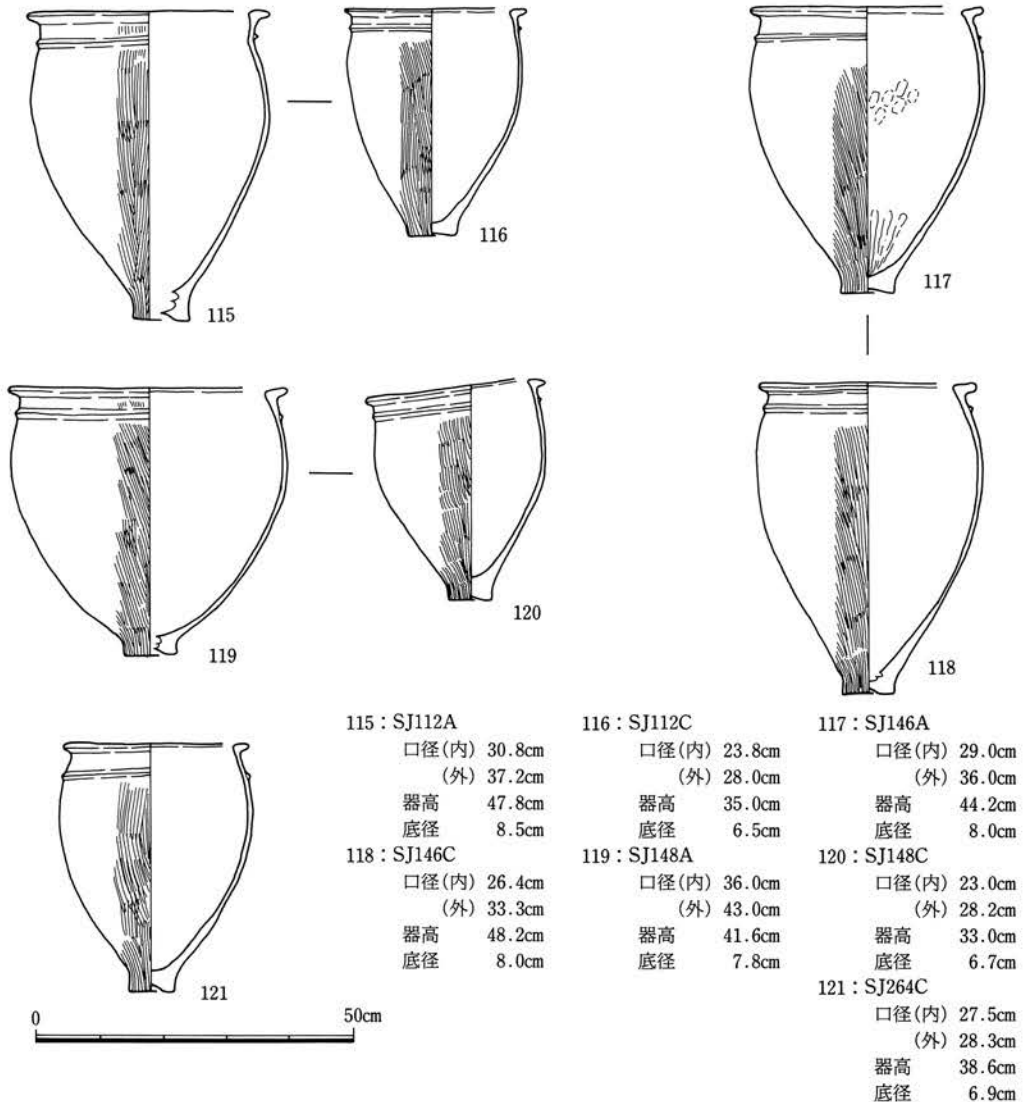


Fig. 81 小形三連棺墓棺体 (1/12)

れと城之越式の間中間的な特徴を備える。12は、口縁外端の刻み目以外はいわゆる汲田式 (K II b 式) の特徴を備えている。4・14・15・16は、いわゆる汲田 (型) 式 (K II b・K II c 式) で、弥生時代 II 期後半に位置する。

大形三連棺墓 (Fig. 70-17~Fig. 73-39)

大形三連棺墓はどれも棺体 A・B に大形埋葬専用土器を用い、B の底部を打ち欠いて、日常容器と同じ器形の甕を棺体 C とする。津留遺跡 1 区・増田遺跡 3 区の調査成果から考えると、三連棺墓の形態変化の後半の段階にあたる。

17~19・23~25・29~30・31~33・34~36・37~39 の棺体 A・B はいわゆる金海くずれであ

1. 土器棺墓

る。棺体Cは、口縁部は短く厚い内傾するL字形で、口縁部下に一条の山形ないしM字形突帯を有し、最大胴径が上位にある丸みを帯びた胴部をもち、底部は細くしまり上げ底状をなすもので、標準的ではないがいわゆる城之越(様)式に位置付けられる。このセット関係はいわゆる金海くずれが弥生時代II期前半に属することを示す。20~22・26~28の棺体A・Bはいわゆる汲田(型)式である。棺体Cは、いわゆる須玖I(様)式の中でも古い様相を示し、口縁部はやや内傾気味の長く薄いL字形で、口縁部下に一条の山形突帯を有し、最大胴径はやや上位にあるが張りが弱くなった胴部をもち、底部はしまり気味で(他の個体では)上げ底に近い凹レンズ状をなす。弥生時代II期後半のうち、いわゆる汲田式でも古い段階(K II b式 [橋口1979])に属する。

小形単棺墓 (Fig. 74-40~42)

40は、口縁外端に刻み目がある内傾する短く厚いL字形口縁部で、最大胴径は中位にあり、底部は浅い凹レンズ状をなす。口縁部下・胴部中位に2本単位の横沈線とその間に4本単位4方向の縦沈線を有し、胴部外面は斜~横方向のヘラミガキが施してある。見慣れない器形で、金海くずれの模倣であるか。同じような口縁部と横沈線が入った破片資料が鍋島本村南遺跡[木島1991]で出土している。42は弥生時代IV期前半の小形埋葬専用土器である。

小形二連棺墓 (Fig. 74-43~Fig. 80-114)

棺体の組合せは69基のうち、棺体A・Bとも甕形土器を用いたもの62基、甕形土器(棺体A)と鉢形土器(棺体B)を用いたものは4基、甕形土器(棺体A)と壺形土器(棺体B)を用いたもの1基、棺体Aが甕形土器で棺体Bが不明なもの2基である。

日常容器の甕と同様の器形のもを、底部の形態を中心として三つに分類した。

甕A類 (46・49・52・55・57・59・60・62・63・66・70・71・72・73・75・84・102・104・105・107・108・109・110) 底部が細くしまり筒形で、底面は厚く上げ底状をなすものを分類した。①：口縁部は短く厚い内傾するL字形、②：口縁部下に一条の山形ないしM字形突帯、③：最大胴径が上位にある丸みを帯びた胴部、といった特徴を有することが標準である。

甕B類 (41・43・44・47・48・53・56・58・64・65・67・74・76・77・78・80・81・85・87・88・89・90・91・92・93・94・95・96・97・98・99・100・101・102・103・) 底部はしまり気味だが径はやや大きくなり、底面がやや厚く凹レンズ状をなすを分類した。①：口縁部はやや内傾気味の外方にのびたL字形、②：口縁部下に一条の山形突帯ないしM字形突帯、③：最大胴径はやや上位にあるが張りが弱くなった胴部、といった特徴を有することが標準であるが、②の突帯がないものも少数ある。

甕C類 (45・61・68・79・83・86・111・112・113・114) 底部のしまりは弱く径が大きくなり、底面は薄く浅い凹レンズ状か平底をなす。①：口縁部はやや内傾気味か水平に外上方ないし外方にのびるL字形、②：最大胴径の張りはないかごく弱い、といった特徴を有するこ

とが標準で、口縁部下の突帯はないものが多くなる。

A類とB類、B類とC類は棺体の共伴関係にあり、ある程度の変化の幅が想定できる。

50は、城之越（型）式大形埋葬専用土器の模倣品と思われ、胴部中位に一条の山形突帯を有し、胴部外面にはヘラミガキを施す。51は、外口径と器高の比が1以下で、鉢と分類する。54・69も鉢である。82は、口縁部下に山形突帯と胴部中位に鐮状突帯を有する見慣れない器形で、埋葬専用土器と思われる。

小形三連棺墓 (Fig. 81-115~121)

7基のうち、棺体A・B・Cとも甕形土器を用いたもの6基、棺体A・Cに甕形土器をBに壺形土器を用いるもの1基である。

前述の甕の分類では、甕A類（115・120・121）と、甕B類（116・117・118・119）がある。A類とB類で棺体を構成することもある。

2. 木棺墓

調査区北側で2基検出したが、副葬品はなく、直接的な年代の根拠に欠ける。現地で土層図をとりそこなったが、埋土の状況などが津留遺跡1区で検出した木棺墓と酷似していたため、木棺墓として分類した。

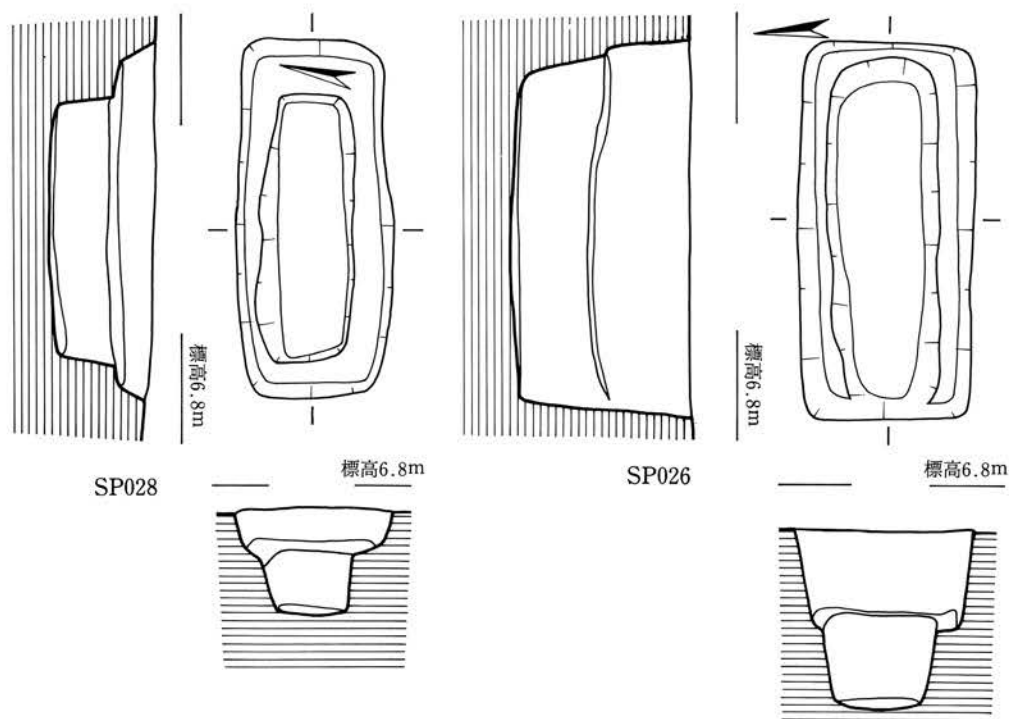


Fig. 82 SP026・027 (1/40)

2. 木棺墓

SP026 (Fig. 82/PL. 17-2)

D-8・9区画で検出した。他の遺構との切り合い関係はない。墓墳の方位角はN-88°-Wを示し、墓墳底面の標高は5.5mをはかる。墓墳の平面は2.0m×0.9mの端正な隅丸長方形をなし、二重墓墳から推定できる木棺の規模は1.7m×0.4mである。

SP028 (Fig. 82/PL. 17-3)

B・C-11区画で検出した。他の遺構との切り合い関係はない。墓墳の方位角はN-77°-Eを示し、墓墳底面の標高は6.1mをはかる。墓墳の平面は1.9m×0.8mの端正な隅丸長方形をなし、二重墓墳から推定できる木棺の規模は1.3m×0.3mである。

3. 竪穴住居

調査区東端で、円形竪穴住居1軒だけを検出した。

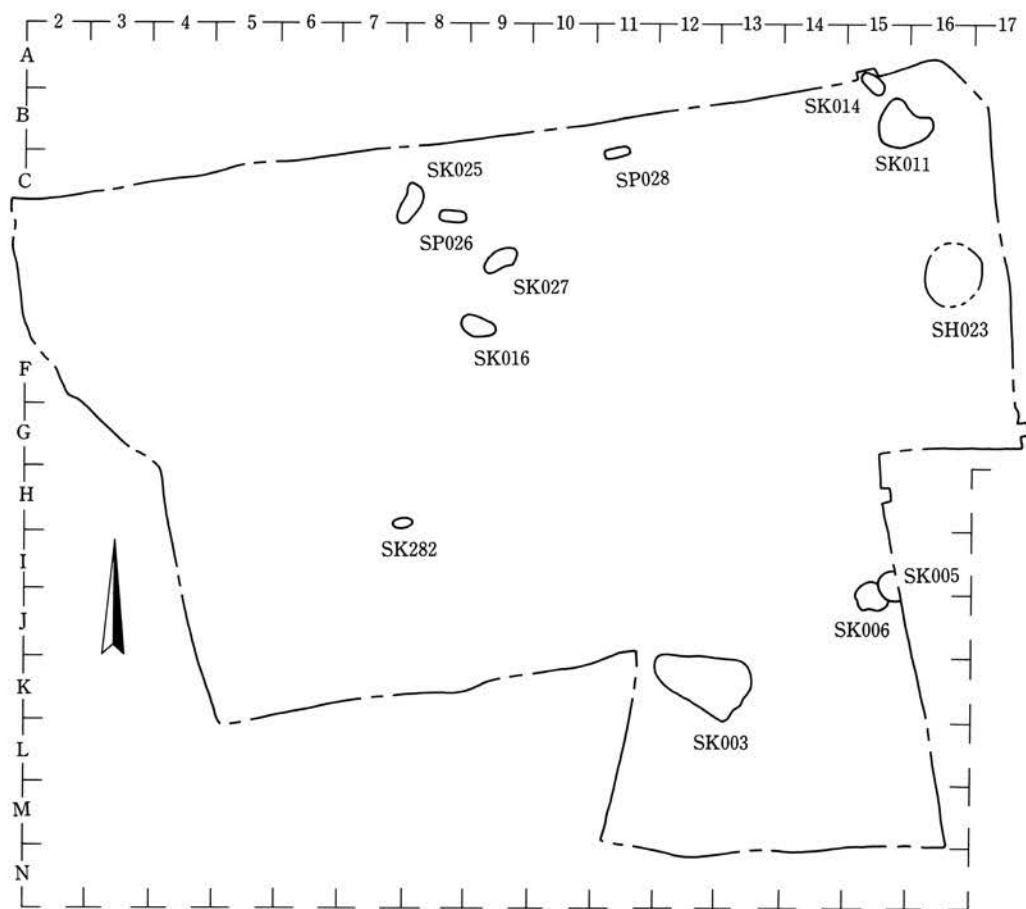


Fig. 83 弥生時代遺構分布状況 (1/600)

IV. 調査の記録—弥生時代遺跡—

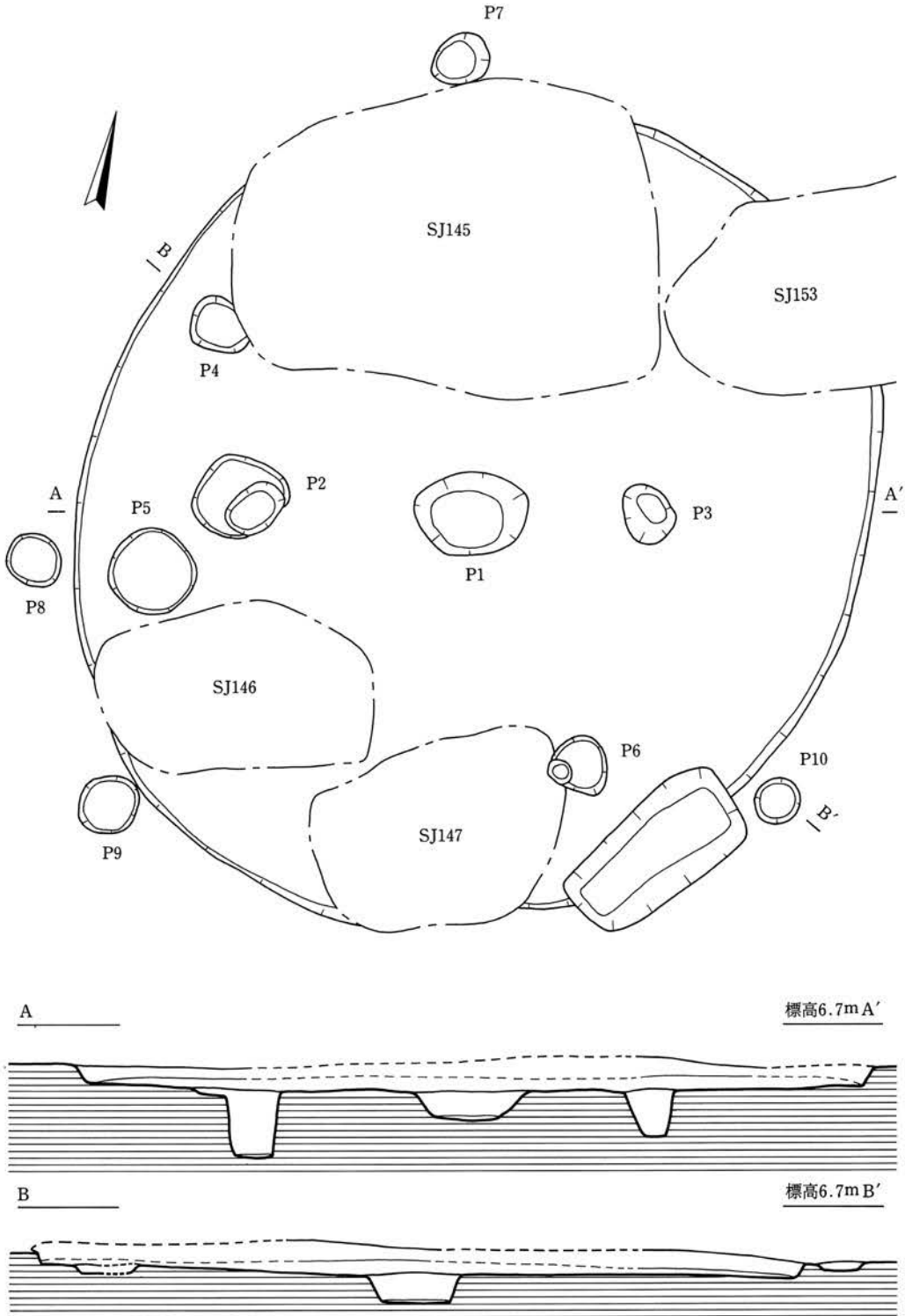


Fig.84 SH023 (1/40)

3. 竪穴住居

SH023 (Fig. 83/PL. 17-5)

D・E-16・17区画で検出した。SJ145・146・147・153と切り合い関係があり、SH023がすべてに先行する。平面は径4.2～5.1mのやや不整な円形をなす。床面の標高は6.4m、残存壁高は10～12cmほどである。埋土は褐色～淡褐色の砂質土の単層で、張床・整地層はなかった。床面で6個の小穴(P1～P6)を検出し、住居と関連がある4個の小穴(P7～P10)を壁の外周で確認した。小穴の埋土は、P1が暗褐色～黒褐色土、そのほかは住居内埋土とほぼ同質である。住居中央に位置するP1は、炉と判断する。P1をはさんで位置するP2・P3は二本の支柱穴で、壁の内周に位置するP4～P6と外周に位置するP7～P10は支柱穴である確率が高い。P4～P6とP7～P10の掘り込みは5～10cmほどで削平と攪乱で消滅していることを考えれば、内周に8個、外周に11～12個の支柱穴の存在が想定できる。住居内埋土からの数点の土器細片以外に出土遺物はなく年代決定の直接的根拠に欠けるが、①：弥生時代II期前半の土器棺墓に切られていること、②：周辺の土器棺墓内の混入遺物に弥生時代I期初頭の突帯文系土器破片があること、から弥生時代I期に属する公算が高いと考える。

4. 土壌と出土遺物

9基を完掘している。いわゆる土器溜の土壌(SK011・014・016)、土器埋納土壌(SK282)、性格不明の土壌(SK003・005・006・025・027)がある。

SK003土壌 (Fig. 85)

J・K-12・13区画で検出した。大形埋葬専用土器の破片が埋土中に多量に含まれていたため、少なくとも1基以上の土器棺墓を破壊していると考えられる。土壌平面は7.5m×2.7～5.0mの不整な略台形状をなす。底面はほぼ平坦で、標高は6.0m前後、北東隅に土壌状の落ち込みがある。複数の小穴に切り込まれているが、上面での切り合いの確認には失敗した。埋土は暗褐色～黒褐色砂質土で、東側の中位～下位でまとまった弥生土器片が出土した。一括投棄によるものと判断する。

SK003出土遺物 (Fig. 86)

7点を図示できる。1はこの地域では見慣れない器形の甕で、口径11.4cm・底径6.5cm、口縁部内外面横ナデ、胴部外面は縦～斜方向のハケ目、内面はナデで指頭痕が残る。2は袋状口縁の壺で、口径17.9cm・器高28.5cm・底径9.0cm、口縁部下に段と一条の山形突帯を有し、胴部に二条の山形突帯を有する。口縁部～頸部外面横ナデ、胴部外面斜方向のハケ目、内面上位はハケ目をナデ消し、下位は剝離により調整不明。3も袋状口縁の壺で、口径22.0cm・器高41.0cm・底径8.8cm、口縁部下に二条の山形突帯と胴部に一条の山形突帯を有する。口縁部～頸部外面横ナデ、胴部外面斜方向のハケ目、内面はナデで指頭痕が残る。4は高杯で、口径20.4cm・器高20.8cm・底径16.8cm、口縁部～杯部内面と脚端部内外面は横ナデ、外面はナデで杯部に一部ハケ目残り、脚部内面ナデ。5も高杯で、口径17.4cm・器高18.5cm・底径14.2cm、口縁部～杯部内

IV. 調査の記録——弥生時代遺跡——

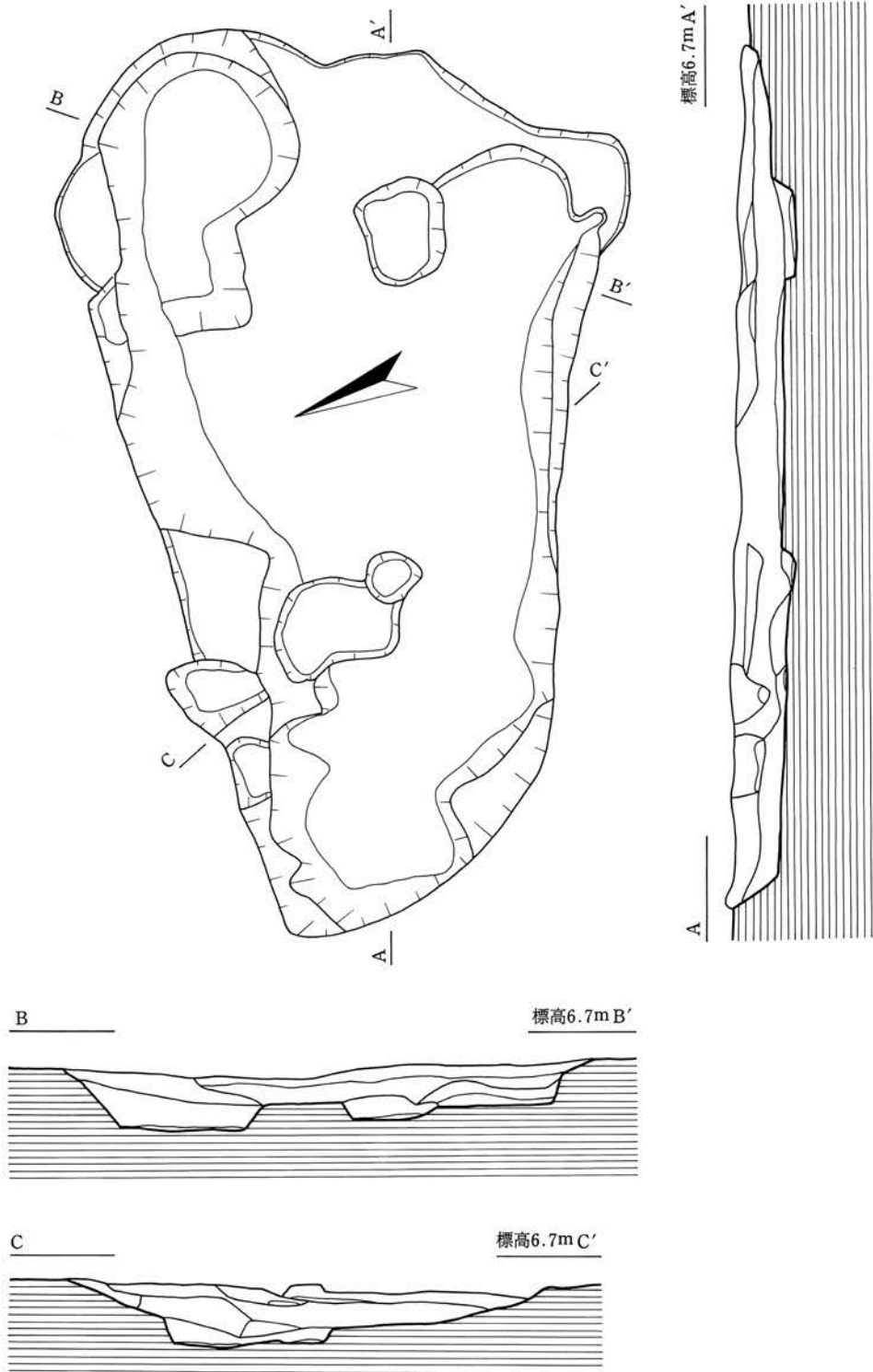


Fig. 85 SK003 (1/60)

4. 土壙と出土遺物

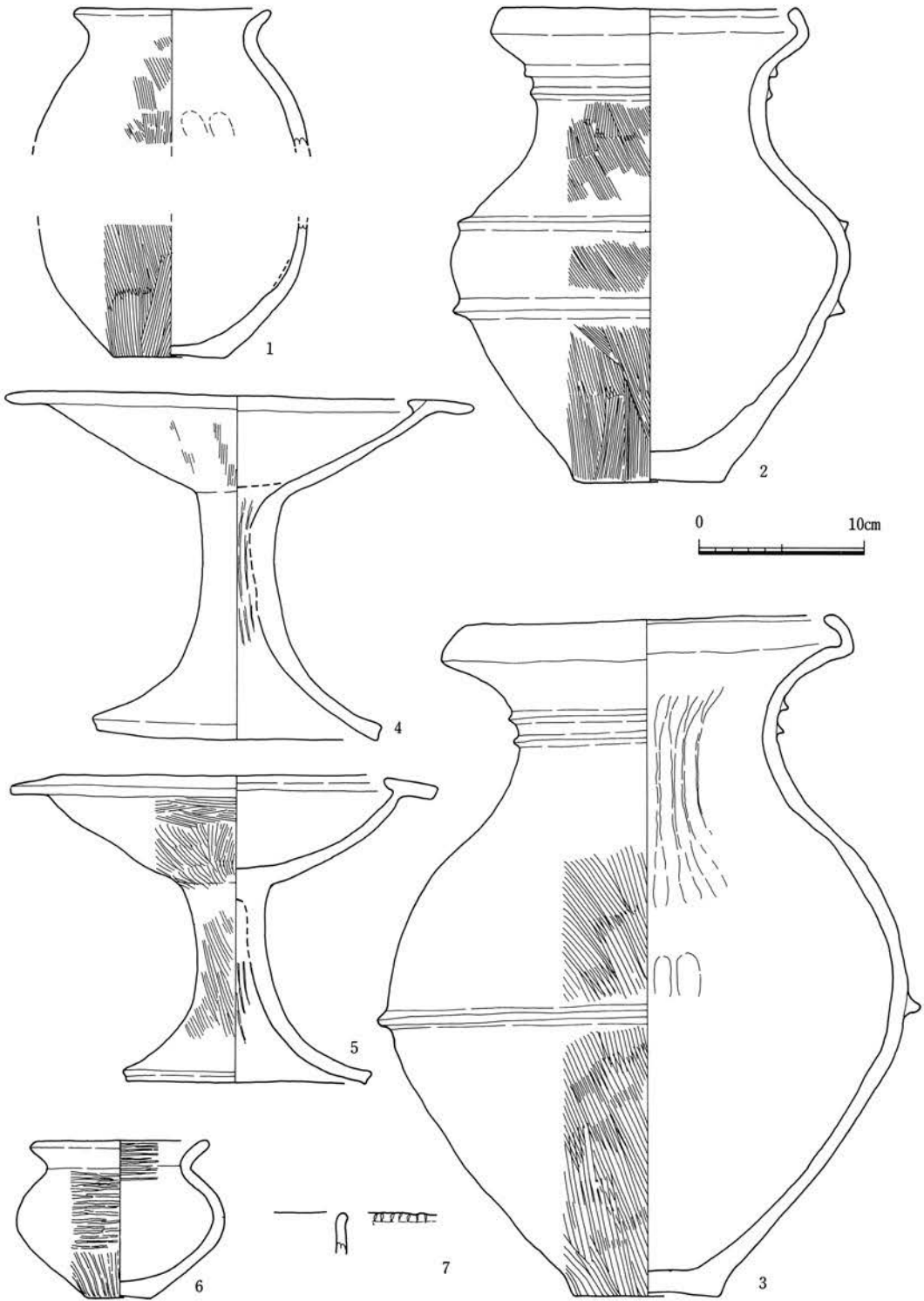


Fig.86 SK003 出土遺物 (1/4)

面と脚端部内外面は横ナデ，斜方向と横方向のハケ目，脚部内面ナデ。6は小形の壺で，復元口径10.2cm・器高9.5cm・底径3.6cm，口縁部外面横ナデ，胴部上位は横方向，下位は縦方向のヘラミガキ，口縁部内面横方向のヘラミガキ，胴部内面ナデ。7は混入している如意形口縁の甕で，外端に刻み目を有し，内外面横ナデ。混入遺物である7以外は，弥生時代III期後半に位置付けられよう。

SK005・006土壌 (Fig. 87)

I・J-15区画で検出した。完掘状況でSK005がSK006を切る形態をなしたが，上面での切り合いの確認には失敗している。SK005の平面は2.5m×1.5m以上の胴張りな隅丸長方形をなすと考えられる。底面はほぼ平坦で，標高は5.8m前後。SK006の平面は2.0～2.3mほどの不整な隅丸方形をなし，底面はほぼ平坦で，標高は5.9m前後である。埋土はともに褐色～暗褐色砂質土で，SK005の埋土上位～中位で弥生土器片が出土した。流れ込みによるものと判断する。

SK005出土遺物 (Fig. 88)

1は高杯の杯部破片で，復元内口径23.0cm，内外面横ナデ。2は高杯の脚部破片で，脚部径14.4cm，脚端部内外面横ナデ，内外面ナデ。3は大形の壺の胴部破片で，外面は横方向のヘラミガキ，内面はナデで指頭痕が残る。4は丹塗り器台の体部破片で，四条の鏢状突帯が確認で

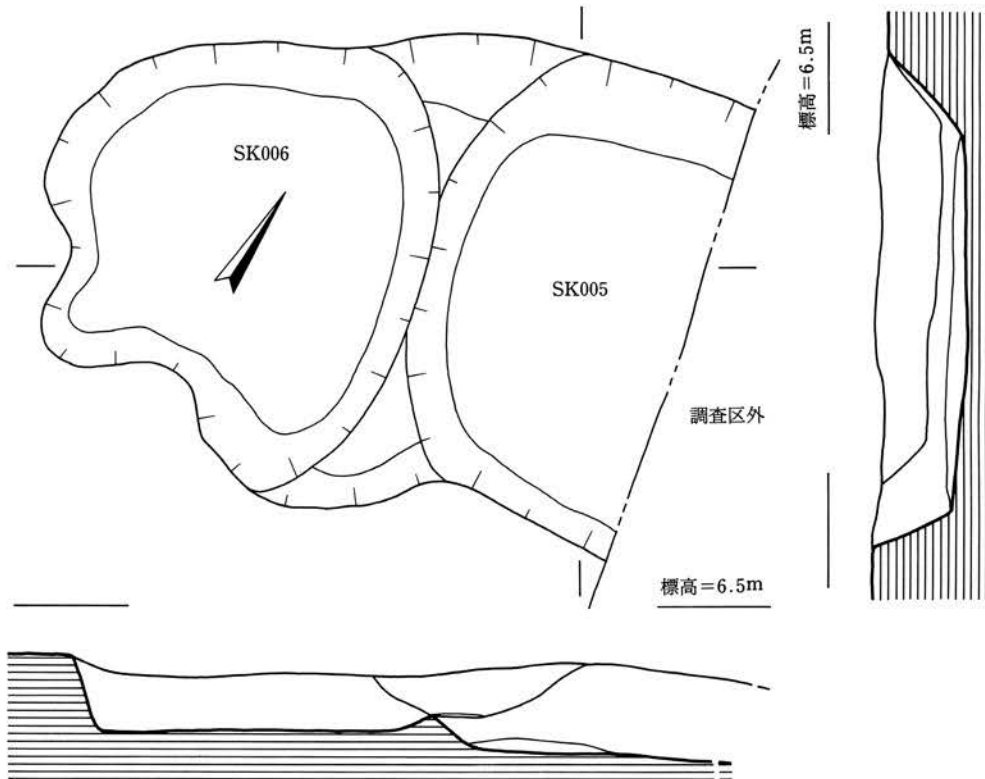


Fig. 87 SK005・006 (1/40)

4. 土壌と出土遺物

きる。外面上位は縦方向のヘラミガキ，下位は横ナデ，内面はナデで指頭痕が残り，丹零れが観察できる。出土遺物は全体に弥生時代Ⅲ期前半から後半の特徴を備えている。

SK011土壌 (Fig. 89/PL. 17-6)

B-15・16区画で検出した。複数の小穴に切り込まれているが，上面での切り合い関係の把握には失敗している。墓壙平面は東西3.8m×南北3.7mほどの不定形をなす。底面は浅いレンズ状をなし，標高6.1mほどである。埋土は砂混じりの暗褐色～黒褐色土で，埋土全体から多量の弥生土器片と磨製石剣が出土した。一括投棄によるものと判断する。

SK011出土遺物 (Fig. 90)

1は甕の口縁部破片で，復元口径17.8cm，口縁部から外面横ナデ，内面ナデで指頭痕が残る。2は甕の底部破片で，底径9.0cm，外面は横方向の不明瞭なヘラミガキ，内面はナデで指頭痕が残る。3は小形の鉢の破片で，復元口径11.4cm，内外面横ナデ。4は完存の器台で，口径7.6cm・器高13.2cm・脚部径9.4cm，口縁端部と脚端部内外面は横ナデ，外面は縦方向のハケ目，内面はナデで指頭痕が残る。以上の土器資料は，弥生時代Ⅲ期前半の特徴を備えると考えられる。5は完存の磨製石剣で，石材は不明。

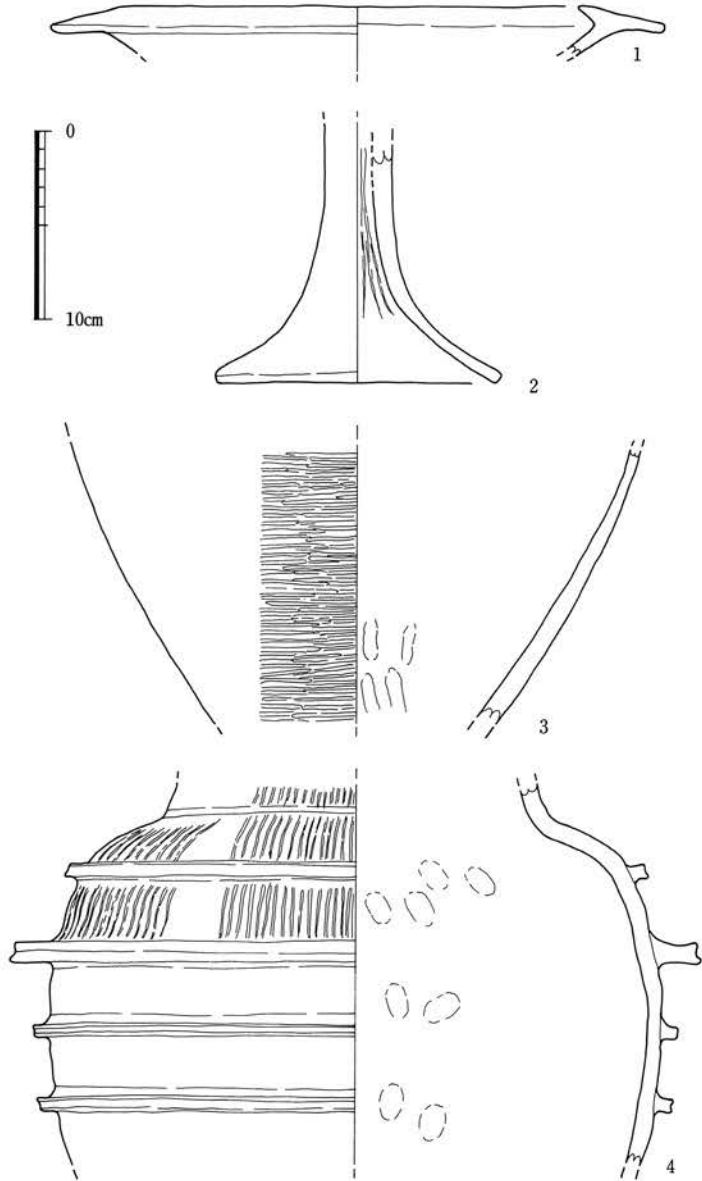


Fig. 88 SK005 出土遺物 (1/4)

SK014土壌 (Fig. 91)

A・B-15区画で検出した。他の遺構との切り合い関係はない。墓壙平面は2.2m×1.0～1.3mほどの不整な隅

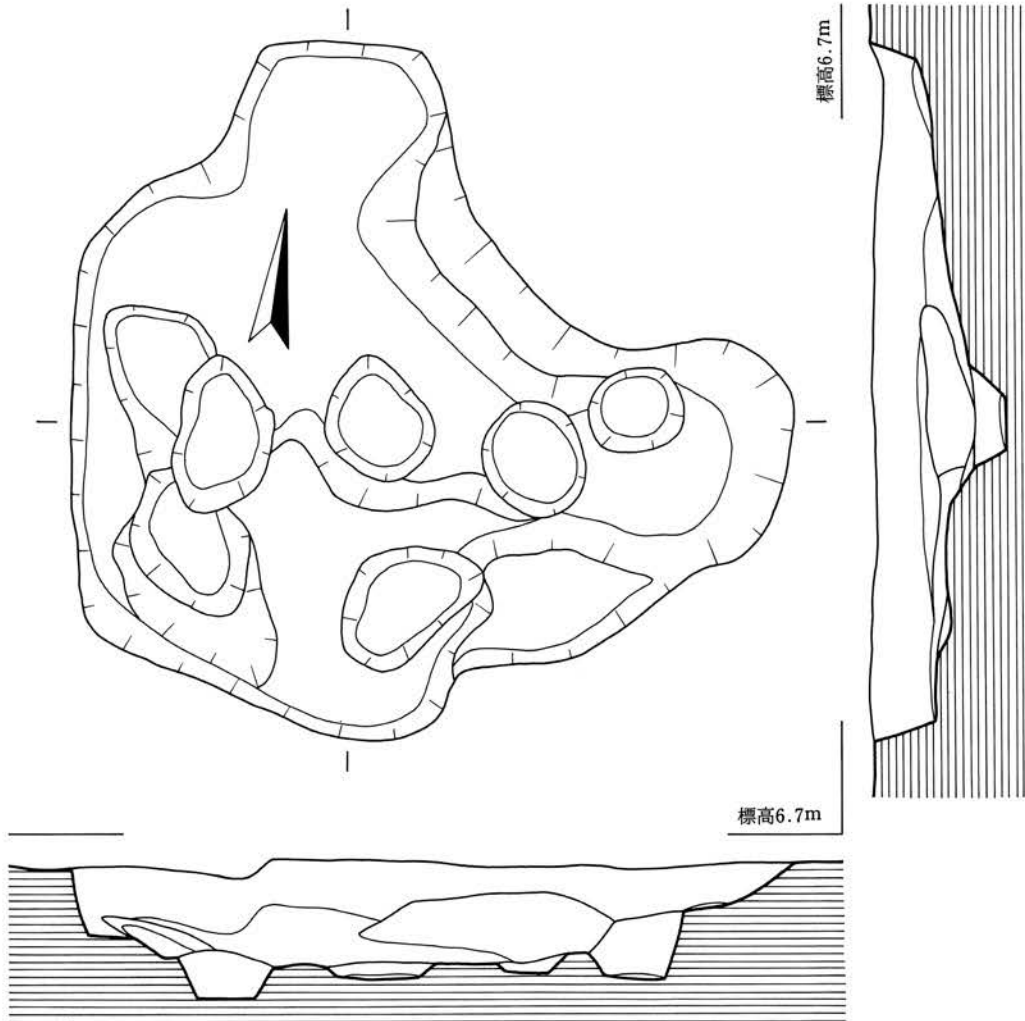


Fig.89 SK011 (1/40)

丸長方形をなす。墓壇断面は二段掘りの形状をなし、底面はほぼ平坦で、標高は6.0～6.3mほどである。埋土は黒褐色～黒色土で、埋土の上中位から多量の弥生土器破片と土製品・石製品が出土した。一括投棄によるものと判断する。

SK014出土遺物 (Fig.96-1・2)

2点しか図示できない。1は壺の口縁部破片で、復元内口径24.6cm、内外面横ナデで、外面に3本単位の縦方向の暗紋がある。2は石剣の欠損品と思われる。石材は不明。

SK016土壇 (Fig.93/PL.17-8)

E-9区画で検出した。室町時代の区画溝SD013に切られている。土壇平面は東西2.6m×南北2.5mの不定形をなし、複数の土壇が重複している印象を受けるが、上面での切り合いは確認できていない。土壇底面は5.7m～6.1mほどである。埋土は砂混じりの暗褐色～黒褐色土で、

4. 土壙と出土遺物

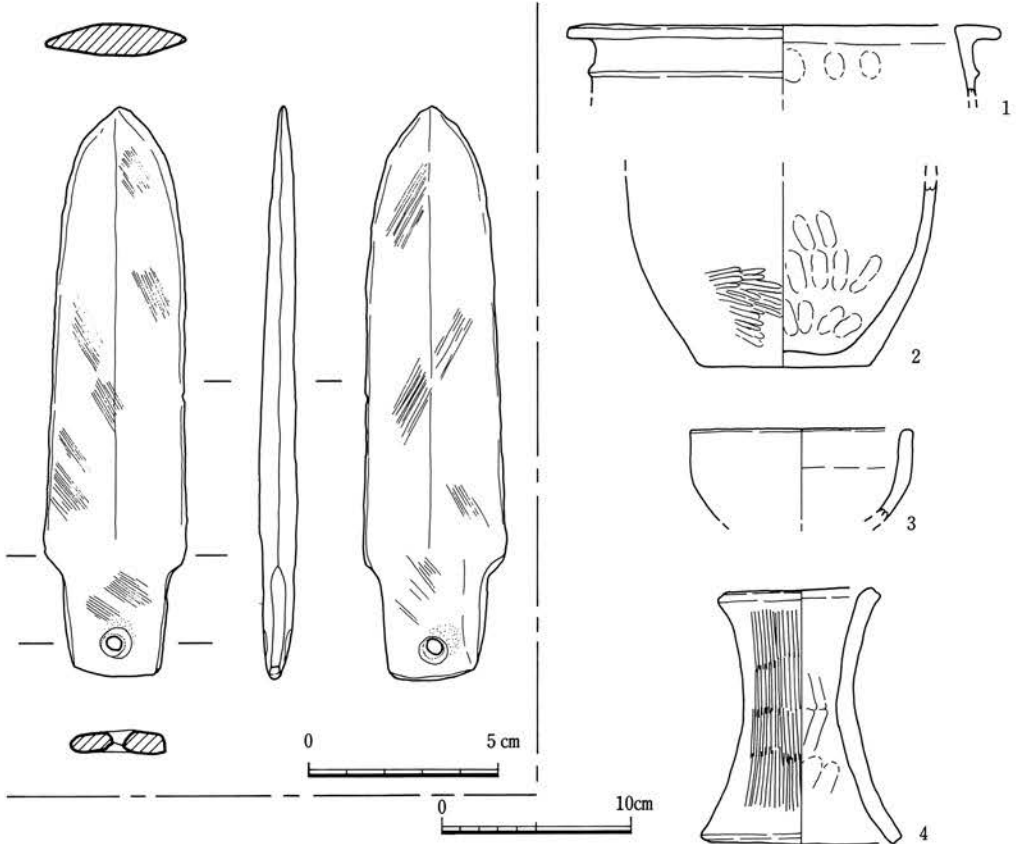


Fig.90 SK011 出土遺物 (1/4)

埋土の上中位から多量の弥生土器片が出土した。一括投棄によるものと判断する。

SK016 出土遺物 (Fig. 94)

10点が図示できる。1は甕の破片で、復元口径18.6cm、口縁部は内外面横ナデ、外面は縦方向のハケ目、内面はナデ。2は、復元口径19.8cm、口縁部は内外面横ナデ、外面は縦～斜方向のハケ目、内面はナデ。3は、復元口径22.0cm、口縁部は内外面横ナデ、外面は縦方向のハケ目、内面はナデ。4は、復元口径23.8cm、口縁部は内外面横ナデ、外面は縦方向のハケ目、内面はナデ。5は、復元口径25.6cm、口縁部は内外面横ナデ、外面は縦方向のハケ目、内面はナデ。

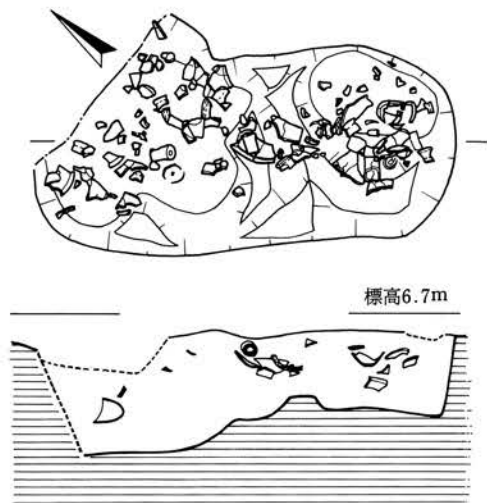


Fig.91 SK014 (1/40)

IV. 調査の記録——弥生時代遺跡——

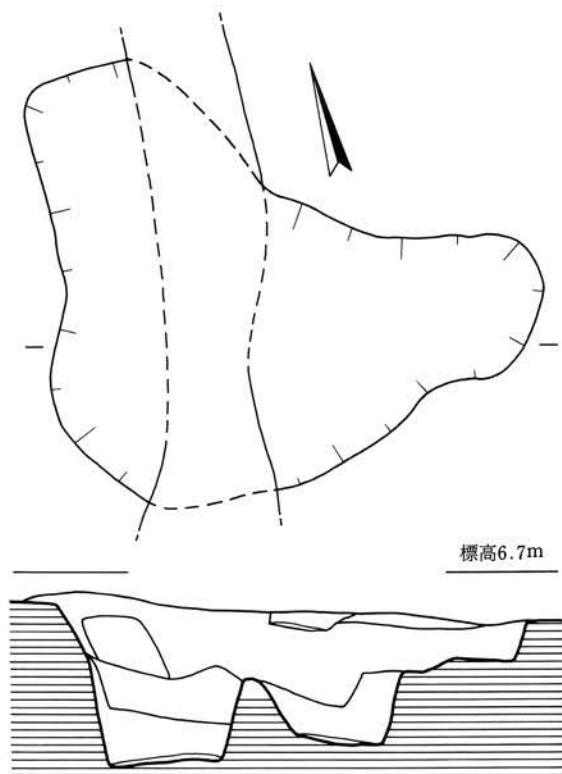


Fig.92 SK016 (1/40)

6 は完形の高杯で、内口径19.0cm・器高28.0cm・脚部径16.6cm、口縁部は横ナデ、杯部内外面は横方向のヘラミガキ、脚端部は横ナデ、脚部外面は縦方向のヘラミガキ、脚部内面はナデで指頭痕が残る。

7 は器台で、復元口径9.2cm・器高13.2cm・脚部径10.0cm、口縁部外面と脚端部内外面は横ナデ、口縁部内面は斜方向のハケ目、外面は縦方向のハケ目、内面はナデで指頭痕が残る。8 はほぼ完形の器台で、口径8.2cm・器高13.7cm・脚部径10.1cm、口縁部外面と脚端部内外は横ナデ、口縁部内面は斜方向のハケ目、内面はナデで指頭痕が残る。9 は小形の壺で、復元口径10.4cm・器高10.7cm・底径3.0cm、口縁端部から外面は横ナデで外面には5本単位の暗紋、口縁部内面は横方向のヘラミガキ、胴部外面は上位で横方向、下

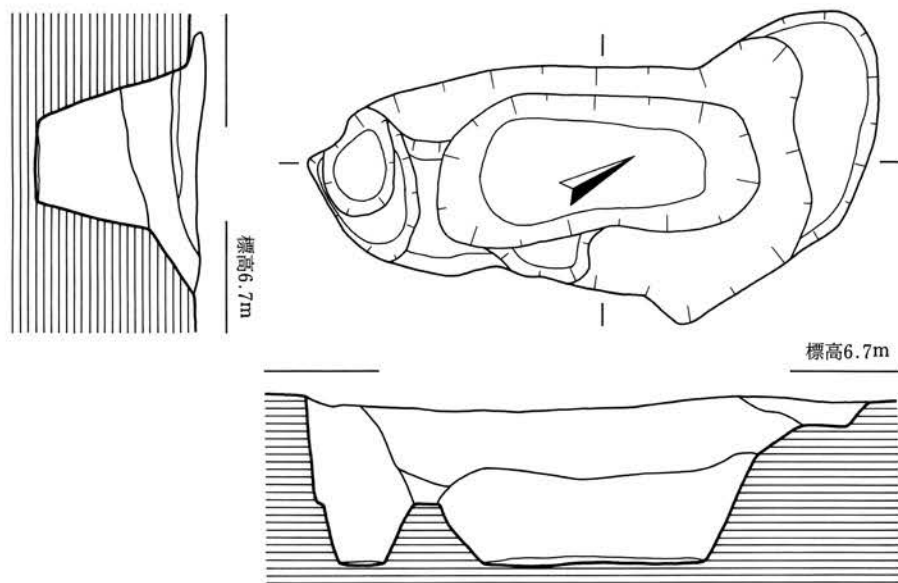


Fig.93 SK025 (1/40)

4. 土壙と出土遺物

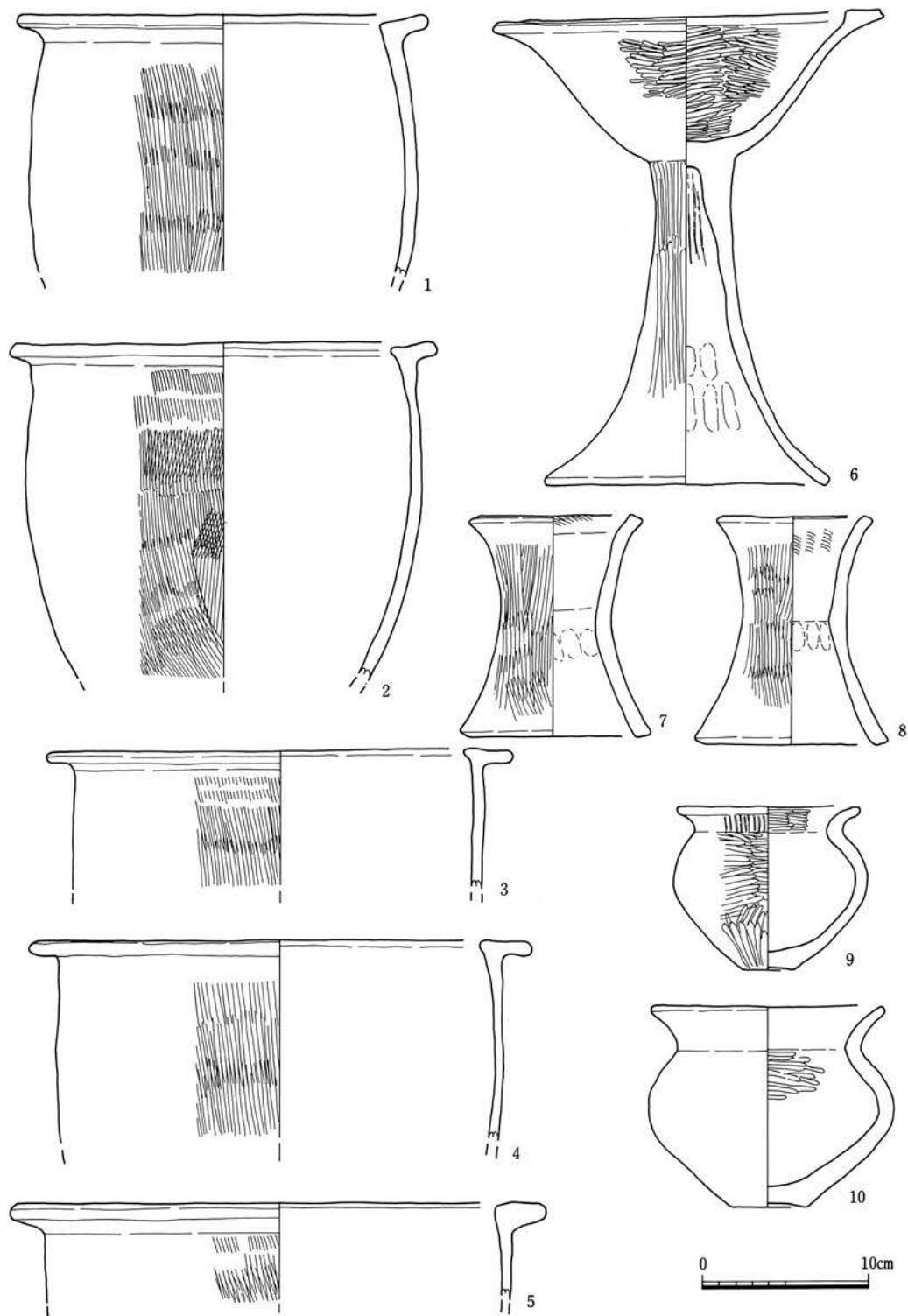


Fig. 94 SK016 出土遺物 (1/4)

位で縦方向のヘラミガキ、内面は調整不明瞭である。10も小形の壺で、復元口径13.8cm・器高12.0cm・底径4.5cm、口縁部から外面は不明瞭なヘラミガキ、内面は横方向のヘラミガキ。以上の土器資料は、弥生時代Ⅲ期前半にあたると考える。

SK025土壙 (Fig.93)

C・D-8区画で検出した。小穴に切り込まれているが、上面での切り合い関係の把握に失敗した。土壙平面は2.5m以上×1.3mの不整な隅丸長方形をなす。土壙の断面は二段堀の形状をなし、底面はほぼ平坦で標高5.7mほどである。埋土は黄褐色粘土混じりの褐色～暗褐色土で、埋土の下位から弥生土器片と土製品が出土した。出土状況は流れ込みとは思えない。

SK025出土遺物 (Fig.96-3～5)

3は一部を欠損した土玉で、残存長3.9cm・最大径2.0cm。4はほぼ完形の小形の甕で、内口径14.4cm・器高14.7cm・底径8.3cm、口縁部下に一条の山形突帯を有し、口縁部内外面は横ナデ、胴部外面は横方向のヘラミガキ、胴部内面はナデで指頭痕が残る。5は小形の甕の破片で、復元口径16.4cm、口縁部内外面は横ナデ、胴部内外面は不明瞭なヘラミガキ。

SK027土壙 (Fig.95)

D-9区画で検出した。他の遺構との切り合い関係はない。土壙の平面は2.8m×1.3mの繭形をなし、墓壙底面の標高は5.6～6.2ほどで、二つの土壙が重複しているような形状をなすが、上面での切り合いは確認できていない。埋土は砂混じりの暗褐色～黒褐色土で、埋土の中位から弥生土器が出土したが、流れ込みとは思えない。

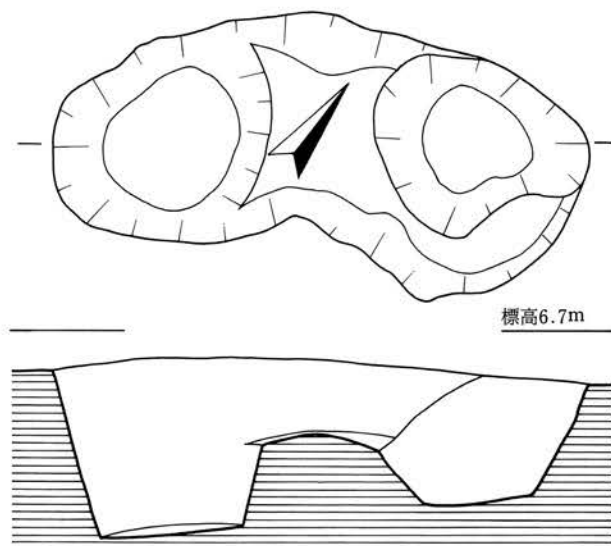


Fig.95 SK027 (1/40)

SK027出土遺物 (Fig.96-6・7)

6はほぼ完形の小形の甕で、内口径11.6cm・器高13.3cm・底径8.0cm、口縁部下に一条の山形突帯を有し、口縁部から外面は横ナデ、内面はナデで上位に指頭痕が残る。7は甕の口縁部は片で、復元口径19.3cm、口縁部内外面は横ナデ、外面は縦～斜方向のハケ目、内面はナデである。

SK282土壙 (Fig.97/PL.17-4)

H-7・8区画で検出した。他の遺構との切り合い関係はない。土壙の平面は1.1m×0.7mのやや不整な隅丸長方形をなす。土壙の底面はほぼ平坦で、

4. 土壙と出土遺物

標高は6.7m前後である。埋土は黒褐色～黒色土であった。底面で2個体の大形の壺が出土した。当初は小形の土器棺墓と考えたが、土器埋納土壙と判断する。

SK282出土遺物 (Fig. 97-1・2)

1はほぼ完形の大形の壺で、内口径18.8cm・器高36.8cm・底径7.8cm、胴部に二条のM字形突帯を有し、口縁部から頸部外面は横ナデで頸部に縦方向の暗紋があり、胴部外面は上位で斜方向、中位で横方向、下位で縦方向のヘラミガキ、頸部内面は横方向のヘラミガキ、胴部内面はナデ。2は頸部以上を欠損した大形の壺で、胴部に一条の山形突帯と沈線による三角文を有し、胴部外面は上位で斜方向、中位で横方向、下位で縦方向のヘラミガキ、頸部内面は横方向のヘラミガキ、胴部内面はナデで指頭痕が残る。1・2は弥生時代II期後半に属すると考える。

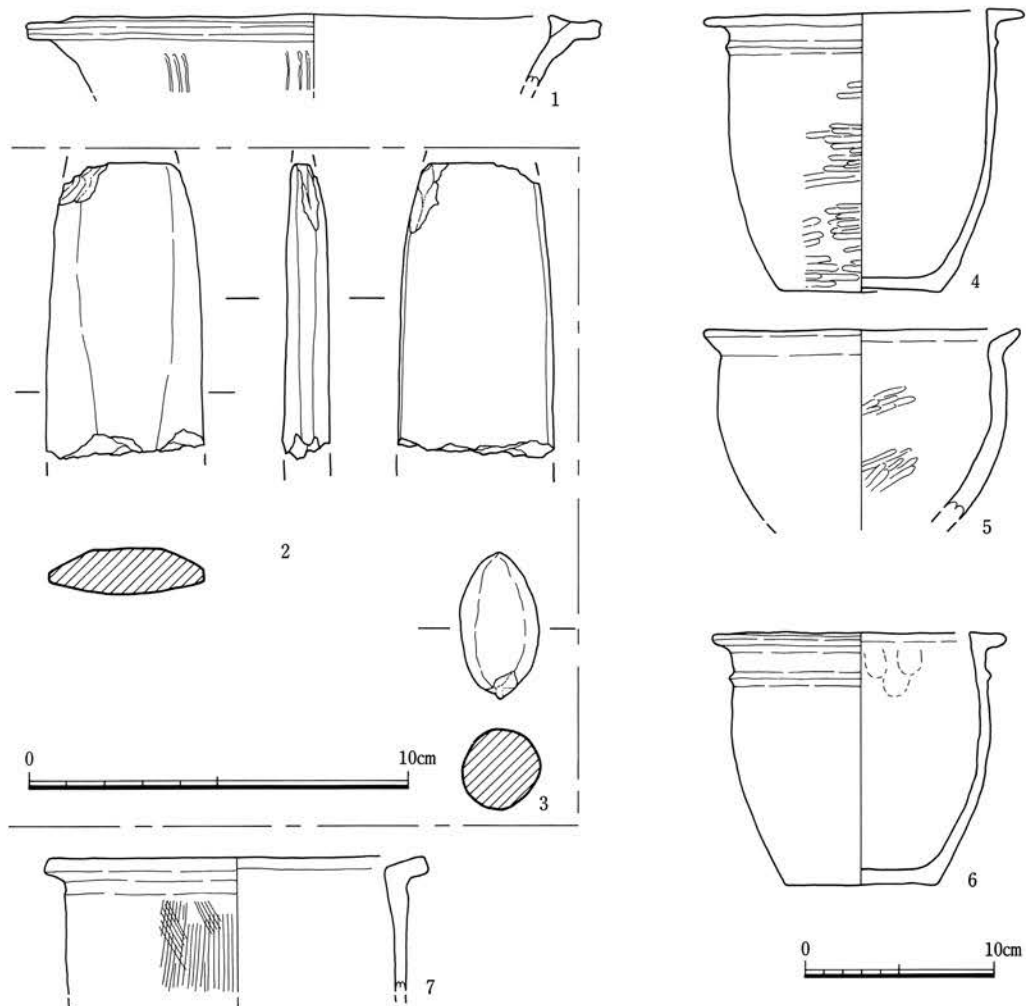


Fig. 96 SK014・025・027出土遺物 (1/4・1/2)

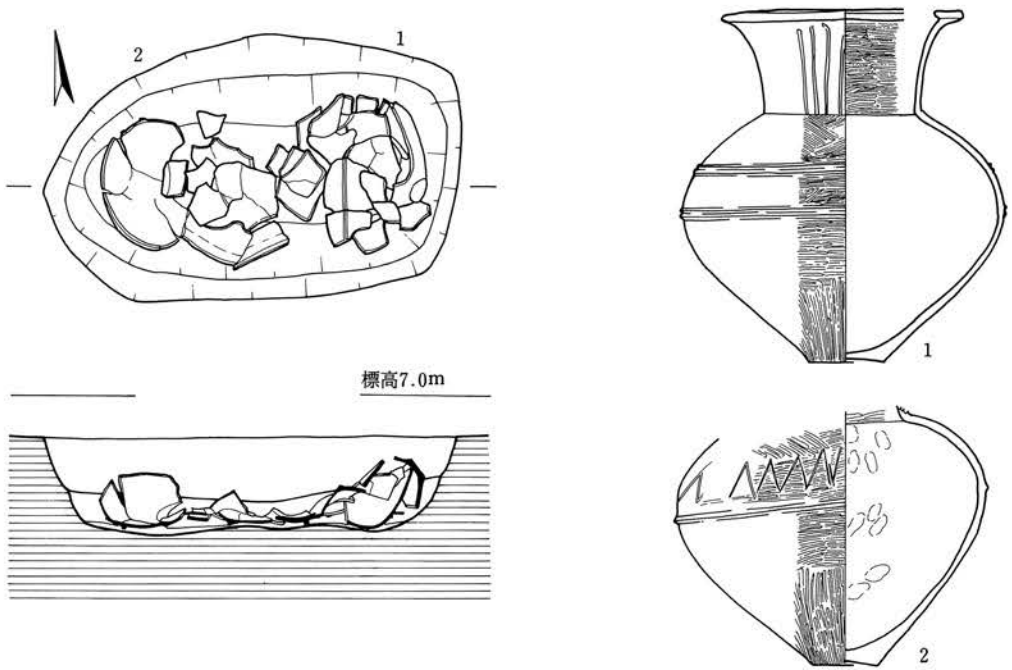


Fig.97 SK282 土壇・出土遺物 (1/20・1/8)

5. その他の出土遺物

土器棺墓混入遺物 (Fig.98)

墓壇内の埋土や棺体の落ち込みに伴って混入した遺物のうち、特徴的なものをここで記述する。1～3は、擬朝鮮系無文土器である。1は牛角把手付長頸壺の口縁部破片で、復元口径14.0

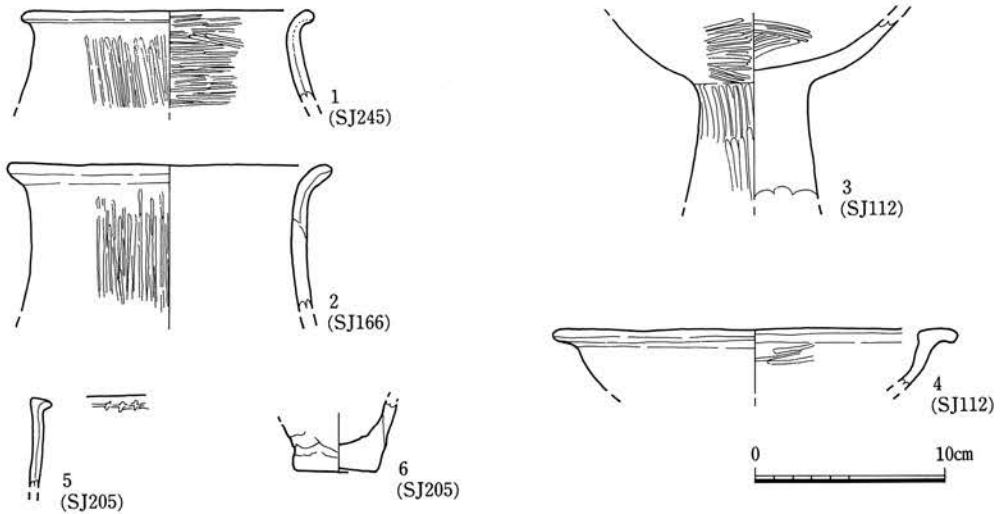


Fig.98 土器棺墓混入遺物 (1/4)

5. その他の出土遺物

cm, 口縁端部はやや肥厚して外反し, 口縁端部は横ナデ, 外面は縦方向のヘラミガキ, 内面は横方向のヘラミガキ。2も牛角把手付長頸壺の口縁部破片で, 復元口径17.0cm, 口縁端部はやや肥厚して外反し, 口縁端部は横ナデ, 外面は縦方向のヘラミガキ, 内面はヘラナデ。3は高杯の破片で, 脚内部に粘土を充填していることが特徴である。杯部内外面は横方向のヘラミガキ, 脚部外面は縦方向のヘラミガキ。4は高杯の口縁部破片で, 復元内口径17.2cm, 口縁部は横ナデ, 杯部内外面は不明瞭なヘラミガキ。5は突帯文系土器の甕口縁部破片で, 外面は条痕文, 内面はナデで上位は指押さえ。6は器種不明で, 底径4.3cm, 内外面は荒いナデ仕上げ。

その他の出土遺物 (Fig.99)

1は石鎌の欠損品で, 石材は不明。2は石包丁の欠損品で, 石材は不明。3はフィゴのハグチの破片で, 表面はガラス質に変質している。室町時代遺物と思われるが編集に都合でここで

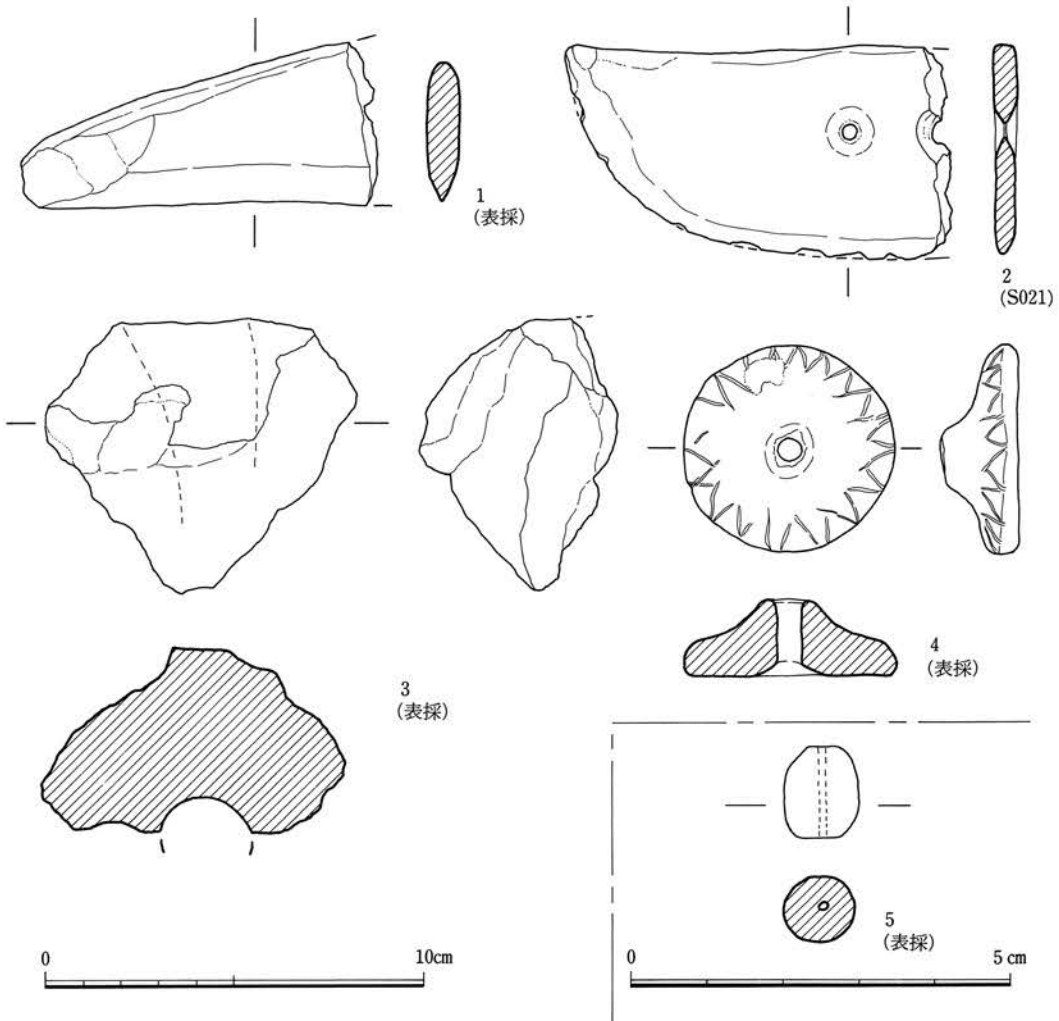


Fig.99 その他の出土遺物 (1/2・1/1)

Ⅳ. 調査の記録——弥生時代遺跡——

記述する。4は土製の紡錘車で、径5.6cm・最大厚2.0cm、表面に雑な沈線による三角文がある。5は石製玉で、最大径0.9cm、石材は不明。

6. 小 結

ここで弥生時代遺跡の調査記録についてある程度まとめておく。

弥生時代Ⅱ期前半に土器棺墓群が開始される以前には、円形竪穴住居 SH023 がある。炉をはさんだ二本の支柱穴と周囲に位置する支柱穴は、いわゆる松菊里形の住居と類似する形態を示す。弥生時代Ⅰ期前半にあたるものか。今回調査区の東側には土器棺墓群に先行する集落が存在する確率が高い。

内容がある程度明らかな土器棺墓184基は、弥生時代Ⅱ期前半からⅣ期前半にかけてのもので、大形二連棺墓 SJ189 がⅢ期前半、小形単棺墓 SJ267 がⅣ期前半に位置付けられる以外は、Ⅱ期前半からⅡ期後半にかけてのもので、量的にはⅡ期前半とⅡ期後半でも早い段階のものが多い。確実な副葬品はなく、まとまった量の三連棺墓などの墓制の特殊性と副葬品の有無は相関しないものか。

今年度の調査成果と合わせて考えると、増田遺跡群では弥生時代Ⅰ期後半からⅡ期後半の早い段階まで、三連棺墓は一定の量で定形化した形態として墓制の中に組み込まれていたことがわかる。後述するが、三連棺墓を伸展葬のためのものと仮定すると、木棺墓→木棺土器棺併用墓→三連棺墓という変遷の過程が想定できる。津留遺跡1区で検出した擬朝鮮系無文土器の牛角把手付長頸壺を用いた小形二連棺墓や、今回の調査で出土した擬朝鮮系無文土器の破片から考えると、このような伸展葬に対するこだわりは朝鮮半島渡来系の集団とかかわるものか。

2基の木棺墓 SP026・028 は、東西方向の主軸であることと、増田遺跡群の今年度の調査成果から、弥生時代Ⅱ期前半を下るものではないと考える。

土壌については検出段階に止めたものが多いが、完掘したものの出土遺物は弥生時代Ⅲ期を主体とする時期で、こうした土壌が墓地の祭祀と関わりがあるものであれば、今回調査区の北側に弥生時代Ⅲ期を主体とした土器棺墓群が存在する可能性がある。

Ⅴ. 調査の記録——室町時代遺跡——

室町時代遺跡の主要遺構は区画溝で、街区を構成していたものと想定する。溝の走行の方位角から少なくとも2時期以上にわたっている。これらの区画に伴う小穴（柱穴）はかなりの部分が土器棺墓の墓壇と重複していて、切り合い関係の把握に失敗していることから掘立柱建物は確認できていない。Fig. 100に示した小穴は、埋土が暗灰色をなし、室町時代遺構であることが確実なものである。溝から出土したのは大部分が弥生時代遺物であり、室町時代遺物で時期を特定できる遺物はほとんどない。Ⅰ～Ⅳ-5～8区画では整地（地業）を行っている形跡があり、Ⅰ～Ⅳ-7区画で試掘坑を設定したが、基盤層の上部に5cmほど黄褐色ブロック混じり

1. 溝と出土遺物

の暗灰色土がのるだけで構造などは判然としていない。

1. 溝と出土遺物

SD001・002溝 (Fig.101)

K～M-11～16区画で検出した。東西方向のSD001とL字形に東西方向から南北方向へ屈曲するSD002が、連結してT字形の区画を構成している。SD001・002の間には切り合い関係はなく、一連の遺構と機能したと判断する。溝の走行の方位はN-9°-Wである。SD001は、溝幅1.5～1.9mで、東へ向って深くなり底面の標高5.3～5.5m、断面は深い逆台形状で底面はほぼ平坦である。SD002は、溝幅1.5～3.2mで、北と東に向って深くなり底面の標高5.3～5.6m、断面はゆるい逆台形状で底面はほぼ平坦か浅い舟底状をなす。埋土は灰色系で、①層：暗白灰色の粘質土で黄褐色粘土ブロックを微量に含む、②層：暗灰色粘質土、③層：暗青灰色粘質土で地山ブロックを含む、といった特徴を有する。土層断面の観察では、西側の区画からの自然流入による堆積で埋没した印象を受ける。出土遺物は、SD001の西端で、土師器・瓦器・

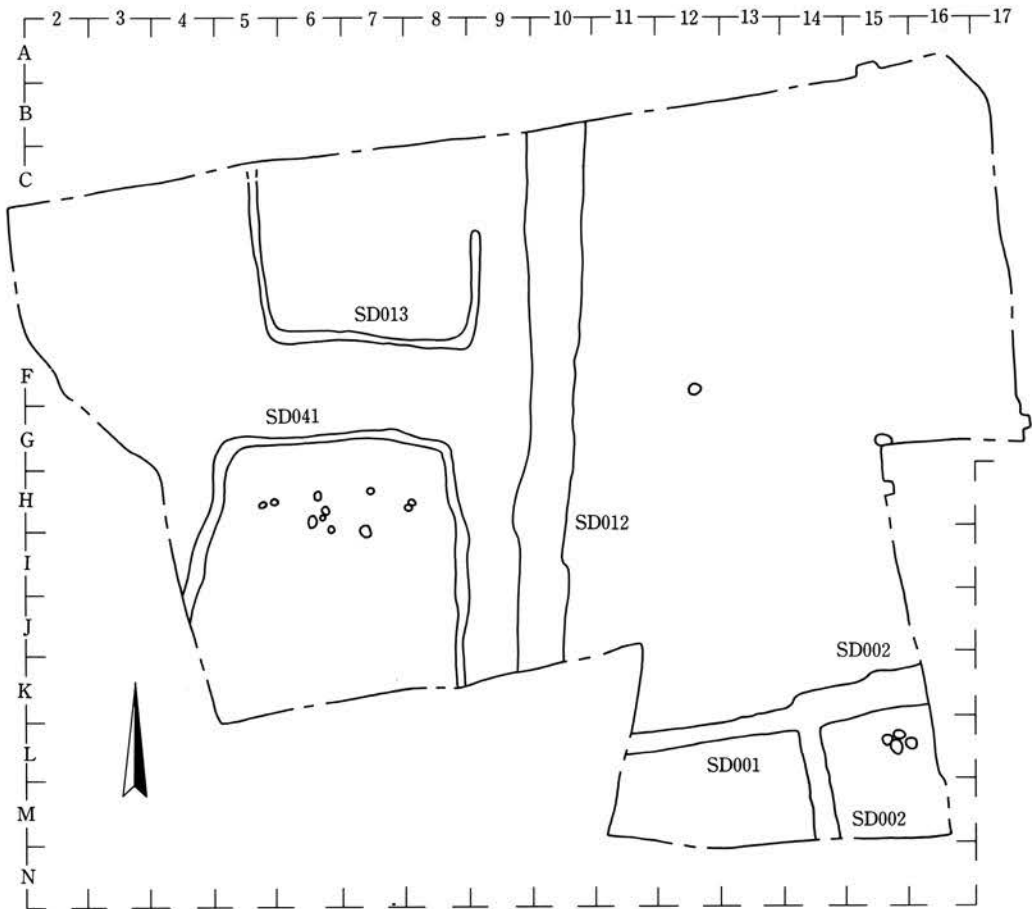


Fig.100 室町時代主要遺構分布状況 (1/600)

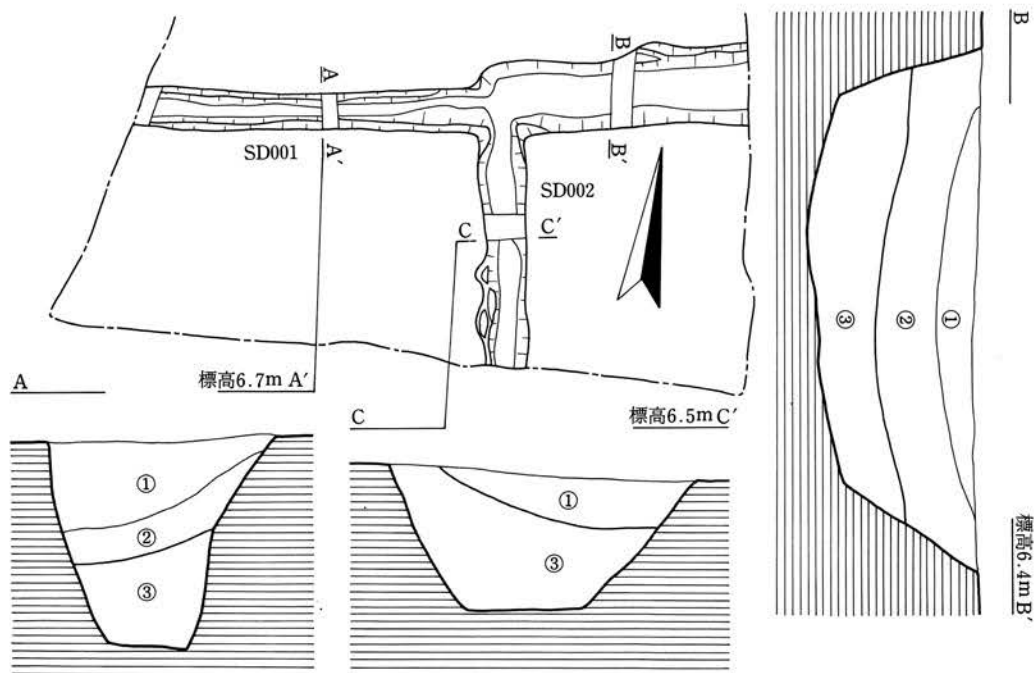


Fig.101 SD001・002 (1/300・1/40)

陶器片が微量出土したが、図示に耐えるものはない。

SD012溝 (Fig.103)

B～K-9・10区画で検出した。南北方向に直線的に走行する溝で、方位角はN-3°-Eをなす。溝幅3.1～4.3mほどで、南に向ってやや深くなり底面の標高5.7～5.8m。灰色系の埋土で、①層：砂混じりの暗白灰色土、②層：砂混じりの暗青灰色土、③層：暗灰色粘質土、④：暗青灰色土、⑤：地山ブロック混じりの暗青灰色土、⑥：暗灰色粘質土、である。検出した部分の

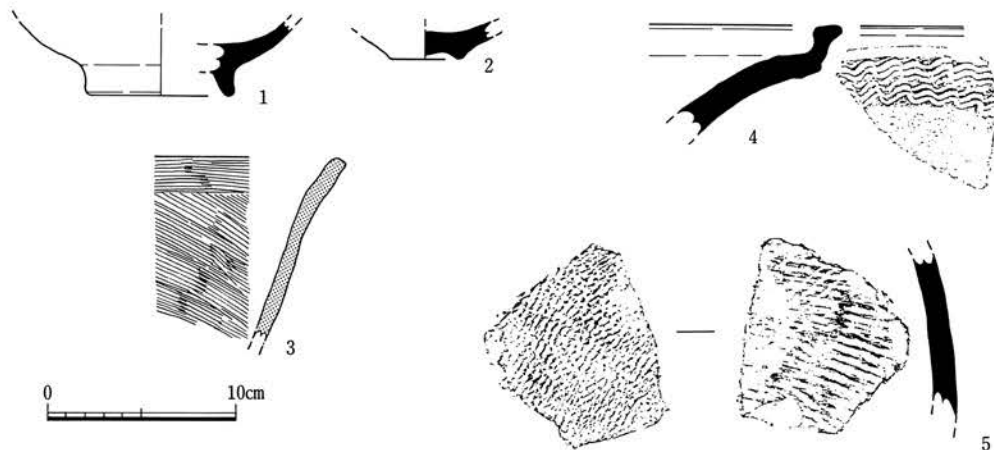


Fig.102 SD012 出土遺物 (1/4)

1. 溝と出土遺物

北側では掘り直しが行われた印象を受ける。埋土中から多量の土器棺墓の棺体破片や弥生土器破片が出土したが、室町時代遺物は全体に微量で、土師器・瓦器・青磁片が出土した。

SD012出土遺物 (Fig. 102)

1は全面施釉の青磁碗の破片で、復元高台径7.8cm。2は削り出し高台の青磁杯の破片で、高台径3.8cm、高台部には施釉されていない。3は瓦器の鍋で、口縁端部は横ナデ、外面はナデと指押さえ、内面は上位は横方向の、下位は斜方向の細かいハケ目。4・5は古墳時代須恵器

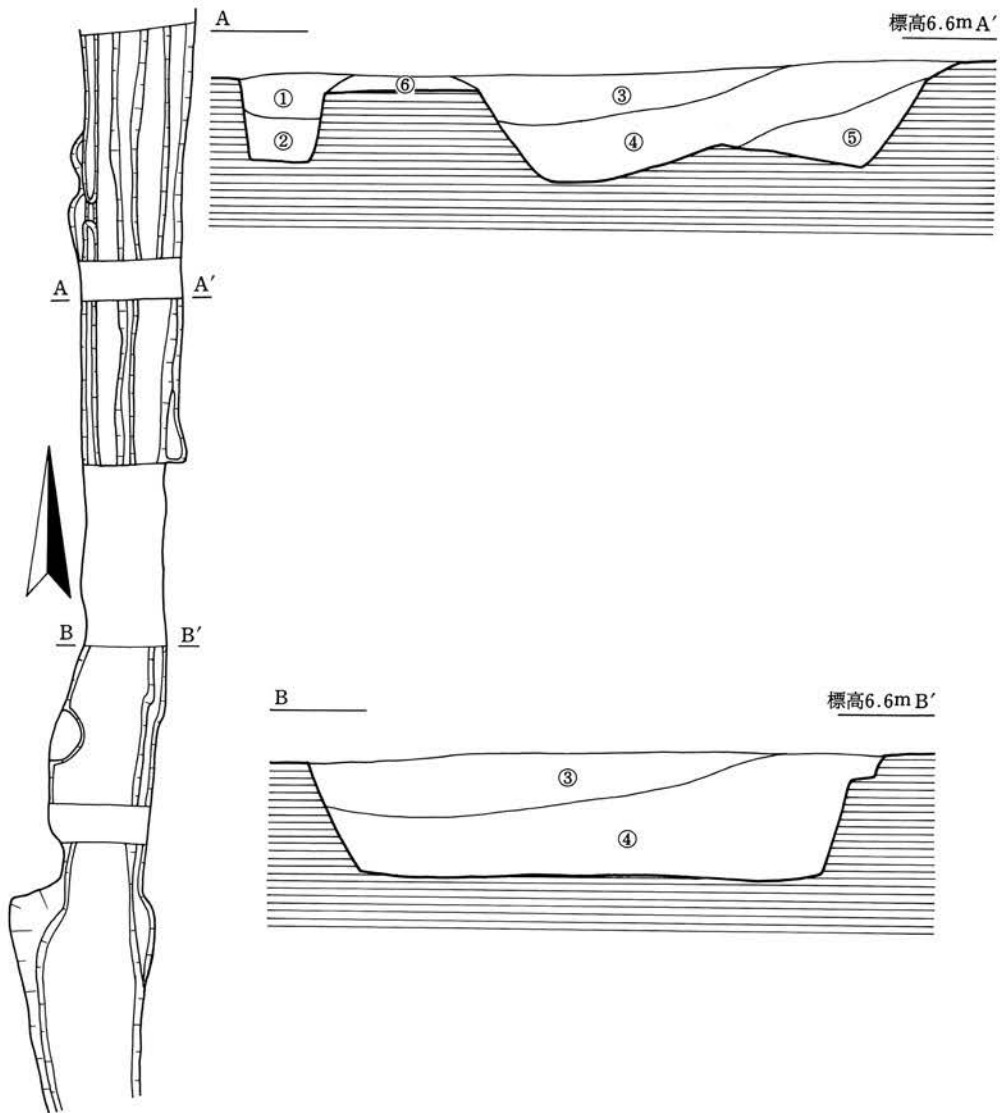


Fig. 103 SD012 溝 (1/300・1/40)

V. 調査の記録—室町時代遺跡—

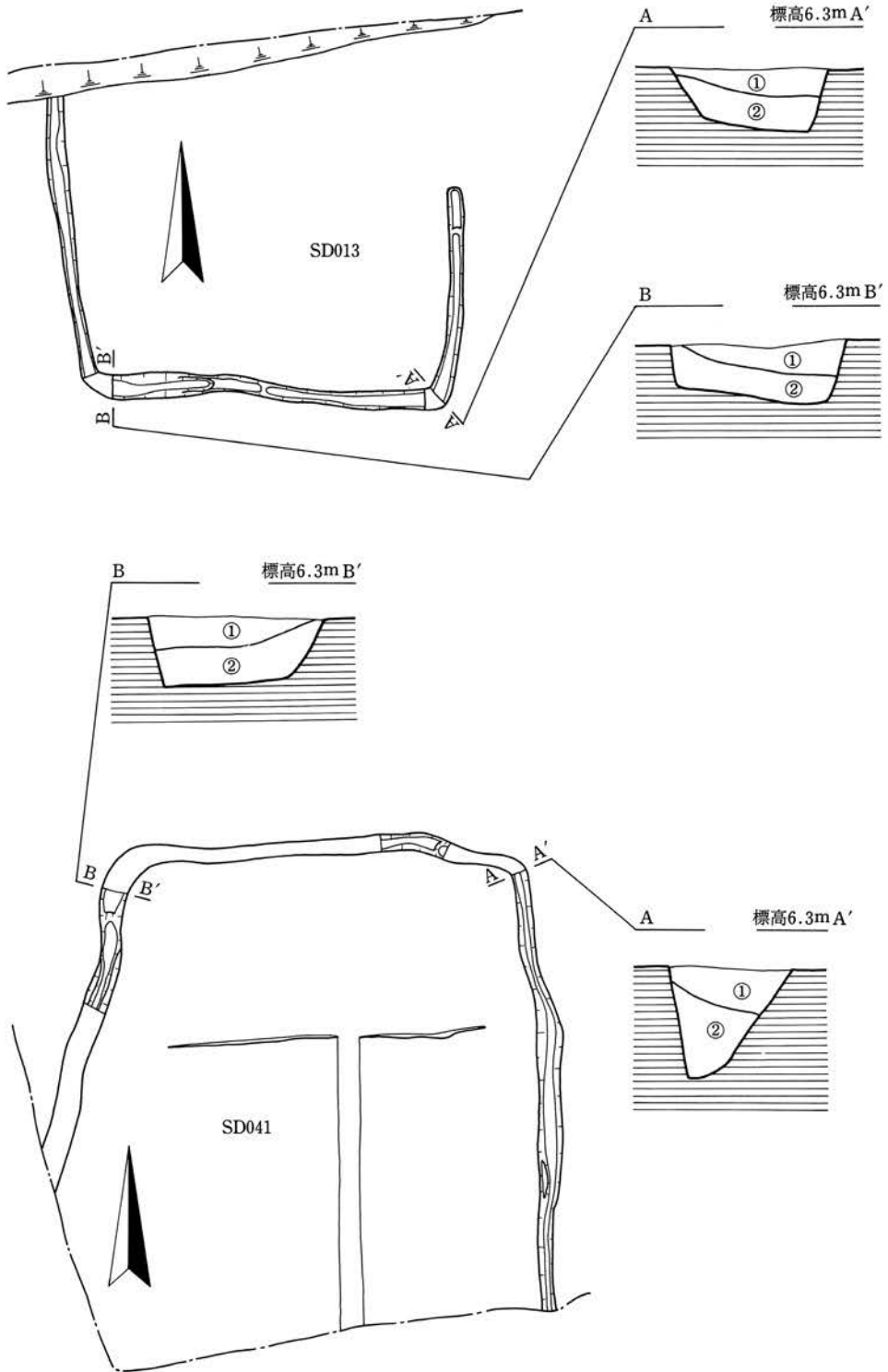


Fig. 104 SD013・041 (1/300・1/40)

1. 溝と出土遺物

の破片で、混入遺物である。4は瓶の口縁部破片で、口縁端部から内面にかけては横ナデ、外面上位は沈線による波状文、下位はタタキ目をナデ消し。5は瓶の胴部破片で、外面は格子状タタキ目、内面は平行タタキ目。

SD013溝 (Fig.104)

C～F-5～9区画で検出した。北西端は調査区外に展開し、北東端はD-9区画で終結する。方位角はやや西に振れ、N-2°-Wをなす。一辺16mほどのほぼ方形に近い区画溝と判断する。溝幅0.8～1.1m、北西側で浅く南東側で深く底面標高は5.5～5.7m、底面はほぼ平坦で区画内部側で深く外側で浅い。埋土は2層に大別でき、①層：暗黄褐色粘土、②：暗褐色粘質土で、①層は人工的な堆積、②層は流入と沈殿による自然堆積と判断する。①層は遺物が出土せず、②層から多量の土器棺墓棺体破片が出土したが、室町時代遺物は瓦器・陶器細片で図示に耐えない。

SD041溝 (Fig.104)

G～K-4～9区画で検出した。南側は調査区外に展開する。方位角はやや西に振れ、SD013とほぼ同じである。22m以上×18mほどの胴張りな方形区画をなすと判断する。溝幅0.7～1.2m、北側で深く南側で浅く底面標高5.7～5.9m、底面はほぼ平坦な部分が多い。埋土は2層に大別でき、SD013とほぼ同一である。①層：暗黄褐色粘土、②：暗褐色粘質土で、①層は人工的な堆積、②層は流入と沈殿による自然堆積と判断する。出土遺物はない。方形区画内部のI～K-5～8区画では整地（地業）を行っている形跡があり、I～K-7区画で試掘坑を設定したが、基盤層の上部に5cmほど①層とほぼ同じ暗黄褐色土ブロック混じりの暗灰色土がのるだけで構造などは判然としていない。

2. 小 結

ここで室町時代遺跡について若干まとめておく。

今回の調査で検出された複数の区画溝は、津留遺跡1区・増田遺跡3区の調査成果と考え合わせると、室町時代後半を主体とする街区の一部を形成していた公算が高い。溝の走行方位から考えると、少なくとも2時期以上にわたって形成されたものと判断する。

また、SD013・041の上部で認められた人口埋土の暗黄褐色粘土は、津留遺跡1区・増田遺跡3区検出された南北方向の堀の埋土上部にも認められ、これらの遺構群が埋没の最終過程で同時期に整地（地業）などで人為的に埋められた可能性が存在する。

なお、増田遺跡群では、平安時代前半の掘立柱建物群（津留遺跡1区）、平安時代末～鎌倉時代の流水路（増田遺跡3区）、室町時代後半の堀・区画溝（増田遺跡2・3区・津留遺跡1区）などが検出され、古墳時代～奈良時代遺物も出土していることから、この増田台地は弥生時代の大規模な墓地が存在した後は、断続的に集落地として利用されたことがわかる。

IV. 総 括

1. 土器棺墓の年代的位置付けと分布関係

増田遺跡2区で検出された土器棺墓群について、年代的な位置付けを行い、その墓地の変遷の過程ををある程度明らかにしたい。

(1) 土器棺墓棺体の年代的位置付け

土器棺墓相互の年代的序列を明らかにするためには、形態分類によってその棺体そのものの年代的位置付けを行う作業が必要である。ここでは、先行する分類案に従い大形埋葬専用土器を分類し、それに合わせて大形三連棺墓で共伴関係が明確な日常容器と同形の甕形土器を基点として棺体の大まかな年代的位置付けを行う。今年度に行った津留遺跡1区・増田遺跡3区では認識しやすいかたちで良好な棺体資料が得られたので、増田遺跡群での棺体の年代的細分は次年度報告で試みたい。

大形埋葬専用土器 橋口 [1979] の分類案を基本に分類する。大形土器棺墓の棺体のかなりの個体は復元図化できなかつたので、口縁部形態、沈線の有無、突帯の有無と形態を主な指標とし、橋口のK II a～K II c式にあたるものをA類・A'類・B類・C類と分類した。標準的なK I c式（いわゆる金海式）に分類できるものはないと判断する。

A類：内傾するL字形口縁を指標とする標準的なK II a式にあたるもので、胴部上位と中位の横沈線ないし胴部中位の山形突帯を有するか、どちらも無いものがある。

A'類：橋口も指摘したK I c式の流れを強くひく在地色が濃いもので、内傾するL字形口縁かその上内方に粘土を貼りつけたものが多く、短いT字形口縁のものや内方に張り出すものも少数ある。胴部上位と中位の横沈線か、横沈線の間縦沈線を加えたものも多く、バリエーションに富む。器形は、標準的なK II a式より最大胴径が下位にあり、口縁下部でしまるものが多い。A類と棺体のセット関係にあるものもある。数種の亜型が存在し、標準的なK II a式を含めて新古に分類できる見通しを得たが、後述する甕形土器の分類をそのレベルでは行えなかつたので、大きくK II a式段階におさえておく。

B類：橋口分類のK II b式にあたる。外方にあまり張り出さず、内方に水平かやや内傾して大きく張り出す口縁部を指標とする。A'類に類似する短いT字形口縁のものも少数ある。胴部中位に一条の山形ないしM字突帯を有するが、山形のものが多い。突帯がないものもごく少数存在する。

C類：橋口分類のK II c式にあたる。外方にあまり張り出さず、外傾して大きく張り出す口縁部を指標とする。胴部中位に一条の山形ないしM字形突帯を有するが、M字形のもの多くなり、胴部上位に山形突帯をもつものがごく少数ある。器形的にはやや小形のものも多く、橋口のいう「丸味を帯びた甕棺の一列」にあたるものか。

1. 土器棺墓の年代的 position 付けと分布関係

以上のKⅡa～KⅡc式に相当するもの以外に、KⅢa式・KⅣa式に相当するものもあるが、量的にはごく少数なのでここでの分類は行わない。以上の分類群のうちA'類・B類は大形三連棺墓の棺体に用いられていて、以下で記述する日常容器と同形の甕形土器の分類と年代的に対比できる。

甕形土器 IV章1—(7)で記述したように底部の形態を主な指標として、a類・b類・c類に分類した。

a類：底部が細くしまり筒形で、底面は厚く上げ底状をなす。①：口縁部は短く厚い内傾するL字形，②：口縁部下に一条の山形ないしM字形突帯，③：最大胴径が上位にある丸みを帯びた胴部，といった特徴を有することが標準である。

b類：底部はしまり気味だが径はやや大きくなり、底面がやや厚く凹レンズ状をなす。①：口縁部はやや内傾気味の外方にのびたL字形，②：口縁部下に一条の山形突帯ないしM字形突帯，③：最大胴径はやや上位にあるが張りが弱くなった胴部，といった特徴を有することが標準であるが，②の突帯がないものも少数ある。

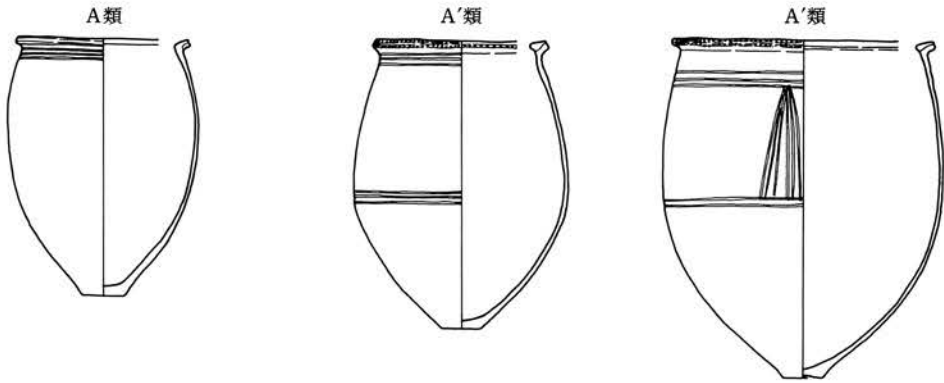
c類：底部のしまりは弱く径が大きくなり、底面は薄く浅い凹レンズ状か平底をなす。①：口縁部はやや内傾気味か水平に外上方ないし外方にのびるL字形，②：最大胴径の張りはないかごく弱い，といった特徴を有することが標準で、口縁部下の突帯はないものが多くなる。

埋葬専用土器と甕形土器の年代的対比 大形三連棺墓では大形埋葬専用土器と日常容器と同形の甕形土器がセットで棺体として用いられていて、両者の分類単位がどのような並行関係をとるかを確認することが可能である。ただし、甕形土器a類とb類、b類とC類は小形二連棺墓・三連棺墓の棺体としてセット関係になるものがあり、ある程度の変化の幅が想定する必要がある。Fig.105・106に両者の分類単位を年代的に対比させて示した。

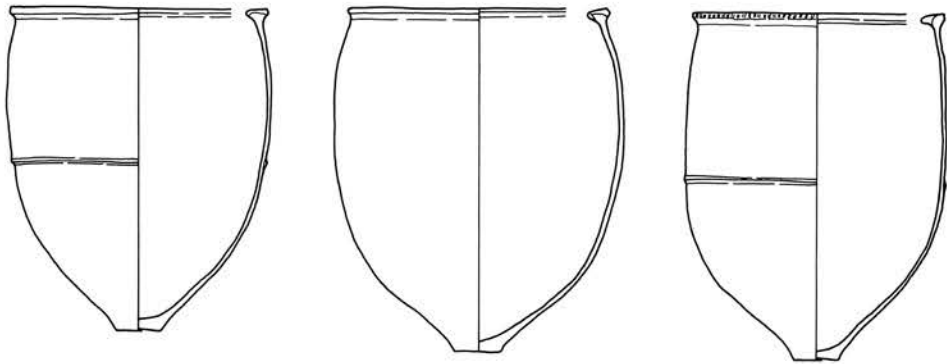
埋葬専用土器A'類と甕形土器a類はセットで大形三連棺墓の棺体に用いられ、埋葬専用土器B類と甕形土器b類はセットで大形三連棺墓の棺体に用いられている。埋葬専用土器A類は、大形三連棺墓の棺体には用いられておらず直接には甕形土器a類との並行関係を確認できないが、おおむねA'類とともにa類と並行すると考える。埋葬専用土器C類と甕形土器c類は大形三連棺墓の棺体には用いられず、直接の並行関係を確認することはできないが、ほぼ並行関係にあるものとする。以上のA類・A'類—a類が弥生時代Ⅱ期前半、B類—b類が弥生時代Ⅱ期後半古段階、C類—c類が弥生時代Ⅱ期後半新段階にあたるものと判断する。Tab.1に埋葬専用土器の先行分類と年代的 position 付けを示した。

VI. 総括

弥生時代Ⅱ期前半：A類・A'類



弥生時代Ⅱ期後半（古段階）：B類



弥生時代Ⅱ期後半（新段階）：C類

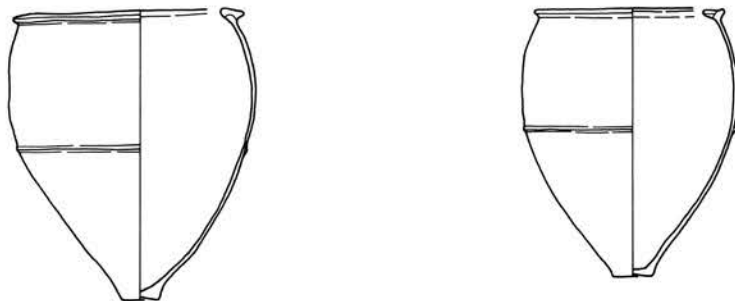


Fig. 105 埋葬専用土器の分類（1/20）

1. 土器棺墓の年代的 position 付けと分布関係

弥生時代Ⅱ期前半：a類



弥生時代Ⅱ期後半（古段階）：b類



弥生時代Ⅱ期後半（新段階）：c類



Fig. 106 甕形土器の分類 (1/20)

VI. 総 括

Tab.1 大形埋葬専用土器の年代的位置付け

相対区分	本書の時期区分	本書の分類	橋口 [1979]	森 [1966]
弥生時代	II期前半	A類・A'類	K II a 式	城之越式
	II期後半古段階	B類	K II b 式	
中期前半	II期後半新段階	C類	K II c 式	汲田式
弥生時代	III期前半		K III a 式	須玖式
	III期後半		K III b 式	
中期後半			K III c 式	立岩式
弥生時代	IV期前半		K IV a 式	桜馬場式
	IV期後半		K IV b 式	
後期前半			K IV c 式	三津式

※橋口 [1979] の対照表を基本にして、本書の区分を加えたもの。

(2) 墓地の変遷

Tab. 2～6 の一覧表に各土器棺墓の主要データと前述した時期区分を示した。これを一次資料として、増田遺跡2区における弥生時代墓地の変遷をある程度明らかにしたい。

土器棺墓の量的変化 時期区分ごとの土器棺墓の数量は、

II期前半：大形棺墓17基（単棺墓1基・二連棺墓11基・三連棺墓5基）、小形棺墓21基（単棺墓1基・二連棺墓16基・三連棺墓4基）、合計38基。

II期後半古段階：大形棺墓52基（単棺墓2基・二連棺墓46基・三連棺墓4基）、小形棺墓37基（単棺墓2基・二連棺墓32基・三連棺墓3基）、合計89基。

II期後半新段階：大形棺墓26基（単棺墓0基・二連棺墓26基・三連棺墓0基）、小形棺墓16基（単棺墓0基・二連棺墓16基・三連棺墓0基）、合計42基。

III期：大形棺墓4基（単棺墓0基・二連棺墓4基・三連棺墓0基）、小形棺墓1基（単棺墓0基・二連棺墓1基・三連棺墓0基）、合計5基。

IV期：大形棺墓1基（単棺墓0基・二連棺墓1基・三連棺墓0基）、小形棺墓1基（単棺墓1基・二連棺墓0基・三連棺墓0基）、合計2基。

不明：大形棺墓3基（単棺墓0基・二連棺墓3基・三連棺墓0基）、小形棺墓5基（単棺墓1基・二連棺墓4基・三連棺墓0基）、合計8基。

1. 土器棺墓の年代的位置付けと分布関係

Tab. 2 増田遺跡 2 区土器棺墓一覧(1)

番号	方位角	埋置角	墓壇底面	切り合い関係 (旧<新)	時期
大形単棺墓					
SJ163	109°	± 0°	6.4m	—	II期後半(古)
SJ195	231°	± 0°	6.7m	—	II期後半(古)
SJ254	084°	-10°	6.0m	—	II期前半
大形二連棺墓					
SJ102	086°	± 0°	6.5m	SJ102<SJ113	II期後半(新)
SJ115	083°	-02°	6.1m	—	II期後半(古)
SJ116	291°	+20°	6.0m	—	III期
SJ117	091°	-02°	6.2m	—	II期後半(新)
SJ118	不明	不明	6.4m	—	不明
SJ119	260°	+02°	5.9m	SJ119<SJ107	II期後半(新)
SJ120	125°	-05°	5.8m	—	II期後半(古)
SJ121	089°	-05°	5.9m	—	II期前半
SJ123	086°	-09°	5.8m	—	II期後半(古)
SJ126	252°	-08°	5.8m	—	II期後半(古)
SJ127	075°	± 0°	5.9m	—	II期前半
SJ128	059°	-06°	5.7m	—	II期後半(古)
SJ129	095°	-27°	5.9m	SJ139<SJ129	II期後半(新)
SJ130	092°	+03°	5.7m	—	II期後半(古)
SJ131	083°	± 0°	6.0m	—	II期後半(古)
SJ132	077°	-02°	6.2m	—	II期後半(古)
SJ134	095°	+01°	6.0m	SJ134<SJ135	II期後半(古)
SJ138	061°	-03°	6.0m	—	II期前半
SJ139	089°	-03°	6.1m	SJ139<SJ129	II期後半(新)
SJ143	276°	-02°	6.4m	—	II期後半(古)
SJ145	078°	-12°	5.8m	—	II期前半
SJ147	041°	± 0°	6.4m	—	II期後半(古)
SJ149	240°	-04°	6.0m	—	II期後半(古)
SJ152	082°	-01°	5.5m	—	II期前半
SJ153	064°	-03°	6.3m	—	II期後半(古)
SJ154	189°	+04°	6.1m	—	II期後半(古)
SJ155	039°	± 0°	6.6m	—	II期後半(新)
SJ156	063°	+02°	6.0m	—	II期前半
SJ157	153°	-07°	6.0m	—	II期後半(新)
SJ158	030°	-07°	6.2m	—	II期後半(新)
SJ159	132°	-07°	6.0m	—	II期後半(古)
SJ161	169°	-03°	6.1m	—	II期後半(古)
SJ162	071°	± 0°	6.3m	—	II期後半(古)
SJ167	080°	-07°	6.4m	—	II期後半(古)

VI. 総 括

Tab. 3 増田遺跡2区土器棺墓一覽(2)

番号	方位角	埋置角	墓壇底面	切り合い関係 (旧<新)	時期
大形二連棺墓					
SJ168	086°	-05°	6.2m	—	II期後半(古)
SJ170	250°	± 0°	6.1m	—	II期前半
SJ173	115°	-03°	6.2m	—	II期後半(古)
SJ174	139°	± 0°	6.4m	—	II期後半(新)
SJ177	237°	± 0°	6.2m	SJ176<SJ177	II期後半(新)
SJ178	252°	-05°	6.0m	—	II期後半(古)
SJ180	266°	-02°	6.0m	—	II期後半(新)
SJ181	080°	-06°	5.8m	—	II期後半(古)
SJ182	098°	± 0°	6.1m	—	II期後半(古)
SJ183	272°	+03°	6.0m	—	II期後半(古)
SJ188	091°	± 0°	6.1m	SJ188<SJ189	II期後半(古)
SJ189	225°	+05°	6.1m	SJ188<SJ189	III期
SJ190	282°	+02°	6.1m	—	II期後半(古)
SJ191	261°	-02°	5.8m	—	II期前半
SJ192	104°	+28°	6.1m	—	II期後半(古)
SJ193	066°	± 0°	6.2m	—	II期前半
SJ197	101°	+10°	5.7m	—	II期後半(古)
SJ199	357°	+17°	6.2m	—	II期後半(新)
SJ200	094°	+05°	6.1m	—	II期後半(古)
SJ202	354°	-05°	6.0m	—	II期後半(新)
SJ204	095°	+26°	5.9m	—	II期後半(古)
SJ205	084°	-10°	6.1m	—	II期後半(新)
SJ206	099°	-08°	5.9m	—	II期後半(新)
SJ207	098°	-03°	6.0m	—	II期後半(新)
SJ208	120°	+20°	5.8m	—	II期後半(新)
SJ210	285°	± 0°	5.9m	—	II期後半(新)
SJ211	094°	+03°	6.0m	—	II期後半(新)
SJ212	091°	+08°	5.8m	—	II期後半(新)
SJ213	096°	+08°	5.7m	—	II期後半(古)
SJ214	358°	± 0°	6.3m	—	II期後半(古)
SJ215	136°	± 0°	6.4m	SJ287・288<SJ215	II期後半(新)
SJ217	074°	+20°	6.2m	SJ217<SJ237・238	II期後半(新)
SJ218	224°	-12°	6.1m	SJ294<SJ218	II期後半(古)
SJ220	078°	-07°	6.1m	—	II期後半(古)
SJ222	268°	-03°	6.1m	SJ221<SJ222	II期後半(新)
SJ224	098°	± 0°	6.1m	—	II期後半(古)
SJ225	310°	+15°	6.0m	SJ215<SJ225<SJ234・292	II期後半(新)
SJ226	073°	+10°	6.1m	SJ241<SJ226	II期後半(古)

1. 土器棺墓の年代的位付けと分布関係

Tab. 4 増田遺跡2区土器棺墓一覧(3)

番号	方位角	埋置角	墓壇底面	切り合い関係 (旧<新)	時期
大形二連棺墓					
SJ233	086°	-03°	5.8m	—	II期後半(古)
SJ239	070°	± 0°	6.1m	SJ241<SJ239<SJ240・292	II期後半(古)
SJ241	072°	-08°	6.1m	SJ229<SJ241<SJ226・239	II期後半(古)
SJ243	267°	-04°	6.1m	—	II期後半(古)
SJ244	093°	± 0°	6.2m	—	II期後半(新)
SJ247	不明	不明	6.1m	—	不明
SJ248	255°	+03°	6.0m	—	II期後半(古)
SJ252	293°	-05°	5.9m	—	II期後半(古)
SJ253	268°	+05°	6.1m	—	II期後半(古)
SJ259	163°	+29°	6.2m	—	IV期
SJ268	088°	± 0°	6.3m	—	III期
SJ271	074°	+31°	6.2m	—	III期
SJ272	100°	不明	5.9m	—	II期後半(古)
SJ284	247°	± 0°	5.8m	—	II期前半
SJ286	272°	-11°	5.5m	SJ286<SJ249	II期後半(新)
SJ287	264°	+33°	5.8m	SJ288<SJ287<SJ215・237・238	II期後半(古)
SJ288	101°	-07°	5.8m	SJ287<SJ288<SJ215	II期後半(古)
SJ291	250°	+05°	6.0m	—	II期後半(古)
SJ293	263°	不明	6.1m	—	不明
SJ294	263°	± 0°	5.7m	SJ294<SJ218・219	II期前半
大形三連棺墓					
SJ122	064°	-03°	5.9m	—	II期前半
SJ133	088°	± 0°	6.0m	—	II期後半(古)
SJ150	277°	± 0°	6.1m	—	II期前半
SJ166	079°	-04°	6.2m	—	II期後半(古)
SJ169	065°	± 0°	6.1m	—	II期後半(古)
SJ179	272°	± 0°	6.1m	—	II期後半(古)
SJ203	070°	-03°	5.7m	—	II期前半
SJ229	085°	+07°	6.1m	SJ229<SJ241	II期前半
SJ283	076°	-04°	5.7m	—	II期前半
小形単棺墓					
SJ140	002°	± 0°	6.5m	—	II期後半(古)
SJ171	267°	± 0°	6.1m	—	II期前半
SJ175	102°	± 0°	6.5m	—	II不明
SJ176	295°	± 0°	6.0m	SJ177<SJ176	II期後半(古)
SJ267	074°	+30°	6.2m	—	IV期
小形二連棺墓					
SJ103	286°	± 0°	6.5m	—	II期後半(新)

VI. 総 括

Tab. 5 増田遺跡2区土器棺墓一覽(4)

番号	方位角	埋置角	墓壇底面	切り合い関係 (旧<新)	時期
小形二連棺墓					
SJ104	004°	± 0°	6.4m	—	Ⅱ期後半(古)
SJ105	285°	± 0°	6.4m	—	Ⅱ期後半(新)
SJ106	096°	-03°	6.3m	—	Ⅱ期後半(新)
SJ107	263°	± 0°	6.5m	SJ119<SJ107	Ⅱ期後半(新)
SJ109	161°	+03°	6.3m	—	Ⅱ期後半(古)
SJ110	280°	± 0°	6.4m	—	Ⅱ期後半(古)
SJ111	186°	± 0°	6.4m	—	Ⅱ期前半
SJ113	069°	+03°	6.5m	SJ102<SJ113	Ⅱ期後半(新)
SJ114	071°	+11°	6.2m	—	Ⅱ期前半
SJ124	044°	± 0°	6.3m	—	Ⅱ期後半(古)
SJ125	267°	-07°	6.2m	—	Ⅱ期後半(古)
SJ135	033°	± 0°	6.3m	SJ134<SJ135	Ⅱ期前半
SJ136	250°	± 0°	6.2m	—	Ⅱ期後半(古)
SJ137	077°	-07°	6.3m	—	Ⅱ期前半
SJ141	255°	± 0°	6.4m	—	Ⅱ期後半(古)
SJ142	不明	不明	6.5m	—	不明
SJ144	068°	-04°	6.4m	—	Ⅱ期後半(新)
SJ151	087°	-21°	6.3m	—	Ⅱ期前半
SJ160	285°	± 0°	6.1m	—	Ⅱ期前半
SJ164	027°	± 0°	6.4m	—	Ⅱ期後半(古)
SJ165	235°	± 0°	6.5m	—	Ⅱ期前半
SJ172	078°	-03°	6.2m	—	Ⅱ期後半(新)
SJ184	248°	± 0°	6.3m	—	Ⅱ期後半(古)
SJ185	264°	-10°	6.0m	—	Ⅱ期前半
SJ186	085°	± 0°	6.2m	—	Ⅱ期前半
SJ187	082°	± 0°	6.2m	—	Ⅱ期前半
SJ194	120°	± 0°	6.2m	—	Ⅱ期後半(古)
SJ196	112°	+05°	6.3m	—	Ⅱ期後半(古)
SJ198	346°	+06°	6.4m	—	Ⅱ期後半(古)
SJ209	113°	+15°	6.5m	—	Ⅱ期後半(新)
SJ216	208°	± 0°	6.3m	—	Ⅱ期後半(古)
SJ219	084°	± 0°	6.3m	SJ294<SJ219	Ⅱ期後半(古)
SJ221	066°	+08°	6.3m	SJ221<SJ222	Ⅱ期後半(古)
SJ223	242°	-07°	6.3m	—	Ⅱ期後半(新)
SJ227	240°	± 0°	6.5m	—	Ⅱ期前半
SJ228	259°	+04°	6.4m	—	Ⅱ期後半(古)
SJ230	162°	± 0°	6.5m	—	Ⅱ期後半(新)
SJ231	095°	± 0°	6.4m	—	不明

1. 土器棺墓の年代的位置付けと分布関係

Tab. 6 増田遺跡 2 区土器棺墓一覧(5)

番号	方位角	埋置角	墓壇底面	切り合い関係 (旧<新)	時期
小形二連棺墓					
SJ232	056°	± 0°	6.3m	—	II期後半(古)
SJ234	223°	± 0°	6.4m	SJ235<SJ234	II期後半(古)
SJ236	073°	± 0°	6.4m	—	II期後半(新)
SJ237	286°	+03°	6.4m	SJ217・287<SJ237	II期後半(古)
SJ238	060°	± 0°	6.4m	SJ217・287<SJ238	II期後半(古)
SJ240	335°	+34°	6.3m	SJ239<SJ240	II期後半(古)
SJ242	254°	± 0°	6.4m	—	II期後半(古)
SJ246	072°	+04°	6.3m	—	II期後半(古)
SJ249	170°	+03°	6.2m	SJ286<SJ249	不明
SJ250	084°	+11°	6.3m	—	II期後半(古)
SJ251	063°	± 0°	6.4m	SJ279<SJ251	II期後半(古)
SJ255	258°	+04°	6.4m	SJ254<SJ255	不明
SJ256	083°	-05°	6.3m	SJ258<SJ256	II期後半(古)
SJ257	284°	+04°	6.3m	—	II期後半(古)
SJ260	082°	± 0°	6.3m	—	II期後半(古)
SJ261	057°	± 0°	6.4m	—	II期後半(新)
SJ263	071°	-07°	6.0m	—	II期後半(古)
SJ265	071°	-03°	6.1m	—	II期後半(古)
SJ266	053°	+36°	6.4m	—	II期前半
SJ270	097°	+03°	6.5m	—	II期後半(古)
SJ275	075°	± 0°	6.3m	—	II期前半
SJ276	089°	-06°	6.1m	—	II期前半
SJ277	296°	+30°	6.4m	—	II期前半
SJ279	359°	± 0°	6.3m	SJ251<SJ279	II期後半(古)
SJ280	255°	+02°	6.5m	—	II期前半
SJ281	264°	-04°	6.1m	—	II期前半
SJ285	116°	+12°	6.4m	—	II期後半(新)
SJ289	316°	± 0°	6.2m	SJ289<SJ285	II期後半(新)
SJ290	085°	± 0°	6.3m	—	II期後半(新)
SJ292	013°	+08°	6.1m	SJ225・239<SJ292	II期後半(新)
小形三連棺墓					
SJ108	072°	± 0°	6.5m	—	II期前半
SJ112	087°	± 0°	6.3m	—	II期後半(古)
SJ146	087°	± 0°	6.3m	—	II期後半(古)
SJ148	105°	-08°	6.4m	—	II期前半
SJ258	084°	± 0°	6.2m	SJ258<SJ256	II期後半(古)
SJ262	077°	± 0°	6.3m	—	II期前半
SJ264	257°	± 0°	6.2m	—	II期前半

VI. 総 括

であり、Ⅱ期前半から量的に安定した状態で土器棺墓群が開始され、Ⅱ期後半古段階でピークに達し、Ⅲ期以降は極端に減少して土器棺墓群の終焉をむかえることがわかる。増田遺跡3区・津留遺跡1区でもⅢ期以降の土器棺墓はごく少数しか存在せず、増田遺跡群が大規模土器棺墓群といえるのはⅡ期後半の段階までと考える。現在のところ増田遺跡群から最も近い距離にある鍋島本村南遺跡〔木島1991〕の弥生時代集落ではⅡ期に比べⅢ期～Ⅳ期の遺構・遺物は極端に減少すること、鍋島本村南遺跡と増田遺跡群とともに擬朝鮮系無文土器が出土すること、は両者が一連の集落と墓地であった可能性が高いことを示唆している。

三連棺墓は、Ⅱ期前半には存在し、Ⅱ期後半古段階で消滅する。各時期の土器棺墓全体に三連棺墓が占める割合は、

Ⅱ期前半：23.7%（大形棺墓では29.4%，小形棺墓では19.0%）

Ⅱ期後半古段階：7.9%（大形棺墓では7.6%，小形棺墓では8.1%）

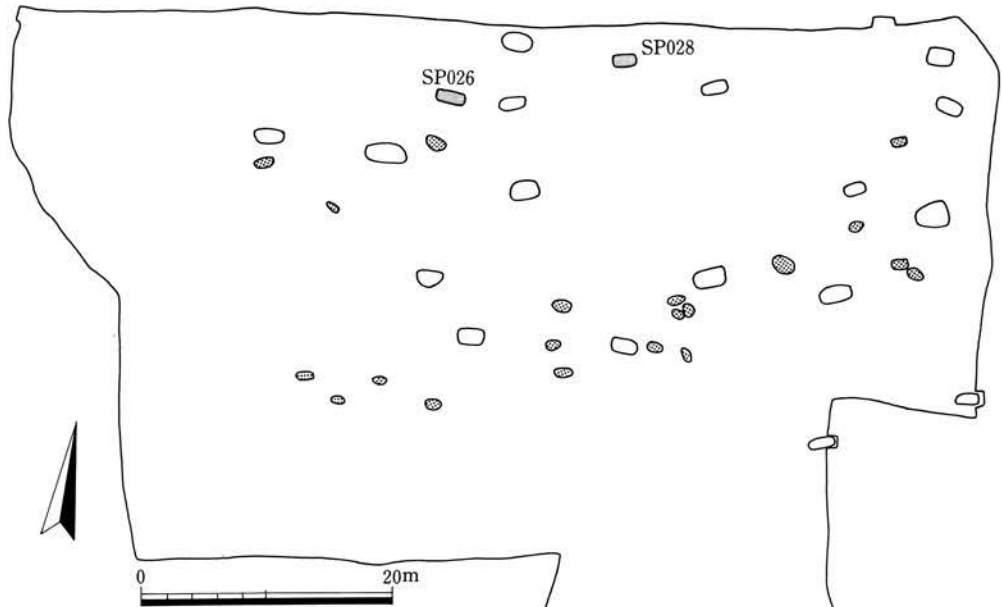
であり、明らかにⅡ期後半古段階で量的に減少して消滅する。

各時期の分布状況 Fig. 107～109に、Ⅱ期前半・Ⅱ期後半古段階・Ⅱ期後半新段階の土器棺墓（トーンは小形棺墓）の分布状況と、棺体方位角・埋置角・墓壇底面標高の分析結果を示した。

Ⅱ期前半の分布状況 (Fig. 107) 大形棺墓の分布状況は密集せず広く散在し、最低でも大形棺墓どうしは3 m以上の間隔があく。小形棺墓の分布状況は、調査区中央でW-E方向に長い帯状のまとまりがあり、小形棺墓どうしで集まる傾向が認められ、大形棺墓に近接して存在するものもある。大形棺墓の棺体方位角はW-E軸でほぼ安定し、小形棺墓の棺体方位角はおおむねW-E軸を示すが変異の幅が大きくN-S軸のものがごく少数ある。大形棺墓の埋置角は水平～-10°を示しきわめて安定的で水平埋置のものが多く、小形棺墓の埋置角は水平埋置が多いが変異の幅が大きく+30°～-21°を示す。大形棺墓の墓壇底面標高は5.5～6.2 mで最多モードは5.9 m、小形棺墓の墓壇底面標高は6.0～6.5 mで最多モードは6.3 mである。大形棺墓は分布状況に関しては有意なまとまりはないが、棺体方位角・埋置角の状況から考えると、大形棺墓の設定に関しては何らかの意識（ないし規制）の存在がうかがえる。津留遺跡1区の列埋葬をみると方向を揃える意識は棺体ではなく墓壇主軸にあるようで、墓壇主軸に対し斜めに土器棺を設置したものも多いことから；方位角を墓壇主軸で計測した場合には変異の幅はもっと小さくなると思われる。これに対し小形棺墓ではそのような意識はうかがえず、この時期での両者の社会的背景の違いを示唆するものか。なお、木棺墓 SP026・028 はW-E軸の方位角や津留遺跡1区の状況からこの時期にあたるものと考えられる。

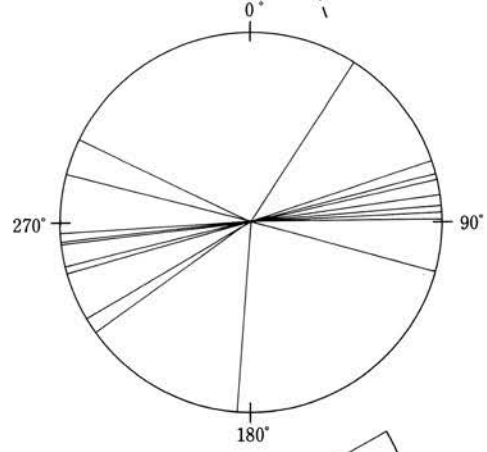
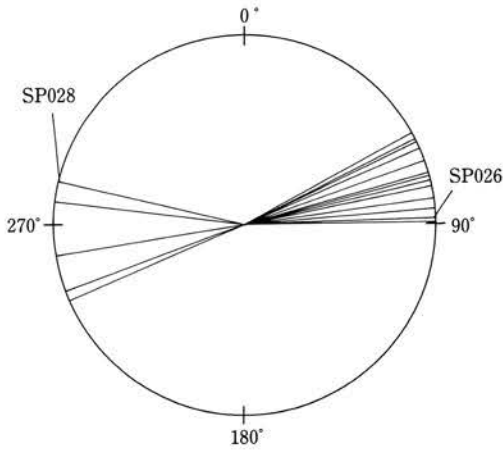
Ⅱ期後半古段階の分布状況 (Fig. 108) 大形棺墓・小形棺墓とも量的に増大し、土器棺墓どうしが近接するようになる。局所的に大形棺墓・小形棺墓が密集する部分もあり、この段階の土器棺墓どうしの切り合い関係が存在する。棺体方位角は大形棺墓・小形棺墓とも基本的に

1. 土器棺墓の年代的 position 付けと分布関係



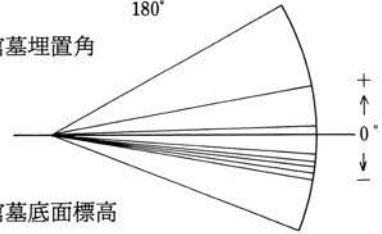
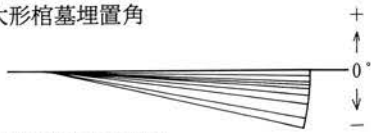
大形棺墓方位角

小形棺墓方位角



大形棺墓埋置角

小形棺墓埋置角



大形棺墓底面標高

小形棺墓底面標高

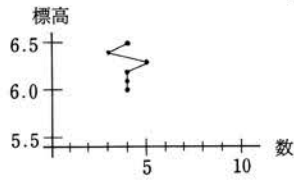
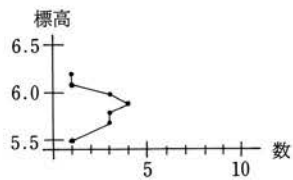
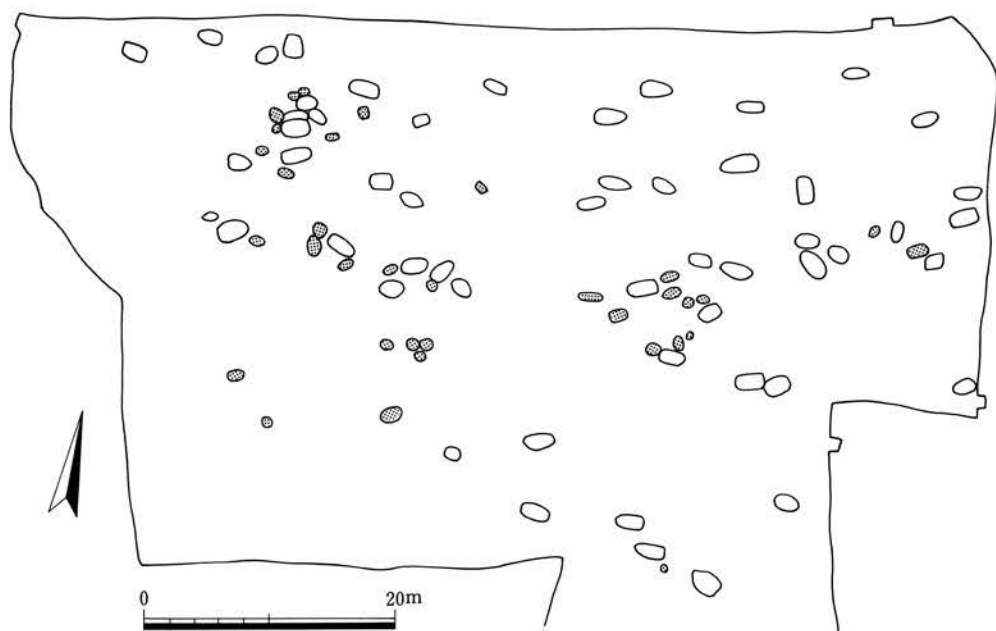


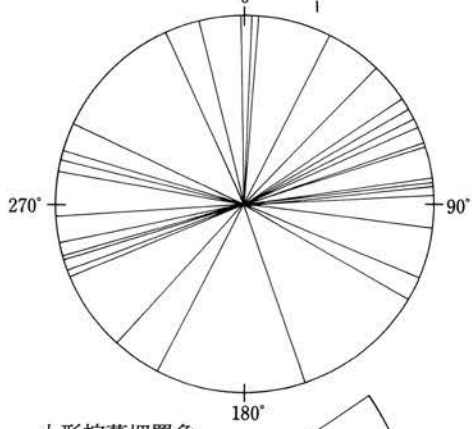
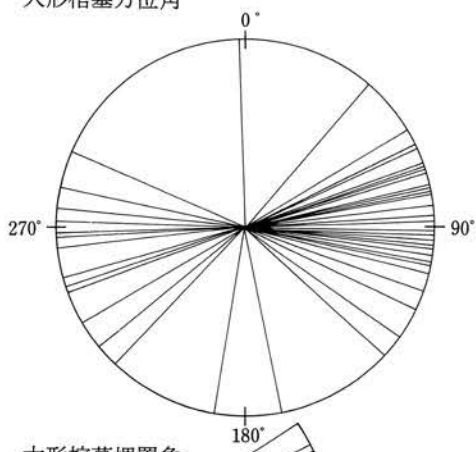
Fig.107 II期前半の分布状況 (1/600)

VI. 総括



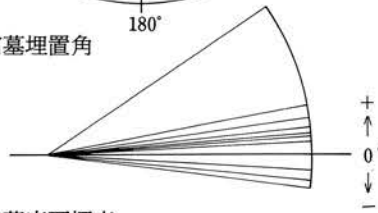
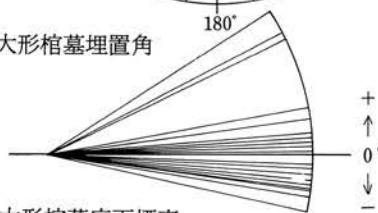
大形棺墓方位角

小形棺墓方位角



大形棺墓埋置角

小形棺墓埋置角



大形棺墓底面標高

小形棺墓底面標高

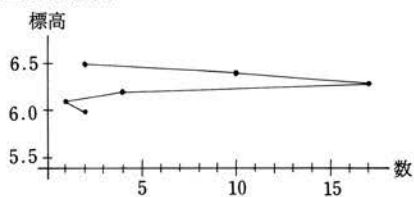
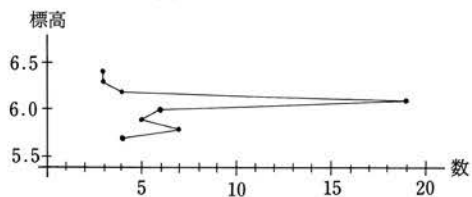


Fig.108 II期後半古段階の分布状況 (1/600)

1. 土器棺墓の年代的 position 付けと分布関係

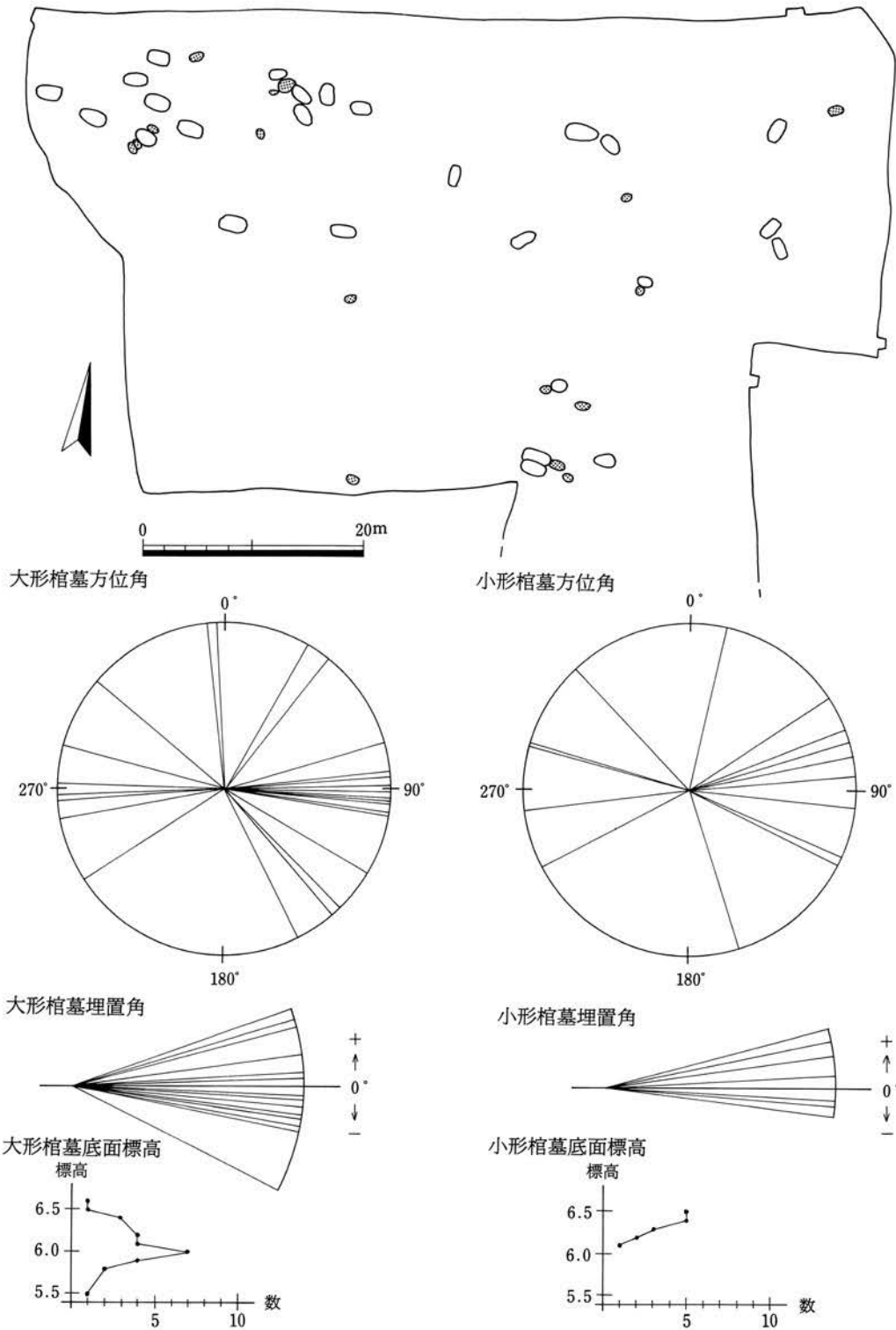


Fig. 109 II期後半新段階の分布状況 (1/600)

VI. 総 括

W—E軸のものが多く、変異の幅が大きく、N—S軸のものも増えている。棺体埋置角では大形棺墓で+角のものが出現し、大形棺墓・小形棺墓とも水平埋置のものも多く $\pm 12^\circ$ の幅に収まるが、極端に+角のものも存在する。墓壇底面標高は、大形棺墓が5.7~6.4mで最多モードは6.1m、小形棺墓は6.0~6.5mで最多モードは6.3mである。II期前半の大形棺墓にうかがえた土器棺墓の設定に関しての何らかの意識は認められないと思う。調査区北西側で大形棺墓・小形棺墓が密集する部分では、墓壇の掘削に際し先行する土器棺墓の棺体を壊さないように粘土塊をあてるといった行為が行われ、壘代的な土器棺墓の設定には意味があるのではないかと思われる。三連棺墓はこの段階の切り合い関係ではすべて切られていて、II期後半古段階でも早いうちに消滅したものと考える。

II期後半新段階の分布状況 (Fig.109) 大形棺墓・小形棺墓とも量的に減少し、調査区北西側以外では散在するが、この段階の土器棺墓どうしの切り合い関係は存在し、大形棺墓・小形棺墓が4~7基ほど部分的にまとまる傾向がある。棺体方位角は大形棺墓・小形棺墓とも基本的にW—E軸のものが多く、変異の幅がきわめて大きく、N—S軸のものも存在する。棺体埋置角では、大形棺墓・小形棺墓とも水平埋置が少なくなり、+角のものが多くなる。墓壇底面標高は、大形棺墓が5.5~6.6mで最多モードは6.0m、小形棺墓は6.1~6.5mで最多モードは6.4mと6.5mである。

以上、弥生時代II期前半・II期後半古段階・II期後半新段階の土器棺墓の分布状況と主要データの分析を記述した。その結果、どの段階でも他と明確に分離できる群構成は認められなかった。II期前半の大形棺墓にみた棺体方位角・埋置角の状況は何らかの意識を思わせるが、他ではそのような現象は認められない。埋置角では、II期前半からII期後半古段階にかけては水平埋置か一角のものも多く、II期後半新段階では+角のものが多くなる。墓壇底面標高は、II期前半では低く、II期後半古段階・新段階では高くなる傾向にある。地形的な要因は考えにくく、何らかの意識の変化によるものだろう。

2. 三連土器棺墓の起源と変遷に関する予備的考察

三連棺土器棺墓をはじめとする通常の合わせ口の二連土器棺墓以外の多連土器棺墓は、福岡県・佐賀県の墓地遺跡で1~2基が検出されることがたまにあり、弥生時代の墓制の中ではイレギュラーなものとして認識されている。ところが、今回の増田遺跡2区の調査で三連土器棺墓を16基、次年度の増田遺跡3区と津留遺跡1区の調査でこれに倍する三連土器棺墓と四連土器棺墓を検出した。増田遺跡2区の土器棺墓群の分析については前述しているが、弥生時代II期前半からII期後半古段階にかけて、一定数の三連土器棺墓が墓制の構成要素として含まれていることが明らかになった。さらに、津留遺跡1区では土器棺と木棺を組合せた特異な埋葬施設(仮に木棺土器棺併用墓とする)が確認され、三連土器棺墓の起源と変遷の過程についてある程度の見通しを有することが可能になった。年代的位置付けについてはまだ行えないが、こ

2. 三連土器棺墓の起源と変遷に関する予備的考察

ここで、増田遺跡2区の三連土器棺墓とそれに先行する津留遺跡1区の資料をもとに、三連土器棺墓の起源と変遷の過程に関する予報を行いたい。

津留遺跡1区墓地遺跡の概要 津留遺跡1区では、土器棺墓285基、(木棺土器棺併用墓と合わせて)木棺墓・土墳墓43基を検出した。土器棺墓群はおおむね弥生時代Ⅱ期を主体とするが、土器棺墓群開始期のものはいわゆる前期末にかかる可能性がある。副葬品を伴う木棺墓ではⅡ期後半まで下るものがある。Ⅱ期前半を主体とする全長70m以上の土器棺の列埋葬を確認したが、同時期の列埋葬に入らない土器棺墓が周辺に密集していた。Ⅱ期前半の甕形土器とともに小形二連棺墓の棺体となっていた擬朝鮮系無文土器牛角把手付長頸壺を2例検出した。擬朝鮮系無文土器を用いた土器棺墓、木棺墓、土墳墓、木棺土器棺併用墓、多連土器棺墓は、列埋葬を構成する群には含まれていない。

木棺土器棺併用墓の類例 Fig. 110に木棺土器棺併用墓の類例を示した。1は標準的な木棺墓の類例で、長方形の墓壇を掘り込み、その底面にさらに二重墓壇を掘り込んで木棺を設置する。粘土床を施しているものもある。2は木棺の一方に土器棺をつないだものの類例で、量的には最も多い。二重墓壇の底面は土器棺のそれより浅く、木棺と土器棺の結合の状況は直接にはわかっていない。3は木棺の両端を土器棺でつないだものの類例で、二重墓壇の底面は土器棺のそれより浅い。3の例では一方の土器棺の上面を打ち欠き、木棺の小口を押さえていたような状況が観察できた。4は木棺の一方に土器棺をつないでいるが、2個の土器棺を三連土器棺墓と同じ手法で接合している類例である。二重墓壇の底面は土器棺のそれより浅い。

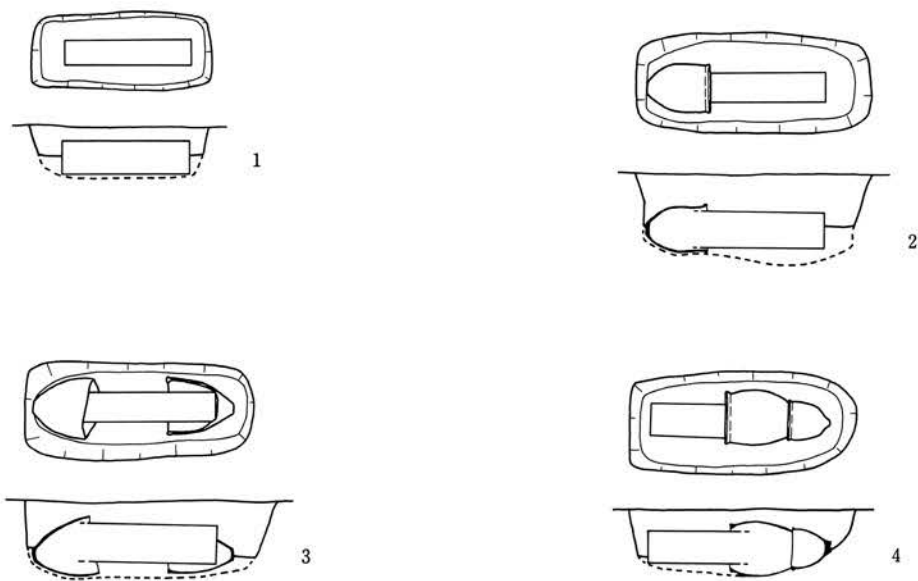


Fig. 110 木棺土器棺併用墓の類例 (約1/80)

VI. 総 括

3の例でみると、木棺土器棺併用墓は本来、木棺の小口を押さえるために土器棺を用いることから出現したものと思われる。2・3の段階の土器棺は、いわゆる金海系の器高50~60cmほどの見慣れない棺体を用いられた例が多く、これがいわゆる前期末をかする確率が高い。4の土器棺の棺体はII期前半にあたるものである。津留遺跡1区における開始期の弥生時代墓地が、木棺墓と土器棺墓で構成されたものと仮定すると、この両者から折衷したような形態が発生したものとする。

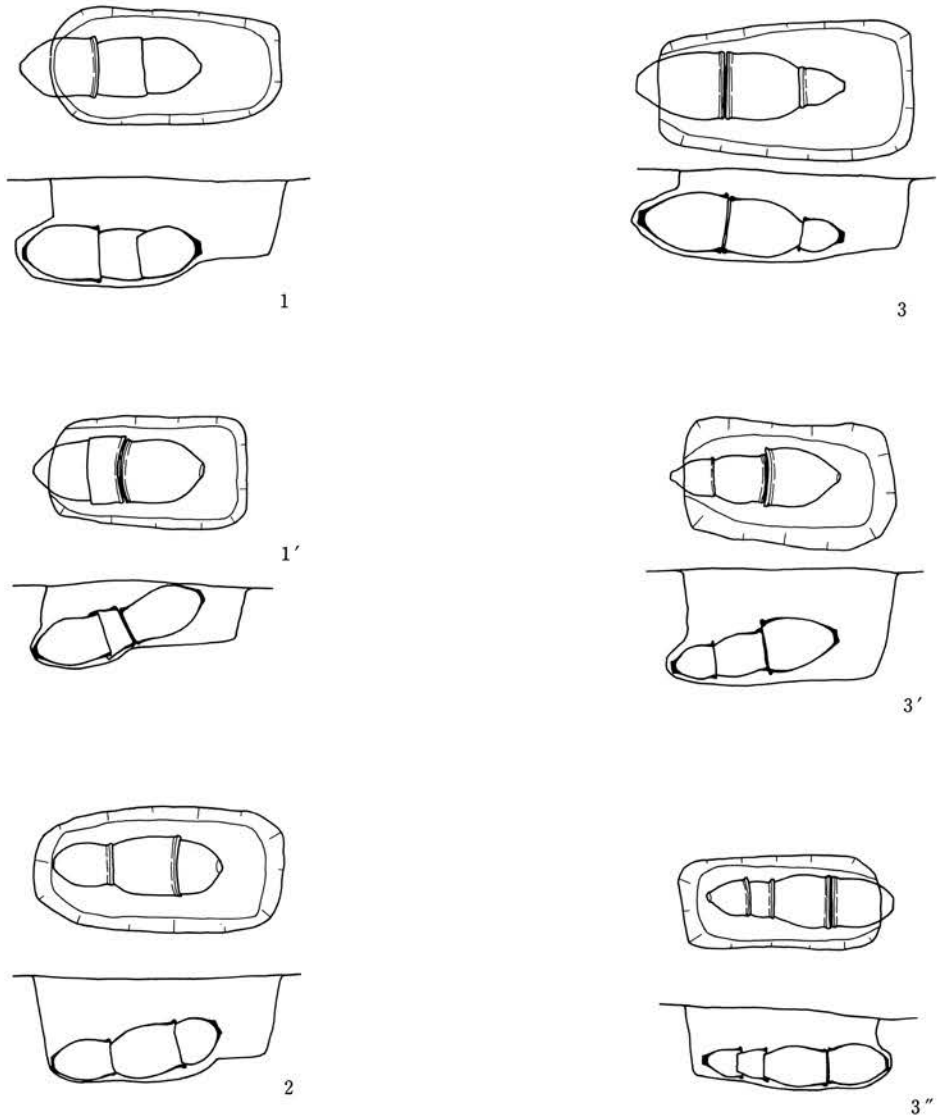


Fig.111 三連土器棺墓の類例 (約1/80)

2. 三連土器棺墓の起源と変遷に関する予備的考察

三連土器棺墓の類例 増田遺跡2区で検出されたⅡ期前半からⅡ期後半古段階の大形三連棺墓は、どれも墓壇の挟り込みにはめられた大形埋葬専用土器の棺体Aと、合わせ口で大形埋葬専用土器の棺体Bをつなぎ、棺体Bの底部を打ち欠いて小形である甕形土器の棺体Cをつないでいた。これに先行する段階と思われる津留遺跡1区の例では、多くの形態が存在した。大形三連棺墓の類例を Fig. 111 に示す。

1は、増田遺跡2区の例と同じ棺体の配置で、棺体には大形埋葬専用土器のみを用い、Bを胴部で打ち欠いていた。1'は棺体に大形埋葬専用土器のみを用いる点では1と同様だが、棺体AとB・Cの位置が逆転している。2は棺体の配置は1'と同じだが、棺体Cは合わせ口ではなく大形埋葬専用土器の上半を打ち欠いて用いていた。3は増田遺跡2区の例と同じ形態で、棺体Cに甕形土器を用いている。3'は、3の棺体の配置が逆転したものである。3''は四連棺墓で、3の棺体Cの下半を打ち欠き、甕形土器の棺体Dをつなげたものである。

1・1'・2の例の棺体は、増田遺跡2区のⅡ期前半の棺体より先行するものと思われる。3の例は遅くともⅡ期前半には出現し、大形埋葬専用土器の棺体A・Bを合わせ口で用い、棺体Cに甕形土器を用いるという形態に固定され、定形化した段階のものと考えられる。3'の例の棺体配置は定形化する直前のものである。3''は定形化した段階でも早いうちのものか。

埋葬専用土器を用いない小形棺墓でも、三連棺墓・四連棺墓は存在するが、棺体の配置は定形化した段階の3ないし3''と同様である。補足しておくとして、特殊な小形の埋葬専用土器を棺体に用いるもの以外、Ⅱ期前半に先行する段階では甕形土器を用いた小形棺墓は存在しない公算が高い。

三連土器棺墓の起源と変遷 Fig. 112に三連土器棺墓の起源と変遷についての予想を示した。木棺土器棺併用墓の Fig. 110—4の例の棺体はⅡ期前半で、大形埋葬専用土器と甕形土器を配置する手法は定形化した三連土器棺墓の影響を受けたもので、三連土器棺墓が定形化する段階にほぼ並行すると考える。この点以外の年代的な細かい検討はできていない。

津留遺跡1区の弥生時代墓地がⅡ期前半に先行するいわゆる前期末に開始されたと仮定すると、この段階では伸展葬を行う木棺墓・木棺土器棺併用墓と屈葬を基本とする大形土器棺墓が併存し、こうした状況から伸展葬を行うための土器棺墓として大形三連土器棺墓が出現したと思われる。この段階の大形三連土器棺墓は様々な形態が存在し、棺体の選別や配置など固定されていなくて、定形化以前の段階といえる。

これに後続するⅡ期前半では、大形埋葬専用土器の棺体A・Bを合わせ口で用い、棺体Cに甕形土器を用いるという形態に固定された定形化した大形三連土器棺墓が出現する。この段階では、大形埋葬専用土器を用いない小形三連土器棺墓も出現するものと思われ、その形態は大形三連土器棺墓と同様の棺体配置に固定されている。また、この段階までは木棺土器棺併用墓の系統が続くものと思われ、定形化した三連土器棺墓に影響を受け、その棺体配置の手法を取

VI. 総 括

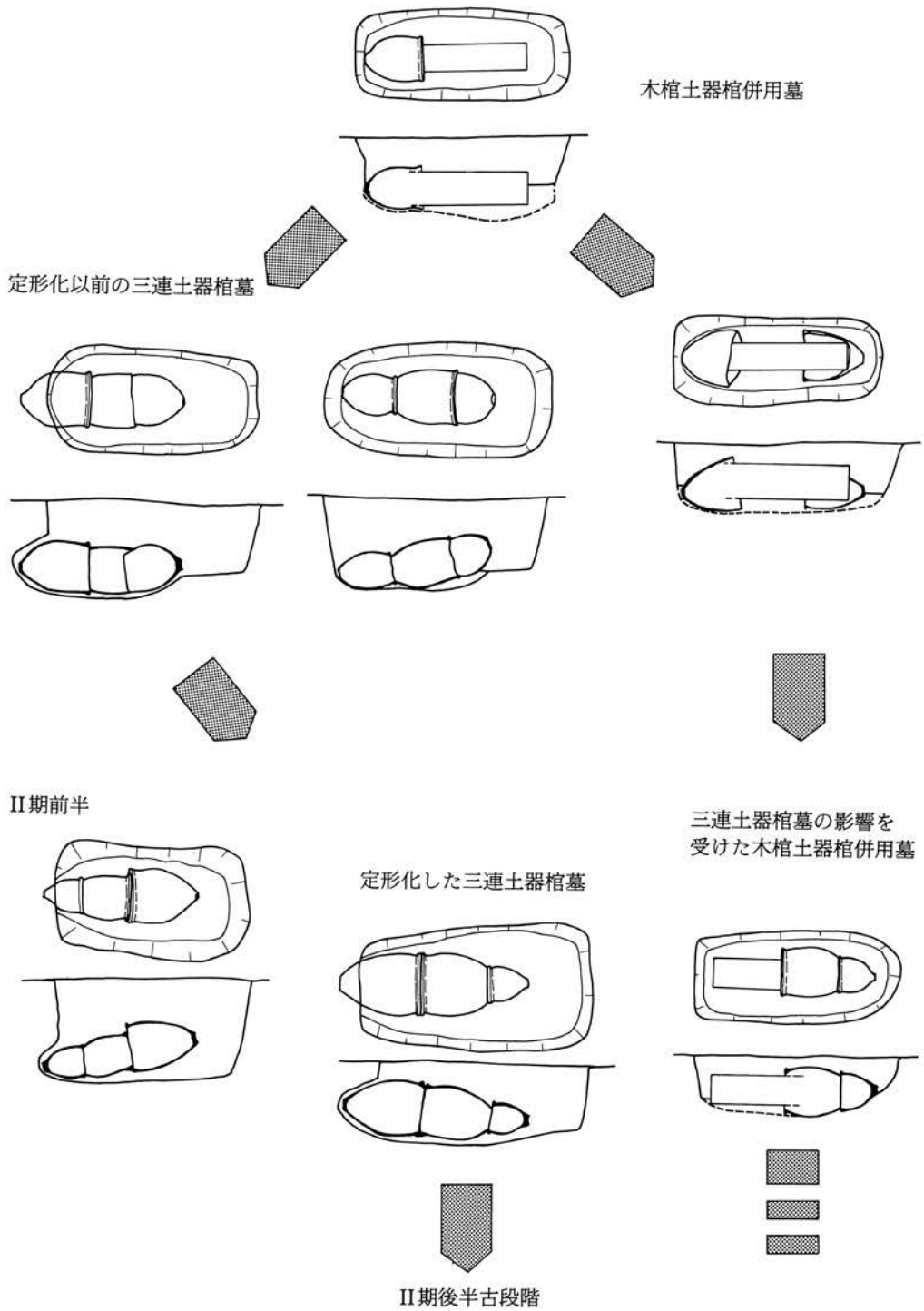


Fig. 112 三連土器棺墓の起源と変遷

2. 三連土器棺墓の起源と変遷に関する予備的考察

り入れた木棺土器棺併用墓が存在する。

Ⅱ期前半に続くⅡ期後半古段階では、定形化した大形と小形の三連土器棺墓が存在するが、前述したようにⅡ期後半古段階でも比較的早いうちに消滅すると思われる。現在のところ、この段階での木棺土器棺併用墓は確認できていない。

まとめ 以上、木棺土器棺併用墓と三連土器棺墓の形態及びその起源と変遷の過程について概観した。次年度に予定される津留遺跡1区・増田遺跡2区の整理作業で、この仮説の検証と修正を行う方針である。

最後に、こうした特異な墓制を出現させた背景について、若干ふれてみたい。

弥生時代のいわゆる前期末からⅡ期前半（いわゆる中期〈初頭〉）にかけての墓地は、屈葬を基本とする大形土器棺墓と伸展葬のための木棺墓・土壙墓で構成されている例が目立つが、Ⅱ期後半古段階までの増田遺跡群で埋葬を行った（一部の）人々の意識には、伸展葬に対する強いこだわりが感じられる。増田遺跡2区での三連土器棺墓の分布には有意なまともは認められなかったが、前述したように津留遺跡1区では、木棺墓・土壙墓・木棺土器棺併用墓・多連土器棺墓など伸展葬を行う埋葬形態と、擬朝鮮系無文土器を用いた土器棺墓は、同じ時期の列埋葬を構成する群には含まれていない。この点については次年度報告で明確にする必要があるが、同一の墓地空間を利用しながら伸展葬に対する強いこだわりを有する人々が、通常の土器棺墓だけで構成された群とは異なる群構成をおこなった可能性が指摘できる。

調査記録で報告したように増田遺跡2区の土器棺墓混入遺物には擬朝鮮系無文土器の破片が認められ、津留遺跡1区では2基の擬朝鮮系無文土器牛角把手付長頸壺を用いた小形二連土器棺墓を検出した。また、確認された範囲では増田遺跡群に最も近い弥生時代集落である鍋島本村南遺跡ではまとまった量の擬朝鮮系無文土器が出土している。さらに、多鈕細文鏡とともに定形化以前と定形化段階の三連土器棺墓が確認された大和町本村籠遺跡〔田中・松本1992〕でも擬朝鮮系無文土器の牛角把手破片が確認されている。

伸展葬のための特異な埋葬形態と伸展葬に対する強いこだわりを有する人々を、擬朝鮮系無文土器を有する人々と結びつけることは、現段階では飛躍を伴う。しかし、Ⅱ期後半古段階で三連土器棺墓が消滅する事実を、「基本的には土生Ⅲ式段階（筆者註：ほぼ弥生時代中期前葉に並行）で擬朝鮮系無文土器は消滅し、その技術も弥生土器製作技術主流の中に埋没していく。」という片岡〔1993〕の指摘と合わせて考えれば、それはきわめて暗示的である。

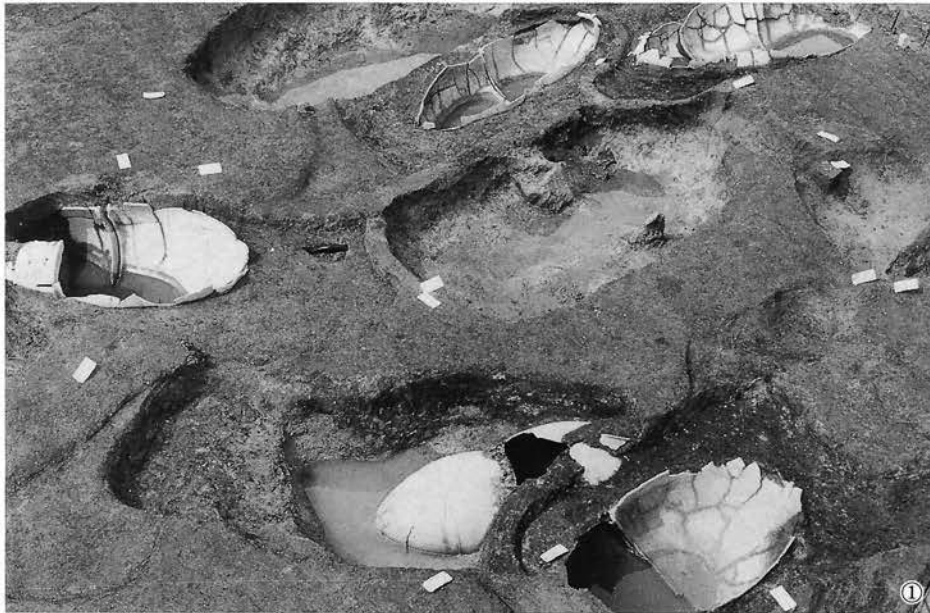
謝辞 この稿をなすにあたり、平成5年3月6日の〈有明文化を考える会〉で、小田富士雄・片岡宏二・田中稿二・谷澤仁・渡辺正気の各氏には有益な助言をいただいた。片岡宏二氏と同僚である木島慎治氏には、擬朝鮮系無文土器についてたびたびご教示をいただいている。ここに記して感謝いたします。

文 献 一 覧

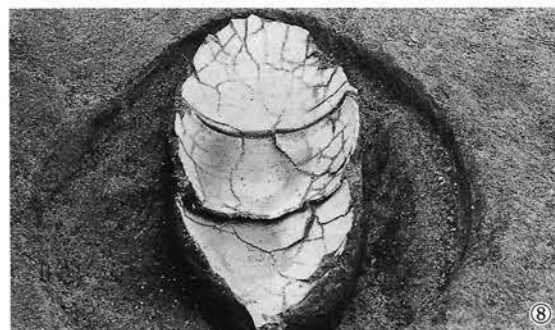
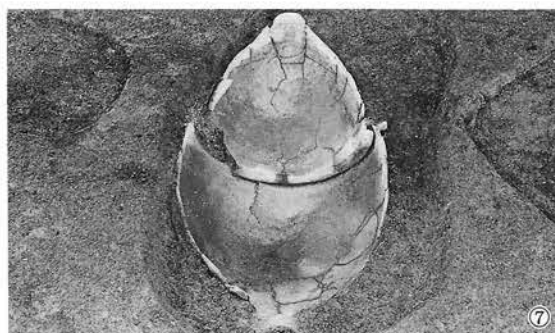
- 片岡 宏二 [1993]：朝鮮系無文土器の弥生土器化とその社会。MUSEUM（東京国立博物館美術誌）503，東京国立博物館。
- 木島 慎治 [1991]：鍋島本村南遺跡（佐賀市文化財調査報告書35），佐賀市教育委員会。
- 経済企画庁 [1966]：土地分類基本調査佐賀。
- 田中 稿二 [1988]：池上二本松遺跡（大和町文化財調査報告書6），大和町教育委員会。
- 田中 稿二 [1989]：佐保遺跡・池上二本松B遺跡（大和町文化財調査報告書7），大和町教育委員会。
- 田中 稿二 [1990]：本村籠遺跡・於保三本松遺跡（大和町文化財調査報告書10），大和町教育委員会。
- 田中稿二・松本隆昌 [1992]：大和町内遺跡確認調査（大和町文化財調査報告書16），大和町教育委員会。
- 谷澤 仁 [1992]：尼寺一本松遺跡（大和町文化財調査報告書17），大和町教育委員会。
- 中園 聡 [1991]：甕棺型式の再検討。—“属性分析”と数量分類法による型式分類—。九州考古学66，九州考古学会。
- 橋口 達也 [1979]：甕棺の編年的研究。九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告31，福岡県教育委員会。
- 樋口 嘉彦 [1992]：甕棺の地域性について。九州考古学67，九州考古学会。
- 福田 義彦 [1986]：増田遺跡，鍋島土地区画整理組合。
- 藤尾慎一郎 [1989]：九州の甕棺—弥生時代甕棺墓の分布とその変遷—。国立歴史民俗博物館研究報告21，国立歴史民俗博物館。
- 前田 達男 [1992]：村徳永遺跡・篠木野遺跡（佐賀市文化財調査報告書37），佐賀市教育委員会。
- 向田雅彦・浜田信也・山村淳彦・池辺元明・橋口達也・中橋孝博 [1990]：永岡遺跡II（筑紫野市文化財調査報告書26），筑紫野市教育委員会。
- 森貞 次郎 [1968]：弥生時代における細形銅剣の流入について—細形銅剣の編年的考察—。日本民族と南方文化，平凡社。



①：増田遺跡2区全景（西から）
②：増田遺跡2区全景（南から）



①：調査区 北西部土器棺墓検出状況
②：土器棺墓検出状況 (SJ145)
③：土器棺墓検出状況 (SJ123)



① : SJ102 (西から)
 ② : SJ103 (東から)
 ③ : SJ104 (南から)

④ : SJ105 (西から)
 ⑤ : SJ106 (西から)
 ⑥ : SJ107 (西から)

⑦ : SJ108 (北から)
 ⑧ : SJ109 (東から)
 ⑨ : SJ110 (西から)

⑩ : SJ111 (北から)
 ⑪ : SJ112 (東から)

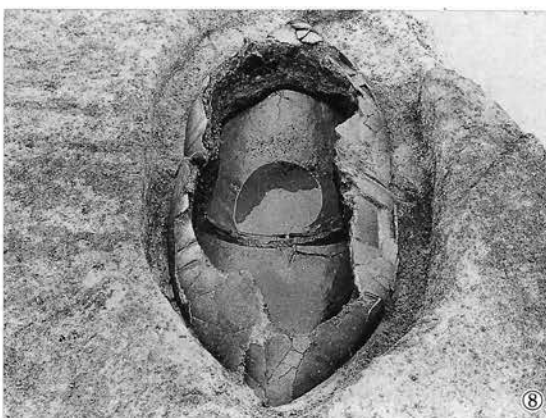
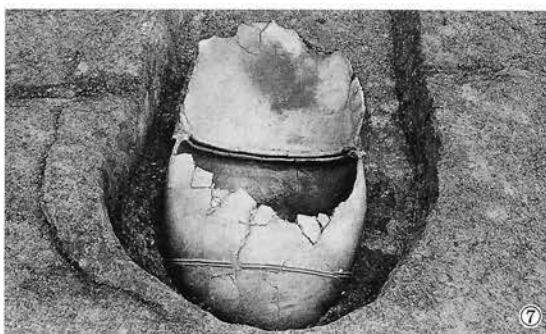
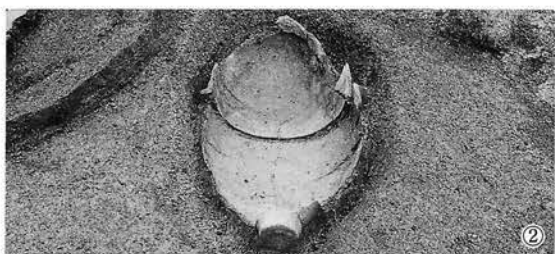
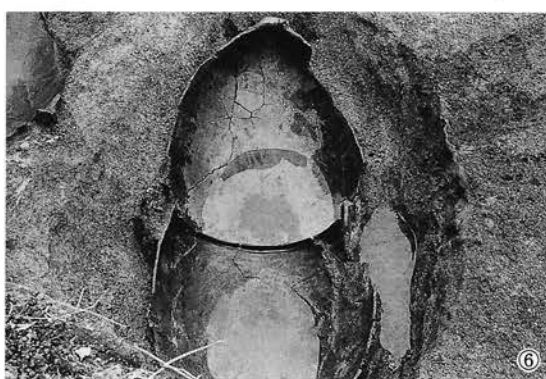


① : SJ113 (西から)
② : SJ114 (西から)
③ : SJ115 (西から)

④ : SJ116 (東から)
⑤ : SJ117 (西から)
⑥ : SJ118 (北から)

⑦ : SJ119 (西から)
⑧ : SJ120 (西から)
⑨ : SJ121 (西から)

⑩ : SJ122 (西から)



① : SJ123 (西から)

④ : SJ126 (東から)

⑦ : SJ129 (西から)

② : SJ124 (西から)

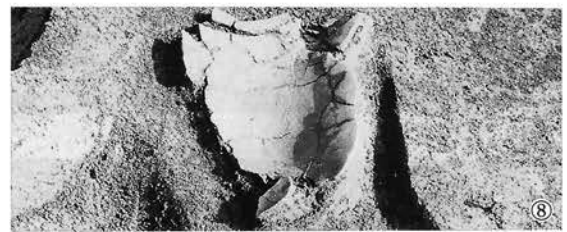
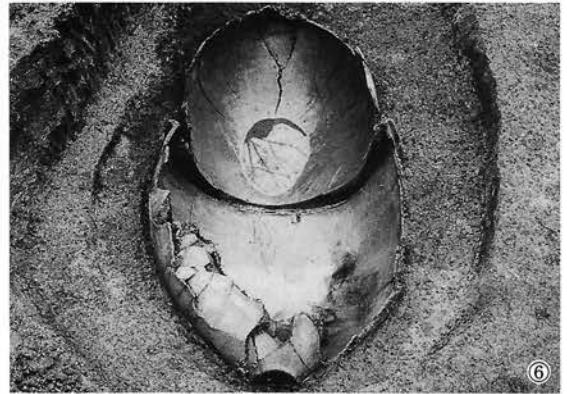
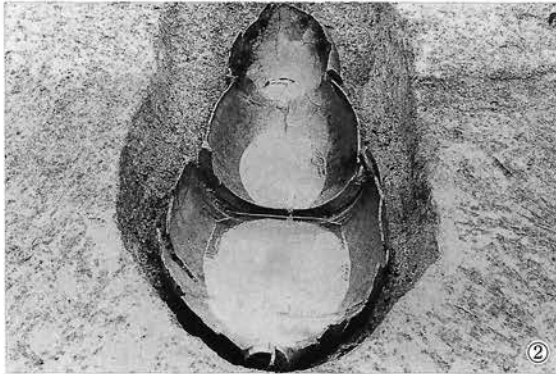
⑤ : SJ127 (西から)

⑧ : SJ130 (西から)

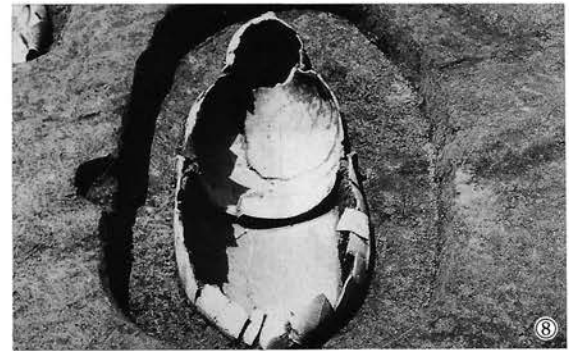
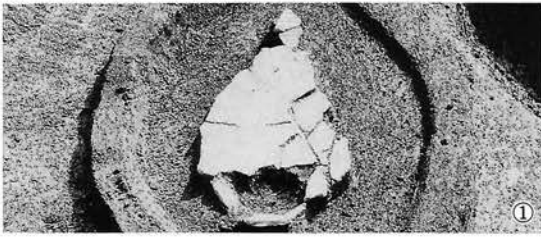
③ : SJ125 (西から)

⑥ : SJ128 (東から)

⑨ : SJ131 (西から)



① : SJ132 (西から) ④ : SJ135 (北から) ⑦ : SJ139 (東から)
② : SJ133 (西から) ⑤ : SJ136・137 (西から) ⑧ : SJ140 (南から)
③ : SJ134 (西から) ⑥ : SJ138 (西から) ⑨ : SJ141 (西から)



① : SJ142 (西から)

④ : SJ145 (西から)

⑦ : SJ149 (西から)

⑩ : SJ152 (西から)

② : SJ143 (東から)

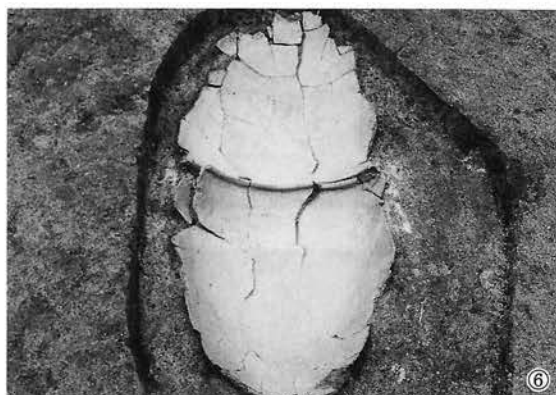
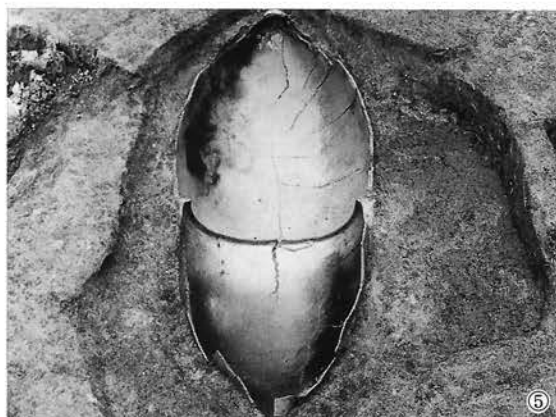
⑤ : SJ146 (西から)

⑧ : SJ150 (東から)

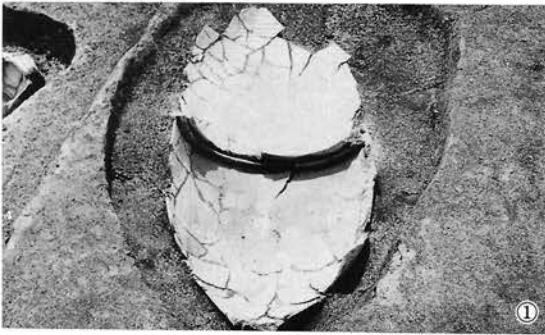
③ : SJ144 (西から)

⑥ : SJ147 (南西から)

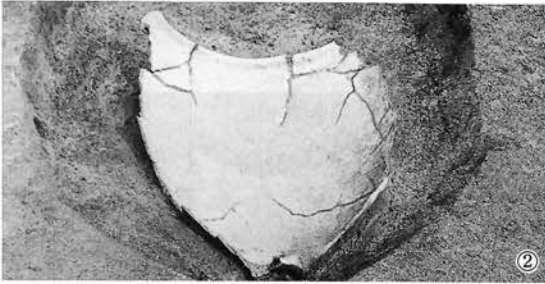
⑨ : SJ151 (東から)



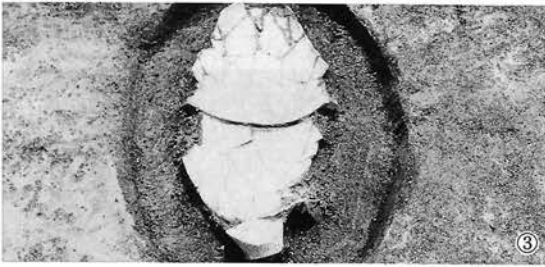
① : SJ153 (西から) ④ : SJ156 (西から) ⑦ : SJ159 (南東から)
② : SJ154 (北から) ⑤ : SJ157 (南から) ⑧ : SJ160 (北から)
③ : SJ155 (南から) ⑥ : SJ158 (北から) ⑨ : SJ161 (北から)



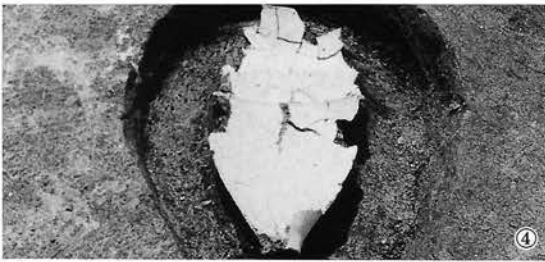
①



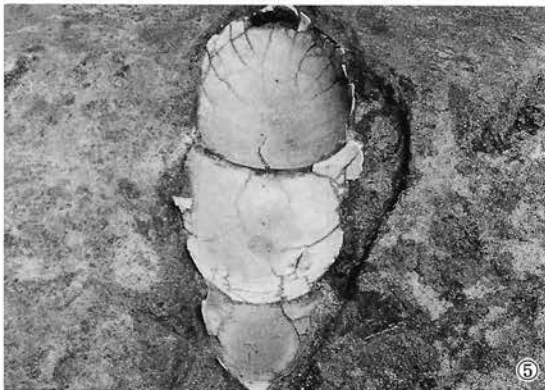
②



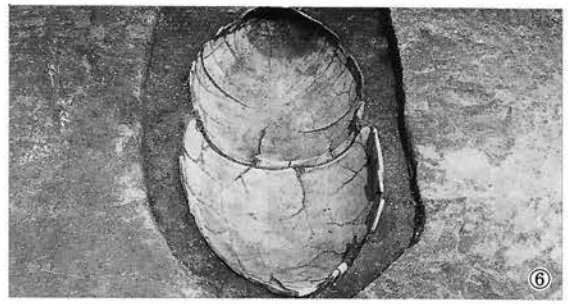
③



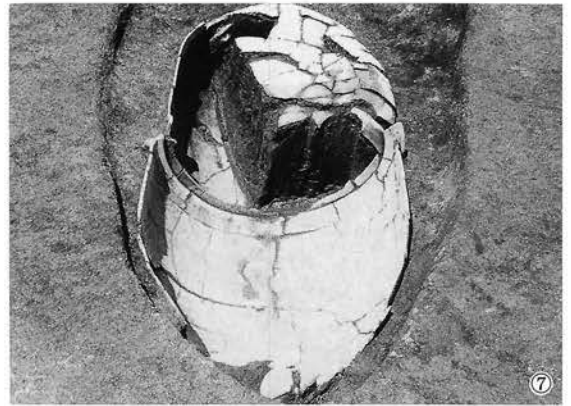
④



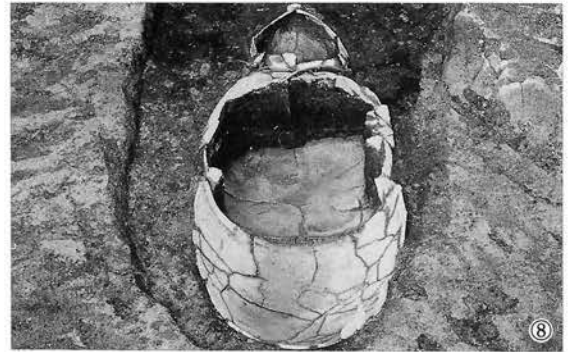
⑤



⑥



⑦



⑧



⑨



⑩

① : SJ162 (東から)

④ : SJ165 (西から)

⑦ : SJ168 (東から)

⑩ : SJ175 (西から)

② : SJ163 (北西から)

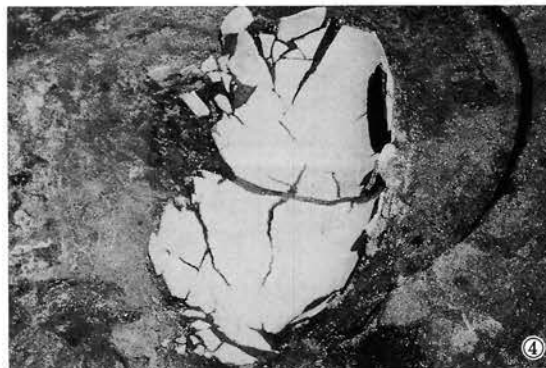
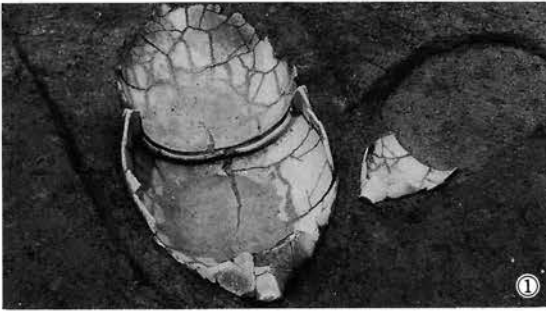
⑤ : SJ166 (西から)

⑧ : SJ169 (西から)

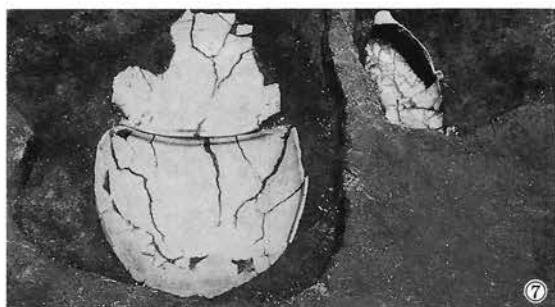
③ : SJ164 (北から)

⑥ : SJ167 (西から)

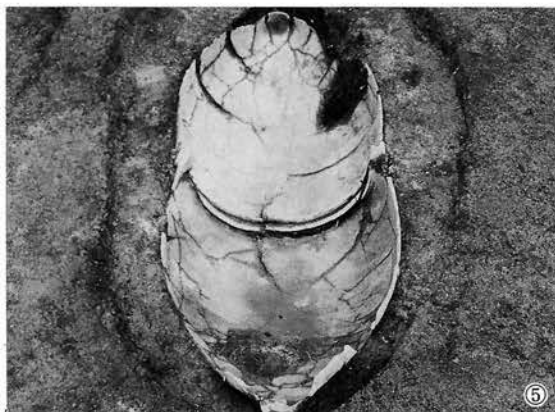
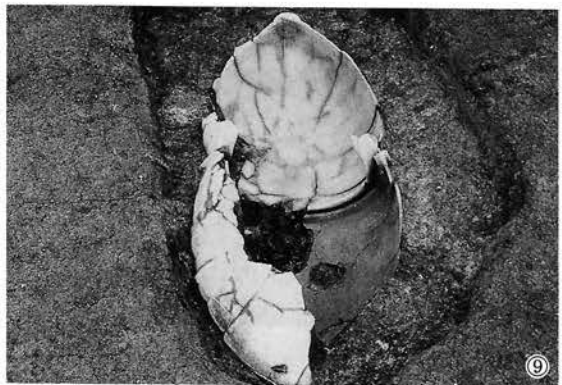
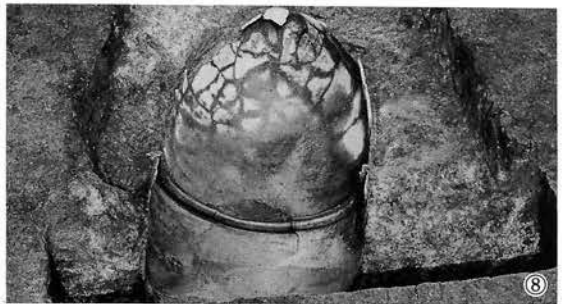
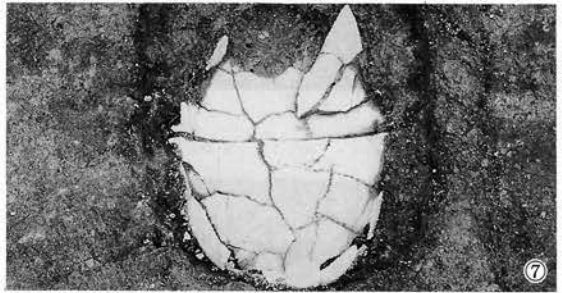
⑨ : SJ170 (東から)



① : SJ176・177 (東から) ④ : SJ182 (西から) ⑦ : SJ185 (西から)
② : SJ180 (東から) ⑤ : SJ183 (西から) ⑧ : SJ186 (西から)
③ : SJ181 (西から) ⑥ : SJ184 (東から) ⑨ : SJ187 (西から)



① : SJ188 (東から) ④ : SJ191 (東から) ⑦ : SJ198・199(南から)
 ② : SJ189 (北東から) ⑤ : SJ193 (西から) ⑧ : SJ202 (北から)
 ③ : SJ190 (東から) ⑥ : SJ194 (東から)



① : SJ203 (西から)

④ : SJ206 (西から)

⑦ : SJ209 (西から)

⑩ : SJ212 (西から)

② : SJ204 (西から)

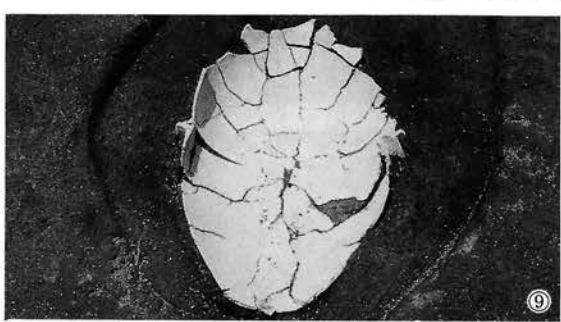
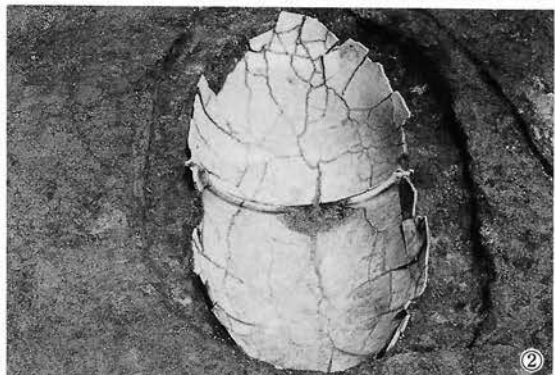
⑤ : SJ207 (西から)

⑧ : SJ210 (東から)

③ : SJ205 (東から)

⑥ : SJ208 (西から)

⑨ : SJ211 (西から)



① : SJ213 (西から)
 ② : SJ214 (南から)
 ③ : SJ216 (北から)

④ : SJ217・238・273 (東から)
 ⑤ : SJ218 (東から)
 ⑥ : SJ220 (西から)

⑦ : SJ223 (西から)
 ⑧ : SJ224 (西から)
 ⑨ : SJ227 (東から)

⑩ : SJ228 (東から)

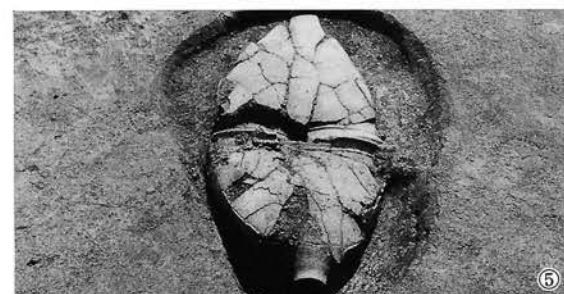
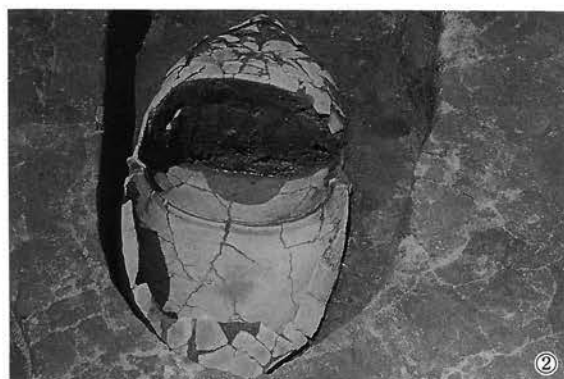


① : SJ230 (北から)
 ② : SJ232 (西から)
 ③ : SJ233 (西から)

④ : SJ240 (北から)
 ⑤ : SJ242 (東から)
 ⑥ : SJ243 (東から)

⑦ : SJ244 (東から)
 ⑧ : SJ246 (西から)
 ⑨ : SJ248 (西から)

⑩ : SJ249 (北から)



① : SJ251 (西から)

④ : SJ235・254 (西から)

⑦ : SJ263 (西から)

⑩ : SJ268 (西から)

② : SJ252 (東から)

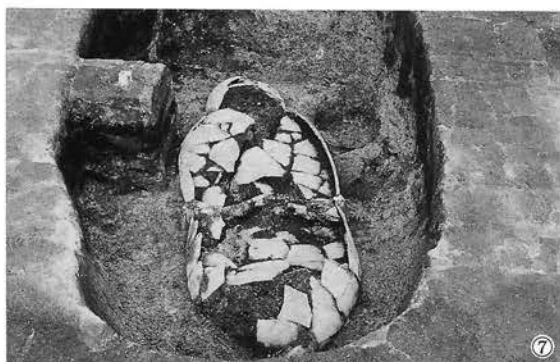
⑤ : SJ256 (西から)

⑧ : SJ264 (東から)

③ : SJ253 (東から)

⑥ : SJ262 (東から)

⑨ : SJ265 (西から)



① : SJ270 (西から)

④ : SJ279 (南から)

⑦ : SJ283 (西から)

⑩ : SJ291 (東から)

② : SJ275 (西から)

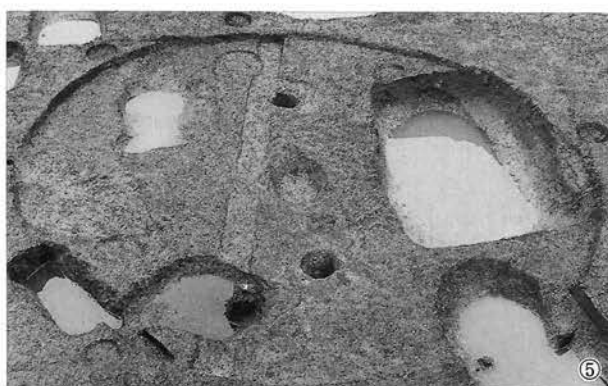
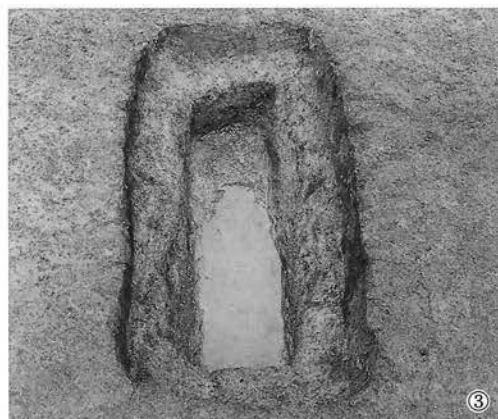
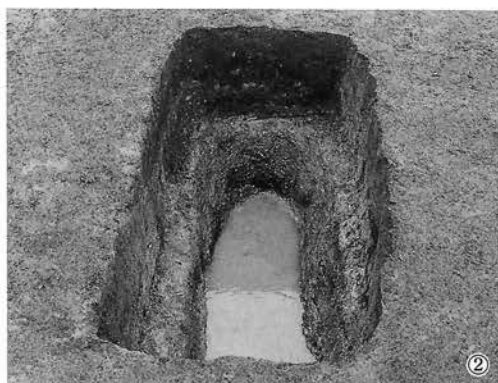
⑤ : SJ280 (東から)

⑧ : SJ286 (東から)

③ : SJ276 (西から)

⑥ : SJ281 (東から)

⑨ : SJ289 (東から)



① : SJ292 (西から)

④ : SK282 (東から)

⑦ : SK014 (南から)

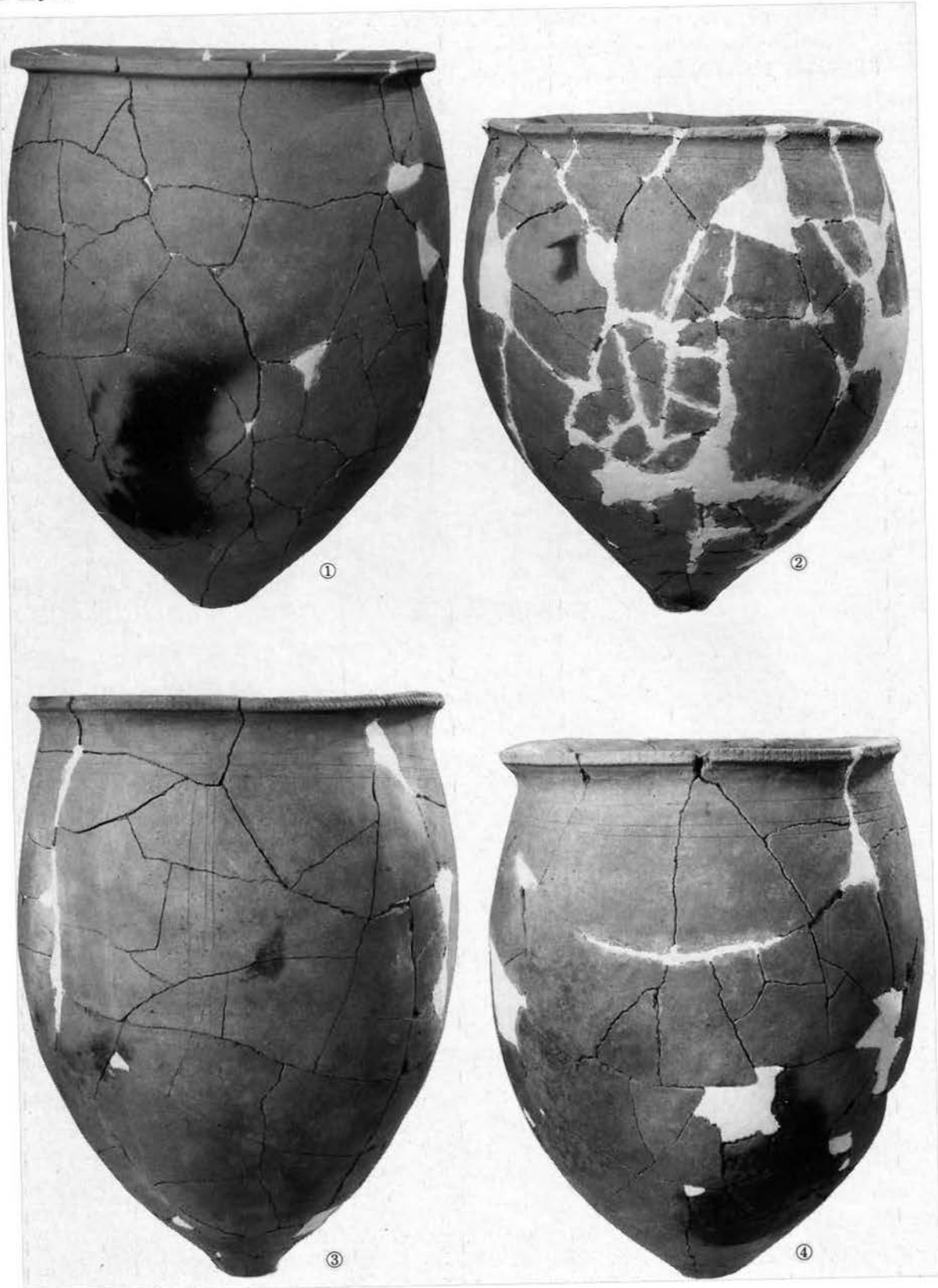
② : SP026 (東から)

⑤ : SH030 (東から)

⑧ : SK016 (東から)

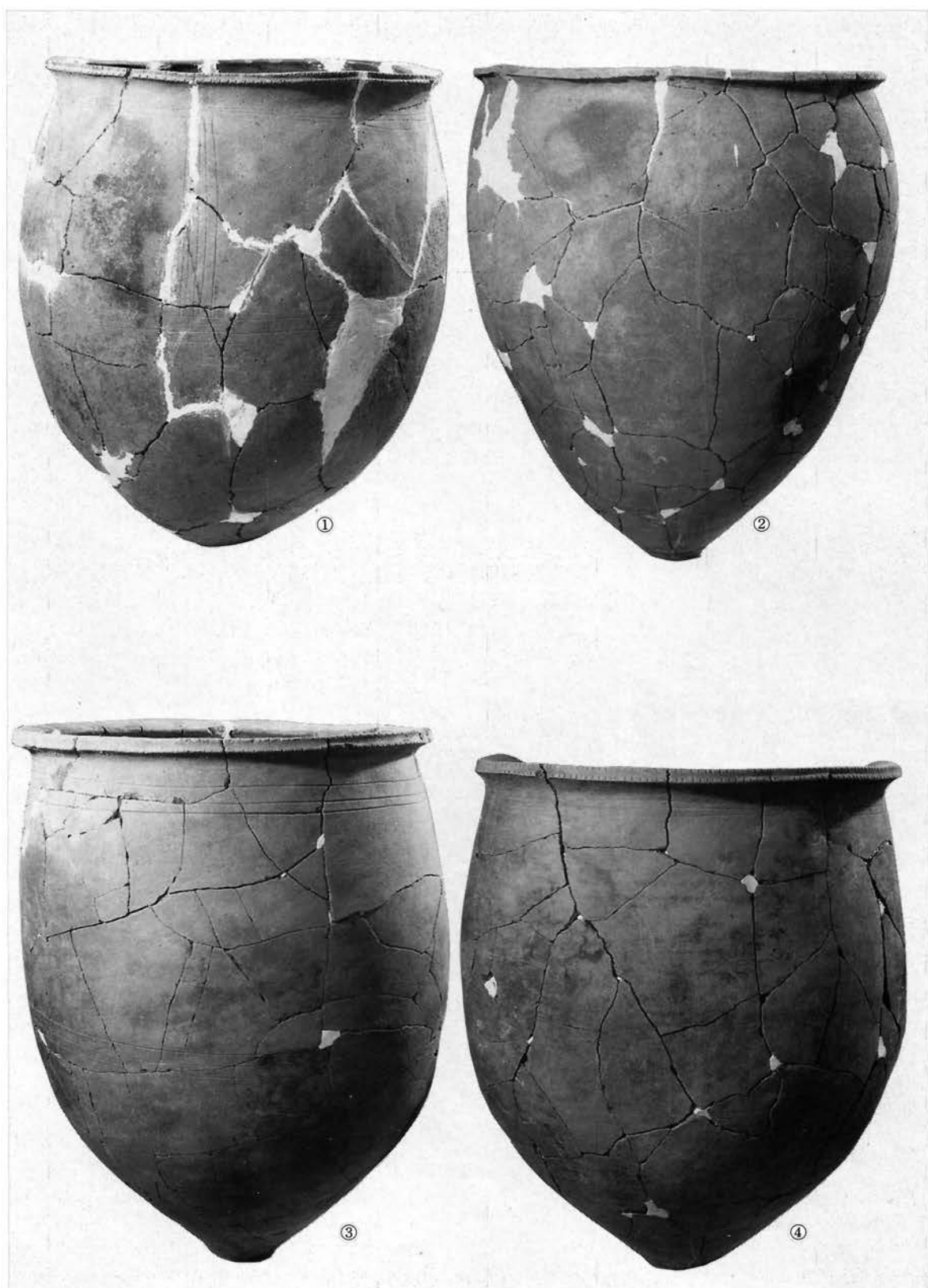
③ : SP027 (東から)

⑥ : SK011 (南から)



① : SJ121A (Fig. 68-7)
③ : SJ156A (Fig. 67-7)

② : SJ121B (Fig. 68-10)
④ : SJ156B (Fig. 67-8)

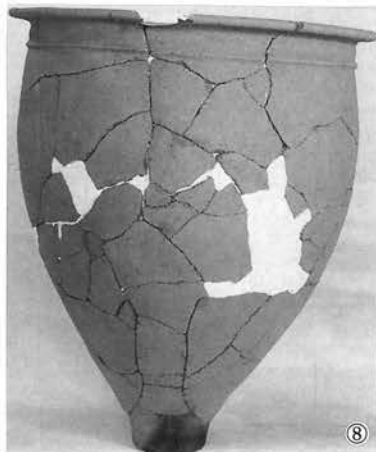
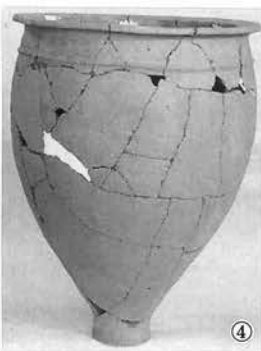
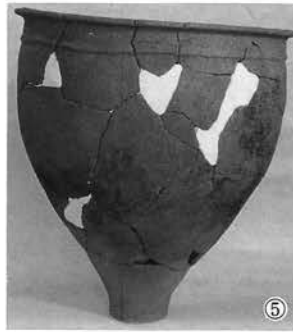


① : SJ152B (Fig. 67- 8)

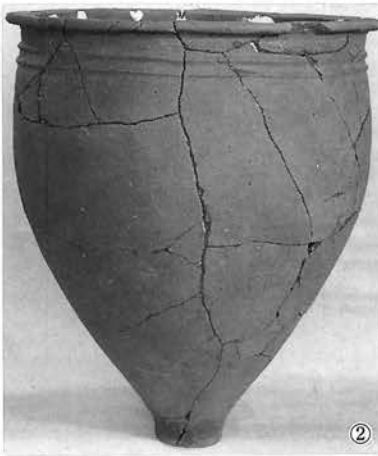
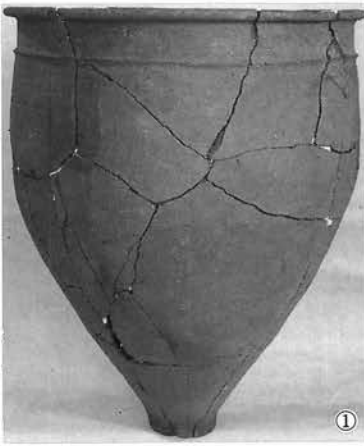
② : SJ152A (Fig. 67- 7)

③ : SJ145A (Fig. 67- 5)

④ : SJ254 (Fig. 66- 1)



① : SJ112 IV (Fig.81-115) ④ : SJ114A (Fig.75-52) ⑦ : SJ136B (Fig.75-58) ⑩ : SJ146C (Fig.81-118)
 ② : SJ112B ⑤ : SJ148C (Fig.81-120) ⑧ : SJ106B (Fig.75-45) ⑪ : SJ124A (Fig.75-53)
 ③ : SJ112C (Fig.81-116) ⑥ : SJ146A (Fig.81-117) ⑨ : SJ137A (Fig.75-59) ⑫ : SJ124B (Fig.75-54)



① : SJ125A (Fig.75-55)

④ : SJ150C (Fig.71-75)

⑦ : SJ160B (Fig.76-63)

② : SJ125B (Fig.75-76)

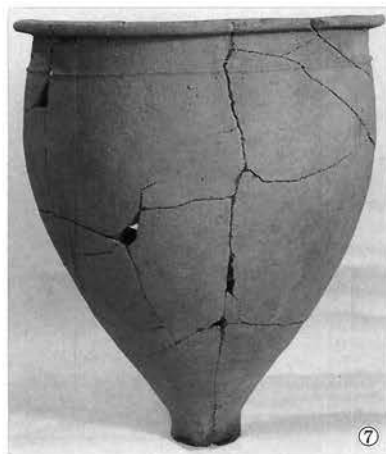
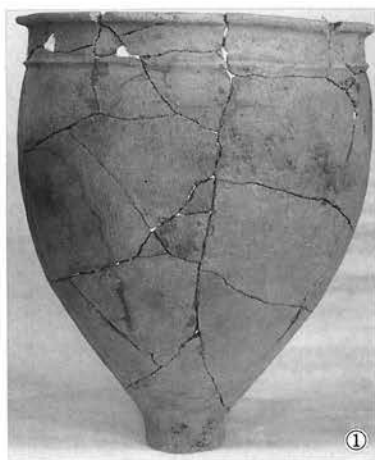
⑤ : SJ171 (Fig.74-40)

⑧ : SJ172A (Fig.76-67)

③ : SJ184B (Fig.76-69)

⑥ : SJ160A (Fig.76-62)

⑨ : SJ198A・B (Fig.77-77・78)



① : SJ186B (Fig.77-73) ④ : SJ292A (Fig.80-113) ⑦ : SJ276A (Fig.80-104)
② : SJ196B (Fig.77-76) ⑤ : SJ203C (Fig.72-33) ⑧ : SJ276B (Fig.80-105)
③ : Fig.283C (Fig.73-39) ⑥ : SJ289B (Fig.80-112) ⑨ : SJ279B (Fig.80-106)



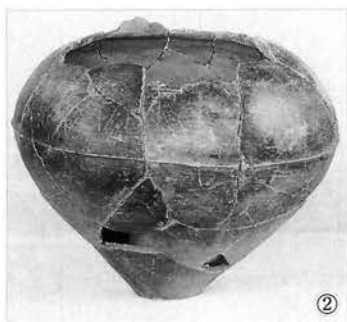
①



③



⑤



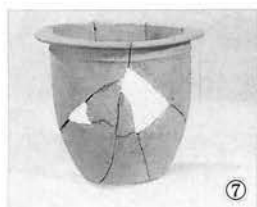
②



④



⑥



⑦



⑨



⑫



⑩



⑬



⑧



⑪



⑭

① : SK282 (Fig.97-1)

⑤ : SK016 (Fig.94-6)

⑨ : SK003 (Fig.86-6)

⑬ : SK016 (Fig.94-7)

② : SK282 (Fig.97-2)

⑥ : SK003 (Fig.86-4)

⑩ : SK016 (Fig.94-9)

⑭ : SK016 (Fig.94-8)

③ : SK003 (Fig.86-3)

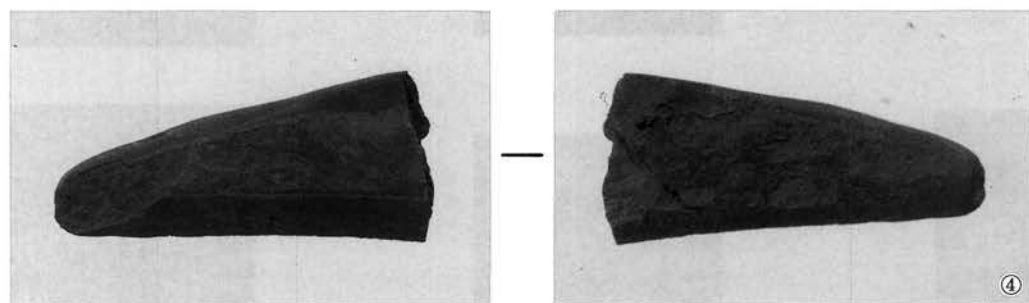
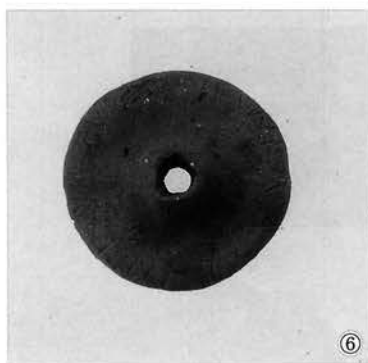
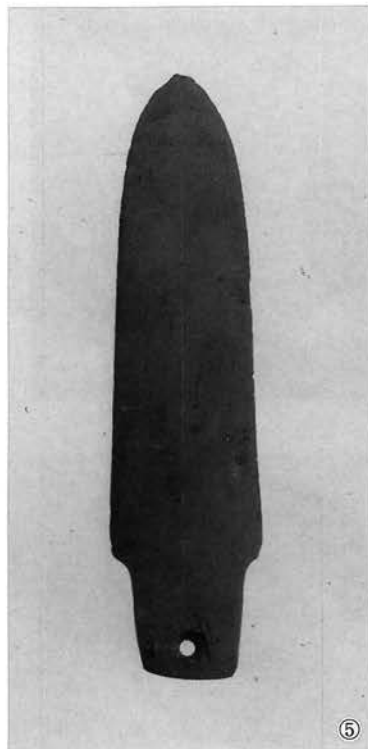
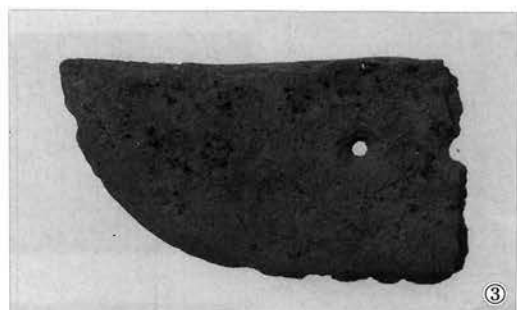
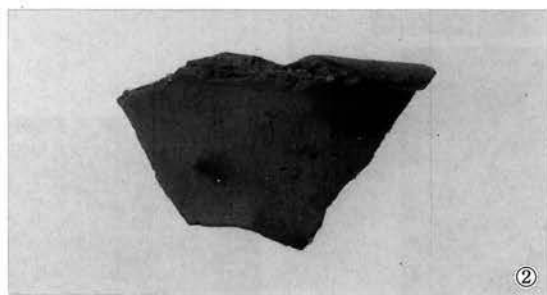
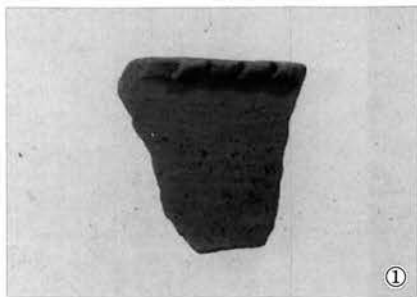
⑦ : SK025 (Fig.96-4)

⑪ : SK016 (Fig.94-10)

④ : SK003 (Fig.86-2)

⑧ : SK029 (Fig.96-6)

⑫ : SK011 (Fig.90-4)



①：土器棺墓混入遺物(Fig.98-5)

⑤：SK011(Fig.90-5)

②：土器棺墓混入遺物(Fig.98-1)

⑥：その他の出土遺物(Fig.99-4)

③：その他の出土遺物(Fig.99-2)

④：その他の出土遺物(Fig.99-1)

増田遺跡 2 区 (MSA-2) I 種 収蔵品目録

番 号	名 称	種 別	計測値 ()内は復元値・残存値	遺 構	実測図	挿 図	収納
MSA-2-001	甕	弥生土器	口径 — 底径 — 器高(2.2)	SK003	1-382	86-7	1
MSA-2-002	甕	弥生土器	口径(11.4)底径 — 器高(8.4)	SK003	2-340	86-1	1
MSA-2-003	甕	弥生土器	口径 — 底径 6.5 器高(8.0)	SK003	2-394	—	1
MSA-2-004	壺	弥生土器	口径(10.2)底径 3.6 器高 9.5	SK003	1-339	86-6	1
MSA-2-005	壺	弥生土器	口径 17.9 底径 9.0 器高 28.5	SK003	1-338	86-2	1
MSA-2-006	壺	弥生土器	口径 22.0 底径 8.8 器高 41.0	SK003	3-341	86-3	2
MSA-2-007	高杯	弥生土器	口径 17.4 底径 14.2 器高 18.5	SK003	2-342	86-5	1
MSA-2-008	高杯	弥生土器	口径 20.4 底径 16.8 器高 20.8	SK003	4-344	86-4	1
MSA-2-009	高杯	弥生土器	口径(21.0)底径 — 器高(4.0)	SK003	4-343	—	1
MSA-2-010	甕	弥生土器	口径(21.0)底径 6.5 器高 31.2	SD004	5-346	—	3
MSA-2-011	甕	弥生土器	口径(23.0)底径 — 器高(9.5)	SD004	5-347	—	3
MSA-2-012	石包丁	磨製石器		SD004	6-345	—	3
MSA-2-013	壺	弥生土器	口径 — 底径 — 器高(20.0)	SK005	7-350	88-4	3
MSA-2-014	壺	弥生土器	口径 — 底径 — 器高(14.5)	SK005	8-358	88-3	3
MSA-2-015	高杯	弥生土器	口径(23.0)底径 — 器高(2.5)	SK005	7-348	88-1	3
MSA-2-016	高杯	弥生土器	口径 — 底径 14.4 器高(13.8)	SK005	7-349	88-2	3
MSA-2-017	甕	弥生土器	口径 17.8 底径 — 器高(2.9)	SK011	9-355	90-1	3
MSA-2-018	甕	弥生土器	口径 — 底径 9.0 器高(9.8)	SK011	9-393	90-2	3
MSA-2-019	石剣	磨製石器		SK011	9-354	90-4	3
MSA-2-020	鉢	弥生土器	口径(11.4)底径 — 器高(4.8)	SK011	10-356	90-3	3
MSA-2-021	器台	弥生土器	口径 7.6 底径 9.4 器高 13.2	SK011	10-357	90-4	3
MSA-2-022	瓶	須恵器		SD012	11-363	—	3
MSA-2-023	瓶	須恵器		SD012	11-362	—	3
MSA-2-024	鉢	土師器	口径 — 底径 — 器高(9.8)	SD012	11-361	—	3
MSA-2-025	椀	磁器	口径 — 底径 7.6 器高(3.6)	SD012	11-360	—	3
MSA-2-026	椀	磁器	口径 — 底径 — 器高(3.0)	SD012	12-352	—	3
MSA-2-027	皿	磁器	口径 — 底径 3.8 器高(1.1)	SD012	12-353	—	3
MSA-2-028	壺	弥生土器	口径(24.6)底径 — 器高(3.7)	SK014	13-365	96-1	3
MSA-2-029	石剣	磨製石器		SK014	13-364	96-2	3
MSA-2-030	甕	弥生土器	口径(19.8)底径 — 器高(20.2)	SK016	14-370	94-2	4
MSA-2-031	甕	弥生土器	口径(18.6)底径 — 器高(15.6)	SK016	14-369	94-1	4
MSA-2-032	甕	弥生土器	口径(23.8)底径 — 器高(12.3)	SK016	15-366	94-4	4
MSA-2-033	甕	弥生土器	口径(22.0)底径 — 器高(8.3)	SK016	15-368	94-3	4
MSA-2-034	甕	弥生土器	口径(25.6)底径 — 器高(5.4)	SK016	15-367	94-5	4
MSA-2-035	壺	弥生土器	口径(13.8)底径 4.5 器高 12.0	SK016	17-371	94-10	4
MSA-2-036	壺	弥生土器	口径(10.4)底径 3.0 器高 10.7	SK016	17-372	95-9	4
MSA-2-037	高杯	弥生土器	口径 19.0 底径 16.6 器高 28.0	SK016	16-373	95-6	4
MSA-2-038	器台	弥生土器	口径 8.2 底径 10.1 器高 13.7	SK016	17-375	95-8	4
MSA-2-039	器台	弥生土器	口径(9.2)底径 10.0 器高 13.2	SK016	17-374	95-7	4
MSA-2-040	石包丁	磨製石器		SK021	18-376	—	5

増田遺跡2区(MSA-1)I種 収藏品目録

番 号	名 称	種 別	計測値 ()内は復元値・残存値	遺 構	実測図	挿 図	収 納
MSA-2-041	甕	弥生土器	口径 14.4 底径 8.3 器高 14.7	SK025	19-377	96-4	5
MSA-2-042	甕	弥生土器	口径(16.4)底径 — 器高(9.9)	SK025	19-378	96-5	5
MSA-2-043	投弾	土製品		SK025	19-379	96-3	5
MSA-2-044	甕	弥生土器	口径 11.6 底径 8.0 器高 13.3	SK027	20-380	96-6	5
MSA-2-045	甕	弥生土器	口径(19.3)底径 — 器高(6.9)	SK027	20-381	96-7	5
MSA-2-046	甕	弥生土器	口径(19.4)底径 — 器高(14.5)	SJ103	21-165	—	6
MSA-2-047	甕	弥生土器	口径 21.0 底径 6.5 器高 —	SJ104	22-34	—	6
MSA-2-048	甕	弥生土器	口径 22.3 底径 7.3 器高 33.8	SJ104	23-3	74-43	6
MSA-2-049	甕	弥生土器	口径 38.4 底径 9.0 器高 46.9	SJ105	24-398	—	7
MSA-2-050	甕	弥生土器	口径 33.6 底径 — 器高(16.3)	SJ105	25-399	—	7
MSA-2-051	甕	弥生土器	口径 36.4 底径 8.5 器高 49.0	SJ106	26-53	74-45	8
MSA-2-052	甕	弥生土器	口径 28.8 底径 7.8 器高 48.0	SJ106	27-52	74-44	9
MSA-2-053	甕	弥生土器	口径 31.6 底径 — 器高(44.2)	SJ107	28-90	—	10
MSA-2-054	甕	弥生土器	口径 32.2 底径 — 器高(29.2)	SJ107	29-91	—	10
MSA-2-055	甕	弥生土器	口径 26.2 底径 7.0 器高 34.3	SJ108	30-14	—	11
MSA-2-056	甕	弥生土器	口径 25.2 底径 — 器高(26.7)	SJ108	31-15	—	11
MSA-2-057	甕	弥生土器	口径 24.3 底径 — 器高(32.5)	SJ108	32-16	—	12
MSA-2-058	甕	弥生土器	口径 27.2 底径 7.5 器高 36.6	SJ109	33-78	74-78	13
MSA-2-059	甕	弥生土器	口径 31.4 底径(8.2) 器高49.8	SJ109	34-400	74-46	14
MSA-2-060	甕	弥生土器	口径(22.2)底径(6.0) 器高 35.2	SJ110	35-23	74-49	15
MSA-2-061	甕	弥生土器	口径 23.4 底径 7.0 器高 33.1	SJ110	36-22	74-48	15
MSA-2-062	鉢	弥生土器	口径(32.2)底径(9.6) 器高 24.9	SJ111	37-156	75-51	16
MSA-2-063	甕	弥生土器	口径(30.8)底径(11.1) 器高 44.5	SJ111	38-157	75-50	17
MSA-2-064	甕	弥生土器	口径 30.8 底径 8.5 器高 47.8	SJ112	39-42	81-115	18
MSA-2-065	甕	弥生土器	口径 28.4 底径 — 器高(37.7)	SJ112	40-40	—	19
MSA-2-066	甕	弥生土器	口径 23.8 底径 7.2 器高 35.0	SJ112	41-41	81-116	20
MSA-2-067	甕	弥生土器	口径 23.4 底径 — 器高(19.2)	SJ113	42-84	—	21
MSA-2-068	甕	弥生土器	口径 37.2 底径 — 器高(44.3)	SJ113	43-83	—	21
MSA-2-069	甕	弥生土器	口径(22.8)底径 — 器高(14.8)	SJ114	44-26	—	22
MSA-2-070	甕	弥生土器	口径 22.6 底径 6.5 器高 35.3	SJ114	45-27	75-52	22
MSA-2-071	埋葬専用土器		口径 42.4 底径 8.8 器高 69.2	SJ121	46-110	66-3	23
MSA-2-072	埋葬専用土器		口径 36.8 底径 10.5 器高 67.3	SJ121	47-111	66-2	24
MSA-2-073	埋葬専用土器		口径(50.8)底径 — 器高(86.0)	SJ122	48-383	70-18	26
MSA-2-074	埋葬専用土器		口径(44.0)底径 — 器高(75.0)	SJ122	49-384	70-17	27
MSA-2-076	鉢	弥生土器	口径 23.5 底径 9.4 器高 23.7	SJ124	50-56	75-54	28
MSA-2-077	甕	弥生土器	口径 24.5 底径 6.3 器高 41.4	SJ124	51-57	75-53	28
MSA-2-078	甕	弥生土器	口径 27.5 底径 7.9 器高 46.0	SJ125	52-64	75-55	29
MSA-2-079	甕	弥生土器	口径 30.9 底径 8.0 器高 42.0	SJ125	53-63	75-56	30
MSA-2-080	甕	弥生土器	口径 35.0 底径 8.4 器高 42.1	SJ133	54-172	70-22	31
MSA-2-081	埋葬専用土器		口径(39.6)底径 — 器高(62.2)	SJ133	55-173	70-21	32

増田遺跡2区(MSA-1)I種 収藏品目録

番 号	名 称	種 別	計測値 ()内は復元値・残存値	遺 構	実測図	挿 図	収納
MSA-2-082	埋葬専用土器		口径 56.0 底径 — 器高(89.2)	SJ133	56-174	70-20	33
MSA-2-083	埋葬専用土器		口径 54.8 底径 11.0 器高 83.6	SJ134	57-188	66-4	34
MSA-2-084	甕	弥生土器	口径 28.1 底径 — 器高(38.2)	SJ135	58-44	—	35
MSA-2-085	甕	弥生土器	口径 25.8 底径 7.0 器高 37.2	SJ135	59-45	75-57	36
MSA-2-086	甕	弥生土器	口径 27.7 底径 7.0 器高 36.8	SJ136	60-113	75-58	37
MSA-2-087	甕	弥生土器	口径 26.0 底径 — 器高(29.5)	SJ136	61-112	—	37
MSA-2-088	甕	弥生土器	口径 43.0 底径 6.8 器高 51.5	SJ137	62-100	75-60	38
MSA-2-089	甕	弥生土器	口径 34.5 底径 7.7 器高 56.0	SJ137	63-99	75-59	39
MSA-2-090	甕	弥生土器	口径 32.2 底径 — 器高(42.0)	SJ140	64-150	—	40
MSA-2-091	甕	弥生土器	口径(34.9)底径 — 器高(36.4)	SJ141	65-118	65-118	40
MSA-2-092	甕	弥生土器	口径(29.3)底径 — 器高(16.0)	SJ141	66-119	—	40
MSA-2-093	甕	弥生土器	口径(24.4)底径 — 器高(32.7)	SJ144	67-8	—	41
MSA-2-094	甕	弥生土器	口径(21.8)底径 6.3 器高 40.4	SJ144	68-9	76-61	41
MSA-2-095	埋葬専用土器		口径 57.6 底径 11.2 器高 90.8	SJ145	69-169	67-6	42・43
MSA-2-096	埋葬専用土器		口径 57.4 底径 11.0 器高 88.6	SJ145	70-168	67-5	44
MSA-2-097	甕	弥生土器	口径(26.4)底径 8.0 器高 48.2	SJ146	71-396	81-118	45
MSA-2-098	甕	弥生土器	口径 30.7 底径 — 器高(31.5)	SJ146	72-140	—	46
MSA-2-099	甕	弥生土器	口径(29.0)底径 8.0 器高 44.2	SJ146	73-397	81-117	45
MSA-2-100	甕	弥生土器	口径 23.0 底径 6.7 器高 33.0	SJ148	74-1	81-120	47
MSA-2-101	甕	弥生土器	口径(30.4)底径 — 器高(29.8)	SJ148	75-2	—	47
MSA-2-102	甕	弥生土器	口径(36.0)底径(7.8) 器高 41.6	SJ148	76-3	81-119	47
MSA-2-103	甕	弥生土器	口径 44.8 底径 11.0 器高 83.6	SJ150	77-189	71-23	48
MSA-2-104	埋葬専用土器		口径 42.6 底径 — 器高(67.6)	SJ150	78-190	71-24	49
MSA-2-105	甕	弥生土器	口径 25.2 底径 7.0 器高 38.3	SJ150	79-191	71-25	50
MSA-2-106	甕	弥生土器	口径 22.5 底径 — 器高 25.5	SJ151	80-17	—	51
MSA-2-107	甕	弥生土器	口径 — 底径 6.4 器高(29.4)	SJ151	81-18	—	52
MSA-2-108	埋葬専用土器		口径 49.2 底径 9.3 器高 79.0	SJ152	82-192	67-7	53
MSA-2-109	埋葬専用土器		口径 43.8 底径 9.0 器高 69.4	SJ152	83-193	67-8	54
MSA-2-110	埋葬専用土器		口径 41.6 底径 8.4 器高 66.7	SJ156	84-198	68-10	55
MSA-2-111	埋葬専用土器		口径 43.3 底径 8.8 器高 82.5	SJ156	85-199	68-9	56
MSA-2-112	甕	弥生土器	口径 30.0 底径 8.1 器高 45.9	SJ160	86-109	76-63	57
MSA-2-113	甕	弥生土器	口径 34.5 底径 8.7 器高 47.1	SJ160	87-108	76-62	58
MSA-2-114	甕	弥生土器	口径(23.4)底径 6.4 器高 34.8	SJ164	88-10	76-64	59
MSA-2-115	甕	弥生土器	口径 22.4 底径 6.6 器高 35.6	SJ164	89-11	76-65	59
MSA-2-116	甕	弥生土器	口径 25.6 底径 — 器高(24.9)	SJ165	90-31	—	60
MSA-2-117	甕	弥生土器	口径 21.8 底径 6.7 器高 35.0	SJ165	91-32	76-66	60
MSA-2-118	埋葬専用土器		口径 39.6 底径 10.2 器高 72.4	SJ166	92-211	71-26	61
MSA-2-119	埋葬専用土器		口径 44.8 底径 — 器高(65.0)	SJ166	93-217	71-27	62
MSA-2-120	埋葬専用土器		口径 31.6 底径 — 器高(36.5)	SJ166	94-212	71-28	63
MSA-2-121	埋葬専用土器		口径 45.6 底径 — 器高(74.4)	SJ169	95-218	72-29	64

増田遺跡2区(MSA-1)I種 収藏品目録

番号	名称	種別	計測値 ()内は復元値・残存値	遺構	実測図	挿図	収納
MSA-2-122	埋葬専用土器		口径 30.2 底径 8.0 器高 48.5	SJ169	96-219	72-30	65
MSA-2-123	甕	弥生土器	口径 22.2 底径 6.5 器高 37.8	SJ171	97-69	74-40	66
MSA-2-124	甕	弥生土器	口径 22.1 底径 6.0 器高 33.0	SJ172	98-145	76-68	67
MSA-2-125	甕	弥生土器	口径 19.4 底径 6.4 器高 30.0	SJ172	99-144	76-67	67
MSA-2-126	甕	弥生土器	口径(20.8)底径 6.6 器高 33.0	SJ176	100-21	74-41	67
MSA-2-127	甕	弥生土器	口径(28.6)底径 7.5 器高 39.0	SJ179	101-30	—	68
MSA-2-128	埋葬専用土器		口径(51.4)底径 12.1 器高 91.0	SJ181	102-230	68-11	69
MSA-2-129	埋葬専用土器		口径(52.8)底径 11.6 器高 89.4	SJ181	103-231	68-12	70
MSA-2-130	鉢	弥生土器	口径 36.4 底径 11.5 器高 31.3	SJ184	104-155	76-69	71
MSA-2-131	甕	弥生土器	口径 29.2 底径 — 器高(37.6)	SJ184	105-129	—	72
MSA-2-132	甕	弥生土器	口径 27.8 底径 7.5 器高 45.1	SJ185	106-77	76-71	72
MSA-2-133	甕	弥生土器	口径 25.2 底径 8.0 器高 43.7	SJ185	107-76	76-70	73
MSA-2-134	甕	弥生土器	口径(31.6)底径 8.0 器高 44.2	SJ186	108-81	77-72	74
MSA-2-135	甕	弥生土器	口径 29.8 底径 — 器高(40.3)	SJ186	109-82	—	74
MSA-2-136	甕	弥生土器	口径(30.6)底径 8.2 器高 50.3	SJ187	110-6	77-73	75
MSA-2-137	埋葬専用土器		口径(42.0)底径 9.6 器高 78.6	SJ191	111-242	69-13	76
MSA-2-138	甕	弥生土器	口径(31.5)底径 — 器高(37.8)	SJ194	112-70	—	77
MSA-2-139	甕	弥生土器	口径(35.4)底径 8.0 器高 45.2	SJ194	113-146	77-74	77
MSA-2-140	甕	弥生土器	口径 23.6 底径 6.8 器高 37.0	SJ196	114-131	77-76	78
MSA-2-141	甕	弥生土器	口径 27.4 底径 7.7 器高 43.1	SJ196	115-130	77-75	78
MSA-2-142	甕	弥生土器	口径(19.8)底径 6.7 器高 34.0	SJ198	116-2	77-77	79
MSA-2-143	甕	弥生土器	口径(21.2)底径 6.5 器高 33.1	SJ198	117-13	77-78	79
MSA-2-144	埋葬専用土器		口径(50.8)底径 11.3 器高 87.8	SJ203	118-257	72-31	80・81
MSA-2-145	埋葬専用土器		口径(55.2)底径 — 器高(76.6)	SJ203	119-258	72-32	82・83
MSA-2-146	甕	弥生土器	口径 31.8 底径 9.1 器高 48.7	SJ203	120-124	72-33	84
MSA-2-147	壺	弥生土器	口径 — 底径 10.0 器高(37.8)	SJ205	121-259	—	85
MSA-2-148	埋葬専用土器		口径 46.2 底径 9.0 器高 75.0	SJ205	122-260	69-14	86
MSA-2-149	甕	弥生土器	口径 25.8 底径 — 器高(22.7)	SJ209	123-38	77-79	87
MSA-2-150	甕	弥生土器	口径 24.0 底径 7.0 器高 35.0	SJ209	124-39	—	87
MSA-2-151	甕	弥生土器	口径(23.4)底径 6.6 器高 39.1	SJ216	125-37	77-80	88
MSA-2-152	甕	弥生土器	口径(26.7)底径 — 器高(28.3)	SJ216	126-132	—	88
MSA-2-153	埋葬専用土器		口径(38.0)底径 10.0 器高 69.2	SJ217	127-279	69-15	89
MSA-2-154	埋葬専用土器		口径(30.4)底径 — 器高(57.4)	SJ217	128-278	69-16	89
MSA-2-155	甕	弥生土器	口径 22.1 底径 — 器高(7.0)	SJ219	129-167	—	90
MSA-2-156	甕	弥生土器	口径 25.3 底径 7.0 器高 39.5	SJ219	130-166	77-81	90
MSA-2-157	甕	弥生土器	口径 26.2 底径 — 器高(32.2)	SJ221	131-138	77-82	91
MSA-2-158	甕	弥生土器	口径 — 底径(6.5) 器高(15.9)	SJ221	132-139	—	91
MSA-2-159	甕	弥生土器	口径 30.6 底径 7.7 器高 49.4	SJ223	133-116	78-83	92
MSA-2-160	甕	弥生土器	口径 27.2 底径 — 器高(20.2)	SJ223	134-117	—	92
MSA-2-161	甕	弥生土器	口径(24.8)底径(5.2) 器高 36.9	SJ227	135-36	78-84	93

増田遺跡2区(MSA-1)I種 収藏品目録

番 号	名 称	種 別	計測値 ()内は復元値・残存値	遺 構	実測図	挿 図	収納
MSA-2-162	甕	弥生土器	口径(24.0)底径 — 器高(30.3)	SJ227	136-35	—	93
MSA-2-163	甕	弥生土器	口径 30.4 底径 8.2 器高 46.3	SJ228	137-126	78-85	94
MSA-2-164	甕	弥生土器	口径 32.1 底径 — 器高(15.0)	SJ228	138-125	—	94
MSA-2-165	埋葬専用土器		口径(32.8)底径 9.9 器高 54.8	SJ229	139-308	73-36	95
MSA-2-166	埋葬専用土器		口径(48.4)底径 — 器高(42.7)	SJ229	140-309	73-35	96
MSA-2-167	埋葬専用土器		口径(56.0)底径 — 器高(78.6)	SJ229	141-310	73-34	97
MSA-2-168	甕	弥生土器	口径(21.6)底径 6.8 器高 30.9	SJ230	142-105	78-86	98
MSA-2-169	甕	弥生土器	口径(20.9)底径 6.8 器高 —	SJ230	143-106	—	98
MSA-2-170	甕	弥生土器	口径 21.6 底径 6.3 器高 35.0	SJ232	144-86	78-88	99
MSA-2-171	甕	弥生土器	口径 26.9 底径 7.8 器高 44.0	SJ232	145-87	78-87	100
MSA-2-172	甕	弥生土器	口径(26.2)底径(6.2) 器高 34.4	SJ234	146-46	78-90	101
MSA-2-173	甕	弥生土器	口径(25.6)底径(7.5) 器高 35.0	SJ234	147-47	78-89	101
MSA-2-174	甕	弥生土器	口径(24.4)底径(7.0) 器高 —	SJ236	148-71	—	102
MSA-2-175	甕	弥生土器	口径 29.7 底径 — 器高(21.1)	SJ236	149-299	—	102
MSA-2-176	甕	弥生土器	口径(28.2)底径 — 器高(39.6)	SJ237	150-89	—	103
MSA-2-177	甕	弥生土器	口径(24.5)底径 — 器高(33.7)	SJ237	151-88	—	103
MSA-2-178	甕	弥生土器	口径(23.4)底径 — 器高(22.7)	SJ238	152-96	78-92	104
MSA-2-179	甕	弥生土器	口径(22.0)底径(6.6) 器高 38.0	SJ238	153-50	78-91	104
MSA-2-180	甕	弥生土器	口径(24.2)底径 6.7 器高 34.7	SJ240	154-51	—	104
MSA-2-181	甕	弥生土器	口径 23.4 底径 6.2 器高 35.2	SJ242	155-54	79-94	105
MSA-2-182	甕	弥生土器	口径(20.3)底径 6.9 器高 37.4	SJ242	156-55	79-93	105
MSA-2-183	甕	弥生土器	口径(27.8)底径 7.8 器高 45.3	SJ246	157-404	79-95	106
MSA-2-184	甕	弥生土器	口径(24.2)底径 — 器高(12.9)	SJ249	158-143	—	107
MSA-2-185	甕	弥生土器	口径(19.5)底径 6.2 器高 35.8	SJ250	159-19	79-97	107
MSA-2-186	甕	弥生土器	口径(22.7)底径 6.2 器高 33.6	SJ250	160-20	79-96	107
MSA-2-187	甕	弥生土器	口径 23.2 底径 — 器高(20.7)	SJ251	161-301	—	108
MSA-2-188	甕	弥生土器	口径 24.3 底径 6.5 器高 —	SJ251	161-302	—	108
MSA-2-189	埋葬専用土器		口径(37.4)底径 9.5 器高 74.9	SJ254	162-303	66-1	109
MSA-2-190	甕	弥生土器	口径(23.1)底径 6.5 器高 33.8	SJ256	163-79	79-98	108
MSA-2-191	甕	弥生土器	口径 25.0 底径 6.5 器高 —	SJ256	164-300	—	108
MSA-2-192	甕	弥生土器	口径(17.7)底径 8.1 器高 —	SJ257	165-115	—	110
MSA-2-193	甕	弥生土器	口径(23.8)底径 — 器高(15.5)	SJ257	166-114	—	110
MSA-2-194	甕	弥生土器	口径 31.1 底径 7.7 器高 46.5	SJ258	167-292	79-99	110
MSA-2-195	甕	弥生土器	口径 29.3 底径 — 器高(35.4)	SJ258	168-293	—	110
MSA-2-196	甕	弥生土器	口径 25.4 底径 — 器高(5.2)	SJ258	168-294	—	110
MSA-2-197	甕	弥生土器	口径 24.0 底径 8.0 器高 49.9	SJ260	169-5	79-101	111
MSA-2-198	甕	弥生土器	口径 30.8 底径 8.0 器高 45.9	SJ260	170-4	79-100	111
MSA-2-199	甕	弥生土器	口径 27.1 底径 — 器高(16.0)	SJ261	171-95	—	112
MSA-2-200	甕	弥生土器	口径(35.0)底径 — 器高(31.8)	SJ261	172-94	—	112
MSA-2-201	甕	弥生土器	口径(29.0)底径 — 器高(32.9)	SJ262	173-58	—	113

増田遺跡2区(MSA-1)I種 収藏品目録

番 号	名 称	種 別	計測値 ()内は復元値・残存値	遺 構	実測図	挿 図	収納
MSA-2-202	壺	弥生土器	口径 — 底径 — 器高(31.7)	SJ262	174-59	—	113
MSA-2-203	甕	弥生土器	口径 22.0 底径 6.2 器高 30.9	SJ262	175-60	—	113
MSA-2-204	甕	弥生土器	口径 19.2 底径 5.9 器高 33.0	SJ263	176-49	79-103	114
MSA-2-205	甕	弥生土器	口径 23.4 底径 6.3 器高 33.8	SJ263	177-48	79-102	114
MSA-2-206	甕	弥生土器	口径 23.4 底径 6.9 器高 38.6	SJ264	178-65	—	115
MSA-2-207	甕	弥生土器	口径 24.1 底径 — 器高(24.7)	SJ264	179-66	—	115
MSA-2-208	甕	弥生土器	口径(27.6)底径 — 器高(41.3)	SJ264	180-128	81-121	115
MSA-2-209	甕	弥生土器	口径 28.4 底径 — 器高(37.8)	SJ265	181-127	—	116
MSA-2-210	甕	弥生土器	口径 — 底径 8.5 器高(25.0)	SJ266	182-80	—	116
MSA-2-211	甕	弥生土器	口径(35.6)底径 10.3 器高 58.0	SJ267	183-7	74-42	117
MSA-2-212	甕	弥生土器	口径(24.8)底径 7.2 器高 —	SJ270	184-107	—	116
MSA-2-213	甕	弥生土器	口径 33.8 底径 — 器高(40.4)	SJ275	185-29	—	118
MSA-2-214	甕	弥生土器	口径(33.3)底径 — 器高(40.7)	SJ275	186-28	—	118
MSA-2-215	甕	弥生土器	口径 27.8 底径 8.0 器高 46.0	SJ276	187-149	80-105	119
MSA-2-216	甕	弥生土器	口径 31.6 底径 8.0 器高 48.3	SJ276	188-158	80-104	120
MSA-2-217	鉢	弥生土器	口径 38.1 底径 12.0 器高 49.1	SJ279	189-68	80-106	121
MSA-2-218	甕	弥生土器	口径 35.0 底径 — 器高 35.3	SJ279	190-67	—	121
MSA-2-219	甕	弥生土器	口径 29.4 底径 7.7 器高 43.2	SJ280	191-98	80-107	122
MSA-2-220	甕	弥生土器	口径 27.9 底径 7.4 器高 43.9	SJ280	192-97	80-108	123
MSA-2-221	甕	弥生土器	口径(20.7)底径 6.5 器高 —	SJ281	193-93	80-109	124
MSA-2-222	甕	弥生土器	口径(20.0)底径 5.8 器高 31.5	SJ281	194-92	80-110	124
MSA-2-223	壺	弥生土器	口径 — 底径 6.6 器高(27.4)	SK282	195-73	97-2	125
MSA-2-224	壺	弥生土器	口径 — 底径 — 器高(23.2)	SK282	196-406	—	124
MSA-2-225	壺	弥生土器	口径 18.8 底径 7.8 器高 36.8	SK282	197-72	97-1	126
MSA-2-226	甕	弥生土器	口径 — 底径 7.6 器高(45.2)	SJ283	198-324	73-39	127
MSA-2-227	埋葬専用土器		口径 61.2 底径 — 器高(81.3)	SJ283	199-325	73-38	128
MSA-2-228	埋葬専用土器		口径(57.6)底径 10.0 器高 86.8	SJ283	200-326	73-37	129
MSA-2-229	甕	弥生土器	口径(36.3)底径 — 器高(45.3)	SJ285	201-401	—	130
MSA-2-230	甕	弥生土器	口径(27.0)底径 6.5 器高 37.0	SJ289	202-61	80-112	131
MSA-2-231	甕	弥生土器	口径 26.1 底径 6.9 器高 34.1	SJ289	203-62	80-111	131
MSA-2-232	甕	弥生土器	口径(28.8)底径 — 器高(13.2)	SJ290	204-402	—	132
MSA-2-233	甕	弥生土器	口径(33.8)底径 — 器高(23.8)	SJ290	204-403	—	132
MSA-2-234	甕	弥生土器	口径 28.3 底径 7.6 器高 43.0	SJ292	205-74	80-114	132
MSA-2-235	甕	弥生土器	口径 27.5 底径 8.1 器高 44.2	SJ292	206-75	80-113	133
MSA-2-236	埋葬専用土器		口径(56.4)底径(9.0) 器高 75.8	SJ不明	207-395	—	134
MSA-2-237	甕	弥生土器	口径(33.6)底径 — 器高(42.0)	SJ不明	208-85	—	135
MSA-2-238	甕	弥生土器	口径(27.7)底径 8.2 器高 46.0	SJ不明	209-405	—	135
MSA-2-239	高杯	弥生土器	口径(17.1)底径 — 器高(3.1)	SJ112	210-392	—	135
MSA-2-240	高杯	弥生土器	口径 — 底径 — 器高(9.3)	SJ112	210-43	—	135
MSA-2-241	壺	弥生土器	口径(14.0)底径 — 器高(4.9)	SJ145	211-359	—	135

増田遺跡2区(MSA-1) I種 収藏品目録

番 号	名 称	種 別	計測値 ()内は復元値・残存値	遺 構	実測図	挿 図	収 納
MSA-2-242	壺	弥生土器	口径(17.0)底径 — 器高(7.6)	SJ166	212-385	—	135
MSA-2-243	甕	弥生土器	口径 — 底径 — 器高(4.8)	SJ205	213-387	—	135
MSA-2-244	甕	弥生土器	口径 — 底径 3.4 器高(3.4)	SJ205	213-388	—	135
MSA-2-245	フイゴ	土製品		G-10	214-351	99-3	135
MSA-2-246	紡錘車	土製品		表採	215-389	99-4	135
MSA-2-247	石鎌	石器		表採	215-391	99-1	135
MSA-2-248	埋葬専用土器		部分実測	SJ102	216-122	—	136
MSA-2-249	埋葬専用土器		部分実測	SJ102	216-123	—	136
MSA-2-250	埋葬専用土器		部分実測	SJ115	217-24	—	136
MSA-2-251	埋葬専用土器		部分実測	SJ115	217-25	—	136
MSA-2-252	埋葬専用土器		部分実測	SJ116	218-135	—	136
MSA-2-253	埋葬専用土器		部分実測	SJ116	218-136	—	136
MSA-2-254	埋葬専用土器		部分実測	SJ117	219-133	—	133
MSA-2-255	埋葬専用土器		部分実測	SJ117	219-134	—	136
MSA-2-256	埋葬専用土器		部分実測	SJ118	220-137	—	136
MSA-2-257	埋葬専用土器		部分実測	SJ119	221-103	—	136
MSA-2-258	埋葬専用土器		部分実測	SJ119	221-104	—	136
MSA-2-259	埋葬専用土器		部分実測	SJ120	222-141	—	137
MSA-2-260	埋葬専用土器		部分実測	SJ120	222-142	—	137
MSA-2-261	埋葬専用土器		部分実測	SJ123	224-147	—	137
MSA-2-262	埋葬専用土器		部分実測	SJ123	224-148	—	137
MSA-2-263	埋葬専用土器		部分実測	SJ126	225-120	—	137
MSA-2-264	埋葬専用土器		部分実測	SJ126	225-121	—	137
MSA-2-265	埋葬専用土器		部分実測	SJ127	226-151	—	137
MSA-2-266	埋葬専用土器		部分実測	SJ127	226-152	—	137
MSA-2-267	埋葬専用土器		部分実測	SJ128	227-153	—	137
MSA-2-268	埋葬専用土器		部分実測	SJ128	227-154	—	137
MSA-2-269	埋葬専用土器		部分実測	SJ129	228-159	—	138
MSA-2-270	埋葬専用土器		部分実測	SJ129	228-160	—	138
MSA-2-271	埋葬専用土器		部分実測	SJ130	229-161	—	138
MSA-2-272	埋葬専用土器		部分実測	SJ130	229-162	—	138
MSA-2-273	埋葬専用土器		部分実測	SJ131	230-163	—	138
MSA-2-274	埋葬専用土器		部分実測	SJ131	230-164	—	138
MSA-2-275	埋葬専用土器		部分実測	SJ132	231-170	—	138
MSA-2-276	埋葬専用土器		部分実測	SJ132	231-171	—	138
MSA-2-277	埋葬専用土器		部分実測	SJ134	233-187	—	138
MSA-2-278	埋葬専用土器		部分実測	SJ138	234-177	—	138
MSA-2-279	埋葬専用土器		部分実測	SJ138	234-178	—	138
MSA-2-280	埋葬専用土器		部分実測	SJ139	235-101	—	139
MSA-2-281	埋葬専用土器		部分実測	SJ139	235-102	—	139

増田遺跡2区(MSA-1) I種 収藏品目録

番 号	名 称	種 別	計測値 ()内は復元値・残存値	遺 構	実測図	挿 図	収 納
MSA-2-282	埋葬専用土器		部分実測	SJ143	236-179	—	139
MSA-2-283	埋葬専用土器		部分実測	SJ143	236-180	—	139
MSA-2-284	埋葬専用土器		部分実測	SJ147	238-181	—	139
MSA-2-285	埋葬専用土器		部分実測	SJ147	238-182	—	139
MSA-2-286	埋葬専用土器		部分実測	SJ149	239-183	—	139
MSA-2-287	埋葬専用土器		部分実測	SJ149	239-184	—	139
MSA-2-289	埋葬専用土器		部分実測	SJ153	242-185	—	139
MSA-2-290	埋葬専用土器		部分実測	SJ153	242-186	—	139
MSA-2-291	埋葬専用土器		部分実測	SJ154	243-194	—	139
MSA-2-292	埋葬専用土器		部分実測	SJ154	243-195	—	139
MSA-2-293	埋葬専用土器		部分実測	SJ155	244-196	—	139
MSA-2-294	埋葬専用土器		部分実測	SJ155	244-197	—	139
MSA-2-295	埋葬専用土器		部分実測	SJ157	247-200	—	140
MSA-2-296	埋葬専用土器		部分実測	SJ157	247-201	—	140
MSA-2-297	埋葬専用土器		部分実測	SJ158	248-203	—	140
MSA-2-298	埋葬専用土器		部分実測	SJ158	248-202	—	140
MSA-2-299	埋葬専用土器		部分実測	SJ159	249-204	—	140
MSA-2-300	埋葬専用土器		部分実測	SJ159	249-205	—	140
MSA-2-301	埋葬専用土器		部分実測	SJ161	250-207	—	140
MSA-2-302	埋葬専用土器		部分実測	SJ161	250-206	—	140
MSA-2-303	埋葬専用土器		部分実測	SJ162	251-209	—	140
MSA-2-304	埋葬専用土器		部分実測	SJ162	251-208	—	140
MSA-2-305	埋葬専用土器		部分実測	SJ163	252-210	—	140
MSA-2-306	埋葬専用土器		部分実測	SJ167	254-213	—	140
MSA-2-307	埋葬専用土器		部分実測	SJ167	254-214	—	140
MSA-2-308	埋葬専用土器		部分実測	SJ168	255-215	—	141
MSA-2-309	埋葬専用土器		部分実測	SJ168	255-216	—	141
MSA-2-310	埋葬専用土器		部分実測	SJ170	257-220	—	141
MSA-2-311	埋葬専用土器		部分実測	SJ173	258-221	—	141
MSA-2-312	埋葬専用土器		部分実測	SJ174	259-222	—	141
MSA-2-313	埋葬専用土器		部分実測	SJ174	259-223	—	141
MSA-2-314	埋葬専用土器		部分実測	SJ177	260-224	—	141
MSA-2-315	埋葬専用土器		部分実測	SJ177	260-225	—	141
MSA-2-316	埋葬専用土器		部分実測	SJ178	261-226	—	141
MSA-2-317	埋葬専用土器		部分実測	SJ179	262-227	—	141
MSA-2-318	埋葬専用土器		部分実測	SJ180	263-229	—	141
MSA-2-319	埋葬専用土器		部分実測	SJ180	263-228	—	141
MSA-2-320	埋葬専用土器		部分実測	SJ182	265-232	—	141
MSA-2-321	埋葬専用土器		部分実測	SJ182	265-233	—	141
MSA-2-322	埋葬専用土器		部分実測	SJ183	266-234	—	142

増田遺跡 2 区 (MSA-1) I 種 収蔵品目録

番 号	名 称	種 別	計測値 ()内は復元値・残存値	遺 構	実測図	挿 図	収納
MSA-2-323	埋葬専用土器		部分実測	SJ183	266-235	—	142
MSA-2-324	埋葬専用土器		部分実測	SJ188	267-236	—	142
MSA-2-325	埋葬専用土器		部分実測	SJ188	267-237	—	142
MSA-2-326	埋葬専用土器		部分実測	SJ189	268-238	—	142
MSA-2-327	埋葬専用土器		部分実測	SJ189	268-239	—	142
MSA-2-328	埋葬専用土器		部分実測	SJ190	269-240	—	142
MSA-2-329	埋葬専用土器		部分実測	SJ190	269-241	—	142
MSA-2-330	埋葬専用土器		部分実測	SJ191	270-243	—	142
MSA-2-331	埋葬専用土器		部分実測	SJ192	271-244	—	142
MSA-2-332	埋葬専用土器		部分実測	SJ192	271-245	—	142
MSA-2-333	埋葬専用土器		部分実測	SJ193	272-246	—	142
MSA-2-334	埋葬専用土器		部分実測	SJ193	272-247	—	142
MSA-2-335	埋葬専用土器		部分実測	SJ195	273-248	—	142
MSA-2-336	埋葬専用土器		部分実測	SJ197	274-249	—	143
MSA-2-337	埋葬専用土器		部分実測	SJ197	274-250	—	143
MSA-2-338	埋葬専用土器		部分実測	SJ199	275-251	—	143
MSA-2-339	埋葬専用土器		部分実測	SJ199	275-252	—	143
MSA-2-340	埋葬専用土器		部分実測	SJ200	276-176	—	143
MSA-2-341	埋葬専用土器		部分実測	SJ200	276-175	—	143
MSA-2-342	埋葬専用土器		部分実測	SJ202	277-253	—	143
MSA-2-343	埋葬専用土器		部分実測	SJ202	277-254	—	143
MSA-2-344	埋葬専用土器		部分実測	SJ204	279-256	—	143
MSA-2-345	埋葬専用土器		部分実測	SJ204	279-255	—	143
MSA-2-346	埋葬専用土器		部分実測	SJ206	281-261	—	143
MSA-2-347	埋葬専用土器		部分実測	SJ206	281-262	—	143
MSA-2-348	埋葬専用土器		部分実測	SJ207	282-263	—	144
MSA-2-349	埋葬専用土器		部分実測	SJ207	282-264	—	144
MSA-2-350	埋葬専用土器		部分実測	SJ208	283-265	—	144
MSA-2-351	埋葬専用土器		部分実測	SJ208	283-266	—	144
MSA-2-352	埋葬専用土器		部分実測	SJ210	284-268	—	144
MSA-2-353	埋葬専用土器		部分実測	SJ210	284-269	—	144
MSA-2-354	埋葬専用土器		部分実測	SJ211	285-270	—	144
MSA-2-355	埋葬専用土器		部分実測	SJ211	285-271	—	144
MSA-2-356	埋葬専用土器		部分実測	SJ212	286-272	—	144
MSA-2-357	埋葬専用土器		部分実測	SJ212	286-291	—	144
MSA-2-358	埋葬専用土器		部分実測	SJ213	287-274	—	144
MSA-2-359	埋葬専用土器		部分実測	SJ213	287-273	—	144
MSA-2-360	埋葬専用土器		部分実測	SJ214	288-275	—	145
MSA-2-361	埋葬専用土器		部分実測	SJ214	288-276	—	145
MSA-2-362	埋葬専用土器		部分実測	SJ215	289-277	—	145

増田遺跡 2 区 (MSA-2) I 種 収藏品目録

番 号	名 称	種 別	計測値 ()内は復元値・残存値	遺 構	実測図	挿 図	収納
MSA-2-363	埋葬専用土器		部分実測	SJ218	291-281	—	145
MSA-2-364	埋葬専用土器		部分実測	SJ218	291-280	—	145
MSA-2-365	埋葬専用土器		部分実測	SJ220	292-282	—	145
MSA-2-366	埋葬専用土器		部分実測	SJ222	293-283	—	145
MSA-2-367	埋葬専用土器		部分実測	SJ222	293-284	—	145
MSA-2-368	埋葬専用土器		部分実測	SJ224	294-285	—	145
MSA-2-369	埋葬専用土器		部分実測	SJ224	294-286	—	145
MSA-2-370	埋葬専用土器		部分実測	SJ225	295-287	—	145
MSA-2-371	埋葬専用土器		部分実測	SJ225	295-288	—	145
MSA-2-372	埋葬専用土器		部分実測	SJ226	296-289	—	145
MSA-2-373	埋葬専用土器		部分実測	SJ226	296-290	—	145
MSA-2-374	埋葬専用土器		部分実測	SJ233	298-312	—	146
MSA-2-375	埋葬専用土器		部分実測	SJ233	298-311	—	146
MSA-2-376	埋葬専用土器		部分実測	SJ241	299-314	—	146
MSA-2-377	埋葬専用土器		部分実測	SJ241	299-313	—	146
MSA-2-378	埋葬専用土器		部分実測	SJ243	300-316	—	146
MSA-2-379	埋葬専用土器		部分実測	SJ243	300-315	—	146
MSA-2-380	埋葬専用土器		部分実測	SJ244	301-318	—	146
MSA-2-381	埋葬専用土器		部分実測	SJ244	301-317	—	146
MSA-2-382	埋葬専用土器		部分実測	SJ247	302-319	—	146
MSA-2-383	埋葬専用土器		部分実測	SJ248	303-321	—	146
MSA-2-384	埋葬専用土器		部分実測	SJ248	303-320	—	146
MSA-2-385	埋葬専用土器		部分実測	SJ252	304-295	—	146
MSA-2-386	埋葬専用土器		部分実測	SJ252	304-296	—	146
MSA-2-387	埋葬専用土器		部分実測	SJ253	305-297	—	146
MSA-2-388	埋葬専用土器		部分実測	SJ253	305-298	—	146
MSA-2-389	埋葬専用土器		部分実測	SJ259	307-304	—	146
MSA-2-390	埋葬専用土器		部分実測	SJ268	308-305	—	147
MSA-2-391	埋葬専用土器		部分実測	SJ268	308-306	—	147
MSA-2-392	埋葬専用土器		部分実測	SJ271	309-386	—	147
MSA-2-393	埋葬専用土器		部分実測	SJ272	310-307	—	147
MSA-2-394	埋葬専用土器		部分実測	SJ284	312-322	—	147
MSA-2-395	埋葬専用土器		部分実測	SJ284	312-323	—	147
MSA-2-396	埋葬専用土器		部分実測	SJ286	313-327	—	147
MSA-2-397	埋葬専用土器		部分実測	SJ286	313-328	—	147
MSA-2-398	埋葬専用土器		部分実測	SJ287	314-329	—	147
MSA-2-399	埋葬専用土器		部分実測	SJ287	314-330	—	147
MSA-2-400	埋葬専用土器		部分実測	SJ288	315-331	—	148
MSA-2-401	埋葬専用土器		部分実測	SJ288	315-332	—	148
MSA-2-402	埋葬専用土器		部分実測	SJ291	316-333	—	148

増田遺跡2区(MSA-2) I種 収藏品目録

番号	名称	種別	計測値 ()内は復元値・残存値	遺構	実測図	挿図	収納
MSA-2-403	埋葬専用土器		部分実測	SJ291	316-334	—	148
MSA-2-404	埋葬専用土器		部分実測	SJ293	317-335	—	148
MSA-2-405	埋葬専用土器		部分実測	SJ294	318-336	—	148
MSA-2-406	埋葬専用土器		部分実測	SJ294	318-337	—	148
MSA-2-407	埋葬専用土器		部分実測	SJ不明	314-267	—	148
MSA-2-408	甕	弥生土器	口径(30.8)底径 8.2 器高 44.5	SJ122	316-407	70-19	25

増田遺跡2区(MSA-2) II種 収藏品目録

調査区	種別	遺構名	袋数	収納
MSA-2	土器・石器類	SD001, SD002, SK003	10	1
MSA-2	土器・石器類	SD004, SK005, SK006, D007, SK008, SK009, SK010, SK011	11	2
MSA-2	土器・石器類	SK011, SD012, SK014	7	3
MSA-2	土器・石器類	SK016, SK020, SK021, SK022, SK025, SK027, SH030, P001, P002	10	4
MSA-2	土器	SJ102, SJ103, SJ104, SJ105, SJ106, SJ107, SJ108, SJ109, SJ110, SJ112, SJ113, SJ114	28	5
MSA-2	土器	SJ115	1	6
MSA-2	土器	SJ115	1	7
MSA-2	土器	SJ116	1	8
MSA-2	土器	SJ117, SJ118	2	9
MSA-2	土器	SJ117	1	10
MSA-2	土器	SJ119	1	11
MSA-2	土器	SJ119	1	12
MSA-2	土器	SJ120	1	13
MSA-2	土器	SJ120	1	14
MSA-2	土器	SJ123, SJ124	2	15
MSA-2	土器	SJ123	1	16
MSA-2	土器	SJ123	1	17
MSA-2	土器	SJ126	1	18
MSA-2	土器	SJ126	1	19
MSA-2	土器	SJ126	1	20
MSA-2	土器	SJ127	1	21
MSA-2	土器	SJ127	1	22
MSA-2	土器	SJ128	1	23
MSA-2	土器	SJ128	1	24
MSA-2	土器	SJ129	1	25

増田遺跡2区(MSA-2)II種 収藏品目録

調査区	種 別	遺 構 名	袋数	収納
MSA-2	土器	SJ129	1	26
MSA-2	土器	SJ129	1	27
MSA-2	土器	SJ130	1	28
MSA-2	土器	SJ130	2	29
MSA-2	土器	SJ130	1	30
MSA-2	土器	SJ131	1	31
MSA-2	土器	SJ131	1	32
MSA-2	土器	SJ132, SJ135, SJ137	8	33
MSA-2	土器	SJ132	1	34
MSA-2	土器	SJ138	1	35
MSA-2	土器	SJ138	1	36
MSA-2	土器	SJ138, SJ139	2	37
MSA-2	土器	SJ139	1	38
MSA-2	土器	SJ139, SJ140, SJ141, SJ142	7	39
MSA-2	土器	SJ143, SJ144	3	40
MSA-2	土器	SJ143	1	41
MSA-2	土器	SJ147	3	42
MSA-2	土器	SJ149, SJ151	3	43
MSA-2	土器	SJ149	1	44
MSA-2	土器	SJ153	1	45
MSA-2	土器	SJ153	1	46
MSA-2	土器	SJ154	1	47
MSA-2	土器	SJ154	1	48
MSA-2	土器	SJ155	1	49
MSA-2	土器	SJ155	1	50
MSA-2	土器	SJ157, SJ158	4	51
MSA-2	土器	SJ157	1	52
MSA-2	土器	SJ159	1	53
MSA-2	土器	SJ159, SJ160	2	54
MSA-2	土器	SJ159	1	55
MSA-2	土器	SJ161	1	56
MSA-2	土器	SJ161	1	57
MSA-2	土器	SJ162	2	58
MSA-2	土器	SJ163, SJ164, SJ165, SJ167	6	59
MSA-2	土器	SJ167	1	60
MSA-2	土器	SJ168	1	61
MSA-2	土器	SJ168	1	62
MSA-2	土器	SJ168	1	63
MSA-2	土器	SJ170	1	64
MSA-2	土器	SJ171, SJ172, SJ173	6	65

増田遺跡 2 区 (MSA-2) II種 収藏品目録

調査区	種 別	遺 構 名	袋数	収納
MSA-2	土器	SJ174, SJ175, SJ176	6	66
MSA-2	土器	SJ177	1	67
MSA-2	土器	SJ177	1	68
MSA-2	土器	SJ178	1	69
MSA-2	土器	SJ179	1	70
MSA-2	土器	SJ180	1	71
MSA-2	土器	SJ180	1	72
MSA-2	土器	SJ180, SJ182	5	73
MSA-2	土器	SJ182	1	74
MSA-2	土器	SJ183	1	75
MSA-2	土器	SJ183	1	76
MSA-2	土器	SJ188	1	77
MSA-2	土器	SJ188	1	78
MSA-2	土器	SJ189	2	79
MSA-2	土器	SJ189	1	80
MSA-2	土器	SJ190	1	81
MSA-2	土器	SJ190	1	82
MSA-2	土器	SJ190	1	83
MSA-2	土器	SJ192	2	84
MSA-2	土器	SJ193	1	85
MSA-2	土器	SJ194, SJ195	5	86
MSA-2	土器	SJ197	1	87
MSA-2	土器	SJ197, SJ198	6	88
MSA-2	土器	SJ199	2	89
MSA-2	土器	SJ200	1	90
MSA-2	土器	SJ200, SJ201	2	91
MSA-2	土器	SJ202	1	92
MSA-2	土器	SJ202	1	93
MSA-2	土器	SJ204	2	94
MSA-2	土器	SJ206	1	95
MSA-2	土器	SJ206, SJ207	3	96
MSA-2	土器	SJ207	1	97
MSA-2	土器	SJ207	1	98
MSA-2	土器	SJ208	4	99
MSA-2	土器	SJ209, SJ210	6	100
MSA-2	土器	SJ210	1	101
MSA-2	土器	SJ211	1	102
MSA-2	土器	SJ211, SJ212	4	103
MSA-2	土器	SJ212	1	104
MSA-2	土器	SJ212	1	105

増田遺跡2区(MSA-2)II種 收藏品目録

調査区	種 別	遺 構 名	袋数	収納
MSA-2	土器	SJ213	1	106
MSA-2	土器	SJ213	1	107
MSA-2	土器	SJ214	1	108
MSA-2	土器	SJ214	1	109
MSA-2	土器	SJ215, SJ216	3	110
MSA-2	土器	SJ218	3	111
MSA-2	土器	SJ219, SJ220	3	112
MSA-2	土器	SJ222, SJ223	3	113
MSA-2	土器	SJ222	1	114
MSA-2	土器	SJ224	1	115
MSA-2	土器	SJ224	1	116
MSA-2	土器	SJ225	1	117
MSA-2	土器	SJ225	1	118
MSA-2	土器	SJ226	1	119
MSA-2	土器	SJ226, SJ228	2	120
MSA-2	土器	SJ230, SJ231, SJ232, SJ234, SJ236, SJ237, SJ238	17	121
MSA-2	土器	SJ233	1	122
MSA-2	土器	SJ233	1	123
MSA-2	土器	SJ241	1	124
MSA-2	土器	SJ241	1	125
MSA-2	土器	SJ242, SJ243,	3	126
MSA-2	土器	SJ244	1	127
MSA-2	土器	SJ244, SJ246, SJ247	3	128
MSA-2	土器	SJ248	1	129
MSA-2	土器	SJ248, SJ249, SJ250	6	130
MSA-2	土器	SJ251, SJ252	2	131
MSA-2	土器	SJ252	1	132
MSA-2	土器	SJ251, SJ253	2	133
MSA-2	土器	SJ253	1	134
MSA-2	土器	SJ253	1	135
MSA-2	土器	SJ255	1	136
MSA-2	土器	SJ260	1	137
MSA-2	土器	SJ258, SJ259, SJ261, SJ262, SJ264, SJ265, SJ266, SJ267, SJ268	18	138
MSA-2	土器	SJ268	1	139
MSA-2	土器	SJ268	1	140
MSA-2	土器	SJ267	1	141
MSA-2	土器	SJ270, SJ271, SJ272	3	142
MSA-2	土器	SJ273, SJ275, SJ276, SJ279, SJ280, SJ281, SJ282	11	143
MSA-2	土器	SJ284, SJ285	3	144

増田遺跡 2 区 (MSA-2) II種 収蔵品目録

調査区	種 別	遺 構 名	袋数	収納
MSA-2	土器	SJ286	1	145
MSA-2	土器	SJ286	1	146
MSA-2	土器	SJ286	1	147
MSA-2	土器	SJ287	1	148
MSA-2	土器	SJ287	1	149
MSA-2	土器	SJ288, SJ289	3	150
MSA-2	土器	SJ288	1	151
MSA-2	土器	SJ290, SJ291	3	152
MSA-2	土器	SJ292	2	153
MSA-2	土器	SJ294	1	154
MSA-2	土器	SJ294	1	155
MSA-2	土器	SJ294	1	156
MSA-2	土器	遺構不明	1	157
MSA-2	土器	遺構不明	1	158
MSA-2	土器	遺構不明	1	159
MSA-2	土器	遺構不明	1	160
MSA-2	土器	遺構不明	1	161
MSA-2	土器	遺構不明	1	162
MSA-2	土器	遺構不明	1	163
MSA-2	土器	遺構不明	1	164
MSA-2	土器	遺構不明	1	165
MSA-2	土器	遺構不明	1	166
MSA-2	土器	遺構不明	1	167
MSA-2	土器	遺構不明	1	168
MSA-2	土器	遺構不明	2	169
MSA-2	土器	遺構不明	2	170
MSA-2	土器	遺構不明	2	171
MSA-2	土器	遺構不明	3	172
MSA-2	土器	遺構不明	3	173
MSA-2	土器	遺構不明	3	174
MSA-2	土器	遺構不明	3	175
MSA-2	土器	遺構不明	3	176
MSA-2	土器	遺構不明	3	177
MSA-2	土器	遺構不明	3	178
MSA-2	土器	遺構不明	3	179
MSA-2	土器	遺構不明	3	180
MSA-2	土器	遺構不明	3	181
MSA-2	土器	遺構不明	3	182
MSA-2	土器	遺構不明	3	183
MSA-2	土器	遺構不明	3	184

増田遺跡 2 区 (MSA-2) II種 收藏品目録

調査区	種 別	遺 構 名	袋数	収納
MSA-2	土器	遺構不明	4	185
MSA-2	土器	遺構不明	3	186
MSA-2	土器	遺構不明	3	187
MSA-2	土器	遺構不明	3	188
MSA-2	土器	遺構不明	3	189
MSA-2	土器	遺構不明	4	190
MSA-2	土器	遺構不明	4	191
MSA-2	土器	遺構不明	4	192
MSA-2	土器	遺構不明	4	193
MSA-2	土器	遺構不明	4	194
MSA-2	土器	表採	12	195
MSA-2	土器	表採	8	196
MSA-2	土器	表採	6	197
MSA-2	土器・石器類	表採	10	198
MSA-2	土器	表採	9	199
MSA-2	土器・石器類	表採	9	200
MSA-2	土器・石器類	表採	13	201
MSA-2	土器	SD012	1	202
MSA-2	土器	表採	8	203
MSA-2	土器	表採, 遺構不明	7	204
MSA-2	土器	遺構不明	12	205
MSA-2	土器	遺構不明	5	206
MSA-2	土器	遺構不明	1	207
MSA-2	土器	SJ121, SJ122, SJ133, SJ134	9	208
MSA-2	土器	SJ134	7	209
MSA-2	土器	SJ134, SJ135, SJ136, SJ145, SJ146, SJ148, SJ150	15	210
MSA-2	土器	SJ150, SJ152, SJ156	9	211
MSA-2	土器	SJ166, SJ169, SJ181	7	212
MSA-2	土器	SJ181, SJ184, SJ185, SJ186, SJ187, SJ191	16	213
MSA-2	土器	SJ191	6	214
MSA-2	土器	SJ191, SJ196, SJ203, SJ205, SJ217, SJ219, SJ221, SJ227, SJ228, SJ229	21	215
MSA-2	土器	SJ234, SJ240, SJ250, SJ254, SJ264, SJ265, SJ271, SJ274, SJ276, SJ277, SJ283, SJ290, SK003, SK005	20	216

佐賀市文化財調査報告書第43集

増田遺跡群 I

平成5年3月31日

発行 佐賀市教育委員会
佐賀市栄町1番1号

印刷 (株)宮地印刷
佐賀市長瀬町11-20
TEL 0952(26)6135